東北大学附属図書館

自己点検・評価報告書

2023（令和5）年7月

東北大学附属図書館　自己点検・評価報告書

第1部 概要編

第2部 詳細編

第3部 利用者アンケート編

第4部 資料編

対象期間：2017～2022年度（6か年）

【第１部　概要編】

はじめに.....8

（1）自己点検・評価について.....8

（2）自己点検・評価報告書の構成.....8

（3）附属図書館の概要.....10

（4）自己点検・評価結果一覧.....11

1.学術情報整備の促進.....13

1.1 学習用学術情報資源（学生用図書等）の整備.....13

（1）学生用図書の財源確保.....13

（2）学生用図書の選書.....14

（3）学生選書の取組み.....14

（4）電子ブックの充実.....15

1.2 基盤的学術情報（電子ジャーナル等）と研究環境の整備.....16

（1）電子ジャーナルの財源確保.....16

（2）電子ジャーナルの選定.....18

（3）蔵書目録データベースの整備.....19

（4）教育・研究成果等の発信.....20

（5）貴重資料の電子化.....20

2. 学習環境の整備.....22

2.1 図書館施設・設備.....22

（1）施設・設備の整備.....22

（2）書庫の狭隘化への対応.....23

（3）ラーニングコモンズの整備と活用.....23

2.2 図書館サービス機能.....24

（1）開館時間延長のための経費確保.....24

（2）開館時間とサービス.....25

（3）学生の利用状況.....26

（4）情報利用環境の整備.....26

（5）初年次学生向け科目への参画.....27

（6）情報リテラシー教育.....28

2.3 国際化対応.....29

(1)留学生向けサービス 29
(2)図書の充実 30
3.社会・地域への知の還元 32
(1)資料保存・修復の取組み 32
(2)クラウドファンディングの実施 33
(3)展示会・講演会の実施 33
(4)広報の強化 34
(5)高大連携への貢献 35
(6)他の館種とのコラボレーション 36
(7)震災ライブラリーの継続 36
4. 組織・運営 38
(1)財政基盤の強化 38
(2)事務体制の見直し・最適化 38
(3)業務システムの改善 39
(4)調査研究機能の向上 40
(5)人材育成の充実 40
(6)防災対策の強化 41

【第2部　詳細編】

I. 本館 44
1. 学術情報整備の促進 44
2. 学習環境の整備 52
3. 社会・地域への知の還元 65
4. 組織・運営 74
II. 医学分館 81
1. 学術情報整備の促進 81
2. 学習・研究環境の整備 82
3. 社会・地域への知の還元 85
4. 組織・運営 86
III. 北青葉山分館 88
1. 学術情報整備の促進 88
2. 学習環境の整備 89
3. 社会・地域への知の還元 90
4. 組織・運営 90
Ⅳ. 工学分館 92
1. 学術情報整備の促進 92
2. 学習環境の整備 93
3. 社会・地域への知の還元 94
4. 組織・運営 96
V. 農学分館 98
1. 学術情報整備の促進 98
2. 学習環境の整備 99
3. 社会・地域への知の還元 103
4. 組織・運営 103
Ⅵ. 金属材料研究所図書室 105
1. 学術情報整備の促進 105
2. 学習環境の整備 105
3. 社会・地域への知の還元 107
4. 組織・運営 108

【第3部　利用者アンケート編】

1. 利用者アンケートの概要 112
1.1 アンケートの目的と設問 112
1.2 調査期間 113
1.3 調査対象 114
1.4 調査依頼方法 114
1.5 回答方法 114
2. 回答状況の概要 116
2.1 所属部局・利用者区分別回答数 116
2.2 回答対象館別・利用者区分別回答数 117
2.3 回答対象館別・利用者区分別利用頻度 118
3. アンケート集計結果と分析 120
3.1 集計と分析の方法 120
3.2 全体の概要 120
3.3 本館 122
3.4 医学分館 132
3.5 北青葉山分館 142
3.6 工学分館 150
3.7 農学分館 158

【第4部　資料編】

グラフで見る附属図書館 168
1　沿革 171
2　歴代附属図書館長・副館長・分館長 179
3　組織図 183
4　職員数 184
5　施設・設備 186
6　利用対象在籍者数 187
7　蔵書数 188
8　図書・雑誌受入数 189
9　電子情報資源・視聴覚資料 191
10　開館状況 194
11　利用統計 195
12　図書館資料費 200
13　所蔵コレクション 201
14　講習会・ガイダンス等 205
15　展示会 208
16　見学者等 218
17　職員研修 219
18　図書館職員の学外委員等 221
19　図書館職員業績一覧 224
20　情報発信 232
21　災害等の対応記録 233

（付録）　東北大学附属図書館における自己点検・評価の実施に関する内規 248
東北大学附属図書館自己点検・評価小委員会設置要領 250
東北大学附属図書館における外部評価の実施に関する内規 251
附属図書館自己点検・評価委員会及び小委員会 委員名簿 253
自己点検・評価の検討及び活動経過 254

第1部　概要編

はじめに

（1）自己点検・評価について

東北大学附属図書館では、これまで、2002（平成14）年度、2007（平成19）年度、2016（平成28）年度に自己点検・評価を実施し、今回で4度目となる。今回の自己点検・評価の対象期間は2017（平成29）年度から2022（令和4）年度とした。前回の報告は2016年3月時点としているが、2016年度の外部評価にあわせて、2016年度中の事項も追記されたため、基本的には2017年度からとした。ただし外部評価以降の事項等で含まれていない項目については、必要に応じて今回の報告書にも含めた。

2021年度には、自己点検にかかわる内規（「東北大学附属図書館における自己点検・評価の実施に関する内規（令和4年1月14日制定）」付録参照）を整備し、この内規第2条に基づき、2022年度に「東北大学附属図書館自己点検・評価委員会」及び「東北大学附属図書館自己点検・評価小委員会」を設置した。当報告書は2023年度にまとめ、同年度内にこれをもとにした外部評価受審を予定している。

今回の対象期間で特筆すべき事項として、まず2020年に急拡大した新型コロナウイルス感染症の影響が挙げられる。緊急閉館、開館時間短縮、ラーニングコモンズ閉鎖、オンライン授業への対応など、様々な対応を強いられた。また、2021年2月、2022年3月には震度5を超える地震があり、資料落下、漏水、照明ほかの落下、亀裂等の被害があった。さらに期間後半には、急速な円安に伴う電子ジャーナル高騰や光熱費急騰への対応にも苦慮した。

他方で、2017年4月農学分館移転・開館、2021年5月医学分館リニューアル開館、さらに北青葉山分館も2023年度のリニューアル開館に向けて準備中であり、長年の懸案事項となっていた施設改修を順次実現することができた。

また、2018年3月には「東北大学オープンアクセス方針」を策定し、2022年4月にWiley社、2023年1月にSpringer社との転換契約パイロットプロジェクトをスタートするなど、学術情報流通のオープン化に向けた試みもスタートした。

今回の自己点検・評価に伴い、2022年11月に本学の学生・教職員を対象とする利用者アンケートを実施した。利用者アンケートの結果及び分析は、第3部を参照いただきたい。

（2）自己点検・評価報告書の構成

本報告書は以下の構成とした。

1. 第1部（概要編）
2. 第2部（詳細編）
3. 第3部（利用者アンケート編）
4. 第4部（資料編）

第1部は、前回の自己点検・評価報告書の「総括編」の構成に沿って、下記のように整理している。前回は第3期中期計画・中期目標期間スタートとほぼ同時期であったことから、中期計画に沿って、項目を整理・記述しており、本報告でもそれを踏襲した。ただし、業務の変容等により記載すべき取組みがない項目は評価対象から削除した。また、項目名の末尾に「（新規）」と付したものは、今期の特徴的な事業として追加したものである。

なお、第2部は構成を第1部と同様にし、各分館・図書室の活動も合わせて詳細に記述している。

【第１部（概要編）の構成】

1.学術情報整備の促進
- 1.1 学習用学術情報資源（学生用図書等）の整備
  - （1）学生用図書の財源確保
  - （2）学生用図書の選書
  - （3）学生選書の取組み
  - （4）電子ブックの充実
- 1.2 基盤的学術情報（電子ジャーナル等）と研究環境の整備
  - （1）電子ジャーナルの財源確保
  - （2）電子ジャーナルの選定
  - （3）蔵書目録データベースの整備
  - （4）教育・研究成果等の発信
  - （5）貴重資料の電子化（新規）

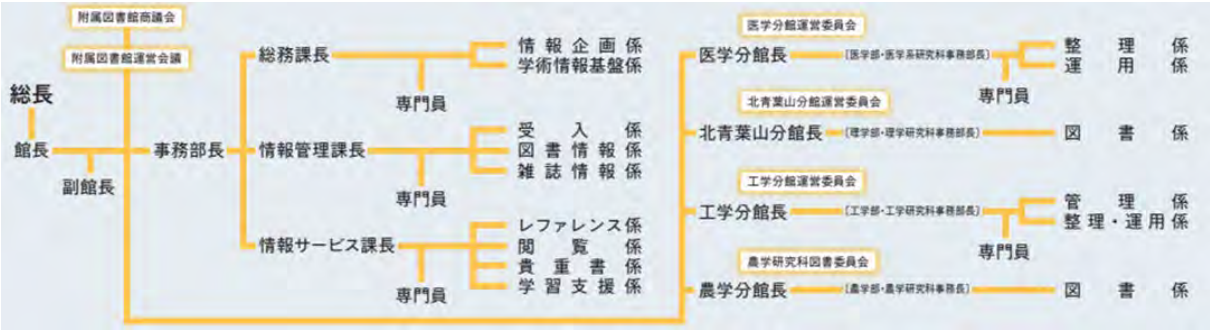
2. 学習環境の整備
- 2.1 図書館施設・設備
  - （1）施設・設備の整備
  - （2）書庫の狭隘化への対応
  - （3）ラーニングコモンズの整備と活用
- 2.2 図書館サービス機能
  - （1）開館時間延長のための経費確保
  - （2）開館時間とサービス
  - （3）学生の利用状況
  - （4）情報利用環境の整備
  - （5）初年次学生向け科目への参画
  - （6）情報リテラシー教育
- 2.3 国際化対応
  - （1）留学生向けサービス
  - （2）図書の充実

3.社会・地域への知の還元
- （1）資料保存・修復の取組み
- （2）クラウドファンディングの実施（新規）
- （3）展示会・講演会の実施
- （4）広報の強化
- （5）高大連携への貢献
- （6）他の館種とのコラボレーション
- （7）震災ライブラリーの継続

4. 組織・運営
- （1）財政基盤の強化
- （2）事務体制の見直し・最適化
- （3）業務システムの改善（新規）
- （4）調査研究機能の向上
- （5）人材育成の充実
- （6）防災対策の強化

(3)附属図書館の概要

2023(令和5)年3月現在、附属図書館の組織は以下のようになっている(「附属図書館概要」より)。



また、各図書室まで含めた配置は以下のとおりである(「附属図書館概要」より)。

川内キャンパスにある本館は、主として学部生の初年次向けの資料を整備・提供するとともに、文系学部・研究科の専門図書館としての機能を持つ。星陵キャンパスにある医学分館は医学系の専門図書館として、青葉山キャンパスにある北青葉山分館は理学・薬学系の専門図書館として、工学分館は工学系の専門図書館として、農学分館は農学系の専門図書館としての機能を果たしている。東北大学の本部がある片平キャンパスは、主として研究所から構成されていることから、各研究所の固有の図書室を

維持している。ただし、図書系の常勤職員が配置されている図書室は金属材料研究所のみとなっている。

本館・分館・図書室は、本館を除き各館・室が所属する部局の施設として運営されており、それぞれの運営委員会で予算等が決定されている。常勤職員は、図書系として管理され、異動も基本的には図書系の中で行われている。人材交流は、現在は主として宮城教育大学、仙台高等専門学校と行っている。

附属図書館全体としては、月に1回、本館の部課長と図書館専門員（課長補佐級）、各分館の図書館専門員（または筆頭係長）及び金属材料研究所図書室の係長による打合せを行い、情報の共有を図っている。また、広報や展示、システム更新等、全館に係わる事業についてはワーキンググループ（WG）を組織し、本・分館等の職員から構成員を募り、協働して業務にあたっている。

本館及び各分館を含めた附属図書館全体の運営に関する審議を行う場として、館長・副館長・各分館長に、全学の各研究科や研究所・センター等からの代表者を加えた附属図書館商議会を設置している。また、館長・副館長・各分館長及び附属図書館事務部長と附属図書館事務部の各課長からなる運営会議では、附属図書館の組織及び運営についての企画・調整を行っている。

（4）自己点検・評価結果一覧

本報告書においては、第 1 部の各項目に関し、以下の評語による自己点検・評価の結果を付している。

評語＝S（大幅に改善）、A（十分に改善／対応した）、B（対応した）、C（未対応など）

《項番　内容》	《評語》
1.学術情報整備の促進	
1.1 学習用学術情報資源（学生用図書等）の整備	
（1）学生用図書の財源確保	B
（2）学生用図書の選書	A
（3）学生選書の取組み	A
（4）電子ブックの充実	A
1.2 基盤的学術情報（電子ジャーナル等）と研究環境の整備	
（1）電子ジャーナルの財源確保	S
（2）電子ジャーナルの選定	A
（3）蔵書目録データベースの整備	A
（4）教育・研究成果等の発信	S
（5）貴重資料の電子化	S

2.学習環境の整備	
2.1 図書館施設・設備	
(1)施設・設備の整備	S
(2)書庫の狭隘化への対応	S
(3)ラーニングコモンズの整備と活用	S
2.2 図書館サービス機能	
(1)開館時間延長のための経費確保	B
(2)開館時間とサービス	B
(3)学生の利用状況	B
(4)情報利用環境の整備	A
(5)初年次学生向け科目への参画	S
(6)情報リテラシー教育	S
2.3 国際化対応	
(1)留学生向けサービス	B
(2)図書の充実	B
3.社会・地域への知の還元	
(1)資料保存・修復の取組み	S
(2)クラウドファンディングの実施	S
(3)展示会・講演会の実施	A
(4)広報の強化	S
(5)高大連携への貢献	B
(6)他の館種とのコラボレーション	A
(7)震災ライブラリーの継続	S
4.組織・運営	
(1)財政基盤の強化	S
(2)事務体制の見直し・最適化	B
(3)業務システムの改善	A
(4)調査研究機能の向上	A
(5)人材育成の充実	A
(6)防災対策の強化	A

1.学術情報整備の促進

1.1 学習用学術情報資源（学生用図書等）の整備

（1）学生用図書の財源確保　【評語：B】

（前回の状況）

学生1人当たり1冊を目標とした「学生用図書整備事業」を継続的に行ってきた。この整備事業は、大学本部から措置される全学的基盤経費（中央経費の枠組みの一つで、学内の基盤的な環境整備のための予算として間接経費から一定額が確保されているもの）と各館の従来の学生用図書経費を合わせ、①年間約18,000冊の整備、②新刊図書を中心とした基本的学習図書の継続購入、③全学問分野に対して偏りのない選定の実施、という内容となっている。措置された予算は本館及び各分館に配分し、各館で選定作業を行っているが、前回の利用者アンケートの結果では全体的に学習・研究に十分な図書・雑誌に関してギャップが大きかったため、更なる資料の充実策を講じる必要があるとされた。

（現在の状況）

図書館としては、資料費に係る全学的基盤経費として、学生用図書費と購読雑誌・電子ジャーナル経費を要求している。近年は、購読雑誌・電子ジャーナルの価格高騰でその予算が増額されている影響により、学生用図書費が前回（2016年）の報告（約3,200万円）から年々減り続け、現在は前回の約58%（約1,800万円）相当である。また、大学運営費交付金による学生用図書経費も、効率化係数により毎年前年度比1.6%減となっている。一方、本学では2020年度よりBYOD（Bring Your Own Device）を推進していることやオンライン授業などによる学習環境の変化、また、新型コロナウイルス感染症対策などのため、冊子より高額な電子ブックの充実にも力を入れている。このような学生を取り巻く状況の変化により、当初の「学生1人当たり1冊を購入」の目標達成は難しくなったが、その変化により利用が定着してきた電子ブックの整備を重点的に行うことを根拠とし、予算の増額を要求している。

（評語に至った理由）

大部分の電子ブックは全学で利用できる契約となっているが、選定・購入の作業はこれまで各館で行っていた。しかし、財源が減少する中、限られた財源を効率よく活用するため、予算の一部を共同整備枠として確保し、本館及び各分館共同で電子ブックの選定・整備を行った。予算の十分な確保には至らなかったが、選定方法等の工夫で対応した。

（今後の課題）

電子ブックのアクセス件数は増加傾向にある（第4部 資料編［グラフで見る附属図書館　4. 電子ブックの整備状況とアクセス件数］参照）。電子ブックの利用増加やオンライン授業などの学習環境の変化に対応するにあたり、冊子に加え電子ブックの更なる充実が必要となるが、冊子に比べ高額な電子ブックの整備を進めるためには、経費の獲得とその経費を有効活用（共同整備等）するための方策を検討する必要がある。

（2）学生用図書の選書　　【評語：A】

（前回の状況）

外部評価で指摘のあった、幅広い教員からの推薦による教養書の充実については整備を進めている。図書館職員が主導した本・分館連携による選書システムについては、学生用図書予算の分館への配分により、各分野の図書整備が進んでいるものの、制度的な改善は未着手であった。今後の課題として、全学的な視野に立った蔵書構築のシステム化、及び、本・分館の職員が得意分野の知見を生かした選書の検討が求められていた。

（現在の状況、評語に至った理由）

学生用図書の選書は、前回同様、教員による選書と図書館職員による選書を行っている。教員による選書は、シラバス掲載図書をはじめ教員が学生用の参考図書として推薦する教員推薦、図書館からの依頼による教員選書があり、幅広い分野を網羅している。また、図書館職員の選書は、各館の収書基準に基づき各館の特色を生かした選書を行っている。前回課題であった全学的な視野に立った蔵書構築のシステム化方策は、本・分館が担う分野の資料の特徴や予算規模の違いなどから、実現していない。しかし、全学で利用できる電子ブックに関して、本・分館で共同整備を試行するなど、実現に向け少しずつ進み始めたところである。

また、制度的な改善に関しては前述の通り、予算が減少していく中で蔵書の質を維持するために、一部の電子ブックについて、本館の既存の委員会の枠組みを拡大し、本・分館による共同整備を行った。なお、洋書については、学生に早い段階から原書に触れてほしいという教員の希望もあり、学部生向けの洋書を中心に、試読・トライアルの結果を参考にしながら、整備を行っている。

（今後の課題）

数は少ないが、これまでも英語を中心に洋書の選定は行ってきた。世界に伍する大学として、多言語の原書に学生が早い時期から触れる機会を増やすべく、学生向け洋書の充実をさらに進めていく必要がある。一方、選書作業については各館とも複数の職員で行っているが、人員の確保が難しくなりつつあり、選書スキル及びレベルの維持が課題である。

（3）学生選書の取組み　　【評語：A】

（前回の状況）

学生選書は、教員及び図書館職員による選定を補完するものとして、本館と複数の分館で実施していた。本館では毎年20名程度の学生が参加し約500冊の図書を購入していた。また、学生のニーズを取り入れることで学習意欲の向上につながることが期待されることなどから、今後も図書館サービスへの参画を促すイベントや各館の特性及び学生ニーズに合った形で、継続していくことが望ましいとされていた。

（現在の状況、評語に至った理由）

学生のニーズに即した資料を収集できるよう、学生からの購入希望を随時受け付けている。以前は、ほぼ固定の学生による希望が多かったが、近年は学部生・大学院生・留学生を問わず、広い学生層から購入希望があり、特に留学生からの希望が増加傾向にある。

また、学生選書企画として、本館では、研究室単位や学生の個人参加により、書店での直接選書を行ってきた。2017（平成29）年度は、文学研究科と生命科学研究科の2研究室から合計25名の参加があり、348冊の整備を行った。2018（平成30）年度は、経済学研究科の1研究室と「東北大学サイエンスエンジェル（2022年4月、「東北大学サイエンスアンバサダー」に名称変更）」から合計23名の参加があり、294冊の整備を行った。分館では大学生協の協力による選書企画やウェブによる選書企画などを実施している。

しかし、2020年以降、学生の生活時間の変化及び選書ツールのオンライン化による参加人数の減少、コロナ禍での感染防止等により、書店での直接選書は縮小傾向にある。そのため、本・分館では直接選書に代わる方法として、電子ブックの試読・トライアルのアクセス結果を基にした図書の購入や、オンライン選書・オンライン投票の実施などに内容を変更し、学生選書を継続している。

（今後の課題）

コロナ禍以降、学生の選書への直接的な参画は難しい状況にあるが、書店のウェブ選書システムを利用するなど、上記のほかにも、時間や場所を問わず参加できるような実施方法を検討する必要がある。

（4）電子ブックの充実　【評語：A】

（前回の状況）

2005（平成17）年度に工学分館で導入を開始し、その後、各館での導入により全学的な利用を進めているが、利用できるタイトルは2016年時点で約4,500タイトルであり、学生の学習用教材としては十分とは言い難い。今後は他大学の導入状況や利用等のリサーチ、電子ブックの有効利活用の検討が課題とされた。

（現在の状況）

電子ブックは、2021年度末時点で全学利用できるタイトルが、前回（2016年）の約4,500タイトルから約24,500タイトルに、アクセス件数は約125,000件（2017年度）から約220,000件に増加した（第4部 資料編［グラフで見る附属図書館　4．電子ブックの整備状況とアクセス件数］参照）。特に、BYODの推進等による学習形態の変化もあり、コロナ禍以降のアクセス数の増加が著しい。また、試読やトライアルの結果、アクセス拒否件数等を参考にするなど、利用者のニーズを確認しながら選定・購入を行っている。利用促進については、OPACの新着案内機能での電子ブックリストの表示、ブクログやTwitterでの新着案内、書架へのQRコード掲示等を行っている。

（評語に至った理由）

各館により重点的な整備を始めた時期は異なるが、シラバス掲載図書や利用が多い図書等を中心に整備を行っている。特にコロナ禍ではオンライン授業や在宅学習に対応すべく、シラバス掲載図書の電子ブック整備を強化した。これまでは各館で選定・購入を行っていたが、大部分の電子ブックが全学で利用できることから、前述（1.1(2)学生用図書の選書）の通り、2022年度は、本館及び各分館のうち2館以上で必要と認められるタイトルについて、共同整備の試行を行い、148タイトルを購入した。

（今後の課題）

電子ブックは冊子に比べ高額であり、継続的に整備を推進するためにはさらなる財源の確保が必要である。また、教科書等の刊行が冊子のみでニーズが高い資料については、書店・出版社に対し電子ブック化のリクエストを行っているが、なかなか進まないことから、今後も働きかけを続けていく必要がある。

2022年11月に実施した利用者アンケート（第3部 利用者アンケート編 参照）によれば、学部生・大学院生のうち、特に大学院生の重要度・満足度の差が大きく、学生購入リクエストや試読・トライアル等を活用しながら、研究用電子ブックについても整備を進めていく必要がある。

一方、電子ブックはオンライン上のコンテンツであり、書架に現物がないことから学生の目に触れにくいという課題がある。これまでも書架に電子ブックの二次元コードを掲示したり各タイトルの紹介をSNSで発信するなどの広報は行ってきた。しかし、利用者アンケートにおいて「利用したことがない」と回答した学生がいたことから、潜在的にさらに多数の学生が利用していないことが推測できる。今後はこの層にも届くような、より効果的な利用促進・広報について検討する必要がある。

1.2 基盤的学術情報（電子ジャーナル等）と研究環境の整備

(1)電子ジャーナルの財源確保　　【評語：S】

（前回の状況）

本学では、全学で整備すべき学術情報（電子ジャーナル・データベース）について、その整備方針を「東北大学学術情報整備計画」として明文化し、それをもとに各研究科等の教員で構成される学術情報整備検討委員会・学術情報資料選定小委員会において検討・整備を行っている。

その財源は、大学共通経費である全学的基盤経費と部局経費負担から成る。大学共通経費予算化は、図書館からの要求により2008（平成20）年度は総長裁量経費による措置、2010（平成22）年度より共同整備総額の約半分にあたる全学的基盤経費2億円の配分、その後も原価の値上がりや為替レートの変動による価格上昇等の影響により、2015（平成27）年度には3億円を確保するまでとなった。一方、各部局による経費負担に関しては部局負担の調整に時間を要したものの、学術情報整備検討委員会で負担率（教員数と部局の予算規模による）の合意がなされ、部局長連絡会議における承認に基づく

費用振替が執行されている。外部評価では「A：特に優れている」と評価され、今後の課題として、部局間格差への対応等を指摘された。

（現在の状況）

学術情報整備の必要性や全学共同と人文・理工・生命の各分野から成る分野別共同の位置付けを明確にするために、2017（平成29）年3月、「東北大学学術情報整備計画」を改定し、また全学的基盤経費3億円の確保を維持した。しかし、学術情報整備費の50％強は部局に頼らざるを得ず、運営費交付金が減少する中、各部局も予算確保に苦慮している。2021年以降の円安による為替レート変動等の不可抗力分については、補填のための増額要求が大学執行部に承認された。一方、原価の値上がりによる負担増も大きく、学術情報整備検討委員会・学術情報資料選定小委員会において、経費抑制を目的とした大型パッケージ解体等も検討されたが、結果として、必要不可欠なタイトルを厳選することを条件に、パッケージ契約を継続することが承認された。このことによる部局負担増については、当委員会を通じ部局教員の理解も得られている。

（評語に至った理由）

2022（令和4）年4月から、従来の購読料にAPC（Article Processing Charge）を含めた転換契約をWiley社と締結し、財務担当部署の協力の下に、本学における持続可能なスキームを考案し実施した。具体的には、論文をOA出版したい研究者から本来のAPC半額相当の「OA出版分担金」を徴収し、翌年の購読料に充当するという方法である。これにより、論文投稿を含めた大学全体のコスト削減にも貢献することとなった。1年目においては、約850万円を購読料に充てることができた。この事業では、本学を含む東京工業大学、総合研究大学院大学、東京理科大学の4機関による国内初のパイロットプロジェクトとしてプレスリリースを行う等、社会に向けてその意義も発信した。また、2023年1月よりSpringer社とも本学を含む10大学で転換契約を締結したが、これらは、「我が国の学術情報流通における課題への対応について（審議まとめ）」（令和3年2月、科学技術・学術審議会情報委員会ジャーナル問題検討部会）への呼応ともなった。

さらに、2023（令和5）年2月、本学の整備方針である「東北大学学術情報整備計画」を改定し、研究論文のオープンアクセス化への支援、持続可能な学術情報整備のための経費確保等について学内合意を得た。

（今後の課題）

本学の学術情報整備を進める上で、転換契約の有効性と持続可能性の検証が必要である。また同時に、研究支援に係る図書館と研究者の対話を積極的に進め、研究者のニーズを把握することが必要である。研究者にとって必要な学術情報整備については、一大学のためだけではなく国全体として、情報共有及び連携を進める必要がある。

（2）電子ジャーナルの選定　　【評語：A】

（前回の状況）

2011（平成23）年度に、大学図書館コンソーシアム（JUSTICE）が発足し、学術情報を安定的・継続的に確保し提供する活動が開始されて以降、それらを参考に、学術情報整備検討委員会及び学術情報資料選定小委員会において、「東北大学学術情報整備計画」に基づき、適正な価格の見極めとさらなるタイトルの厳選を行ってきた。外部評価委員会においても、おおむね安定的に適切な選定が行われている旨評価された。

（現在の状況）

前回以降も電子ジャーナルの価格は高騰しており、購読タイトルの厳選は引き続き行われていた。新型コロナウイルス感染症への対応として、2020～2021年の2年間、主要な出版社は一時的に価格上昇を抑制した。しかし、これは一時的なものであるため、本学として厳選の方針は変更していない。

また、当該委員会において、必要タイトルの確保のためパッケージの解体は安易に行わず、本学として必要不可欠な購読タイトルの厳選に注力する旨の合意がなされた。また、利用者アンケートの結果からは、多様な研究分野を支援する総合大学として、偏りのない必要なタイトルの提供が評価されている。タイトル数の推移は2017年の13,431タイトルが2022年までに14,020タイトルとなり、厳選を重ねつつも589タイトル増となっている。

（評語に至った理由）

「東北大学学術情報整備計画」は2017年と2023年に改定を行い、研究論文のオープンアクセス化を推進することを明示し、新たな契約モデルの導入により、大学全体のコスト抑制とタイトル数確保を行った。また、経費負担における部局間格差解消のため、共同購入の対象を引き続き、全体と人社、理工、生命の分野別選定とし、各分野内で必要なタイトルを確保できるよう配慮した対応を実施している。国内外の状況を見極めた選定方針、委員会と分野別ワーキンググループによる選定体制と合意形成、新たな契約モデルの導入等、学術情報を安定的に提供できる選定を実施している。

（今後の課題）

変化の激しい電子ジャーナルを取り巻く環境の中にあって、常に最新の情報を収集し、今後も「東北大学学術情報整備計画」に定める整備方針と体制、及び契約モデル等の有用性を見極め、迅速に対応することが必要である。また、必要不可欠なタイトルの厳選のため、研究論文のオープンアクセス化推進とさらなる研究支援にもつながるよう、研究者と関係機関・部署との連携を密にし、様々な選択肢を視野に入れながら適切な方法を探っていく必要がある。

（3）蔵書目録データベースの整備　　【評語：A】

（前回の状況）

蔵書目録データベースの構築は、1987（昭和62）年の図書館業務の電算化により開始され、1989（平成元）年度からは学内予算措置により図書目録情報の遡及入力事業を開始した。2008（平成20）年度から2017（平成29）年度は、第6次計画（分館所蔵資料、中国語資料、古典資料、貴重書、準貴重書、研究室貸出資料）を実施し、これまでに156万冊の登録が完了した。

外部評価においては、計画的に着実に遂行されている旨が評価され、さらに世界の研究に貢献すべく、古典籍資料のデータ整備への対応が望まれた。

（現在の状況）

2022年度末時点での、蔵書目録データベースの累計データ件数は図書書誌161万件、図書所蔵登録数357万冊（製本雑誌含む）、雑誌8.6万件（種）となっており、2017～2022年度のNACSIS-CAT新規書誌作成件数は遡及入力を含め、全館合わせて年間約4,800件である。特に本館は、2022年度までの累計新規書誌作成件数が全国（1,500館超）で11位となっている。また、リモートアクセスによる学生の利用等の需要と利便性を考慮し、電子ブックについても登録を進め、冊子体書誌との統合的なOPAC検索を可能とした。

（評語に至った理由）

遡及入力事業については、作業難度が異なるため、資料群によって進捗状況を鑑みながら、年度ごとに計画を立てて実施している。2017年度から2021年度においては、分館所蔵資料、個人文庫、古典資料、貴重書、準貴重書、研究室貸出資料約11万冊について、2022年度は和算資料などの準貴重書を中心に1万4,000冊について実施し、遡及入力対象冊数187万冊の約9割弱にあたる合計166万冊が完了となった。

また、古典資料等における遡及入力事業が、貴重書係で行っている「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画（略称：歴史的典籍NW事業）」の古典籍メタデータ作成と関連するため、これを機に30年余り実施してきた遡及入力事業の見直しを行った。2021年度からは、デジタルアーカイブ構築に係わる遡及入力及び電子化事業としての予算要求を行い、2024年度からの本格運用に向け、2023年度までを準備期間として計画的に作業を進めている。

（今後の課題）

過去にほかの目録等から一括してデータ登録を行った狩野文庫・漱石文庫等について、利用者の利便性や資料管理の上で、原資料とのデータ照合や資料番号の装備が、今後の課題として急がれる。また、上記の新事業の定着に向けた事業計画と経費獲得も急務となっている。

（4）教育・研究成果等の発信　【評語：S】

（前回の状況）

2006年度から運用している「東北大学機関リポジトリTOUR」において、学位規則の改正に対応して2013年度学位取得者からの博士論文の収録を円滑に進めつつ、オープンアクセスポリシーの策定や機関リポジトリへの登録・促進を検討していた。

（現在の状況、評語に至った理由）

2017年3月末に、独自運用システムから国立情報学研究所（NII）が提供するJAIRO Cloudへ移行し、担当者の作業負担や運用コストの削減、さらに各種データ連携によって登録論文の発見と参照の機会向上を実現した。また、2018年には大学のオープンアクセス方針を策定して2020年度にかけてリポジトリへの登録促進作業を実施しつつ、2021年度からはDOIの付与も開始するなど、本学の研究成果の収集と永続的なアクセス環境の保持に努めている。継続的な登録作業と周知とで公開プラットフォームとしての有用性も認識され、学内の紀要論文を中心に登録コンテンツ数は2016年度末時点から20,000件以上増加し、アクセス数も期間中に2倍以上となる伸びを見せている（第4部 資料編［9.4 機関リポジトリ（TOUR）収録件数］［11.53 機関リポジトリ（TOUR）利用件数］参照）。

（今後の課題）

2021年に策定された本学の研究データ管理・公開ポリシーを受け、学内でGakuNin RDM等を運用する部局との連携を図るとともに、オープンサイエンスの実現に向けた研究データ公開に対応する新JAIRO Cloudへの移行や、その登録作業体制の充実が必要である。

（5）貴重資料の電子化　【評語：S】

（前回の状況）

国文学研究資料館が中心となって実施している「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画（略称：歴史的典籍NW事業）」に2015年から参加し、翌2016年に撮影を開始した。

（現在の状況）

歴史的典籍NW事業だけでなく、国文学研究資料館の科研費や館内経費、基金など、様々な財源によって電子化を進めており、2022年度末現在、当館の画像公開システムと国文学研究資料館のデジタルアーカイブシステムにより、累積で約30,800点、165万コマが公開されている。このうち793点は、2019年度に実施したクラウドファンディングにより約468万円の寄附をいただき、電子化して公開した漱石文庫の資料である。

（評語に至った理由）

2016年度時点において、当館の画像公開システムでは、貴重資料も含め、約27,000点、約75万コマが公開されていたが、資料の一部分のみの画像であったり、膨大なコレクションの一部分であったりと、

不完全な公開状況であった。上記の事業や財源により、当館所蔵の日本古典籍、特に最も重要なコレクションの一つである狩野文庫について、電子化・公開が大きく進展した。また、漱石文庫の特に重要な自筆資料群について、当館の画像公開システム上ですべて電子化・公開できたことの意義は大きい。

なお、狩野文庫の電子化・公開を記念し、2020年12月には「江戸に学び、江戸に遊ぶ」と題し、デジタルアーカイブに関するシンポジウムを開催した。同シンポジウムでは国文学研究資料館館長（当時）のロバート キャンベル氏を招き、講演会とパネルディスカッションを実施した。

（今後の課題）

当館で運用中の画像公開システムは、国際規格であるIIIFに対応しておらず、またメタデータ構成も古いもので、近年国内でも整備が進んでいる「デジタルアーカイブ」としては機能が不十分である。さらにディスク容量も不足しているため、歴史的典籍NW事業で電子化したものを国文学研究資料館のデジタルアーカイブ上でしか公開できていない。それらは、2022年度末でおよそ89万コマに上る。なお、現在の電子化資料は当館が所蔵している貴重資料の一部に過ぎず、その半分以上を占める漢籍をはじめ、古文書や洋書等についても電子化を進める必要がある。

システムについては、2022年度に学内予算を獲得し、当館の資料のみならず学内の学術資源を統合して公開する「東北大学総合知デジタルアーカイブ」を構築準備中である。現在、国文学研究資料館のデジタルアーカイブで公開している画像も、あらためて本学の学術資源として、このシステムで公開していく予定である。

2. 学習環境の整備

2.1 図書館施設・設備

(1)施設・設備の整備　　【評語：S】

（前回の状況）

本館1号館では、大規模地震への対策として2008（平成20）年度に耐震補強工事を、老朽化への対応としては、2012（平成24）～2013（平成25）年度に本館の部分的な改修工事（第1期）、2013（平成25）～2014（平成26）年度には全面的な改修工事（第2期）を実施した。

4分館については、耐震補強工事の必要はないが老朽化対策が必要とされ、医学分館は全面改修の予算要求中、農学分館は2016（平成28）年度中の青葉山新キャンパスへの移転が予定されていた。

（現在の状況、評語に至った理由）

2017年4月には、農学分館が青葉山新キャンパスに移転・開館し、農学分館の施設面積は4倍以上に拡充され、ラーニングコモンズや共用書庫を備えた施設として、大いに活用されている。

2021年5月には、医学分館の本棟が全面改修工事を経て、リニューアル開館した。改修範囲に含まれなかった別棟についても随時設備を更新している。

北青葉山分館は、2022年2月より全面改修工事を開始し、2023年3月現在は休館（臨時図書室にてサービスを提供）している。2023年秋にリニューアル開館予定である。

また、大規模な改修ではないが、工学分館では2021年度に館内改装工事として新館2階窓の刷新、什器のリニューアルを行うなど、随時見直しを行っている。

本館は、2014年の改修以降は大規模な改修は行っていない。しかし、今期も地震被害対応を行った。2021年2月13日の福島県沖地震の被害に対しては、2021年度中に1号館の空調設備機械やクラックの補修、2号館の漏水に係る調査・修繕などを実施した。工事が完了して間もない2022年3月16日に再度福島県沖地震に見舞われ、空調設備機械等の応急的な修繕は完了しているが、内壁や天井のクラックなど2回にわたる地震のダメージは大きく、2023年3月現在も一部立ち入りを制限している区域がある。これらの地震被害に係る復旧工事は2023年度に行われることになっている。

また、各分館の改修に際しては、個別空調の導入や照明のLED化を行っており、北青葉山分館においても、省エネ・創エネ対応の建物として改修が進められている。

（今後の課題）

分館においては、工学分館の旧館部分は築後40年を超えており、老朽化への対応が懸案事項となっている。

本館においては、2回の地震被害による復旧工事のほか、築後34年となる2号館の老朽化への対応が急がれる。

（2）書庫の狭隘化への対応　　【評語：S】

（前回の状況）

2014年の改修工事の際に本館1号館地下書庫南側エリアの積層書架を電動集密書架へリニューアルし収蔵能力の増強を図った。また、書庫に配置していた古典資料の2号館への配置換えや、2号館雑誌書架の増設も行った。さらに、青葉山新キャンパスの農学分館内に収容能力約50万冊の共用書庫を設置予定であった。

（現在の状況、評語に至った理由）

青葉山新キャンパスに移転した農学分館の1階に約50万冊の収蔵能力を持ち、本・分館共同で使用する共用書庫が設置された。共用書庫内部を本・分館で区分し、全館共通の共用書庫の運用ルールを定めた。各館では、利用頻度の低い資料などを配置し、狭隘化が大幅に改善した。

また、2019年度の医学分館改修工事、2022年度北青葉山分館改修工事では、所蔵資料の一部を共用書庫に移動するなど、資料の一時保管場所としても活用されている。このことにより、改修工事中も利用者の資料利用に応えることができた。

（今後の課題）

運用開始から5年が経過し、改修や各種雑誌のオンライン化の進展もあり、分館においては狭隘化がほぼ解消した。しかし、本館においては、増え続ける製本雑誌のため、2号館の雑誌書架の狭隘化への対応が課題である。

共用書庫は各館のスペースに区分され、その区分の資料は各館の責任において配置することになっているが、運用面で実務を担当するのは農学分館である。運用上の齟齬が出ないように、定期的に運用の実態とルールを照合し、必要に応じてルールの見直しを行っていく必要がある。また、運用を検討する主体が、共用書庫の設置当初に組織された、いわば臨時体制のワーキンググループであるため、通常稼働下での検討体制に変更する必要がある。

（3）ラーニングコモンズの整備と活用　　【評語：S】

（前回の状況）

本館のラーニングコモンズは、2012年の改修工事（第1期）により1号館1階メインフロアを改修して新設された。その後、改修工事（第2期）で2階をコモンズ（グローバル学習室）として追加整備し、2014年10月にリニューアル開館した。ディスカッションをしながら学習するスタイルは徐々に定着し、学生が会話をしながら学習を行うことが日常となった。

（現在の状況、評語に至った理由）

本館においては、新型コロナウイルス感染症の流行前の2019年度までは、各エリアとも活発にグループで利用されていたが、2020年度以降は、感染拡大防止のため1人利用席として運用してきた。

2022年11月末からグループ利用を一部再開しているが、2人で会話しながらの利用は少しずつ増加しているものの、2023年3月現在、グループ利用はまだほとんど見られない状態である。

本館以外では、新しく2カ所でラーニングコモンズが整備された。1つは、青葉山コモンズ内に農学分館と併設され、学生のグループ学習のみならず、様々なイベントに活用されている。もう1つは、2021年5月にリニューアル開館した医学分館内に新設され、活用されている。

なお、2023年秋にリニューアル開館予定の北青葉山分館にも、ラーニングコモンズが新設される予定である。

（今後の課題）

今回の利用者アンケートでは、グループ利用再開についての意見が多く寄せられた。また、オンラインで対話コミュニケーションを行うことが普通になる中、オンラインで1人で話せる環境の充実も喫緊の課題と言える。社会的状況等を考慮しながら、新たに必要となった「1人で話せる環境」も含めて、再び多様な活動が実施できる図書館環境を整えていく必要がある。

2.2 図書館サービス機能

(1)開館時間延長のための経費確保　【評語：B】

（前回の状況）

本館では、もともとは平日9～17時の開館だったが、段階的に拡大し、2009（平成21）年度から総長裁量経費の措置により、平日8～22時、土日祝日10～22時の開館を実施しており、授業にかからない時間帯の開館を充実させた。平日延長及び早朝と土日祝日の開館経費は、全学的基盤経費と各部局の負担により維持されていた。このうち各部局の負担額は、その半分を本館が所在する川内地区の学部・大学院の在学者数、もう半分を全学部の学部1～2年生の在学者数の割合により算定されていた。これは、本館が主に川内地区の文系部局向けの専門資料・サービスと、学部1～2年生の利用する基礎的な資料・サービスを提供することによるものである。

分館は平日9～20時で開館しており、閉館時間帯も各キャンパスの所属者は入館利用が可能であった。経費は、各部局の負担で維持されていた。

（現在の状況、評語に至った理由）

本館では、前回と同様の開館時間を継続していたが、コロナ禍により2020～2021年度は開館時間を縮小した。2022年7月からは、通常の開館時間に戻っている。開館時間延長のための経費についても前回と同様である。

分館においては、前回の状況にあるとおり、基本的には各部局の負担で維持されている。ただし、2017年4月に青葉山新キャンパスに移転開館した農学分館は、開館時間延長も含む運営経費の一部を全学的基盤経費で維持している。

（今後の課題）

各分館の閉館時間帯の利用は各キャンパスの所属者に限られているが、北青葉山分館の改修やコロナ禍をきっかけに、「全学生が所属に関わらず、同じように利用できるべきである（したい）」との要望が強く寄せられた。また、現在、夜間や土日祝日に利用できない本館2号館や、本館1号館の閉館時間帯の利用についても要望が寄せられている。分館については、利用者増による経費負担や設備の維持、セキュリティの確保などの課題はあるが、2023年2月の運営会議にて、閉館時利用の試行実施と、学生の要望に沿った対応について検討していくことが確認された。本館についても別途検討することとしている。

（2）開館時間とサービス　　【評語：B】

（前回の状況）

本・分館の開館時間は、前述のとおりである。各分館においては、閉館時間帯も各キャンパスの所属者は入館利用が可能であった。利用者からは現状に対する大きな不満はなかったが、本館に対しては24時間開館の要望が根強くあった。キャンパスを通る地下鉄新路線の開通も予定されており、さらにその要望が強くなることが予想されたため、本館については利用可能時間帯をより長くする（無人開館など）検討の必要性が認識されていた。

（現在の状況、評語に至った理由）

開館時間や分館の閉館時利用については前回と同様である。

しかし、2020（令和2）年度から始まったコロナ禍により、本・分館、部局図書室は、2020年4月13日（月）から6月22日（月）まで全面休館（室）となった。その後、大学としての対応や感染状況を踏まえながら、徐々に開館（室）を再開していった。当初は短時間の開館とし、入館も制限していたが、2022年度末では通常の状態に戻っている。また、開館時間だけではなくサービス内容も、コロナ禍当初は相当限定的であったが、こちらも2022年度末時点では、ほぼ通常の状態に戻っている。

なお、(1)でも言及したが、コロナ禍によって図書館の利用が制限され思うように学習ができなかったこと、また、オンラインで授業を受講できる環境が必要といった理由で、図書館の開館状況に対して学生から強い要望が寄せられるようになった。さらに、本館の利用可能時間の拡大（2号館）を求める声や、分館の閉館時間帯に全学生が利用できるようにすべきとの声も強くあがってくるようになった。

（今後の課題）

前述の通り、2023年度に、閉館時利用について準備が整った分館から試行を行うこととなった。その試行結果を評価し、予算や運用体制を含め本格実施が可能かどうかを検討する必要がある。また、本館の利用時間拡大についても別途検討することとしている。

（3）学生の利用状況　　【評語：B】

（前回の状況）

各館における学生用図書の充実や環境整備により、入館者数、貸出冊数ともに増加傾向で、全体的に利用が促進されている状況だった。特に本館においては、2014年10月のリニューアル開館があったため、さらなる利用増加が期待されていた。

（現在の状況、評語に至った理由）

2016～2017年度は農学分館のキャンパス移転、2019～2021年度には医学分館のリニューアル、2022年度からは北青葉山分館の改修があり、加えて2020年に始まったコロナ禍により、利用状況の全体的な傾向を数値から導き出すことは難しい。しかしながら、おおよそ前回自己点検・評価報告時の2016年度に比べると、全体的に、2017年度まで利用が増加、以降コロナ禍直前の2019年度までの変化はあまり見られない。

また、前回報告時に言及していた改修後の本館については、リニューアル後は2016～2018年度をピークに入館者・貸出とも漸減傾向にあった。これは、リニューアル後の物珍しさが落ち着いたことと、学生が多数の資料を利用しなければならない英語多読授業数の減少が関係していると考えられる。

なお、各館では、学生用図書の充実のみならず、現物の図書と学生をつなげることも重要な役割であるという認識のもと、書架や館内のスペースを利用し、ミニ展示を行っている。これらの展示については、利用者アンケートでも好意的な意見が寄せられている。

（今後の課題）

学生の学習行動の変化に対応し、オンラインコンテンツの拡充や利用促進の働きかけとともに、冊子体資料の利用促進、また、ニーズに合った座席の配置や、会話可能（不可）エリアのゾーニングなどの環境の再整備（オンライン対話用など）を進めていく必要がある。

（4）情報利用環境の整備　　【評語：A】

（前回の状況）

本館では、2012年から2014年にかけて、メインフロアにデスクトップ型パソコン75台を設置し、ノート型パソコン約40台のセルフ貸出ロッカーを備えることで、ICT機器を活用した自主的学習を促進した。

（現在の状況、評語に至った理由）

本館においては、2020年度からのBYOD推進や学習形態の変化を見据え、デスクトップ型パソコンの運用台数を前年の2019年度に31台へ縮小し、学生が自身のデバイスを活用できるスペースを拡張した。また、コロナ禍の影響を考慮し、2020年度にパソコンロッカーの運用及びノート型パソコンの貸出を停止した。あわせて、2019年度から2021年度にかけて館内各所の無線LANアクセスポイントの更新・増設を行い、BYODによる学習スタイルの多様化に応じた接続環境の改善を図った。

医学分館は2021年のリニューアルに合わせて無線LAN機器を更新、工学分館は個室増設や機器整備によりウェブ面接を支援するなど、分館においても各館の状況に応じた環境改善を実現している。

（今後の課題）

仮想空間や拡張現実の利用なども考慮した高スペックのパソコンや対応デバイスの配備、オンライン授業・面接の普及等による通信量増大に対しても安定稼働が可能なWi-Fi最新規格の導入とアクセスポイントの増設など、急速に発展し続ける最新技術に対応した情報利用環境の構築とネットワーク接続環境の整備は、今後も継続する課題である。

（5）初年次学生向け科目への参画　【評語：S】

（前回の状況）

附属図書館では、初年次学生向けの授業「大学生のレポート作成入門」を、授業名や内容を少しずつ変更しながら、2004年度以降毎年開講している。この授業は情報検索に主眼を置いたもので、図書館職員は、図書館のツールを使った検索や図書館内での資料探索について講義する回を担当してきた。

2015（平成27）年度には、ライティングスキルの習得に比重を置くように授業内容を見直した。「大学生のレポート作成入門」という授業名は、この時からのものである。また、主に教員で構成する学習支援委員会と、その下に本・分館等の職員で構成する学習支援実施部会を新たに立ち上げ、初年次学生のライティングスキルの習得に効果的な授業を行える体制を整えた。また、この体制を継続的活動につなげることが次の課題となった。

（現在の状況、評語に至った理由）

2015年度の見直し以降も授業を継続し、コロナ禍前は毎年40名前後の履修者を迎えて開講してきた。ライティング中心の授業に変わっても、情報検索に関する講義の回が設けられており、そこで図書館職員がツールの使い方や検索の重要性について講義を行っている。

2020（令和2）年度には、長年積み重ねてきた授業運営技術と、学生の満足度の高さなどが評価され、優れたアカデミックスキルの実践教育として全学教育貢献賞を受賞した。

2020～2021年度のコロナ禍においては、図書館職員が作成した動画のオンデマンドでの提供を含むオンライン、対面、ハイブリッドなど、様々な形式を取り入れながら授業を継続した。

2022（令和4）年度には、大学の教育カリキュラムの新方針により、情報検索とアカデミックライティングスキル習得の必修化が、高度教養教育・学生支援機構主導の下に新設された「学問論」によって実現した。これにともない、従来の「大学生のレポート作成入門」を「中級アカデミック・ライティング」に名称変更し、かつ内容についても、レベルの上方修正を行った。開講時期については、「学問論」履修後の連続的な受講を想定し、後期開講となった。

「学問論」の制定プロセスに図書館は関わることができなかった。しかしながら、学習支援委員会のメ

ンバーとして「大学生のレポート作成入門」を担当してきた教員がその中心となっており、図書館職員が先鞭をつけた初年次学生に対する情報検索スキルの習得への導入を、正課として教員へ渡せたということは、長年の図書館の活動が一つの到達点に達したと評価できる。

（今後の課題）

2022年度に開始した「学問論」の動向・効果を踏まえながら、「中級アカデミック・ライティング」の授業内容の見直し、もしくは授業実施そのものを再考していく必要がある。また、情報検索法と図書館利用法を中心としたオーダーメイド形式による授業支援も定着してきたため、今後は、より当館の特徴を生かした新たな授業支援の展開が課題である。

（6）情報リテラシー教育　【評語：S】

（前回の状況）

各館では、それぞれがサービス対象とする利用者の分野や要請に合わせた情報リテラシー教育としてデータベースなどの講習会を展開した。本館の場合は「情報探索のススメ」というタイトルで初級・中級・論文執筆の3部編成の講習会のほか、教員からの依頼に応じて講習会を行った。分館では、部局のオリエンテーションや授業の中で、基本的な利用講習やデータベース検索講習を実施した。本・分館いずれにおいても、教員からの依頼により実施する場合は、内容をその必要性に応じて構成するオーダーメイド型で対応した。

人事異動を踏まえた講習会スキルの継承や、より高度な検索講習会ニーズへの対応、実施回数増加など、より情報リテラシー教育を充実させることが課題であった。

（現在の状況）

各館とも、人事異動による担当者の変更がありながらも、継続的に図書館利用講習やデータベース検索講習を実施している。これまで全館共通のカリキュラムや講習会レベルの設定について長く検討・模索してきたが、今期において、低学年向けは本館（学習支援部会）が中心になって作成、学部の専門教育を受ける学年以降は各館が、ニーズに合わせて講習会を実施するという方向性がおおよそ定まった。

また、本報告書の各項で言及されているが、コロナ禍における対応のため、各館において迅速に動画作成・提供やオンライン開催によって講習会を継続した。

なお、本館においては、留学生向けの動画も作成し、提供した（第2部 詳細編［I.本館2.3（1）留学生向けサービス］参照）。

（評語に至った理由）

新型コロナウイルス感染症の流行という大きな環境の変化に対応して、迅速に日本人及び留学生向けの動画作成・提供を行い、授業やオンデマンドで利用できるようにした。これらは、一時的なものでは

なく今後も継続して利用できるものである。

（今後の課題）

ウィズコロナの下、図書館サービスは非来館型の比重がこれまでよりも大きくなると予想される。そのような状況であっても電子・非電子を問わず、図書館の資源をフル活用してもらえるような講習会に再構成する必要がある。さらに、大学が目指す方向を考慮し授業や学生の動向を踏まえた展開をしていかなければならない。こうした新しい状況への対応が必要な一方で、ますます携わる人員は限られていくと思われる。そのような環境下で、スキルと知識を継承しつつ、内容の高度化と、実施の継続をどのように実現していくかは大きな課題である。

2.3 国際化対応

(1)留学生向けサービス　【評語：B】

（前回の状況）

留学生のピアサポートとして、2012（平成24）年度から本館において「留学生コンシェルジュサービス」を実施した。留学生コンシェルジュとは、①留学生の学習支援、②日本人学生との交流、③職業体験による留学生の育成を目的として、図書館の利用や文献検索のサポートを行うものである。本学の留学生を雇用し、本館のカウンターの一部を専用デスクとし、そこで業務を行うこととした。2015（平成27）年度には留学生コンシェルジュ自身に企画・実施してもらう、図書館利用講習会（情報探索のススメGlobal）や母国紹介（グローバル・セッション）などを行う「留学生コンシェルジュウィーク」も開始した。

（現在の状況、評語に至った理由）

「留学生コンシェルジュサービス」は、留学生課からの予算措置を受けて実施している。留学生コンシェルジュは、授業期間中半期ごとに雇用しており、2022年度後期は7か国10名の留学生を雇用した。

また、デスクでの対応以外の活動として、新入留学生へのガイダンス、英文ニューズレター発行（2017年から月1回）、グローバル学習室でのミニ展示、グローバル・セッション（2015年から現在まで16回）を継続的に行っている。近年はSNSでの情報発信にも力を入れており、YouTubeでの動画配信やツイッターを利用した発信を行っている。

（今後の課題）

前回の課題としていた留学生コンシェルジュの定期的な活動については、前述のとおり、様々な活動を業務として安定的に実施している。

本学における留学生に関わる新たな状況としては、①青葉山新キャンパスに留学生と日本人学生が居住する学生寮が2018年に設置され、留学生の農学分館への利用が増加していること、②本学が国際卓越研究大学を目指していることにより、留学生を含めた国際対応部署の整備が進んだこと、③外国人研究者が増加していることが挙げられる。このように、前回とは学内の状況が大きく変化しており、今

後、図書館が担う役割をあらためて整理し対応していく必要がある。

（2）図書の充実　【評語：B】

（前回の状況）

本館においては、2014年の改修時に、外国人学生と日本人学生の共修・自主的な活動を支援する国際化対応の場としてグローバル学習室を設置した。これを契機に、それまで通常の学生用図書スペースに置かれていた留学生用図書、海外留学関係資料、語学学習書などを同室へ配置することにした。2015年度末時点では留学生用図書（配置資料の約2割）や初年次学生向けの多読・語学授業用の資料（配置資料の約8割。高度教養教育・学生支援機構言語・文化教育センターの施策によるもので2017年度に事業終了）など、約21,000冊を配置した。

また、工学分館では工学教育院の事業の一環で、発話可能な語学学習用スペースLanguage Studioを開設し語学学習資料ともに利用者への提供を開始した。

（現在の状況、評語に至った理由）

2023年3月末におけるグローバル学習室の配架冊数は約26,000冊、雑誌17誌、新聞7紙である。また、電子ブックも導入し、同室関連としては約1,800タイトルが利用可能となっている。現在は、図書館資料費の中で50万円程度の予算枠を設け、継続して整備を行っている。

選書は、「東北大学附属図書館本館収書基準」に則り、以下の4項目に該当する図書を学習支援係で行っている。

（A）海外留学に関係する資料（各国情報や留学情報など）

（B）国際的な人材育成に役立つ図書（異文化コミュニケーション・海外文化・ダイバーシティ関係資料、国際活動関係の資料、日本文化に関する多言語の入門書や概説書、海外新聞・雑誌など）

（C）留学生が日本語・日本文化を学ぶための資料（日本語学習書、日本語・日本文化を学ぶための読み物など）

（D）日本人学生が各国語・各国文化を学ぶための資料（各国語学学習書、各国語・文化を学ぶための読み物など）

工学分館においては、それまで英語能力試験参考書のみだったが、2017年度以降、多読やプレゼンテーション等様々な語学学習のための資料に枠組みを広げて提供している。

農学分館においては、学生寮に居住する留学生向けに日本文化紹介図書などを配置する、学生向けの語学学習用資料の購入を進める、といった対応を行っている。

（今後の課題）

今後は、書架の狭隘化や、非来館型サービスの需要の高まりに応えるため、電子ブックも増やしていく必要がある。しかし、現時点では内容が適する電子ブックの刊行数がまだまだ十分ではない。さらに、

図書の刊行が少なくても「外国人学生と日本人学生の共修・自主的な活動を支援する」ため、また大学が目指す方向性に合わせ、利用者が求める情報を工夫して提供していく必要がある。

3.社会・地域への知の還元

(1)資料保存・修復の取組み　　【評語:S】

（前回の状況）

貴重な資料の保存環境整備と修復は大きな課題であったが、本館の改修をきっかけに、2013（平成25）年に狩野文庫及び和漢古典資料を本館1号館地下2階から本館2号館4階へ移動、2014（平成26）年に貴重書庫を改修し、改善を図った。このことにより水漏れや湿気のリスクは少なくなったが、本館2号館4階は元々通常資料用の書庫であるため、温度管理や紫外線対策、虫害対策などの改善が必要であった。また、本館2号館1階の準貴重書庫はカビが発生しやすいため、こちらについても環境改善が必要であった。資料修復については外部にも資金を求めていた。

（現在の状況、評語に至った理由）

今期は、①貴重な資料を扱う専門の係を設置して体制を整え、②その係において保存について基本からの見直し及び実施、③準貴重書庫の改修、そして④継続的な修復資金の確保を行った。

①については、貴重書係を設置、同係の係員を必要な研修へ継続的に派遣して知識の習得に努めた。

②については、資料は従来燻蒸してから書庫へ配架していたが、資料への薬品の影響は否定できないため、IPM（総合的有害生物管理）の指針に従ったクリーニングと虫害調査をかけ合わせた予防的な方法への切り替えを試みている。室内も遮光カーテンを設置したり、ロボット掃除機を導入するなど環境の改善に努めた。また、従来貸し出しも可能としていた和漢古典資料について、全面的に館外貸し出ししない（館内閲覧のみ）という運用変更を行った。さらに一般書庫にあった古典に属する資料の別置を行った。

③については、前回に課題となっていた準貴重書庫の改修を2017（平成29）年度に実施した。

④については、2017年度は、漱石文庫和書5点を朝日新聞文化財団と東日本鉄道財団の助成により修復、2018年度は、漱石文庫ほか洋書5点を朝日新聞文化財団の助成により修復、2019年度には武内文庫の帙52点を田嶋記念大学図書館振興財団の助成により作製、2021年度には国宝『史記』の修理改装を館内経費により実施した。

（今後の課題）

2021年2月、2022年3月と、2年続けて震度5以上の地震があり、2号館4階は資料の落下被害が大きかった。職員の手でできる対策は考えうる限り行い、また、大学に予算を求めて傾斜棚を導入するなどしたが、完全な防止は難しいという結論に至っている。いかに被害を小さくとどめるかということに対策の方向性を変更して方法を模索しているところである。

（2）クラウドファンディングの実施　　【評語：S】

（前回の状況）

附属図書館で所蔵する貴重な資料の劣化対策が喫緊の課題となっている中、外部の助成金に応募し、その採択金額の範囲で修復を行ってきた。

（現在の状況、評語に至った理由）

当館の貴重資料の中でも酸性紙劣化の進行がもっとも危惧されるコレクションである漱石文庫について、2019年度から2020年度にかけて、クラウドファンディング事業「漱石の肉筆を後世へ！漱石文庫デジタルアーカイブプロジェクト」により資金を調達し、電子化、画像公開を行った。これにより、所蔵資料を知ってほしい一方で貴重であるため実物を見てもらうことは非常に難しいというジレンマが、漱石文庫については解消されたといえる。また、対象が著名な「漱石」の資料であったため、新聞で取り上げられるなど社会への周知効果も高かった。

本プロジェクトは、本学が公式に実施した、また、当館にとっても初めてのクラウドファンディング事業であったが、当初目標としていた200万円を大きく上回る約468万円の寄附をいただくことができた。なお、本プロジェクトをきっかけに、これまで申請が必要であった当館所蔵資料の複製物の二次利用に関して、申請なしで自由に利用できるよう、2022年度に規則を改正した。

（今後の課題）

クラウドファンディング事業は資金調達として有用であることは分かったが、業務負担が大きいため、現状の環境（職員数や働き方改革など）下で再度行うには体制の見直し等が必要である。しかしながら、資料の保存・修復に関する資金は必要であるため、資金獲得の選択肢としては排除せずに検討を行いたい。

（3）展示会・講演会の実施　　【評語：A】

（前回の状況）

1998年度から継続している、本館が所蔵するコレクションを生かした本格的な企画展を引き続き毎年開催した。特に、2007年度に東北大学創立100周年を迎えたため、その記念展示として、江戸東京博物館や仙台市博物館を会場に、大規模な企画展を行った。このほか、本館内の展示スペースを利用して常設展や学生サークルの展示を行い、学修目的以外でも来館してもらえるよう積極的に情報を発信した。

（現在の状況）

企画展は館や係を超えて組織されたワーキンググループにおいて継続実施している。2017年度は夏目漱石生誕150年記念展、2018年度は西洋古典を特集した展示、2019年度は『種の起源』初版本を中心とした展示を行った。また、展示と連動した講演会も開催し、一般市民に大学の学術資源を知って

もらうよう努めた。しかし、2020年度は、コロナ禍により企画展はいったん中断し、2021年度は歴史的典籍NW事業の成果（第1部 概要編［1.2（5）貴重資料の電子化］参照）である貴重資料の画像を使ったオンライン展示により、小規模ではあるが復活した。2022年度は当館の蔵書印をテーマに小規模のリアル展示とそのオンライン版を作成し、ハイブリッドでの展示を行った。

なお、主として学内者向けにはなるが、各館で随時、時事テーマの資料展示、新入生向け、オープンキャンパス来場者向けといった展示も、小規模ながらも工夫を凝らし、継続的に行っている。

また、狩野文庫の電子化に関連して、前述（第1部 概要編［1.2（5）貴重資料の電子化］参照）にあるように、ロバート キャンベル氏を招いてのシンポジウムを開催した。

（評語に至った理由）

所蔵資料を活用し、継続的に企画展示を行っている。コロナ禍に対応した企画展示も行った。また、各館においても展示をサービス業務の中に組み込み、継続的に実施するようになった。

（今後の課題）

新型コロナウイルス感染症への警戒を経て、現在、ウィズコロナの環境の下、人の活動の仕方の変化も踏まえて、アウトリーチ活動については再度組み立て直す必要がある。また、現物の展示は資料に与える負荷が大きく、保存との両立が課題となっている。

展示を継続的に行うためには、資料に関する知識や展示スキルの獲得が重要である。今までは一部担当者にとどまっていた知識を、できるだけ多くの職員に対して知識・スキルの共有が継続的に行えるようにする必要がある。また、展示はやりがいがある反面、業務負荷が大きい。今後の定員削減も考慮し、実施体制についても再検討が必要である。

（4）広報の強化　【評語：S】

（前回の状況）

多様なコレクションを活用した展示会開催にあわせて、図書館のオリジナルグッズ作成・販売を実施し大学ブランドの認知向上に貢献するとともに、2011年にはTwitter、2016年にはFacebookのアカウントを開設しSNS上での広報活動を開始した。

（現在の状況、評語に至った理由）

2018年にInstagram、2020年にはYouTubeチャンネルを開設し、さらなる広報手段の充実を図った。TwitterやInstagramでは、定期的な更新体制を確立しつつ、時勢に合わせた様々なキャンペーンや企画を実施して多様な情報発信を行い、そのフォロワー数はいずれも国内の大学図書館の中では一二を争う規模に達している。また、図書館ウェブサイトも2021年から2022年にかけてリニューアルを行い、モバイルデバイスも含めたシームレスな閲覧環境と、SSL化対応によるセキュリティ対策及びSEO（Search Engine Optimization：検索エンジン最適化）の効果向上を実現した。なお、2021

年2月と2022年3月の地震時には、被害状況や対応状況を積極的に発信し、結果として「図書館のみらい基金」への寄附など各方面から多くの支援を得ることにつながった。

また、2022年は、本学創立115周年・総合大学100周年という記念すべき年であった。当館も創立111周年であったため、本学の周年事業に参画し、様々な方法で当館の魅力を伝えた。

まず6月に、職員にデザインを募って記念ロゴを作成し、各種の広報物やSNSで活用した。9月には、地元企業と当館のコラボレーションにより、漱石文庫にちなんだ羊羹「吾輩は羊羹好な猫である」が発売された。10月には、附属図書館報「木這子（きぼこ）」創立111周年記念特別号（https://www.library.tohoku.ac.jp/about/kiboko/47-2/kbk47-2.html）を刊行した。

▲附属図書館創立111周年記念ロゴ

（今後の課題）

魅力的な発信の継続と伝えるべき人に必要な形で情報を届けることが今後の課題であり、時代の流れや社会のトレンドに応じた適切なSNSツールの検討、AIやメタバースなどの新たな技術も活用しつつ、引き続き様々な形でのPR活動を充実させる必要がある。

（5）高大連携への貢献　【評語：B】

（前回の状況）

全学的行事であるオープンキャンパスに図書館も参加し、本館には例年5,000～6,000名が来訪していた。また、本館に対しスーパーサイエンスハイスクール指定校などから文献探索法に関する講習会依頼が増加した。

（現在の状況、評語に至った理由）

以前は、高校からの講習会依頼が続いていたことから、こうした依頼への対応のため2017年度までに講習会パッケージ化の検討が行われたが完成・実施には至らなかった。今期は、高校からの講習会依頼は2件にとどまっている。

一方、2022年度から高校において、探求型学習に重点を置いた新学習指導要領による授業が行われるにあたり、本館では、仙台第一高等学校からの依頼により、探求型授業への協力に関する覚書を2021年度に取り交わし、この実施の方法について調整を行っているところである。

また、2021・2022年度は宮城県教育庁からの依頼により、高校生ビブリオバトルを共催で実施した。

オープンキャンパスに関しては、引き続き参加していたが、2020年からはコロナ禍のためオープンキャンパスがオンライン開催となったことに伴い（2022年から一部対面が復活）、各館で図書館紹介の動画提供を行った。

（今後の課題）

高校の探求型学習はまだ始まったばかりで、多くの高校で模索中であることから、今後、講習会や、図書館利用などの依頼が増えることも考えられる。これまでは高校側からの依頼への対応という形で行ってきたが、改めて当館における高大連携事業のコンセプトを明確にしたうえで、能動的に関係者へ働きかけ、こうした事業を行っていく必要がある。

（6）他の館種とのコラボレーション　【評語：A】

（前回の状況）

2011年の東日本大震災を受け、被災各地の図書館での震災資料の収集活動を進捗させるために、岩手・宮城・福島の3県の国立大学図書館と県立図書館、仙台市民図書館、神戸大学附属図書館の8館が呼びかけ団体となり、国立国会図書館等の賛同・協力を得て、2012年3月より図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」を展開した。

また、集客力が高く図書館界全体の交流・情報交換の場となっている図書館総合展において、本学を会場とした地域フォーラムを2012年と2016年の2回開催し、様々な館種の図書館にも資するコラボレーション活動を先導した。

（現在の状況、評語に至った理由）

2011年の東日本大震災に関する資料収集等の情報交換の場として、岩手・宮城・福島の大学図書館及び公共図書館、防災に関する研究機関、国立国会図書館等と「東日本大震災アーカイブワークショップ」を毎年開催した。さらに2021年には震災発生から10年の経過を踏まえ、ワークショップ参加の8機関の主催による企画展『10万冊が語りかける東日本大震災』をせんだいメディアテークにて開催し、地域社会へ広く、東日本大震災について知ることの大切さ、震災記録を後世に伝えていくことの大切さ、そこに介在する図書館の役割を伝えた。

（今後の課題）

今後も、東日本大震災の被災地の国立大学図書館として中心的な役割を果たしつつ、様々な課題についても他館種と協力しながら社会・地域へ還元していくことを目標としている。

（7）震災ライブラリーの継続　【評語：S】

（前回の状況）

東日本大震災の記録を後世に伝えることを目的として2012年に震災ライブラリーを設置した。また、前述の通り、「震災資料を図書館に」キャンペーンを開始した。

（現在の状況、評語に至った理由）

被災地の大学図書館として、学術的な資料を主とした充実を図るため、2018年から関連する学術論

文の調査を実施し、「震災ライブラリーオンライン版」への本文登録許諾依頼を開始した。また、オンライン版については、2019年にPRRLA（環太平洋研究図書館連合）が運用する歴史・文化資源アーカイブポータル「Pacific Rim Library」と、2020年には国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」と連携し、国内外に広くそのコンテンツを公開した。なお、「Pacific Rim Library」への災害アーカイブについてのデータ提供機関は、国内からは本学のみである。

また、図書・雑誌については収集を継続しているが、2012年度受入数1,479点に対し、2022年度は336点と、10年間で約5分の1に減少している。これは、震災10年を経て、震災関連資料の出版点数そのものが減少したことによるものである。

（今後の課題）

震災から10年以上の経過による風化、関連資料の減少と相まって、館内での相対的な位置付けも変化し、永続的に資料を継承し利活用するための工夫が必要となっている。

4. 組織・運営

(1)財政基盤の強化　【評語:S】

（前回の状況）

学生用図書、電子ジャーナルなどに関する資料経費、開館時間の延長経費などは、全学的基盤経費を獲得している。これらの事業は、各部局からも一定の額を負担してもらっている。

（現在の状況、評語に至った理由）

前回同様に、運営費交付金以外に全学的基盤経費の措置と各部局の負担により、図書館全体の活動が支えられている。

2018年度（2019年3月）には、東北大学特定基金「図書館のみらい基金」を設置し、2023年3月までに349件・約658万円の寄附を集めた。特に2021年・2022年に相次いだ地震では、短い期間に多くの支援が寄せられた。

2019年度にはクラウドファンディング「漱石の肉筆を後世へ！　漱石文庫デジタルアーカイブプロジェクト」を実施し、200名以上の方々から約468万円の寄附があった。

2022年度には総長裁量経費で「『東北大学総合知デジタルアーカイブ』構築によるオープンサイエンス推進事業」を要求し採択された。この事業は、本学における人文系研究分野の国際拠点形成及びオープンサイエンスへの寄与を目的とし、本学の各部局が所蔵するデジタル化された文化・学術資源を、国際標準に対応した統合的なデジタルアーカイブとして世界に発信及び搭載データを研究活用するためのシステムを構築するものである。

（今後の課題）

学内の理解に基づいた全学的基盤経費の継続確保に努めるとともに、「図書館のみらい基金」への寄附のきっかけとするため、資料の維持・保存や公開に努めていくことが必要である。さらに、他大学の事例などを参考に、多様な財源確保に努めたい。

(2)事務体制の見直し・最適化　【評語:B】

（前回の状況）

農学部が青葉山新キャンパスに移転する機会は、図書館にとっても3館構想実現への機会と考えられていたが、諸般の事情により組織改編及び事務体制の集中化は実施できなかった。引き続き附属図書館の在り方について議論することが期待されていた。

（現在の状況、評語に至った理由）

2018（平成30）年度から本部事務機構を中心とした「事務見直しタスク・フォース」が設置され、図書館も平成30年度第2回附属図書館商議会に「附属図書館の組織合理化と機能高度化のための計画」を提出し承認された。図書系以外の事務に関しては2021（令和3）年10月に総務・会計担当職員が共

通事務センターに集約された。図書系については、本館内のサービス系の担当係を再編（参考調査係と相互利用係をレファレンス係に再編、学習支援係を設置）し、オープンサイエンス推進等の図書館全体の企画を担当する構想で情報企画係を設置した。本館以外では、2019年に経済学研究科図書室及び多元物質科学研究所図書室から常勤職員を本館に集約した。また、北青葉山分館は2係体制から1係に再編した。

このように、いくつかの統合や業務集約は進んだが、附属図書館全体としての組織再編及び事務体制の集中化は道半ばである。

（今後の課題）

大学全体でも事務体制の見直しは進行しており、定員削減の動きも変わっていないことから、将来に渡って全学への図書館サービスが滞りなく継続されるよう、引き続き体制の再構築に取り組んでいく必要がある。また、感染症拡大の時期を経て、図書館の利用状況に変化があったこと、大学業務のDXが急速に進んだことなどを鑑み、将来構想についても適宜見直しを行いつつ取組みを継続することが求められる。

（3）業務システムの改善　　【評語：A】

（前回の状況）

図書館の業務管理と利用者への情報サービス機能を総合的にサポートする図書館情報処理システム（T-LINES）について、全体的な経費削減のため、2015年のT-LINES7への契約更新時にレンタル契約から買取契約へ契約方式の変更を行った。また、サービスの拡充と安定的な予算確保の両立を図るため、引き続き大学が提供する情報環境への移行なども含め、システムや業務の在り方の検討が必要とされた。

（現在の状況、評語に至った理由）

2021年にT-LINES8への契約更新を実施し、ディスプレイやキーボード等の既存物品や大学による配布物品、包括契約によるソフトウェアの提供ライセンスの活用によって、経費削減を実現した。さらに業務システムへのVPN接続機能の導入、全学に導入された「Google Workspace for Education」による種々のサービスの活用、業務手続のペーパーレス化の推進、Zoomの有料アカウント導入による会議のオンライン化によって、コロナ禍においても持続可能な自宅等でのリモートワーク環境を構築できた。

（今後の課題）

情報技術の発展に応じたさらなるシステム改善やサービス拡充のためには、十分な予算確保に努め、改めて必要な機能を精査するとともに、根本的な業務の在り方自体の検討を行う必要がある。

（4）調査研究機能の向上　　【評語：A】

（前回の状況）

学術情報環境の変化や利用者行動の多様化に対応して業務の改善を図るために、教員と図書館職員による調査研究機能の再構築が求められていたことを踏まえ、2009年度に附属図書館に調査研究室を再設置し、室長（副館長）のもと兼任の協力研究員3名を配置した。また、その活動を促進し普及するものとして、2012年3月に「東北大学附属図書館調査研究室年報」（以下、「調査研究室年報」）の創刊号を刊行した。

（現在の状況、評語に至った理由）

協力研究員には、所蔵資料に関する調査研究をはじめ、企画展示への助言や講演、刊行物での資料解説、図書系職員向けの館内研修での講師など、当館の各種活動において協力いただいている。

「調査研究室年報」は、毎年継続的に発行し、2023年3月発行のもので第10号を数える。掲載内容は、協力研究員、図書館職員、またはその共著による、図書館所蔵資料に係る調査研究、展示や学習支援、資料の修復や電子化等の活動報告など多岐にわたる。同年報は、機関リポジトリ（TOUR）にて公開している。

また、2016年度より図書館職員を対象に、調査研究に係る諸経費を助成する「東北大学附属図書館における研究振興プログラム」を開始した。2017～2019年度は、年1～2件が採択され、その成果は同年報で報告されている。

（今後の課題）

「調査研究室年報」を定期的かつ安定的に発行しているとはいえ、寄稿した経験のない図書館職員も多い。また、図書館職員を対象とする研究振興プログラムは、2020～2021年度はコロナ禍により中止し、2022年度は公募したものの応募がなかった。図書館の調査研究機能の強化のためにも、図書館職員が積極的に調査研究に携わり、成果を発表する土壌の醸成が望まれる。

（5）人材育成の充実　　【評語：A】

（前回の状況）

毎年度、少なくとも1名以上の採用に努めてきており、国立大学図書館協会の事業である海外派遣事業への申請をはじめ、大学図書館職員を対象とした全国規模の研修にも職員を計画的に受講させてきた。

（現在の状況、評語に至った理由）

継続して採用活動を行い、各種研修にも計画的に職員を派遣している。

採用においては、変化する大学図書館の役割に合わせ、2020年5月に「図書系採用試験に向けて（館長メッセージ）」をウェブサイトに掲載し、当館が求めている人材像について明らかにした。また、

2021年度には「大学図書館で働きたい人のための業務説明会」をオンラインで開催し、2022年度には当館として初めてインターンシップを実施し、想定の倍の8名を受け入れた。

現職の職員の高度化を図るため、前述の通り2016年度から「東北大学附属図書館における研究振興プログラム」を開始し、資料研究のための調査費等を助成している。

また、国際的な連携のため、2016年度から加入するPRRLA（環太平洋研究図書館連合）において、2017年から3年連続して総会での発表を行った。

さらに、2020年度からは研修や学外での活動の成果等を共有するための「図書館ウェビナー」を企画し、2022年度までの3年間で14回開催した（第2部　詳細編[I.本館4（3）人材育成の充実⑤]参照）。コロナ禍においても、参加者にとっては業務に関する知識を深める機会であるとともに、発表者にとっては自らの知見や体験をわかりやすくまとめ、ウェビナーによるプレゼンテーションスキルを習得することにもつながった。

（今後の課題）

採用に関しては、受験者を増加させるためのさらなる取組みが必要と思われる。2022年度に実施したインターンシップの効果が判明するには数年かかると思われ、毎年の状況を見ながら必要な人材の確保に努めたい。

また、現職の職員については、本学が2022年度に情報や広報等のスペシャリストを育成する構想を打ち出したことを鑑み、専門職群の一つとしての図書系職員の高度化に、より一層取り組んでいく必要がある。

（6）防災対策の強化　　【評語：A】

（前回の状況）

2011年の東日本大震災を契機に、地震時の避難誘導方法等の見直しを図るなど、防災対策の強化と避難誘導の改善を行ってきた。

（現在の状況、評語に至った理由）

本館では、2017年3月に「附属図書館等事業場　防災・業務継続計画（略称：附属図書館等事業場BCP）」を制定し、適宜見直しを行っている。また、川内南地区の4研究科と連携した避難誘導・安否確認訓練等の防災対策を、毎年行っている。

分館の移転や改修に際しては、東日本大震災の被災経験を生かし、避難経路の確保や資料の落下防止策を講じるなどの防災対策を行ってきた。しかし、2021年2月の福島県沖地震では、本・分館ともに、施設の損傷や資料落下等の大きな被害があった。以後、書架の上部や利用頻度の少ない書架にはゴムバンドをかける、傾斜棚の試行、滑り止め付きブックエンドの設置等を施していたが、2022年3月の福島県沖地震においても大きな被害があった。2022年の地震を受けて、「図書館のみらい基金」や

助成金を活用し、より有効と思われる地震対策を随時行っている。

2020年以降は、新型コロナウイルス感染症への対策も求められた。本学の「新型感染症拡大防止のための行動指針（BCP）」を踏まえ、各館において消毒用アルコールや検温センサー、飛沫防止用アクリル板の設置、休館及び開館時間の短縮、エリアの制限など各種の感染症対策を行ってきた。ただし、単に締め付けるのではなく、研究や学習等のアクティビティを継続するためにも、学内の感染症を専門とする教員等の助言も受けながら、順次、できるだけ早期に利用者サービスを再開してきた。これらの対策については、利用者アンケートによれば「おおむね問題がない」との意見が多く、一定の評価が得られている。一方、座席の間引きや開館時間の短縮等の不便さを訴えるものも少なからずあった。なお、2021年3月には、民間企業より空気清浄機60台が寄贈され、各館・室において利用者の安全・安心な学習・研究環境の確保に活用している。

上記の2回の地震被害及び本館における新型コロナウイルス感染症への対応の記録については、ウェブサイト上で公開している（第4部 資料編［21 災害等の対応記録］参照）。

（今後の課題）

これまでも考えうる地震対策は可能な限り講じてきたが、2021年及び2022年の地震被害により、防災対策には終わりがないこと、そしてその重要性をあらためて認識させられた。これからも、できる限りの対策を施すとともに、各種の防災訓練を定期的に実施していく必要がある。

また、今回の新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえて、今後新たな脅威があったとしても、学内の専門家の助言を受けつつ、研究活動や学生の学びを止めないことを念頭に対応することが求められる。

第2部　詳細編

I. 本館

川内南キャンパスにある本館は、約280万冊の所蔵があり、国内でも有数規模の図書館である。狩野文庫、漱石文庫等のコレクションや古文書、国宝2点に代表される貴重資料なども多く所蔵している。また、本学の中央図書館機能のほか、人文系の専門図書館としての側面も担っている。

1972年竣工の1号館は、2012年の改修及び2014年の大幅リニューアルを経て、耐震対策の強化のほか、フレキシブルワークエリアやグローバル学習などの会話可能エリアが設置された。1989年竣工の2号館には、主に製本雑誌と古典資料を配置している。

通常時の開館時間は、平日は8～22時、土日祝日は10～22時となっており、本学学生の学習場所として大いに活用されている。

1. 学術情報整備の促進

1.1 学生用学術情報資源（学生用図書）の整備

(1)学生用図書の財源確保

本館における資料費の財源は、運営費交付金による大学本部から措置される当初配分大学運営資金、同じく教育・学生支援部より措置される教育基盤経費及び川内地区各研究科から措置される部局間共通費である。そのほか、「学生用図書整備事業」実施のため「全学的基盤経費」（中央経費の枠組みの一つで、学内の基盤的な環境整備のための予算として間接経費から一定額が確保されているもの）が措置されている。経常予算は効率化係数によるマイナス分を含め年々減少しており、2016（平成28）年外部評価時（約3,530万円）と比較し、2022（令和4）年度は約2,993万円で537万円の予算減となっている。

また、2012（平成24）年度から、教育・学生支援部より措置されていた留学生施策充実経費のうち、留学生向け図書購入費として配分されていた予算は、2019（令和元）年度以降措置されていない。

(2)学生用図書の選書

①選書方針

2017（平成29）年度に収書基準の大幅な改定を行った。従来は学生用図書の収集方針のみであったが、複数の収書に関する基準類を同時に見直し、本館としての収書基準を体系的に整備した。また、一覧性を考慮し、収集対象外資料と収集レベルを別表にまとめた。特に収集対象外資料は具体例をあげ、選書担当者が判断しやすく、その判断に差が生じないようにした。選書基準別表については、利用対象者や資料の性質等より分類し、収集レベルの優先度をS、A～Dで示した。

また、電子ブックの需要増加に応えた選書を行うため、2020（令和2）年度には電子ブックに対応し

た基準を別表に追加した。

②選書体制

本館における通常の選書体制は、組織改編による職名の変更はあるものの、2016年外部評価時以降からの変更はない。図書館職員による選書の内容を、教員で構成される本館学生用図書選書委員会が確認することで、教員の意見が反映される仕組みとなっているが、継続的な図書館業務従事者の減少により、本来従事すべき業務とのバランス、選書の質の維持が困難になりつつある。

また、学内のDXに伴い、2021年度以降は寄贈等の特殊な選書を除き、Googleドライブを活用した決裁方法に移行した。

(3)学生選書の取組み

学生のニーズに即した資料を収集できるよう、購入する図書や雑誌の選定に学生の意見を反映する機会を設けている。

まず、学生用雑誌は、毎年学生へアンケート調査を行った上で購入／中止タイトルを決定している。アンケート調査の方法として、従来の掲示によるシール貼付方式に加え、2021年度からはGoogleフォームも用いている。

学生用図書については、図書館に備える図書を学生が直接書店で選ぶ学生選書企画を、2009(平成21)年度から2018(平成30)年度まで実施していた。2017年度以降は、授業やゼミとの連携を図りつつ学生目線を取り入れた選書を行うことを目指し、研究室単位で実施した。2017(平成29)年度は生命科学研究科と文学研究科の2研究室、2018(平成30)年度は経済学研究科の研究室と「東北大学サイエンスエンジェル(2022年4月、「東北大学サイエンスアンバサダー」に名称変更)」の参加があり、理系・文系双方のバランスがとれた選書内容となった。参加した学生からは、「実際に書店で選ぶことで新しい本も見つけることができて楽しかった」、「思っていた以上に図書館では多様な本を扱っていることがわかった」等のコメントがあった。2019(令和元)年度以降は学生選書企画の実施を休止しているが、学生からの購入リクエストはMyLibrary機能により常時受け付けている。

(4)電子ブックの充実

本館では、継続的に電子ブックの購入を進めている。特に、2019年度に大学の方針として示されたBYODの推進やオンライン授業への対応、2020年度以降の新型コロナウイルス感染症対策としても積極的に購入している。

電子ブックは、来館せずともオンラインで、学内はもちろん学外からも学認やVPN接続を使って利用することができ、また、しおり添付や書き込みができる機能があるなど、冊子に比べて利便性が高い。さ

らに書架を専有することがないという利点がある。

特に2020年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、臨時休館を余儀なくされたことやオンライン授業が実施されたことを受け、前年度の2倍近い数の電子ブックを整備した。これにより、電子ブック全体のアクセス数も増加しているが、休館時は冊子体の貸出・閲覧が困難であったため、電子ブックの周知を強化したことが利用の増加へつながっていったものと思われる。

しかし、電子ブックは冊子体に比べて利便性が高い一方、価格が高額であり、今後も継続的に整備していくためには財源の確保が必要である。また、必要な資料が必ずしも出版当初から電子ブックで提供されているとは限らず、冊子体を購入した後に電子ブックが刊行されることも多い。書店・出版社等に対しては、学生のニーズが高いと思われる資料の電子化をリクエストするなどの働きかけを行っている。

表2-1 学生用図書整備予算による電子ブックの整備冊数

2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
96	159	232	553	871	788

1.2 基盤的学術情報(電子ジャーナル等)と研究環境の整備

(1)電子ジャーナルの財源確保

電子ジャーナル・データベース等の価格高騰は、従前と変わらず本学の学術情報の整備において重大な問題となっており、全学及び人文・理工・生命系部局で費用を分担している共同購入の契約額は、2017年に約6億7,900万円、2022年には約8億300万円に達している。大学の重要な基盤である学術情報を安定的に供給するため、図書館から大学当局へ共通的経費による負担について働きかけを行ってきた結果、経費の半額程度について、2008～2009年は総長裁量経費、2010年からは全学的基盤経費が措置されることになったのは前回報告書の通りである。その後も契約額の上昇に伴い、値上げ分等の増額が措置され、2021年は所要額の約半額である約3億5,900万円の配分を受けている。

全学的基盤経費については、全学的な予算計画の見直しのため、2022年以降分は配分額を当面据え置く方針が財務部より示されている。しかし、2022年については、為替レートの影響分として約2,200万円増の約3億8,100万円が認められ、方針が通知された当初に懸念された部局の負担増は抑制することが可能となった。

2021～2022年契約分は、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、複数の出版社が価格上昇率を0%とする特別措置を実施したこともあり、契約額の上昇は比較的抑制されていた。しかし、2023年契約分については、為替レートが大幅な円安傾向となり、世界的なインフレに起因した価格高騰が見込まれ、負担増は予断を許さない状況にある。次項でふれる転換契約といった手段で学内予算を活用す

る方法も検討しながら、引き続き財源の確保に努める必要がある。

なお、各部局の負担額については、前回評価で予定として記載したとおり、2016年以降、学術情報整備検討委員会（以下、「整備委員会」）から部局長連絡会議に検討の場を移して審議されることとなり、近年は部局の予算規模と教員数を基礎とした算出方法で了承を得ている。

（2）電子ジャーナルの選定

学術情報の選定を担う学術情報整備検討委員会では、「東北大学学術情報整備計画」に明記されている「大学として必要不可欠な資料を厳選する」という大方針の下で毎年実施する選定調査の結果を元に、購読内容の見直しを行い、電子ジャーナル・データベース等の継続可否を審議している。2020年度には、部局負担額を抑制するためパッケージ解体を選択肢の一つとして審議を試みるも、過去のElsevier社やSpringer Nature社、Wiley社等のパッケージの見直しの経験から、「解体し個別タイトルを選定し直すことは、多種多様な研究分野で構成される本学において現実的に非常に困難」という見解が委員の大勢を占めた。そこで、大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）参加機関向け契約モデルを基本としつつ、適宜出版社と交渉を行い、価格上昇を抑制できる複数年契約を採用するなど、学術情報整備全体の予算のバランスを考慮しながら、最適な購読モデルを選択している。しかしながら、経費節減への対応には苦慮している。

一方、論文著者がオープンアクセス出版する場合に支払う論文掲載料（APC）も大学全体で急増していることが、2018年から行っている財務会計システムより抽出した支払実績データの集計結果で明らかになり、学術情報に対する購読料と出版料の二重払いという問題が顕在化した。

この状況を受けて、学内者に現状理解を促し問題意識を共有するため、2019年に「学術雑誌の動向に関するセミナー」（全6回）を各キャンパスで、2021～2022年には「ジャーナル問題に関するセミナー」（全3回）をオンラインで開催した。これらのセミナーについては、附属図書館ウェブサイト内に「ジャーナル問題を考える」と称した特設サイトを設け、セミナーの動画や資料を掲載して、学内外の動向に関する情報提供を行っている。

2021年、本学は、東京工業大学、総合研究大学院大学、東京理科大学の3大学とともに、従来の購読料にAPC（Article Processing Charge）を含めた転換契約に関する交渉をWiley社と行い、国内初となる実効的な転換契約モデルを引き出し、2022年1月に覚書を締結、2022年4月よりパイロットプロジェクトを開始した（期間は2024年末まで）。これにより、本学においては、Wiley社のハイブリッドジャーナルに投稿した論文のOA出版率が大幅に増加した（2023年以降はフルゴールドOAジャーナルも対象に加わる予定である）。また、2022年には、本学を含む10大学がSpringer Nature社と交渉を行い、2023年1月から3年間の転換契約プロジェクトを実施することとなり、例年の投稿本数の半数以上をオープンアクセス出版することが可能となった。

これらは、科学技術・学術審議会情報委員会ジャーナル問題検討部会が2021年2月に公表した「我が国の学術情報流通における課題への対応について（審議まとめ）」において、大学等研究機関に要請する具体的取組みとして挙げられている「各自の最適な契約形態等を定めた上で、同程度の規模や契約状況等の大学等研究機関を契約主体としてグループ化し、交渉主体を明確にする取組みの検討を開始すること」に対応した成果の一つと言える。

本学では、このプロジェクトによりオープンアクセス出版した著者から「OA出版分担金」と称してAPC定価の半額相当分を附属図書館に費用振替する仕組みを設け、それらを翌年度の購読費に充当することとした。このことにより、本プロジェクトは、本学の研究発信力の強化、論文の被引用数拡大に寄与するだけでなく、学内予算を効果的に還流させ、購読費の抑制につながる結果をもたらす見込みである。

（3）蔵書目録データベースの整備

本館では、川内キャンパス各部局、北青葉山分館管理部局、流体科学研究所、多元物質科学研究所の図書資料の目録業務を担当している。このうち、多元物質科学研究所分は2019年10月から、北青葉山分館管理部局分は2021年5月から、図書館管理系業務の集約により、本館に業務移行された。

本館で新規受入を行った資料は、原則としてNACSIS-CAT及び蔵書データベースに登録し、蔵書検索システム（OPAC）等でインターネットを通じて、学内外からの検索を可能としている。2017年から2022年のNACSIS-CAT新規書誌作成件数は、遡及入力を含め、年間約3,500件である。

蔵書データベースには、冊子体資料のほか電子ブックの登録も行っており、2017年度から2022年度にかけて、本館において電子ブック約4,100件の登録を行った。

課題としては、前回評価と同様、特殊言語資料について十分な体制が確保できていないこと、また、目録に関する知識継承が経験の長い非常勤職員に負うところが大きくなる一方、目録業務担当経験がある常勤職員が減少しつつあることなどから、質の高い目録業務の継続性に懸念が出てきていることが挙げられる。

（4）教育・研究成果等の発信

附属図書館では、大学の研究・教育成果等を効率的に収集・保存・発信するため、2006年より「東北大学機関リポジトリ（TOUR）」を運用している。

以前は、リポジトリ用のサーバを館内に設置し独自に運用していたが、運用管理コストやメタデータの連携等に課題があったため、2017年3月末に、国立情報学研究所（NII）が提供するリポジトリシステムJAIRO Cloudへのシステムリプレースを実施した。

JAIRO Cloudは、2012年度より運用が開始されたクラウド型の機関リポジトリ環境提供サービスで

あり、ソフトウェアにNII開発のWEKOを採用している。2016年よりオープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）とNIIとの共同運営となっており、これによって自機関でのサーバ維持管理が不要となったため、担当者の作業負担が軽減された。また、参加機関の多いシステムを利用することで、共通化されたマニュアルを用いての安定的な運用が可能となり、運用コストを削減することができた。さらにJAIRO Cloudは、学術機関リポジトリデータベース（IRDB）を通じたデータハーベスト機能を備えており、国立国会図書館とのデータ連携による博士論文データの自動提出、CiNii Dissertationsへのデータ連携による発見・参照機会の向上という効果ももたらしている。

また、2018年には本学のオープンアクセス方針が策定された。この方針に則り、2020年度まで、本学構成員執筆の学術雑誌論文の積極的な収集及び登録を実施した。2021年度からはジャパンリンクセンター（JaLC）の準会員となって一部刊行物へのDOIの付与も開始しており、本学の研究成果の永続的なアクセス環境の保持にも努めている。

これらの作業によりTOURは、本学の研究者・学生が執筆した学術論文や学位論文のほか、本学で刊行している紀要論文を中心として登録コンテンツが年々増加しており、2023年3月末時点で81,091件のデータ数となっている。

特に、ここ数年は文系部局の刊行物の登録が顕著であり、該当部局の費用負担のない有用な公開プラットフォームとして利用価値を高めている。また、学位規則や学内規程により所属機関における機関リポジトリでの博士論文の公開が義務づけられたことを受けて、分館との業務分担による安定的な登録体制を確立し、本学の博士論文の公開プラットフォームとしての役割も継続して果たしている。

一方で、今後の課題として、オープンサイエンスを背景とした研究データ公開プラットフォームへの対応が挙げられる。これは2021年に本学の研究データ管理・公開ポリシーが策定されたことによる。国立情報学研究所の機関リポジトリシステムJAIRO Cloudは、2020年に研究データの公開に対応した新システムへのリプレースが予定されていたが、当初の計画から大幅に遅れが生じていた。一部先行した機関はあるが、本学のTOURは、2023年度中のシステムリプレースを目指している。また、2022年6月から2023年3月まで、当館の担当職員がJPCOARの次期JAIRO Cloud移行タスクフォースメンバーとして参画して情報収集と移行に向けてのサポートを行った。

また、部局によってはTOURの認知度が低いこと、特に理系部局に対するプレゼンスの向上も課題である。学術雑誌論文の登録には、コンテンツのバージョン及びOAポリシーの確認が必要であり、研究者・図書館双方の大きな負担や手間が障壁として存在しているが、その改善とさらにその先にある研究データ公開によるオープンサイエンスの実現には、部局を超えた連携や協力体制が求められている。

(5)貴重資料の電子化

当館は、江戸時代以前の和漢古典資料を中心に、およそ20万冊から30万冊に上る貴重資料を保存している。近年、これらを種々の方法で電子化し積極的に発信することで、学内はもとより国内外の日本文化研究を支援している。奇しくも、新型コロナウイルス感染症の拡大による世界的な影響下で、電子画像のような遠隔で活用できる研究資源のインフラ整備がより重要性を増す中、当館はその期待に応える実績を着実に積み重ねている。

①日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画(略称:歴史的典籍NW事業)

本学は、国文学研究資料館が中心となる歴史的典籍NW事業に、国内に20ある拠点大学の一つとして参加している。本事業は、文部科学省の大規模学術フロンティア促進事業に採択されており、事業期間は2014(平成26)年から2023(令和5)年までの10年間となっている。本学は2015(平成27)年に参加を決定し、その後正式に2017(平成29)年度に総長名で協定を締結した。国外の協力機関も多く、いくつかある事業の柱の一つが、全国の諸機関が所蔵する日本の古典資料の電子化である。

歴史的典籍NW事業では30万点の資料を電子化し、国書データベースで公開することを目標としている。本学は実績値で約25,000点の画像を提供済みであり、同事業を通して国内外への日本文化発信に積極的に貢献しているところである。

本事業では原本をデジタル撮影するほか、既存画像の収集やフィルムから電子画像へのコンバートも手掛けている。本学もデジタル撮影にとどまらず、和算関係資料およそ9,000点の既存画像を同事業へ提供し、狩野文庫マイクロフィルムからのコンバートや同事業からレンタルしたオーバーヘッドスキャナを使用した内製撮影まで、いくつもの方法を組み合わせて効率的に電子化を進めている。

2016(平成28)年に本学で資料撮影を開始すると、2017(平成29)年には、館内で電子化計画の共有や資料選定を部署横断的に行う体制が必要との認識が生じ、歴史的典籍電子化事業推進WGを設置した。本WGは、同事業に関する検討組織であるばかりでなく、以降に述べる方法も含めた当館における資料電子化計画を立案し、公開・発信プラットフォームの開発に至るまで幅広い議論を行っている。なお、当館で最も重要なコレクションの一つである狩野文庫については、電子化公開を記念して2020年12月にシンポジウム「江戸に学び、江戸に遊ぶ」をオンラインで開催し、国文学研究資料館長(当時)であるロバート キャンベル氏を招き、講演会とパネルディスカッションを実施した。

②その他

2019(令和元)年度、漱石文庫の自筆資料を電子化する資金を得るため、クラウドファンディングを活用し一般の方に広く寄付を募った。結果は当初の目標額を大きく上回り、自筆資料全点の他、漱石の書き込みが残る図書1点についても全ページの電子化を行うことができた。画像は2020(令和2)年度

に公開済みとなっている。

また同じく2019年度、中国の山東大学が主宰する「グローバル漢籍共有プロジェクト」(全球汉籍合璧工程)と協力協定を結ぶ動きがあった。本プロジェクトは山東大学が各国の漢籍所蔵館に参加を呼びかけ行っているもので、当該所蔵館の漢籍の目録編纂を主とし、一部電子化を行うというものであった。

同年7月に山東大学側の訪問を受け、11月に覚書を交わす手続きに入ったところで、新型コロナウイルス感染症の拡大が影響し中断している。ただこの間、遠隔のやりとりにより、山東大学が指定する当館の漢籍資料を一部同事業の経費により電子化済みである。

2020年度からは、国文学研究資料館の科研費により、歴史的典籍NW事業とは別に狩野文庫のデジタル撮影による電子化を行っている。

資料の電子化には、前述の事例のように、これまで学外に資金を求めることが多かったが、2021(令和3)年度、館内経費により貴重図書『倉持文書』1点をデジタル撮影により電子化した。本資料は古文書のため「歴史的典籍NW事業」の対象外となっており、かつ劣化が進行していることから、これまでにも修復助成に応募しているがいずれも不採択であり、修復前に現状の形状を研究材料として記録保存しておくことが急がれるものであった。また、2022年度には、本学特定基金の一つである「図書館のみらい基金」のうち、漱石文庫に対していただいた寄附金の一部をデジタル撮影にあて、6点を電子化した。

このような館内経費による電子化の場合、学外との連携事業に比べて予算の規模が必ずしも大きくなく、実施できる点数が限られる。その一方、対象資料の選定に制約が設けられることはなく、自館の希望を優先することができるため、外部資金では電子化しにくい貴重資料を補完する重要な機会となる。今後も「図書館のみらい基金」を活用しながら、こうした補填的な電子化を継続していくことを考えている。

表2-2 電子化実績(2016～2022年度)

年度	事業	対象	方法	点数	コマ数
2016(平成28)	歴史的典籍NW事業	一般古典137点	業者撮影	137	14,497
合計				137	14,497
2017(平成29)	歴史的典籍NW事業	準貴重図書(狩野)1点 一般古典240点	業者撮影	241	31,738
合計				241	31,738
2018(平成30)	歴史的典籍NW事業	貴重図書2点 準貴重図書(狩野)230点 一般古典30点	業者撮影	262	13,755
合計				262	13,755
2019(令和元)	歴史的典籍NW事業	一般古典517点 医学分館資料68点	業者撮影	585	81,734
		準貴重図書(狩野 第7, 8, 10門)	MF変換	4,123	276,510
合計				4,708	358,244

2020(令和2)	歴史的典籍NW事業	貴重図書	業者撮影	211	18,132
		一般古典	内製(館内)	147	11,907
		準貴重図書(狩野 第1, 6, 9門)	MF変換	4,102	412,999
	国文研科研費	準貴重図書(狩野 大判・彩色等)	業者撮影	11	440
	クラウドファンディング	貴重図書(漱石 自筆資料)	業者撮影	792	7,480
		貴重図書(漱石 蔵書)	業者撮影	1	140
	グローバル漢籍共有プロジェクト	漢籍(貴重図書・準貴重図書・一般古典)	業者撮影	55	7,792
合計				5,319	458,890
2021(令和3)	歴史的典籍NW事業	貴重図書	業者撮影	481	56,809
		一般古典	内製(館内)	186	15,034
		一般古典	内製(貸出)	329	22,098
		準貴重図書(狩野 第2, 5門)	MF変換	5,103	413,694
	国文研科研費	準貴重図書(狩野 彩色・特別本他)	業者撮影	47	2,104
	館内経費	貴重図書	業者撮影	1	36
合計				6,147	509,775
2022(令和4)	歴史的典籍NW事業	貴重図書、一般古典	業者撮影	300	45,316
		一般古典	内製(館内)	162	23,782
		準貴重図書(狩野 第3門)	MF変換	1,673	278,480
	国文研科研費	準貴重図書(狩野 彩色等)	業者撮影	45	3,096
	図書館のみらい基金	貴重図書(漱石 蔵書)	業者撮影	6	1,144
	(通常業務内)	貴重図書(漱石 蔵書)	MF変換	114	33,833
合計				2,300	385,651
総計				19,114	1,772,550

2. 学習環境の整備

2.1 図書館施設・設備

(1)施設・設備の修繕

本館では2013～2014年度の1号館の改修工事以降は大きな改修等は行っていない。ただし今期は2回の大きな地震があり、その修理・修繕に追われた。2021年2月13日に起こった福島県沖地震により、空調設備機械の故障や2号館の漏水に係る調査・修繕など、2021年度前半には応急的な工事が必要になった。また、2021年度後半は内壁クラックの補修など災害復旧予算措置に伴う全学的な工事契約による修繕があったが、工事が完了して間もない2022年3月16日に再度福島県沖地震に見舞われた。これも空調設備機械等の応急的な修繕は完了しているが、内壁や天井のクラックなど2年続いた大きな地震でダメージがさらに大きくなり、2023年3月現在も一部立ち入りを制限している区域がある。復旧工事は2023年度に行われることになっているが、利用者の安全確保が急がれる。

また、2号館は竣工後30年以上経過したが、この間改修等は行われていない。東日本大震災をはじ

めとする大地震を何度も経ており、今期の地震でも施設・設備に大きな被害があった。災害復旧による修繕とともに、建物自体の改修を計画する時期に来ている。

（2）書庫の狭隘化への対応

2017年度から、青葉山新キャンパス内農学分館の共用書庫の運用が開始された。この共用書庫の収容能力は50万冊と見積もられており、主として各館における書架狭隘化の対応のため利用頻度の低くなった資料等の保存書庫として使用している。

本館からは、運用開始初年度である2017年度に約4万冊を共用書庫に移動した。対象資料は、ラーニングコモンズの設置に伴って整理した索引誌等の古いレファレンスブック、片平地区の旧研究所や旧工業専門学校の資料などである。20世紀初めの我が国の産業の発展期を支えた貴重な資料も含まれる旧研究所・旧工業専門学校の資料は、2010年度の整理作業後、梱包されたままであったので、共用書庫に移動することによって、利用が可能になった。共用書庫へ資料群を移動したことによって、本館1号館書庫の狭隘化は、大幅に改善された。

以上のように本館1号館書庫の狭隘化は大幅に改善したものの、製本雑誌を配置している本館2号館の狭隘化解消はなお課題として残っている。文系が使用する論文誌が主であるため単純に共用書庫へ移動することが難しい。また、たとえ共用書庫へ移動したとしても、継続刊行される製本雑誌を収蔵し続け、また、教員の退職に伴う大量の返却や寄贈への対応を続ければ、早晩共用書庫も限界に達する。

ネット上で見ることのできる論文誌も相当増えてきているため、今後は、冊子体として将来何を残すべきかという観点から収蔵方針あるいは除却方針を改めて策定し運用していく必要があるだろう。

（3）ラーニングコモンズの活用

本館のラーニングコモンズは、2012年10月にオープンした。その後、改修工事を経て、2014年秋に現在のスタイルとなった。1階メインフロアのフレキシブルワークエリア80席、南側2階のグローバル学習室約80席の2か所は座席移動可能なオープンスペース、また、座席は固定であるがグループ学習や各種活動利用が可能なスペースとして、メインフロアの5つのボックス席及び、備え付けパソコンのあるエリアという構成になっている。

大変活発な利用があり、新型コロナウイルス感染症の流行前までは、各エリアでそれぞれ毎日1件はイベントが行われているような状況であった。申込時の利用目的を分類すると、サークル活動、学生主催の就職活動関連イベント、授業、留学生関連イベントなど、多様な使われ方をしていたことがわかる。

コロナ禍により、上記のエリアは、2020（令和2）年度以降1人利用の座席にレイアウト変更をして運用をしてきた。社会状況や大学の感染症対策方針に沿って、ボックス席及びフレキシブルワークエリアにおいてようやくグループ利用を一部再開できたのは2022年11月末である。しかし、2020年度以降の

個人学習が定着しているためか、2022年度末時点ではあまりグループ利用は進んでいない状況である。

現時点での実際の利用状況とは反対に、今回の利用者アンケートでは、グループ利用再開についての意見が多く寄せられた。グループ利用の潜在的需要があること、また学生にとって欠かせないことがうかがわれた。 社会的状況等を考慮しながら、再び、多様な活動が実施される図書館に戻れるよう調整を図りたい。

(4)グループ学習室の利用状況

本館には、グループ学習室が大小合わせて4室設置されている。ラーニングコモンズ同様、こちらも2019年度までは盛んにグループ学習等に利用されていたが、2020年度以降はコロナ禍により、換気がよいとは言えない環境のため、1人利用の部屋として運用している。2017～2019年度には、年間4,000件近い利用があり、様々な制限が厳しかったコロナ禍初年の2020年度は約500件と非常に利用が少なくなったが、2021年度は約2,700件、2022年度は約4,000件と、利用の形態は変わっても、よく利用されている。

申請時の利用目的を分析したところ、2017～2019年度は、6割はグループ学習を目的とした利用で、そのほかサークル活動、就職活動や面接練習など、複数人で行われる活動にも利用されていた。1人利用となった2020年度以降では、オンラインでグループ学習や授業に参加する場所として、また、就職活動の面接をオンラインで受ける場所として使用するという申請が目立つ。そのほか、自習での利用申請が1割弱あり、これには、オンライン授業の視聴も含むと思われる。コロナ禍により1人利用となったので利用目的の変化は当然ではあるが、1人利用の需要があるということがよくわかる。

1人で静かな場所でオンライン発信しなければならない活動は、確実に定着し、今後減少することはないように思われる。グループ活動を行う場所、コロナ禍前にはほとんど見られなかった、個人がオンライン発信をする場所、従来通り静かに勉強する場所、という場の棲み分けをより一層意識した展開をする必要がある。

2.2 図書館サービス機能

(1)開館時間延長のための経費確保

本館では、平日・土日祝日ともに22時までの開館を実現している。また、平日8時からの早朝開館も実施し、授業開始(8時50分)前の図書館サービスを行っている。コロナ禍により2020・2021年度は開館時間を縮小したが、2022年7月より本来の開館時間に戻している。

平日延長及び早朝と土日祝日の開館経費は、全学的基盤経費と各部局の負担により維持されている。このうち各部局の負担額は、その半分を本館が所在する川内地区の学部・大学院の在学者数、もう半

分を全学部の学部1～2年生の在学者数の割合により算定されている。これは、本館が主に川内地区の文系部局向けの専門資料・サービスと、学部1～2年生の利用する基礎的な資料・サービスを提供することによるものである。

(2)開館時間とサービス

2020年4月8日に「緊急時における東北大学行動指針」(BCP)がレベル3に引き上げられたことに伴い、附属図書館本館・分館、部局図書室はすべて、2020年4月13日から全面休館(室)となった。医療従事者支援のために文献複写・学外借用業務を継続した医学分館以外、全面閉館を余儀なくされた。

そのような状況下でも、本館では、自宅等から利用できる電子資料の案内、5月20日からの郵送貸出の開始など、できる限りサービスの提供を行った。利用者アンケートでも、この件について、「役に立った」という回答が複数寄せられた。なお、郵送貸出は、2021年度からは、コロナ禍とは関係なく遠隔地キャンパス所属者への貸出サービスとしても実施している。このことは、コロナ禍以前からの懸案であったが、これを機会に解決することができた。

6月22日からは、全館で限定的ではあるが開館を再開した。当初、本館では、資料を予約してもらい、その資料を貸し出すことから再開したが(入館・滞在不可)、7月からは座席を間引きしたうえで入館利用も再開した。対面授業が一部再開された2020年10月には、開館時間の延長、1日1人限定でのグループ学習室・研究個室の利用を再開している。2021年1月の試験期には、土日・祝日の開館を再開した。

2021年度は、開館時間は変更せず、各種講習会やオンラインイベントの開催など、できる形でのサービス再開を模索した。

このように、新型コロナウイルス感染症、及び、社会的状況の変化に合わせて、利用の範囲を順次拡大し、2022年7月1日より、開館時間を2019年以前の、通常の時間に戻した。2023年3月現在、一部座席の間引き、限定的な個室の利用、学外者の入館利用規制(予約不要・利用証所持者も全員受付手続き)を除いて、ほぼ従前どおりのサービスとなっている。

利用者アンケートでは、コロナ禍で開館時間が短くなったこと、座席数が間引きによって少なくなったことについて意見が多く寄せられ、改めて、場としての図書館の役割について考える機会となった。

(3)学生の利用状況

本館は、蔵書には研究書が多いものの、近年は特に、学内に自席をもたない学部生を基本的なターゲットとして資料及び館内の整備を行ってきた。

①入館者数

2014年10月のリニューアル開館以降、学生の入館者数は、2016年度にピークとなり、約62万人と

なった。以降、徐々に減少しつつも、コロナ禍前の2019年度は約52万人の入館があった。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策により、2か月ほどの休館や開館時間の短縮、オンライン授業への切り替えによる登校学生の減少により、入館者数は、2019年度の4分の1ほどの13万人となった。対面授業が再開され、図書館の開館時間も少しずつ延長し始めた2021年度は、2019年度比5割の約27万人、対面授業が基本となった2022年度は開館時間を7月からコロナ禍前の時間に戻したが、 2019年度比約6割の約34万人にとどまった。コロナ禍前に戻るには、大学全体の活動や社会状況が通常に近くなってからになると思われるが、オンライン授業がどのくらいあるのか、また、オンライン上の情報で授業外学修をする行動がどの程度定着しているかによるだろう。

②貸出冊数

学生の貸出冊数は、2017年度が約20万冊とピークで、総貸出冊数の9割弱であった。以降漸減していたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症対策のために約9万冊と激減した。2021・2022年度は新型コロナウイルス感染症対策の緩和もあり約12万冊まで回復した。

本館の学生の貸出で最も特徴的だったのは、英語多読用テキストの貸出である。2009（平成21）年度の初年次に対する多読授業の開始に伴いテキストの整備が行われ、授業数の増加とともに貸出冊数も増加し、学生の貸出の5分の1はこれらのテキストが占めていた。これは授業に対応した図書館資料収集の好例といえる。しかし、授業方針の変更により2020年度に授業が終了すると、コロナ禍とはいえ2021年度は4,000冊ほどしか貸出されなくなった。もし、コロナ禍以前のように学生の登校が回復したとしても、この英語多読用テキストの貸出は非常に少ないことが予想されるため、学生の貸出冊数そのものも従前どおりにはならないと考えている。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けてオンライン授業が展開されたため、教員自身が教材をオンラインで提供することをはじめ、学生が課外学習する際も調べ物や資料収集・読み込みをオンラインで完結することが定着しつつあり、学修のスタイルは大きく変化した。対面授業が再開されてもオンライン授業が完全になくなるわけではなく、この変化もおそらく コロナ禍以前に戻ることはないと思われる。今後は、学生の行動の変化に対応した電子ブックなどのオンラインコンテンツの拡充・利用促進の働きかけとともに、授業方針の転換は致し方ないこととしても、所蔵している良質な図書が無駄にならないよう、現物の利用についての働きかけも、より一層重要になると考えられる。

③読書促進の働きかけ

読書への働きかけの一つとして、本館では、書架や館内のスペースを利用し、ミニ展示を行っている。テーマは、新入生向けなどの定型のものから、時事的なもの、季節を反映したものなど、特に限定することなく様々に設定している。また、企画は職員だけではなく、留学生コンシェルジュや学生カウンターアル

バイトにも担当してもらっている。普段は特に感想を収集していないが、2022年11月に実施した利用者アンケート（第3部参照） では、「自分では出会えなかった面白そうな本を知ることができ」、「本館エントランスの展示やテーマを絞った本の展示など毎回面白いものがあり、とても楽しませてもらっています。」など、好意的な意見が寄せられ、効果があることを感じられた。この活動については、国立大学図書館協会が2022年度に行った「ビジョン2025」の重点領域2「知の創出：新たな知を紡ぐ＜場＞の提供」に係る取組み事例の募集へ「資料と利用者を繋ぐミニ展示の試み」として応募した。

（4）情報利用環境の整備

学生の学習を支援する機器は、随時購入または更新を行っている。具体的には、2013年度に調達し、2014年度より運用を行ってきたメインフロアの利用者用デスクトップ型パソコンが挙げられる。これらは、経年による不具合事例の発生ならびに古くなったOSの更新対応が必要とされていたが、その一方で2020年度からの全学教育におけるBYOD推進によって、自身のモバイルデバイスを持ち込んで利用する学生の増加が見込まれていた。以上のことを踏まえ、2019年度に利用者用デスクトップ型パソコンを31台へ縮小しつつ、コンセントを整備して学生が自身のパソコンで自由に学習できるスペースを拡張した。そして、2020年1月には31台すべての端末をWindows10に刷新し、モバイルデバイスを持ち込まない学生もストレスなく情報資源の利用ができるよう環境を整備した。ほどなくしてコロナ禍に見舞われ、一時的に撤去せざるを得なかったが、2021年9月に当該端末を再設置し、運用を再開させた。また、プロキシサーバによる認証、環境復元ソフトの導入により改変防止等の対策を講じながら定期的なアップデートを実施することでセキュリティに配慮しており、利用者への電子リソース参照環境やオンラインでの学習環境を確保している。

ネットワークの接続環境については、以前から館内のほとんどの閲覧スペースでキャンパスWi-Fiサービス（eduroam）によるネットワーク接続が可能であったが、アクセスポイントの機器は2010年に設置されたものであり、接続環境の改善が課題であった。その早期解決を図るべく予算要求して2019年度に1号館を中心に館内アクセスポイントの増設を含む機器更新を行い、館内のネットワーク接続環境を大幅に改善することができた。その後も、2020年度に2号館4階エリア、2021年度に1階事務室エリア、地下書庫エリアにもアクセスポイントの更新・増設を行い、館内の様々な場所で切れ目なく情報資源を活用できるよう環境を整備した。

しかしながら、情報環境は日々技術革新が進んでおり、仮想空間での資料公開や拡張現実を使った案内表示など今後新しい情報機器を活用した図書館サービスの多様化も想定される。また、コロナ禍でのオンライン学習環境の普及もあって館内の無線LAN使用量が大幅に増加し、現状の設備でもスポットによる接続不具合などの意見が寄せられるため、Wi-Fi 6Eなどの次世代通信規格の導入を図り、館内のあらゆる場所での安定的かつ快適なネットワーク接続環境の整備が引き続き課題である。

(5)初年次学生向け科目への参画

初年次学生向けの授業「大学生のレポート作成入門」は、主に教員で構成する学習支援委員会と、本・分館等の図書館職員で構成する学習支援実施部会との連携の下、授業名や内容、事務体制などを少しずつバージョンアップしながら、2004(平成16)年度から毎年開講している。理系・文系の複数の教員によるオムニバス形式の講義の中で、学生が、研究の入り口として、文献検索スキルや図書館の役割や資料の活用について理解を深めつつレポート作成の技術を学ぶものである。図書館職員は授業担当教員との内容調整や事務手続きに加えて、授業のうち文系・理系の文献探索を学ぶ2コマを担当し、情報検索や資料活用の具体的な手法について教えてきた。毎年40名前後の履修者があり、授業評価もおおむね高かった。2020年度には、長年積み重ねてきた授業運営技術と、学生の満足度の高さなどが評価され、優れたアカデミックスキルの実践教育として本学の全学教育貢献賞を受賞した。

表 2-3 2019 年度「大学生のレポート作成入門」シラバス

(科目名)大学生のレポート作成入門:図書館を活用したスタディスキル	
(題目)図書館及び学術情報データベース等を活用した情報探索・レポート作成法及びプレゼンテーションの技法 (目的と概要)当科目は, 大学における学修で必要となる「1. レポート作成法」「2. 情報探索及び図書館の活用法」「3. プレゼンテーション技法」の三つの力を, 講義と実習を通して学ぶものである. 講義は各分野の専門家が担当し, 実習は附属図書館職員が補助する. この科目を履修することで, 高校時代には学ぶことが無かった, 学術的な文献や情報を調べるための基礎的な知識・技能と, 学術的なレポートを作成するための基本的な知識・技能といった, 大学生にとって必須の力を身に着けることができる. また, 大学図書館の活用方法や研究者の研究活動を知ることで, これからの学生生活に有用な知見を得ることができる.	
第 1 回	ガイダンス, 文献リスト作成要領説明, レディネス調査
第 2 回	レポート作成法
第 3 回	序論の書き方
第 4 回	本論の書き方
第 5 回	自然科学における論文作成の実際
第 6 回	自然科学における文献検索と引用
第 7 回	人文社会科学における論文作成の実際
第 8 回	人文社会科学における文献検索と引用
第 9 回	文献リスト提出, アウトライン作成
第 10 回	アウトライン確認, 初稿作成要領
第 11 回	レポート文章術
第 12 回	定稿等作成要領, プレゼンテーション術
第 13 回	レポートの発表 A

第 14 回	レポートの発表 B
第 15 回	定稿返却, 講評, 振り返り調査,　授業評価

2020～2021年度の新型コロナウイルス感染症の流行下においては、本学のほかの多くの科目と同様、オンライン（オンデマンド含む）、対面、ハイブリッドなど様々な形式を取り入れながら授業を継続したが、2020年の履修者は18名、2021年は15名と減少した。

2022年度は、本学において全学教育科目のリニューアルが実施され、初年次学生のための必修授業「学問論」が高度教養教育・学生支援機構主導の下に新設された。「学問論」では、初歩的なライティング指導も行われることを踏まえ、本授業を担当する館内の学習支援委員会において検討し、「大学生のレポート作成入門」でもいくつか変更をおこなった。まずは名称について「中級アカデミック・ライティング」とし、内容についても、レベルの上方修正を行った。開講時期については、「学問論」履修後の連続的な受講を想定し、後期開講としたところ、履修者は8名と大幅減となった。全体のカリキュラム変更の影響が大きいと思われるが、今後、要因分析を行い、授業内容等の再検討をすることにしている。

表2-4　2022年度「中級アカデミック・ライティング」シラバス

（科目名）中級アカデミック・ライティング	
（題目）現代的課題に関する文献講読とレポート作成 （目的と概要）本授業科目では, 前期開講の「学問論」で学んだパラグラフ・ライティングと引用に関する知識・技能を前提に, 学生自身が選択したテーマについて文献に基づく 3 論構成のレポートを作成します. 授業の前半で, 受講生はテーマを選び深めるための文献講読に並行して, 文理双方の学術論文の実際に触れ, 図書館やインターネットを活用した文献探索の技術を身につけます. 後半は, 自分で選定したテーマに関して, 序論・本論・結論を備えたレポートを作成します. この授業では担当者の 4 名がそれぞれ, 学生のレポートに対し採点・コメントし, 修正期間を経たのちに再評価するなどきめ細かな指導を行うため, 履修登録者の上限は 20 名程度とします. 学部・学年を問わず, アカデミック・ライティングの力を高めたい学生諸君の挑戦を期待しています.	
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	ガイダンス
第 3 回	人文社会科学における文献探索と研究論文
第 4 回	人文社会科学における文献探索と研究論文
第 5 回	自然科学における文献探索と研究論文
第 6 回	自然科学における文献探索と研究論文
第 7 回	アウトライン
第 8 回	アウトライン
第 9 回	レポートの書き方
第 10 回	レポートの書き方

第 11 回	レポートの書き方
第 12 回	引用
第 13 回	初稿発表, 相互コメント
第 14 回	初稿発表, 相互コメント
第 15 回	定稿フィードバック

また、前述の初年次学生必修授業「学問論」へ図書館も一部参画し、①指定教材『東北大学レポート指南書』(第3版)の執筆参加及び、②動画教材の提供を行った。

①に関しては、旧版から図書館が執筆に参加しており(第3章文献の収集)、毎年全ての新入学生に配布されている。最新の第3版については、「学問論」の指定教材というコンセプトの下で、全面的な改訂が施された。②に関しては、もともと対面形式で行っていた自由参加型の情報探索講習会「情報探索のススメ」シリーズ(「学術情報の集め方」「図書の探し方」「雑誌論文の探し方」「新聞記事の探し方」)等をコロナ禍対応のため動画化し、授業時間外に視聴するための課題として提供した。従来からの課題であった「より多くの新入生に対して図書館の利用方法を伝える」ことについては、ここで一つの到達点に達したと言える。

(6)本館での情報リテラシー教育

教員や学生からの依頼を元に、講習内容を組み立てた上で実施するオーダーメイド講習会は、授業の一コマを充て、その分野で使うデータベースの説明や館内ツアーを行うケースが多い。対面で行うことが基本であるが、2020年の新型コロナウイルス感染症の流行に際しては、状況に応じてオンラインのリアルタイム配信や、これをきっかけに作成した動画教材のオンデマンド視聴機会の提供、会場での動画教材上映などで対応を行った。

動画教材の作成にあたっては、まずは従来から対面で行っていた講習会「情報探索のススメ」等の内容をベースに、2020年5月には、それぞれ20分程度の長さのものを作成し、その後に実施された授業等で活用した(「学術情報の探し方」「図書の探し方」「雑誌論文の探し方」「新聞記事の探し方」「参考文献の書き方と引用の仕方」)。その他、2～3分で見ることができる簡易な留学生用YouTube動画のシリーズ(「図書の探し方」「雑誌論文の探し方」「MyLibraryの使い方」)も作成し、配信を開始した。

表2-5 本館情報リテラシー教育に関連するYouTube動画

(東北大学附属図書館チャンネル、2017-2022)

	タイトル	公開日	備考
1	東北大学附属図書館本館へようこそ！(2023.4)	2023/3/23	
2	使ってみよう！MyLibrary(2023年版)	2023/3/8	

3	大隅典子附属図書館長インタビュー「読書について、図書館について」	2022/7/19	「学問論」AA学生作成
4	使ってみよう！MyLIbrary（2022年版）	2022/3/10	公開終了
5	東北大学附属図書館本館へようこそ！（2022.4）	2022/3/7	公開終了
6	Wiley英国王立人類学協会アーカイブオンライン説明会（2021.6）	2021/6/15	
7	図書館長から新任教員・新入生のみなさんへ：附属図書館のご紹介	2021/4/5	
8	東北大学附属図書館漱石文庫	2021/4/1	
9	東北大学附属図書館本館へようこそ！（2021年版）	2021/3/26	公開終了
10	使ってみよう！MyLibrary（2021年版）	2021/3/24	公開終了

新入生・新入留学生シーズンの春と秋には、例年ガイダンス＆ツアーを行っている。これは、入学したばかりの学生に、当館の歴史や概要、利用方法を説明した後、館内を案内するものである。日本語のほか、後述する留学生コンシェルジュにより、英語や中国語でも実施している。

留学生向けの図書館案内は、グローバルラーニングセンター（以下GLC）との協働の中でも実施している。GLCが新入留学生向けに行うイベントWelcome Weekでは、留学生が日本での生活をスムーズに送れるように、様々なトピック（ゴミの出し方、交通ルール、部活動など）で講習会を行っている。そのトピックの一つとして、留学生コンシェルジュによるガイダンス＆ツアーを実施している。このイベントにおいても、一時はオンラインのみでの実施であったが、2022（令和4）年秋からは対面実施に戻った。

（7）全学的な情報リテラシー教育の展開

各学部の修学内容に応じた情報リテラシー教育は、各学部や研究科に対応する本分館でそれぞれ実施しているが、学部に関わらず全新入生に共通する部分については、全館体制のワーキンググループ（学習支援実施部会）を通じて展開している。

2017年から2020年にかけて、すべての新入生に図書館に関する必要な情報を届けることを目的として、全新入生に「図書館スターターパック」を配布した。これは、本分館情報、図書館利用方法、新入生向け館内イベントなどを掲載した複数のチラシを用意し、一つのパッケージに収めたものである。当初、パッケージ素材は、柔らかな透明プラスチック製のジッパー付ケースだったが、2019年からはオリジナルデザインのクリアファイルになった。

スターターパックと同内容の情報を集めた新入生向けWebサイト「新入生のみなさまへ（https://www.library.tohoku.ac.jp/support/newstudent.html）」も同時に開設した。コロナ禍でのWebサービス需要の高まりや、ペーパーレス及びプラスチックスマート化の流れを受けて、現在はこのWebサイトのみに情報を集約している。なお、東北大学全体の新入生特設サイト（https://www.tohoku.ac.jp/japanese/entrance/2023/document.html）にURLを掲載して、新入生へ情報提供している。

コロナ禍で初めて迎えた2020年度には、多くの講義がオンラインで実施となり、それに伴い、コンピューターソフトウェアの違法コピー、レポートのいわゆる「コピペ」など、著作権や研究倫理についての問題意識を喚起する動画教材の需要が高まっていた。そのような状況の中、本部事務より要請を受けて、教育学生支援部や高度教養教育・学生支援機構の教員とともに、動画教材「これはあかんやつ！」及び確認テスト「カエル君からの相談」（いずれも日本語版、英語版あり）を作成した。これは同年度末に、本学教育・学生支援部教務課のYouTubeチャンネルで学生向けに限定公開された。

2.3 国際化対応

(1)留学生向けサービス

2012（平成24）年度に始まった「留学生コンシェルジュサービス」は、留学生課からの予算措置を受けて、現在も引き続き専用デスクを運用している。デスクでは、4～7月及び10～1月の平日12～16時（ただし新学期の4月と10月は10時開始）に、留学生コンシェルジュが、英語、日本語、そして、それぞれの母語を用い、図書館の利用方法や資料探しについてのサポートにあたっている。2022（令和4）年12月現在のスタッフ10名の国籍は、イタリア、イラン、インドネシア、北マケドニア、中国、ブラジル、ミャンマーである。

また、デスク以外の活動として、母国にある出身大学の図書館紹介やブックレビュー、図書館での出来事を題材とした創作漫画、イベント報告などを掲載した英文ニューズレター発行（月1回。2023年3月までに33回発行済み）や、利用者と本との出会いを演出することを目的に自由なテーマの下で実施するミニ展示、翻訳作業（利用案内や館内サインの見直しと多言語化）、2018年以来、毎年恒例となったSDGs啓発のための展示、そして、学生同士の交流を目的として不定期に開催するイベント「グローバルセッション」を行っている。 2015（平成27）年から始まった「グローバルセッション」は、仙台での生活に慣れるための実用的な情報について語るイベント「Vivi Sendai!」や、日本語や日本文化に親しむイベント「Manga Day!」「やさしい日本語の本を読もう！」など、2023年3月までに16回開催している。

近年はSNSでの情報発信に力を入れており、英語や中国語を用いて、2016年からはTwitter（@TUL_Global）で重要なお知らせをツイートしているほか、2017年からは図書館利用説明の短い動画をYouTubeチャンネル「Intl Student Concierge Tohoku University Library」で配信している。

表2-6 グローバルセッション実施記録

回次	年度	タイトル
第1回	2015	安くて簡単！おいしい！家計も安心！大学生・留学生のための自炊講座
第2回	2015	「すみません」って、お礼の言葉？

第3回	2015	Let’s Write a New Year’s Card！
第4回	2016	みんなで選ぶ！東北大図書館のおすすめ本を英語で紹介！
第5回	2016	World’s Flour Recipes: easy + low cost = Happy！
第6回	2017	ダイナミック･インディア
第7回	2017	YOU！どこへ留学したい？
第8回	2017	Vivi Sendai！ - Let’s enjoy your life in Sendai！ -
第9回	2017	カズオ･イシグロの作品及び日本との関わりについて
第10回	2018	Bibliobattle worldcup！
第11回	2018	Vivi Sendai！ - Let’s enjoy your life in Sendai！ -
第12回	2018	やさしい日本語の本を読もう！
第13回	2019	Vivi Sendai！ - Let’s enjoy your life in Sendai！ -
第14回	2019	Vivi Sendai！ - Let’s enjoy your life in Sendai！ @Aobayama -
第15回	2019	Manga Day！
第16回	2022	Vivi Sendai! - Let’s enjoy your life in Sendai! -

表2-7　YouTubeチャンネル「Intl Student Concierge Tohoku University Library」配信動画一覧

	タイトル	公開日	備考
1	Welcome to Tohoku University Library（2023年版）	2023/3/2	
2	如何在东北大学图书馆内快速查找书籍？（図書の探し方 2022年中国語vers.）	2022/12/2	
3	如何在东北大学图书馆内查找杂志（雑誌論文の探し方 2022年中国語vers.）	2022/12/2	
4	如何使用MyLibrary（MyLibraryの使い方 2022年中国語vers.）	2022/12/2	
5	How to find books（2022年版）	2022/10/3	
6	How to find journals（2022年版）	2022/10/3	
7	How to use ”MyLibrary”（2022年版）	2022/10/3	
8	Introduction of the International Student Concierge members	2022/7/19	
9	Welcome to Tohoku University Library 2022	2022/3/10	公開終了
10	如何在东北大学图书馆内快速查找书籍？（図書の探し方 2021年中国語vers.）	2021/4/8	公開終了
11	如何在东北大学图书馆内查找杂志（雑誌論文の探し方 2021年中国語vers.）	2021/4/8	公開終了
12	如何使用MyLibrary（MyLibraryの使い方 2021年中国語vers.）	2021/4/8	公開終了
13	International Student Concierge × SDGs	2021/2/3	
14	Welcome to New Normal Library 2021.01（2021年版。コロナ禍での新ルール紹介）	2021/1/13	公開終了
15	How to use ”My Library” / Tohoku University Library（2020年版）	2020/11/5	公開終了
16	How to find journals in Tohoku University Library（2020年版）	2020/11/5	公開終了
17	Welcome to Tohoku University Library in Autumn 2020.	2020/8/24	公開終了
18	Welcome to New Normal Library（2020年。コロナ禍での新ルール紹介）	2020/8/11	公開終了

19	How to find books in Tohoku University Library（2020年版）	2020/7/28	公開終了
20	International Students Concierge PV（留学生コンシェルジュメンバー紹介）	2019/12/4	公開終了
21	Viva Library Season 2 Episode 01 ”How to use printer and copy machine”	2019/10/31	
22	Tohoku University Main Library PV［New Ver.］東北大学附属図書館本館プロモーションビデオ	2019/7/11	
23	The Goods of the Library - Viva Library Weekly	2018/12/26	
24	Meet the Concierges - Viva Library Weekly（留学生コンシェルジュメンバー紹介）	2018/12/10	公開終了
25	Let`s Study For The JLPT! - Viva Library Weekly	2018/11/6	
26	Tohoku University Main Library PV -part1- Books and Contents	2018/9/5	
27	Tohoku University Main Library PV-part2- Rare Books and Ukiyo-e	2018/9/5	
28	Europarade! - Viva Library Weekly（展示紹介）	2018/7/26	
29	Manga in the Library - Viva Library Weekly Ep.07	2018/6/11	
30	The Global Learning Room - Viva Library Weekly Ep.06	2018/1/16	
31	The history of Kawauchi Campus - Viva Library Weekly（展示紹介）	2017/11/13	
32	In the Stack Room - Viva Library Weekly Ep.05	2017/9/16	
33	From International Center Station to the Library - Viva Library Weekly Ep.04	2017/9/5	
34	Concierges pres.（留学生コンシェルジュメンバー紹介）	2017/9/4	公開終了
35	Renting a Laptop - Viva Library Weekly Ep.02	2017/8/18	
36	From Kawauchi Station to the Library - Viva Library Weekly Ep.03	2017/8/18	
37	Science & Technology of EU - Viva Library Weekly	2017/7/11	
38	Enter the Library - Viva Library Weekly Ep.01	2017/6/30	
39	Welcome to Viva Library Weekly	2017/6/15	
40	Tohoku University Main Library PV 東北大学附属図書館本館プロモーションビデオ	2017/3/7	

（2）図書の充実

「東北大学附属図書館本館収書基準」では、グローバル学習室の資料は、以下の4つに分類して収集している。すなわち、「（A）海外留学に関係する資料」（各国情報や留学情報など）、「（B）国際的な人材育成に役立つ図書」（異文化コミュニケーション・海外文化・ダイバーシティ関係資料、国際活動関係の資料、日本文化に関する多言語の入門書や概説書、海外新聞・雑誌など）、「（C）留学生が日本語・日本文化を学ぶための資料」（日本語学習書、日本語・日本文化を学ぶための読み物など）、「（D）日本人学生が各国語・各国文化を学ぶための資料」（各国語学学習書、各国語・文化を学ぶための読み物など）である。現在は、年間50万円ほどの予算で、継続的に整備をしている。

これまでの特筆すべき資料整備としては、前回の評価期間と重複するが、「（D）日本人学生が各国語・各国文化を学ぶための資料」について、2015（平成27）年度～2017（平成29）年度に、高度教養教育・学生支援機構言語・文化教育センターの「語学学習に向けた多読多聴教材の整備」により、グロー

バル学習室に語学学習用図書を受け入れたことがあげられる。言語は英語のほか、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語など多岐にわたる。

この事業とは別に2009（平成21）年度より英語多読学習用資料の整備を行っていたが、上記事業と合わせ、語学学習資料がある程度整備されたことから、高度教養教育・学生支援機構の事業終了に伴い、現在は集中的な整備から通常の整備に移行した。

2023（令和5）年3月現在のグローバル学習室の配架冊数は25,817冊で、その他1,809冊の電子ブックが利用可能である。また、雑誌14誌及び新聞6紙を継続的に受入中である。

その他、グローバル学習室では、学生が図書と出会う機会が増えることを目的として、様々なテーマの下、常時ミニ展示を実施している。展示は留学生コンシェルジュによる企画が多く、例として著名な作家の特集や、映画化された原作を集めたもの、旅や料理をテーマにしたものなどを行っている。

今後は書架の狭隘化や、非来館型サービスの需要の高まりに応える形で、電子ブックも徐々に増やしていきたいところだが、グローバル学習室の収書基準に沿った電子ブックの刊行数がまだまだ十分ではないという問題がある。

3. 社会・地域への知の還元

（1）貴重資料保存・修復の取組み

①組織と人材育成

前回の期間に行った資料保存対策をより組織的に推進すべく、それまで管轄する係が分かれていた貴重図書、準貴重図書及び古典資料（以下、貴重図書等という）を一元的に管理する専門部署として、2016年度、閲覧第二係を改組し、貴重書係を新設した。このとき閲覧第二係の人員3名のうち、1名を閲覧第一係に移し、ほか2名を貴重書係に配置した。閲覧第二係は製本雑誌及び貴重資料等を管理していたが、この機にカウンターを1階から4階に移し、貴重図書等のみを担当することにした。閲覧第一係は係名称を閲覧係に変更し、2号館配置の製本雑誌も管理を担当することになった。

2017年度には、保存の専門知識のある職員を育成するため、一橋大学社会科学古典資料センターが文部科学省共通政策課題「文化的・学術的な資料等の保存等」の支援を受けて実施する「西洋古典資料の保存に関する拠点及びネットワーク形成事業」（2016～2018年度）に参加した。本事業では、全国9機関から派遣される実務研修生の一人として、貴重書係から職員1名を6週間の研修プログラムに従事させた。同年度末には、修理業者を講師とした『和綴じ・糊貼り講座』を職員向け研修として実施した。

2018年度、前年度の実務研修生の派遣事業成果を東北地区で共有することを目的に、当館を会場に、東北地区西洋古典資料保存講習会を開催した（主催：東北大学附属図書館、一橋大学社会科学古典資料センター、一橋大学附属図書館、協力：東北地区大学図書館協議会（研修部会））。一橋大学から

3名、本学からは貴重書係長及び総合博物館教員1名の計5名が講師を務めた。貴重書係長が担当したプログラムにおいては、保存に関する取組み事例を発表し、開催中であった西洋古典資料に関する企画展見学を織り込むなど、国内有数のコレクションを所蔵する大学として拠点的な役割を果たした。参加者は東北地区の9大学から43名にのぼった。

②保存施設

2017年度に準貴重書庫の改修を行い、温湿度管理が可能となった。その後、準貴重書庫と古典書庫の虫害対策を強化し、入庫時には土足を禁じスリッパへ履き替えるなど、他機関の状況を参考に運用の見直しを行った。あわせて、フェロモントラップを活用した虫害調査や、人体及び資料への薬剤の影響を抑制するIPM(総合的有害生物管理)の方針に従った環境対策など、時代の趨勢に合わせ、より科学的な知見にもとづいた保存技術の導入につとめた。2021年度より行っている虫害調査では、準貴重書庫及び古典書庫において、資料に有害なシバンムシの捕獲は今のところないという結果を得ている。

③資料の修復

2017年度、朝日新聞文化財団及び東日本鉄道文化財団の助成により漱石文庫和書5点を修復、2018年度、漱石文庫ほか洋書5点を朝日新聞文化財団の助成により修復を行った。2019年度には武内文庫の帙52点を田嶋記念大学図書館振興財団の助成により作製した。2021年度、国宝『史記』の修理改装を館内経費により実施した。

④貴重図書等の指定

貴重資料の運用について、2017年度、過去に大型コレクションとして購入したプロテスタント資料154冊を、準貴重図書に指定した。2018年度、過去に第二特殊文庫として1号館の地下書庫で一般書に混配されていたミュンスターベルク文庫約800点を再集約し、準貴重図書に指定した。2019年度、寄贈受け入れを完了した熱海文庫206点(297冊)を、和算関係資料の一部として準貴重図書に指定した。2021年度、やはり第二特殊文庫として1号館地下書庫の一般書に混配されていたシュマルゾー文庫1,073冊を再集約し、準貴重図書に指定した。これら準貴重図書に指定した資料は、熱海文庫は古典書庫へ、他は準貴重書庫へ別置した。その他の個別資料についても、随時、貴重図書もしくは準貴重図書に指定を行い、2017～2022年度で貴重書は4件、準貴重書は10件(うち5件は資料群)が指定された。

⑤運用の改正

2021年度、一般書と同様に閲覧・貸出が行われ、保存上の懸案となっていた16世紀～18世紀の洋

書の保護のため、貴重図書等委員会及び古典資料等修復保存小委員会での議論と意見交換を経て、新たに西洋古典区分を設けた。同区分は1850年以前を基準とし、該当する資料約5,000冊を準貴重書庫へ別置することが承認された。

現在、地下書庫の該当資料を準貴重書庫へ移動作業中である。同書庫へ外部の資料を移す際に従来必須としていた燻蒸処理は、多額の費用を要するうえに近年は人体や資料への残留薬剤の悪影響が懸念されていることから、今回はこれを行わず、IPM の指針に従ったクリーニングと虫害調査をかけ合わせた予防的な方法への切り替えを試みている。効果が確認されれば、今後の保存コストの削減と、健康や安全により配慮した運用が可能となるものと期待される。

さらに、貴重図書等の散逸の防止と、本取組みの効果的な実施のため、古典資料の館外貸し出しを今後は行わない運用に2023年3月13日付で改正した。

⑥書庫の地震対策

2021年2月13日に発生した福島県沖地震により、最大震度5強の揺れを受け、貴重書庫及び古典書庫の資料に、それぞれ414冊、約4万冊という大きな落下被害が生じた。かつて2011（平成23）年の東日本大震災を経験し、いずれの書架にも天つなぎや床へのボルト固定、落下防止バーなど、標準的な対策を実施していたにも関わらず、耐震対策としてはなお十分ではないことが認められた。

この被害を受け、2021年度中に、「図書館のみらい基金」により貴重書庫に棚はめ込み式保存箱を設置し、古典書庫には傾斜棚及びビニール紐を設置するなど応急措置を実施した。しかしながら、続く2022年3月16日の福島県沖地震では再び同規模の揺れを受け、貴重書庫120冊、古典書庫5万冊という甚大な被害の再発を免れなかった。

以上を反省材料とし、落下原因の分析とさらなる対策を計画中である。

（2）クラウドファンディングの実施

2019年度から2020年度にかけて、クラウドファンディング事業「漱石の肉筆を後世へ！　漱石文庫デジタルアーカイブプロジェクト」により資金を調達し、漱石文庫の電子化を行い、その画像を、当館ウェブサイトにおいて公開した。漱石文庫は当館の目玉資料であるとともに、酸性紙劣化の進行がもっとも危惧されるコレクションである。原本保護と利用拡大を両立するため、1990年代には仙台市との協力事業により全点マイクロフィルム化が行われた。2000（平成12）年度には自筆資料が全点電子化され、すでに当館ウェブサイトで公開もされている。

しかしながら、マイクロフィルムはモノクロであることや、当時電子化された画像は解像度が低く解読に難があるなど、研究や資料の記録保存の面から深刻な課題も生じていた。この課題の解決のため、近年の撮影技術と情報通信環境の進展を活かした、より高精細な画像の再撮影が待たれていた。

クラウドファンディング事業では、漱石文庫の置かれた実情を広く社会に共有し、後世へ継承することの大切さを訴えた結果、当初目標としていた200万円を大きく上回る約468万円の寄付をいただくことができた。

本事業では、全国の多くの漱石ファンの方から温かい支援とメッセージを得るとともに、新聞やテレビ等で取り上げられるなどコレクションに関する広報効果があることがわかった。支援者とのメッセージのやりとりを通して、普段は大学図書館が接することのない社会との直接的なコミュニケーションによる手応えを感じた。そのなかで、大学図書館に対する保存の取組みへの期待と、当館の所蔵資料が様々なかたちや受けとめ方で、社会に必要とされていることの実感を得た貴重な機会となった。

なお本プロジェクトをきっかけに、これまで申請が必要であった当館所蔵資料の複製物の二次利用に関して、2022年度に申請無しで自由利用できるよう運用規則を改正した。

(3)展示会・講演会の実施

当館が所蔵する貴重資料は、研究対象となる学術資源であると同時に、社会にとって永く未来へ伝えていくべき文化遺産としての側面を有している。所蔵館は、貴重な文化資源を広く一般に公開し、研究成果とともに社会に還元する責務を負っている。貴重資料を活用しつつ保存維持していくためには、そのようにしてこそ得られる一般社会からの理解と支援が欠かせない。

当館はこれまで多様な機会を捉え、学内外に向けて、当館が所蔵する貴重資料の公開発信を行ってきた。今後はさらにノウハウをアップデートし、国際展開を図りながら発信の強化に努めていきたい。

①企画展及び講演会等展示会関連行事の開催

1998(平成10)年度から継続している秋の企画展では、普段は見られない貴重図書等の中から、親しみやすいテーマで選んだ資料を紹介している。

2017年度は、せんだいメディアテークを会場に、仙台文学館との共催による企画展「夏目漱石～その魅力と周辺の人々」を開催した。夏目漱石の生誕150周年を記念した本展示では、漫画家・香日ゆら氏とタイアップし、同時代の人々との関わりから浮かび上がる漱石像を楽しく学べる演出を試みた。ラジオやテレビ、新聞などに多く取り上げられ、12日間の開催期間中に、遠隔地からの来訪も含め3,000人を超える漱石ファンや市民が来場し賑わった。

2018年度には、国内有数の西洋古典コレクションを活かした企画展「西洋古典への扉 The Door into Old and Rare Books」を開催した。インキュナブラ(15世紀の活版印刷本)1点を含む18世紀以前の資料を中心に、書物の歴史を展示でたどる画期的な試みとなった。館内のフレキシブルワークエリアで行った講演会では、せんだいメディアテークが保管する活版印刷機を借用し、地元で活版印刷研究会を立ち上げ活動されている菊地淳氏によるワークショップを開催した。講演者の実演のもと、参加者

が実際に手作業で活版印刷を体験することで仕組みを理解できる貴重な機会となり盛況のうちに終えることができた。

2019年度は、ダーウィンの生誕210周年及び主著『種の起源』の刊行160年という記念の年であることから、企画展「進化×深化」を開催した。本展示の目玉は、当館の創立100周年を記念して、本学の岡本宏名誉教授により寄贈された『種の起源』初版本の公開である。展示内容は、本書の刊行に至るまでの生物誕生に関する世界観の遷移を、近代科学の登場という視点からみたもので、本学創立時の学問の系譜にもつながるものとなった。講演会には、『種の起源』の新訳が話題となったサイエンスライターであり、本学広報室特任教授でもある渡辺政隆氏を講師に迎え、専門的な内容を一般向けにわかりやすく解説していただいた。

企画展では、所蔵資料を紹介するばかりでなく、前述のように市民による文化継承活動や、サイエンスの一般普及を担う関係者との連携・協力を通して、大学の知を社会と共有し拡大する機会となるよう努め、一定の成果を得ている。

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、一時閉館を余儀なくされるとともに、各種イベントの開催が制限されたため未実施となった。

2021年度も同様の状況が続いたことにより、インターネット上でオンライン展示「画像で愉しむ　江戸の食文化」を新たな試みとして実施した。オンライン展示では、国内外から展示サイトを訪問できることや、公開後のコンテンツを常設で残しておけること、限られたページだけでなく全ページ閲覧できるデジタルアーカイブにナビゲートできることなど、現物展示にはない利点も多く感じられた。

2022年度はコロナ禍の規制が緩和されたため、パネル掲示によるリアル展示とオンライン展示のハイブリッドで行った。テーマは、できるだけ集合せずに制作することを考え、本館・分館の所蔵資料に押印されている蔵書印で本学の歴史をたどるものとした。この展示においては、分館を巡回して展示を行ったり、オンライン上で神経衰弱ゲームを行ったりといったことも試みた。

②その他の展示や講座企画

当館では企画展のほか、学内外問わず、高校生から一般市民まで多様なターゲットに向けて、本学の有する貴重資料を紹介することで、大学知の共有と大学ブランドの醸成に寄与している。以下にその一端を例示する。

①本学を目指す高校生向けのオープンキャンパス展示

②新入生を対象とした歓迎展示

③卒業生や学生の保護者など、本学関係者が対象となる萩友会行事の関連展示

④高額寄付者を対象とした返礼展示

⑤外部助成により行った修復の成果展示

⑥本学を会場として開催される学会展示

⑦他機関開催の展示会への出陳

以上の展示において、学術資源研究公開センターや埋蔵文化財調査室など、学内の他組織との共催や、博士課程の大学院生による当該専門知識を生かした文庫紹介展示など、新たな視点を取り入れた試みも行ってきた。また、他機関の展示会への出陳については、過去6年間の対応件数は、2017年度5件、2018年度4件、2019度4件、2020年度2件、2021年度2件、2022年度2件となっている。2020年度と2021年度はコロナ禍にあり、展示イベント自体が全国的に自粛傾向にあった。

展示以外でも、基礎ゼミやアカデミック・ライティングに関する授業連携をはじめ、図書館が募集するオーダーメイド講習会の中で、貴重資料の利活用や文化的側面に光を当てた解説を行っている。原本の紹介ばかりではなく、バックヤード見学や電子化など最新動向の紹介を織り交ぜ、本学ならではの研究環境を最大限活用するための導入となるように、積極的に工夫を凝らしている。

講座企画としては、2017年度、東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門が市民向けに行っている古文書講座を、全4回にわたる「くずし字講座」として、館内の職員向け研修として実施した。このときは職員以外にも学内に募集を拡大したところ、理系の学生も含む分野横断的な参加者を得て、各回とも会場限度となる40名が受講するなど盛況であった。

2019年度は、京都大学から研究者を講師に招き、当館の所蔵するデルゲ版西蔵大蔵経に関するセミナーを実施した。会場では、めったに見ることのできない原本の特別展示を行い、講師によるギャラリートークも行われ好評を得た。

③展示の課題と解決へ向けた取組み

近年、外部会場の利用や展示規模の拡大、開催頻度が増した結果、資料への負荷が増加したり、準備のために職員が大幅に時間を取られたりという状況にもなっている。担当職員が人事異動によって短期間で交代となる中、展示技術の習得と維持が難しくなってきており、資料に関する事故の懸念が高まっている。

この課題の認識のもと、有効な対策として、資料保存技術の確立と、電子化によるオンライン発信の強化に、力を入れ取り組んできた。コロナ禍を挟み、世の中の意識にも変化が生じている。ニューノーマル下では、リアルイベントとオンラインイベントの住み分けもしくはコラボレーションの道が探られ、ビジネスの場面ではリモートワークやそれに必要なDX環境の推進が叫ばれている。今後、当館が目指すべきサービスモデルの中に、リアル展示、オンライン公開、資料保存の三つの要素を適切に配し、それぞれのメリットを生かした展開を図っていく必要がある。

(4)広報の強化

図書館では、2011年に公式Twitterアカウント(@hagi_no_suke)を開設したことに端を発し、広報ツールとしてSNSを活用してきた。これまで運用しているツールは、Facebook(2016年開設、2019年閉鎖)、Instagram(@tohoku_univ_lib:2018年開設)、YouTubeチャンネル(東北大学附属図書館:2020年開設)である。

特に、Twitterは速報性のある情報発信ツールとして、災害被害による開館状況などの情報発信にも活用されており、2023年3月末現在のフォロワー数は8,388で、国内の大学図書館では2番目の多さである。

また、Instargramについては、当館に対するイメージアップを図った写真や画像を投稿しており、2023年3月末現在のフォロワー数は1,192で国内の大学図書館では1位である。

これらのSNSは、広報委員会の下にSNSワーキンググループ(SNS WG)を設置し全館体制で当番制による投稿を継続しており、各館・室の個性を活かした多様な情報発信を実現し好評を得ている。

また、フォロワーやツイートの一定数到達を記念した企画も実施した。2019年度にはInstagramでの「300フォロワー感謝祭:おしえて推しスポット! 図書館のここが好きキャンペーン」、Twitterでの「10,000ツイート感謝祭:図書館クイズに答えて! キャンペーン」を実施した。また、2020年度の“Go to 図書館”企画「百鬼夜行展」に合わせ、当館所蔵の百鬼夜行の画像を、任天堂のゲーム「あつまれどうぶつの森」内で使用できる画像データに加工作成し、Instagram上で配布公開を行うなど時勢に合わせた多様な企画を実施した。これらの取組みについては、2022年発行の「大学図書館研究」121巻に職員執筆記事が掲載され、SNS活性化の実務的な具体例として広く共有を図った。

図書館ウェブサイトについては、モバイルデバイスも含めたシームレスな閲覧環境に対応するため、2021年2月にトップページを中心にデザインを一新しリニューアルを行った。加えて2022年8月には、セキュリティの強化とSEO(検索エンジン最適化)による効果向上を図り、SSL化を実現した。

そのほか、狩野文庫・漱石文庫などの貴重な資料を題材に図書館オリジナルグッズを製作し、大学生協で販売を行っている。2022年には、仙台に本社のある白松がモナカ本舗とのコラボ商品「吾輩は羊羹好な猫である」を企画・販売し、売上10,000個を達成した。本商品の売り上げの一部は漱石文庫の保存費用に充てられることになっている。

今後も、大学ブランドの向上が目標である。そのためには、伝えるべき人に必要なタイミングで適切な情報を確実に届けることが重要であり、時代の流れや社会のトレンドに応じた適切なSNSツールの検討や、AIを活用した個別対応の自動化・充実化、メタバースによる新たなコミュニティの創生など、新たな技術を活用することで附属図書館の魅力を周知していく。

(5)高大連携への貢献

高大連携については、高校での探求型学習に対し、大学図書館としてどのような貢献が可能か、2017年度までに様々な検討が行われた。授業での投影や、生徒のための個別学習の教材としての利用を想定し、ウェブ上で提供可能な動画教材「図書館の使い方・図書の探し方」「学術論文の探し方」「学術情報の特性」「参考文献の書き方と引用の仕方」「新聞記事の探し方」を作成したが、実際の公開には至らなかった。また、2017年度には、宮城県古川黎明中学校・高等学校にて、教員向けの探求型学習に関する講習会を開催した。

2021年度には宮城県仙台第一高等学校からの依頼により、特定の授業の履修生に対する利用開放に関して、覚書の取り交わしと運用マニュアルの整備を行った。具体的には、いわゆる探求型学習形式の授業科目「みやぎ文学研究」及び「学術研究」の履修生が、必要に応じて当館を訪問し、資料の貸出を受けること、また、要望に応じて当館職員が履修生に対して利用指導を行うことを想定している。

全国の高校生を対象としたオープンキャンパスは、2019年度までは対面で実施していた。来館者数は、2016年度は7,565人、2017年度は7,758人、2018年度は7,731人、2019年度は5,675人だった。2020年度以降は、コロナ禍のため実施を見合わせている。

また、2021年度、及び2022年度には、高校生の読書習慣の醸成を目的として、全国高等学校ビブリオバトル宮城県大会を共催の立場で、宮城県教育庁(主催)及び読売新聞東北総局・活字文化推進会議(後援)とともに開催した。2回ともに当館を会場としたが、コロナ禍もあり、出場者のみが会場に集合し、観覧者はオンラインのみで参加するハイブリッド方式で開催した。2021年度は初めてのハイブリッド開催であること、当館が会場であることにより、企画・実施のほとんどを当館の臨時WGが担った。2022年度については、各種事務は事務局として教育庁に担ってもらい、会場関係・配信関係を当館の学習支援実施部会が担い、役割を分担しなおして実施した。

高大連携については、高校側の需要、大学側の必要性、事業目的、到達目標などの全体的な枠組みが曖昧なまま、高校側の求めに応じて実施してきており、受け身の姿勢であったと言える。今後は、当館として事業コンセプトを明確にした能動的な事業計画が必要であると考えている。

(6)職場体験の受入

仙台市教育委員会及び市内中学校からの依頼により、例年、数校の中学生職場体験を受け入れている。1校につき3名まで2日間とし、総務課、情報管理課、情報サービス課の業務説明と可能な範囲での体験(蔵書登録、カウンター対応など)をするものである。2020～2021年度はコロナ禍により実施しなかったが、2022年度は2校の職場体験を受け入れた。

（7）他の館種図書館とのコラボレーション

（8）にて後述する震災ライブラリーに関連して、被災各地の図書館での東日本大震災資料の収集活動や運用の取組みについての情報交換を実施するため、岩手・宮城・福島各県の大学図書館及び公共図書館、防災に関する研究機関、国立国会図書館等と「東日本大震災アーカイブワークショップ」を年1回ほど開催している。

本活動について、2016年度から2022年度にかけて、PRRLA（環太平洋研究図書館連合）での発表のほか、図書館総合展でのフォーラム登壇や歴代担当職員の所感インタビューの公開など、本学単独ではなく館種を越えた協力体制の継続によって国内外含め広報の機会が増えた。

また、2021年2月には震災発生から10年を機に、本ワークショップ主催による「東日本大震災10年被災地図書館震災アーカイブ企画展『10万冊が語りかける　東日本大震災～「震災記録を図書館に」キャンペーン～』」をせんだいメディアテークにて開催した。企画展を通じて震災アーカイブをあらためて周知し、東日本大震災について知ることや震災記録を後世に伝えていくことの大切さ、そこに介在する図書館の役割として、震災関連資料の寄贈を呼びかけるとともに、利活用のさらなる推進を図った。

今後も、東日本大震災の被災地にある国立大学図書館として中心的な役割を果たしつつ、震災のみならず本学単独では実施や解決が困難な課題等に向けて、他館種と協力しながら社会・地域へ還元していくことを目標としている。

（8）震災ライブラリーの継続

東日本大震災後、震災の記録を後世に伝えることを目的として関連資料の収集を開始し、2012年3月に震災ライブラリーを本館に開設した。これと並行して、インターネット公開のデータベースとして「震災ライブラリーオンライン版」も運用している。市販資料の購入にとどまらず、自治体・学協会等の各種関連機関からの寄贈や、学術論文の登録許諾依頼、チラシ・パンフレット・ミニコミ紙・広報誌類の収集・登録についても実施し、現在も継続している。

震災関連の図書・雑誌は、保存を目的としているため利用は館内閲覧のみとし、貸出は行っていない。購入予算は震災関連に特化したものはなく、通常の資料費を充当している。図書・雑誌の受入数は、2022年度末で8,678点であるが、震災直後の2011年度・2012年度をピークに出版数とともに減少傾向となっている。このほか、2011年3月発行以降の全国紙・地方紙・英字紙の原紙を製本保存してきたが、記事数の減少により、2021年7月時点で製本対象の見直しを図った。ただし、震災から10年となる2021年3月は一時的に記事の増加があったため、その間の1か月分は製本保存している。

2022年3月の福島県沖地震では、天井配管の破損により250冊以上の資料が水損した。水損資料の中には入手不可能なものもあったが、東日本大震災アーカイブワークショップ参加館や本学災害科学国際研究所の協力により、30冊以上の資料の寄贈があった。また、日本図書館協会の「2022年度災

害等により被災した図書館等への助成」により水損資料の買替も行い、震災ライブラリーの維持に努めた。

被災地にある大学図書館として、学術的な資料を主とした充実を図るため、2018年から東日本大震災に関連する学術論文の調査を実施し、その論文の発行元である各大学・学協会等へ個別に震災ライブラリーへの登録許諾依頼を開始した。また、オンライン版については、収録資料の発見と参照機会向上のため、2019年にPRRLAが運用する歴史・文化資源アーカイブポータル「Pacific Rim Library」と、2020年には国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」と連携し、国内外に広くそのコンテンツを公開した。なお、「Pacific Rim Library」への災害アーカイブについてのデータ提供機関は国内からは本学のみである。利用や参照の機会向上のため、今後の公開方法についてさらなる改善を検討している。

このほか、メインフロアにて学生スタッフや職員企画による所蔵資料の展示も不定期に開催し、震災ライブラリーの広報と啓発に努めている。

なお、本件の課題として、震災から10年以上が経過し、出版点数の減少に伴う収集資料数の減少や持続的な体制の確立があり、現在は永続的に資料を継承し利活用するための模索を続けている。

4. 組織・運営

(1)財政基盤の強化

学生用図書、電子ジャーナルなどに関する資料経費、開館時間の延長経費などの運営経費については、全学的基盤経費を獲得している。これらの事業は、全学的に各部局からも別途一定の負担をお願いしているが、それぞれの図書館事業に関する理解を得て運営しているものであり、学内に定着している。

2018年度(2019年3月)に東北大学特定基金「図書館のみらい基金」を設置した。学生や研究者だけでなく広く一般市民に向け学術資源をデジタルコレクションとして構築・公開したり、図書館設備の充実や資料の保存・修復を目的とし、これまでの4年間に349件・約658万円を寄付いただいている。この基金により漱石文庫の保存箱を導入・整備したことで、2021年・2022年に相次いだ地震による被害を最小限に防げただけでなく、復旧にも大きな貢献があった。

2019年度にはクラウドファンディング「漱石の肉筆を後世へ！　漱石文庫デジタルアーカイブプロジェクト」を実施し、200名以上の方々から約468万円の寄付があった。自筆資料のほぼ全てをデジタルアーカイブ化し、公開している。いただいた寄付による成果は展示の開催やデジタルコレクションの公開などで広く還元し、さらなる寄付につなぐものである。

2022年度には総長裁量経費で「『東北大学総合知デジタルアーカイブ』構築によるオープンサイエンス推進事業」が採択された。この事業はオープンサイエンスの推進と人文系研究分野の国際拠点化へ

の寄与を目的とし、本学の各部局が所蔵するデジタル化された文化・学術資源を、国際標準に対応した統合的なデジタルアーカイブとして世界に発信及び搭載データを研究活用するためのシステムを構築するものである。現在システムの開発企画とともに開発・運用を担当する特任教員の雇用を準備している。

（2）事務体制の見直し・最適化

2019年に参考調査係と相互利用係をレファレンス係に再編し、学習支援係を新設した。それまで学習支援は参考調査係が担っていたが、学習支援機能の強化を図るにあたって、参考調査と学習支援の双方を担当することには人員的に限界があること、参考調査の多くが相互利用に関わるものであることから、業務を整理、体制を再編することとした。

2021年10月には本館が位置する川内南地区の事務集約が進み、部局に所属していた庶務・会計担当職員は共通事務センターに集約された。そのため、本館の総務課事務組織は総務係及び会計係が情報企画係の1係に統合された。情報企画係においては、設置目的としては図書館全体の企画・検討、オープンサイエンス推進等の新たな業務に関わるというものであったが、係長1名、事務補佐員2名の体制で部局に残った庶務・会計業務を担当している状況のため余裕はない。業務の再配分を行い、本来の業務が行えるよう業務バランスを整えていく必要がある。

（3）業務システムの改善

附属図書館の業務システムのネットワーク環境は、2009年に運用開始された東北大学のバックボーンネットワークであるStarTAINSを基盤として利用し、本館及び4分館間は仮想ネットワーク（VLAN）で構築している。このネットワークを活用して、図書館の業務管理と利用者への情報サービス機能を総合的にサポートするための図書館情報処理システム（T-LINES）を、数年ごとに更新を重ねて運用してきた。

現行システムであるT-LINES8は、2021年12月に買取契約で導入したもので、業務サーバ構成や図書館の基幹業務機能、蔵書検索サービス（OPAC）やMyLibrary（オンラインサービス）といった利用者用サービス機能を継承しつつ、各機能のブラッシュアップを図った。「隣の本棚」といった新しい機能も導入し、オンライン需要の高まりにも対応している。

また、これまでの買取契約には、ディスプレイ・マウス・キーボードといった周辺機器の契約や、Windows OS・Microsoft Officeのソフトウェアまで含んだものであったが、それらを契約対象には含めずパソコンは本体のみの契約とし、既存物品の継続使用や、大学でのDX推進計画による配布物品（ディスプレイ・キーボード）と、包括契約によるソフトウェアの提供ライセンスとを活用する方向性へシフトし、経費の節減を実現したことが大きな改善点である。これらの節減・活用によりOSやソフトウェアについて安定的に最新版へ移行が可能な環境を実現できた。さらにファイアウォール機器の機能を利用し

た業務システムへのVPN接続機能も導入し、自宅等で業務システムが利用可能となるリモートワーク環境を構築できた。

DNSやウェブサイトのサーバについては、従来通り本学情報部提供のホスティングサービスを利用している。メールシステムについては、これまで本学の共通基盤である「東北大メール」を利用していたが、本学としての維持管理コストの問題もあり、2019年度に、「G Suite for Education（現：Google Workspace for Education）」導入により変更されたため、図書館で使用するメールシステムについても変更対応を実施した。学内構成員にGoogleアカウントが配布され、ログインによる種々のサービスが利用可能となって、メールシステムの設定等が共通・簡便化され、フォームや共有ドライブによって各種申請やデータの受け渡しも容易になった。2019年度に、これらの機能活用により業務システムに関する紙ベースで行っていた手続きを、ファイル共有を活用した押印不要のペーパーレス体制に変更した。折しもコロナ禍の直前にこれらのシステムの導入や運用体制の変更が完了していたため、コロナ禍でも業務上の対応処理を混乱することなく実施できた。加えて、2020年度以降はオンライン会議が普及したため、本館でもZoomの有料アカウントを2020年に契約し、会議やウェビナー等に活用している。

情報技術の発展によって今後も業務システム環境の変化が予想されるが、一方で、図書館システムに係る予算が年々確実に削減されている状況も事実としてある。このような状況下では、経費の節減とサービスの現状維持に大きな労力を要し、最新技術の業務への活用について十分に検討する余裕が乏しい。環境整備のための安定的な予算確保が優先事項であるが、同時に既存の枠組みにとらわれることのない効率的な体制構築と根本的な業務の在り方について検討する必要がある。

（4）調査研究機能の向上

附属図書館では、所蔵する貴重な資料群を再評価し、その価値を社会に伝える社会貢献活動にも力を注ぐため、2009年度に調査研究室を再設置し、室長（副館長）のもと兼任の協力研究員を配置（2022年度は4名）している。協力研究員には、企画展示への助言や講演、刊行物での資料解説、図書系職員向けの館内研修での講師など、当館の各種活動においても協力いただいている。また、その活動を促進し普及するものとして、2012年3月には「東北大学附属図書館調査研究室年報」（以下、「調査研究室年報」）を創刊し、2023年3月刊行の号で第10号を数え、その成果は機関リポジトリTOURで公開している。

「調査研究室年報」は、先述の協力研究員のみならず、図書系職員による調査研究・活動報告の場ともなっている。図書系職員による執筆については、資料編[19 図書館職員業績一覧]を参照されたい。

また、2016年度より、学内の図書系職員を対象に、図書館情報学及び図書館業務等に関する研究・調査・成果発表の振興を図るため、公募方式により研究に係る諸経費を助成する研究振興プログラムを開始した。当プログラムの詳細は、次項③を参照されたい。

(5)人材育成の充実

①採用

常勤職員については退職者の補充などに合わせ、計画的に新規採用を行っている。新規採用については、2017年度以降2022年度まで、2020年度を除き、各年度に1名以上を選考・採用を決定した。2020年度についても採用予定はあったものの、選考の結果採用には至らなかったものである。

人材の確保に向けては2020年5月に「図書系採用試験に向けて(館長メッセージ」)」を図書館ウェブサイトに掲載し、当館が求めている人材像について明らかにした。

また、2021年度には「大学図書館で働きたい人のための業務説明会」をオンラインで2回開催し(第1回:2021年12月、第2回:2022年3月)、各回30名以上の参加があった。さらに2022年度には、当館で初の試みであるインターンシップを実施した。対象は本学学生(学部生・大学院生。学部・学年問わず)とし、参加しやすいよう個々の都合に合わせて日程を調整可能なプログラムを準備した。応募意欲は旺盛で、想定した倍の人数である8名を受け入れた。

今後も優秀な人材の獲得に向けた方策の検討を継続するとともに、大学図書館職員の業務についての理解を広める取組みを行い、潜在的に就職意欲のある学生にアプローチしていく予定である。

②研修

将来的な図書館業務の企画・運営を担う35歳以下の人材を対象とした「大学図書館職員短期研修」、マネジメント・企画等能力の向上を目的とした45歳以下の中堅職員を対象とした「大学図書館職員長期研修」については、条件に合う職員を推薦し他機関の職員との交流・切磋琢磨の場に積極的に送り出している。感染症拡大の影響により、2020年度は両研修とも中止、2021年度及び2022年度はオンラインでの実施となった。

また、国立大学図書館協会が経費を助成する「地区協会助成事業」による研修も、東北地区としては2009年度以降、毎年継続して実施している。こちらは感染症拡大下の2020年度から2022年度においてもオンラインに切り替えるなどの対応を行い、中止とはしなかった。実施は東北地区の若手職員などからなるワーキンググループが行い、企画・調整・広報・実施・報告の一連の業務を自ら行うことで、人材育成の一環としての意義もある。ほかに、著作権講習や古典資料関連の研修等も受講を推奨している。

2018度には、「東北地区西洋古典資料保存講習会」を一橋大学社会科学古典資料センター・同附属図書館との共催で初めて開催した(第2部　詳細編[I.本館3(1)貴重資料保存・修復の取組み①]参照)。これは一橋大学が実施した「西洋古典資料の保存に関する拠点及びネットワーク形成事業」の一環で企画されたもので、東北地区大学図書館協議会加盟館63館から43名が受講し、このテーマに関する東北地区の人材育成に寄与するものとなった。

③研究振興プログラム

2016（平成28）年度から「東北大学附属図書館における研究振興プログラム」を開始している。これは図書系職員による図書館情報学及び図書館業務等に関する研究・調査・成果発表の振興を図るため、公募方式により研究に係る諸経費を助成するものである。助成期間は原則として単年度とし、採択件数や研究経費の上限は各年度の事情により見直してきた。このプログラムにより、研究計画調書作成とその実施という一連のプロセスを経験し、科研費等による研究助成金の自律的獲得ができる職員の育成を図ることを目的としている。

2017～2019年度には4件に対して助成を行い、その成果は「調査研究室年報」に掲載してきたが、助成は主として出張調査費用に充てられてきたこともあり、2020年度及び2021年度はコロナ禍により実施見送りとなった。新型コロナウイルス感染症の影響は残るものの、移動制限を含む行動制限が解除された2022年度に募集を再開したが応募はなかった。今後、社会情勢の改善により応募の意欲が戻ることを期待したい。

表2-8 研究振興プログラム採択課題

年度	採択課題（申請者）
2017	国際会議における発表及びマドラス時代のランガナタンの事跡調査（吉植庄栄）
	狩野文庫医学分野図書の版木系統の解明（小林真理絵）
2018	市島春城旧蔵「異疾草紙」の伝来と資料的位置づけに関する調査（渡邊愛子）
2019	狩野文庫和刻本漢籍仏教書における黄檗版との比較（小林真理絵）

④PRRLA

当館は2016年からPRRLA（環太平洋研究図書館連合）に加盟し、参加する約40機関（2022年12月現在）の大学図書館と連携を図っている。具体的な活動としては、2017年に中国・浙江大学を会場に開催された総会において和算資料データベースの取組みについて事例報告を行ったことを皮切りに、2018年の米国・カリフォルニア大学での総会では震災ライブラリーについて、2019年の韓国・高麗大学校では「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」について発表を行った。2020年、2021年は感染症拡大のため総会は中止となったが、2022年はハワイ大学を幹事校としてオンラインでの総会が再開された。当館からは報告は行わなかったものの、総会準備の段階で幹事館であるメルボルン大学の関係者と大学図書館間で共有する課題について意見交換を行った。

PRRLAは学術研究資料へのアクセス向上のための共同事業も推進しており、加盟館のデジタルコレクションを統合的に検索できるシステム「Pacific Rim Library」を構築している。当館も2019年8月からOAI-PMHにより震災ライブラリー（第2部 詳細編［I.本館3（8）震災ライブラリーの継続］参照）の

システム連携を行っているが、当館のコンテンツの一層の活用につながることが期待できると同時に、海外のシステム担当者とのやりとりを通じた人材育成にも寄与する事業となった。

⑤図書館ウェビナーの実施

職員による職員のための企画・運営をモットーとして2020年度から開始した。コロナ禍で研修等が中止となる中でも、専門職として新たな知見を身につけ、プレゼンテーションのスキルも向上させることを目的としたものである。学内外の研修・セミナーでの講演内容や受講内容の共有、特筆すべき業務の紹介や当館の職員に継承していくべき知識等、幅広いテーマで講師を募集し、2022年度までに計14回の実施となった。各回のテーマと講師は以下の通りである（講師所属はウェビナー実施時点のもの）。

表2-9　図書館ウェビナー実施一覧

年度	実施日	テーマ	講師所属	氏名
2020	6月12日	JUSTICEにおける出版社交渉の実際と今後の展開	総務課長	細川 聖二
	6月29日	当館におけるグローバル・ラーニング支援	情報サービス課 レファレンス係	西村 美雪
	8月4日	狩野文庫研究会の活動について	情報サービス課 レファレンス係主任	小飯塚 猛
			情報管理課 雑誌情報係	菅原 真紀
	10月26日	授業における著作権	情報サービス課長	三角 太郎
	12月9日	業務のDX推進プロジェクト・チーム活動中間報告	情報管理課受入係	武田 小百合
	3月5日	東日本大震災における本館の状況	事務部長	小陳 左和子
2021	10月6日	学習支援係の業務について―授業運営・留学生支援・オーダーメイド講習会―	情報サービス課 学習支援係長	堀野 陽子
	10月20日	学内ワークスタディの取り組み	情報サービス課 閲覧係長	永井 伸
	11月17日	改修後の医学分館紹介	医学分館専門員	照内 弘通
			医学分館整理係長	柳原 幸子
			医学分館運用係長	渡邊 愛子
	3月9日	東北大学附属図書館における所蔵資料の防災について	情報管理課専門員	真籠 元子
2022	10月17日	業務のDX推進プロジェクトと図書館について	情報部 デジタル変革推進課 情報セキュリティ係	大野 勝也
	11月14日	大学図書館と公共図書館の違い ―本学と杵築市を中心に―	総務課専門員	檜原 啓一
	12月12日	国宝『史記』の修理	情報サービス課 貴重書係長	菊地 良直
	1月23日	学生の特技・興味を生かした学生協働―仙台高専広瀬の事例―	情報管理課 雑誌情報係主任	中島 大

（6）防災対策の強化

本学では、2016年3月に本部事務機構の防災・業務継続計画（略称：本部BCP）が策定された。それを受けて、附属図書館では、2017年3月に「附属図書館等事業場 防災・業務継続計画（略称：附属図書館等事業場BCP）」を制定し、以後適宜見直しを行い、最新は第5版（2021年12月改正）となっている。また、本部または川内南地区の4研究科と連携しての避難誘導・安否確認訓練等の防災訓練を毎年行っている。

2021年2月13日、2022年3月16日には、仙台市青葉区において、いずれも震度5強を記録する地震が発生した。ともに深夜だったため、幸いにも人的被害はなかった。1978年の宮城県沖地震、2011年の東日本大震災を経験した当館は、かねてより耐震補強や資料落下防止策を施していたが、2021年、2022年の地震においても、本・分館を問わず、資料の落下、壁の亀裂・剥落、配管破損による漏水などの甚大な被害があった。被災後は、施設部等の協力を得て、建物や設備の復旧作業を随時行っている。また、2022年の地震による落下資料の復旧作業においては、学生ボランティアにも協力いただいた。

2020年3月以降は、全世界において新型コロナウイルス感染症が蔓延し、本学及び附属図書館においても対応を余儀なくされた。2020年3月3日に本学の新型コロナウイルス感染症対策本部が設置され、同年4月7日に本学の行動指針（BCP）が策定された。附属図書館においては、新型コロナウイルス感染症対策本部の意向、及び、学内の専門家の助言、行動指針（BCP）レベルなどを参考に、グループ学習室の利用休止や座席の間引き、開館時間の短縮などのサービスの縮小及び拡大を、状況を踏まえつつ行った。ほかに、図書館で行っている講習会や授業のオンライン・動画配信、学生への郵送貸出に早期に取り組むなど、教育・研究を支援する大学図書館としての活動をできるだけ維持する試みを行った。

本館における新型コロナウイルス感染症への対応の記録、及び、本・分館における2回の地震による被害や対応についての詳細は、資料編［21 災害等の対応記録］を参照されたい。

II. 医学分館

医学分館は、 医学部が発足した1915（大正4）年に設置され、2023（令和5）年で108周年を迎える。当館は、大学病院のある星陵キャンパス（星陵地区）にあり、 医学・生命科学系の専門図書館として、主に医学部・医学系研究科、大学病院、歯学部・歯学研究科、加齢医学研究所、東北メディカル・メガバンク機構の研究・教育活動を支援している。また、1978（昭和53）年に当時の文部省から医学・生物学系の「外国雑誌センター館」として指定を受けて以来、主に国内未所蔵の学術雑誌を収集し、 全国の大学や研究機関からの文献複写依頼に応じることで、当該分野の研究の発展にも寄与している。

当館の運営組織は、医学分館長の下に置かれた「医学分館運営委員会」で、分館長及び前述の主要関係部局から選出された教員の計11名で構成されている。事務体制は、2014（平成26）年に38年間続いた事務長制が廃止され、医学部・医学系研究科に統合される大きな転換があった。事務組織のトップは医学部・医学系研究科事務部長であるが、実質的には図書館専門員が整理係（8名）・運用係（7名）の2係を統括している。

1. 学術情報整備の促進

1.1 図書・電子ブック

（1）選書体制

学生用図書の選定は、2009（平成21）年度に制定した選定基準に基づいて行っている。選書体制としては、2011（平成23）年度に館内全職員による選定ワーキンググループを設置し、2020（令和2）年までの10年間運用した。しかし、分野別に配分した予算額の消化が目的となりがちな上、図書購入予算の配分が大幅に減少したため、2021年度からは主に常勤職員が選書した上で、2名の係長及び専門員がチェックする体制に変更した。このことは一定の選書レベルの維持や選書業務の省力化の面でも有効な改善であった。

（2）電子ブックの充実

電子ブックの整備は、2017（平成29）年度から本格的に開始した。当初はあくまで利用頻度の高い冊子体図書の複本補充として購入していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を機に、電子ブックも選択的・積極的に導入する方針に転換し、2020年9月に電子ブック選定の目安を明文化した。2022年度末時点の買い切り冊数は累計で約2,500冊に上る。

また、医学部が学生の医学専門英語習得に力を入れていた2017年度に、Wiley社の”一目でわかる”シリーズ（At a glance series）88冊を購入したほか、同年に3D人体解剖アトラス「Visible Body: Human Anatomy Atlas」を購入した。

パッケージとしては、2017年度から「メディカルオンライン イーブックスライブラリー」の年間購読を開始し、2022年度末時点で約6,000冊（例年約600冊増加）の電子ブックが同時アクセス無制限で利用できる。併せて毎年全タイトルのトライアルも実施し、その結果を年間購読対象外のタイトルの買い切り購入の選定に役立てている。

（3）学生用図書費の財源確保

学生用図書費は、本館から予算配分（大学運営資金及び全学的基盤経費）を受けているが、年々縮小しているため苦慮している。特に全学的基盤経費からの配分は、2016年の900万円が、2022年には約400万円にまで減少している。その予算不足を僅かでも補填するため、毎年医学部から学生用図書費の定額支援（50万円）を受けているほか、医学部の同窓会及び後援会には、学生用図書寄贈の助成を毎年申請し一定の協力を得ている。本館からの予算配分が今後も減少し続けるならば、財政難の星陵地区各部局に資料費援助を求めざるを得ないが、本学が打ち出している“ニューノーマル時代に相応しい教育環境の実現”には電子ブックの購入予算が必要であり、本館から大学本部への強い働きかけに期待するところである。

1.2 雑誌・電子ジャーナル

（1）星陵コアジャーナル

星陵地区において共同で購入しているジャーナルを「星陵コアジャーナル」と呼ぶ。2006（平成18）年度に選定方法を大きく見直し、以後、雑誌価格の高騰に対処するため3年毎に主としてタイトル削減を実施してきた。アンケートを実施する業務上の負荷はあるが、価格高騰に対処するには3年では長いため、2018（平成30）年に選定頻度の見直しを運営委員会に提案し2年毎に変更した。しかし、制度自体が冊子体主流の時代からの名残であり、特定分野のジャーナルの集合に対して中止の判断基準を定めるのは困難であり、かつ2022年のような突発的な円安にも対処し難いため、2023年度は抜本的な改革を検討する予定である。

2. 学習・研究環境の整備

2.1 施設・設備

（1）建物改修・環境整備

医学分館は3階建ての本棟（1984年竣工）とプレハブ2階建ての別棟（2004年竣工）から成る。このうち本棟は2020年10月に全面改修工事が竣工し、2021（令和3）年5月にリニューアル開館した。改修の主なコンセプトは、①学習・研究支援機能の改善（ラーニングコモンズの新設、グループ学習室の増設、閲覧机等の更新、無線LANの更新）、②快適性・安全性の向上（トイレの全面洋式化、セントラル空

調からパッケージエアコンへの一新、LED照明化、老朽化した書架の更新、防犯カメラの増設など)、③社会貢献・情報発信の強化(一般利用者に配慮した導線、展示・広報スペースの設置)である。

特に、閲覧席は利用者の多様なニーズに応えるために、タイプの異なる座席を用意し、机上の広さはモバイル機器の使用を考慮し従来よりも広いものにした。また、座席数が多くても隣接する席が利用されにくい実態から、机上へのパーティション設置を基本とし、個室感のあるブース席も多数導入した。特にブース席の人気が高い。

なお、改修範囲に含まれなかった別棟についても随時設備を更新しており、自動洗浄便座の設置(2018年)、閲覧室及び階段のカーペット張替え、天井照明のLED化、外壁補修(2021年)、屋根塗装、電動集密書庫への除湿器設置によるカビ対策(2022年)を実施した。2023年度は閲覧室のレイアウトを再編し、座席利用率アップを図る計画である。

(2)防災対策

東日本大震災(2011年)の被災経験から、建物改修にあたっては、特に避難経路の確保を意識し、座席に隣接する通路に資料が落下しないように書架を配置した。資料の落下防止策としては、各書架の上部2段に感震式の落下防止バーを設置したが、改修後に起きた震度5クラスの2回の地震(2021年、2022年)に対しては必ずしも有効に機能しなかった。そのため、通路に面した棚の全段にゴムバンドを設置し、落下した資料が通路へ雪崩れ込むのを防止する追加策を講じた。2022年度末に、書架の地震対策に充てる学外寄附金を獲得できたため、2023年度には更に有効な対策を講じることにしている。

また、上記2回の地震では、天井ボードの破損・落下や、空調機器のグリル(金属製のカバー)が落下したことから、2022年の復旧時には、単なる原状回復ではなく、グリルをワイヤで吊り、グリルと天井ボードの間にクリアランスを設ける独自の対策も講じた。

このほか、改修の際に火災受信盤からの発報に連動して自動ドアを開放させるしくみを導入した。また、停電時に書架付近の暗さを実際に体感したことから、2022年に非常照明を増設するなど避難時の安全性も高めた。

2.2 図書館サービス機能

(1)利用状況

改修工事に伴う休館は、コロナ禍と地震の影響が重なったため、2019(令和元)年8月から2021(令和3)年4月の1年9か月に及び、この間、地区内の研究所に臨時図書室を設けて運営した。

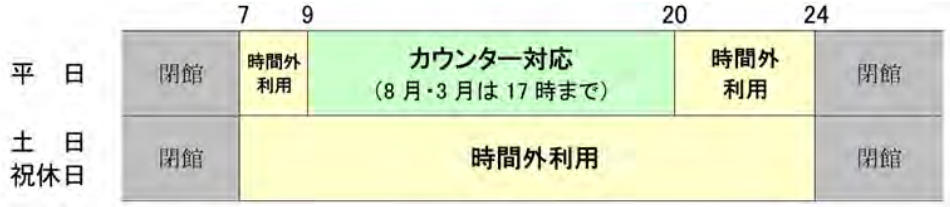
入館者数は統計上、改修工事前の年間約17万人(2018年度)から約13万人(2022年度)に減少しているが、ラウンジのみの入館者数のカウントが不可能になったことや、カウント装置の変更により精度が変わったため一概には比較できない。また、約2年間の長期休館とコロナ禍により、利用者が自宅など

図書館以外の学習場所に定着した可能性や、コロナ禍が終息したわけではない現状では、不特定多数が来館する場所を避ける傾向が継続している可能性も考えられ、しばらく動向を注視したい。

文献複写サービスの利用については、他館への依頼件数が例年1,500件程度で推移していたが、コロナ禍を機に減少している。一方、他館からの受付件数は例年5,000件以上だったが、改修工事を機に3,000件前後に減少している。電子ジャーナル普及の影響だけでなく、長期休館を機に依頼先を他館に変更した図書館があった可能性も考えられる。なお、2020年はコロナ禍のため2か月間の全館休館となったが、このような時こそ医学系論文の複写サービスを止めるべきではないと判断し、当館だけは学内・学外に対する複写サービスを休止しなかった。製本雑誌は改修工事に伴い農学分館内の共用書庫に移動していたため、ほぼ毎日キャンパスバスやタクシーで青葉山に通い複写作業を行った。

(2)開館時間外の無人利用

当館の通常開館時間は、平日9～20時だが、星陵地区に所属する利用者は、土日を含む毎日7～24時まで、磁気カード(学生証・職員証等)で入館利用が可能である。この時間帯は冷暖房も稼働させており、街なかという立地の良さも相俟って、本館・分館の中では「時間外利用」の利用条件が最も良い。他地区の学生の潜在的な利用要望があることは認識しているが、運営費の大半を星陵地区部局が負担していることや、他の分館と比較してサービススペースが狭いこと、医師国家試験対策の学習場所という当館の大事な役割などを鑑み、現在全館で議論している利用対象者の拡大については、当地区の学生の利用を妨げないよう慎重に検討したいと考えている。



(3)無線 LAN の強化

当館の無線LANサービス開始は2011年2月で、建物改修時には機器導入から10年が経過していた。また、同時期に本学がBYODの推進を開始したため、2021年1月に機器を一新して高速化を図った。アクセスポイントを10か所から18か所に増やすとともに、スイッチを2台導入して冗長化することで障害時にも即時に対応できる構成にした。また、従来のサービスはeduroamのみであり、館内では星陵地区の無線LANサービスを利用できなかったが、更新を機に医学部の協力を得て同サービスを開始し、講義棟や病院から当館に移動した際のシームレスな接続を可能にした。

(4)講習会

概ね毎年開催している講習会には、データベースや文献管理ソフトの使い方を説明する定期的な講習会があるが、医学部や病院から依頼される「医学科3年次基礎医学特別講義」「初期研修医向け医学分館利用講習会」「薬剤部向け文献検索講習会」「看護部向け文献検索講習会」は当館の特色と言える。コロナ禍後はオンラインやハイブリッドで講習会を開催する機会が増えたが、今後はオンデマンドの視聴が可能なコンテンツ作成にも力を入れたいと考えている。

また、2018～2020年には、医学部教室員会(研修医や大学院生等が運営する組織)と共催で外部講師による「英語論文執筆セミナー」を開催した。

(5)広報の強化

広報手段として、2016(平成28)年6月からTwitterを開始している。フォロワー数は年間80～100人程度増加しており、2023年3月末現在で750人を超えている。2022年6月には公式化を果たし、JMLAの機関紙「医学図書館」にも事例紹介を寄稿した。特に新着図書情報をこまめにツイートしているが、2023年からは、OPACの新着案内にリンクさせ、新たに電子ブックの新着案内も開始するなど、より利用に結び付けるための工夫も随時行っている。また、2022年11月からは、利用者と本の出会いを支援する活動として、職員が蔵書をTwitterで紹介する新企画も開始した。

一方、ウェブサイトは2023年3月にリニューアルし、コンテンツやカテゴリの整理とともに、スマホ利用を意識したレスポンシブデザインに変更することで利便性を向上させた。なお、Twitterに偏重した情報発信を省察し、2022年9月よりウェブサイトの「お知らせ」にも展示や新着情報を掲載する方針とした。また、過去の企画を記録したページを作成し、折角の企画を一過性に終わらせず、蓄積して適宜活用してもらう取組みも開始した。

3. 社会・地域への知の還元

(1)学外利用者の受入

当館は学外者も利用が可能だが、蔵書による調査・研究を目的とした利用を前提としており、例年の来館者数は年間800人程度である。コロナ禍のため長らく一般来館を休止したが、事前予約制による再開を経て、2023年4月から通常利用に戻した。

(2)貴重資料の電子化

2018(平成30)年度に、貴重書『異疾草紙』(『病草紙』写本)の電子化を行い、2019年3月に医学分館ウェブサイトの「貴重書資料室」にて公開した。当館職員(当時)が「平成30年度東北大学附属図書館研究振興プログラム」の助成金を用いて撮影した画像を活用したものである。これら「貴重書資料室」の

コンテンツは今後、前出の『東北大学総合知デジタルアーカイブ』への展開を予定している。また、前出の「歴史的典籍NW事業」では、2021年度の電子化対象資料に当館の貴重資料68点が含まれ、国文学研究資料館の「国書データベース」で公開されている。

（3）展示

一般向け企画展示は、2017年、2018年のオープンキャンパスの際に開催した。コロナ禍以降は当地区でのオープンキャンパスを開催しない方針となったため、市民をターゲットにした企画は当面控えており、この機会に今後の在り方を検討したい。なお、市民も来場できる「東北大学医学祭」は2022年10月に開催され、有志の学生による展示企画に当館の展示スペースを提供した。

（4）職場体験の受入

仙台市教育委員会が「仙台自分づくり教育」の一環として実施する中学生の職場体験活動への協力を2013（平成25）年度から実施しており、2017（平成29）年度、2018（平成30）年度ともに1校2名を受け入れた。2019年度以降は改修工事及びコロナ流行のため受け入れできない状態が続いている。

4. 組織・運営

（1）財政基盤

医学分館は、事務長制時代からの継続で、本部から大学運営資金の予算配分を受けている。しかし予算の約6割は外国雑誌センター館としての雑誌購入経費であり、残り4割では非常勤職員の人件費すら賄えないため、所属する星陵地区の関係部局から多額の援助を受けることにより運営が成り立っている。また、改修工事にあたっても、医学部の寄附金から支援を受けることで、設備の充実を図ることができた。

（2）本館・分館との連携

図書館としての管理・運用は、附属図書館本館及び各分館と密接な連携をとっている。本館が運営する委員会やワーキングループに参加・協力する体制は、図書館システムを中心とした業務の統一化や人材育成等を踏まえた分館業務の一環と捉えている。ただし、地区に根ざした専門図書館としての役割を第一と考えており、地区へのサービス低下や、業務の煩雑化、勤務時間の増加が懸念される案件に対しては慎重に検討する方針である。

（3）学外機関との連携

相互利用サービスを通じた全国の大学図書館等との連携以外では、前述の外国雑誌センター館のほ

か、特定非営利活動法人日本医学図書館協会（JMLA）と連携している。JMLAについては、コロナ禍以前は毎年総会に参加したほか、機関誌への寄稿も随時行っている。また、東北地区会も組織されており、メーリングリストを利用した意見交換のほか、毎年当番館の持ち回りで対面やオンラインによる地区総会が開催され、医学図書館としての交流を深めている。なお、2018年は当番館として当館で総会を開催し、東京で開催された地区幹事館の会合にも参加した。

（4）人材育成

職員の育成、技術の向上のため、大学が用意する人事研修プログラムのほか、業務に関係する研修を中心に、本人の希望も踏まえて積極的に受講させている。特に、JMLAが主催する学術集会「文献検索演習　中級」は医学系データベースの研修会で、ほぼ毎回、非常勤職員を含め参加させ、本人のスキルアップ及び館内での情報共有を図っている。

しかし、常勤職員が約3年で異動する現状においては教員の研究を専門的にサポートできるサブジェクト・ライブラリアンを養成する体制をとることはできないため、現時点で他館への異動が予定されていない限定正職員には、一定の役割を担ってもらう必要があると考えている。

III. 北青葉山分館

北青葉山分館は1982年に設置され、理学・薬学分野の専門図書館として、その役割を果たしてきた。蔵書の大きな特徴として、薬学部、理学部各学科図書室時代の蔵書を引き継いでおり、「学科旧蔵書」として学科ごとに管理している。

運営は、分館長を委員長として、理学研究科・薬学研究科のそれぞれの図書委員長と附属図書館商議員各1名から成る運営委員会により行われている。

1. 学術情報整備の促進

1.1 学生用図書の整備

(1)学生用図書の選書

学生用図書は、年2回の教員選書、シラバス掲載図書の購入、学生からのリクエストの受付のほか、分館職員や学生アルバイトによる新刊本を中心とした選書を行っている。教員選書は、主に理学部・薬学部の図書委員の教員を通じて依頼しており、各専攻の学部生の人数比により配分額を決めている。

(2)学生選書の取組み

北青葉山分館では年に数回の選書イベントを行っており、利用者が分館や大学生協にて直接選書を行う機会を設けている。2018年度以降は電子ブックの選書イベントにも力を入れており、試読サービスを活用した選書や、特設サイトでのオンライン投票による選書などを行った。しかし、利用者アンケートでは、資料に関する項目の満足度が重要度を下回る結果となった。今後はこのギャップを埋める手立てを考えていく必要がある。

(3)電子ブックの充実

2017年度からシラバス掲載図書を中心に電子ブックの購入を開始した。特にコロナ禍の2020年度には前年度の約3倍となる245点の電子ブックの購入を行った。2021年度以降は洋書の購入にも力をいれており、現在は和書55%、洋書45%という比率になっている。

1.2 雑誌・電子ジャーナルの整備

例年実施する購読希望調査において、各専攻に購読雑誌の選定を依頼している。近年は、購読価格の高騰により、冊子体購読の中止もしくは現状維持が多くみられ、新規購読の申請は少なくなっている。

2. 学習環境の整備

2.1 図書館施設・設備

(1)建物の老朽化への対応

現在の建物は1985年10月に竣工し、築後37年が経過した。建物は老朽化してきており、長年の懸案事項として空調設備とトイレ設備等の問題があり、修繕を重ねながら、エアコンや照明、什器の更新なども行い閲覧スペースの環境整備に努めてきた。毎年予算要求をしてきたが、2021年度に概算要求が採択され、2022年7月から改修工事が始まった。今回の工事では、図書館と厚生会館の老朽化改善を行うとともに、省エネ・創エネ対応の建物として改修する予定である。また、両施設を通路で結び一体的に整備を行うことで、更なる教育研究の強化とアクセシビリティの向上を図ることを目指している。

(2)閲覧スペースの確保と新たな学習スタイルへの対応

北青葉山分館には1600年代からの西洋古典資料があり、特別閲覧室にて保管してきた。2021年度に、これらの資料をより適切な環境で管理するため、特別閲覧室の資料294冊と、館内にある1850年以前の資料294冊を、保管環境が整っている本館へ移管した。

また、北青葉山分館は雑誌の占める割合が多く、改修前は2階のおよそ半分と3階のほぼ全面を書架が占めるような状態であった。電子ジャーナル化されている雑誌も多いため、2022年度の改修工事を機に、重複所蔵資料を中心とする約2万冊の資料を除却し、閲覧スペースの拡充を図る予定である。

グループ学習用設備については、改修前の分館には2～5名で利用可能なグループ閲覧室が1部屋あるのみであった。利用は増加傾向にあったが、コロナ禍により、2020年度以降は1人での利用に制限した。複数名で利用したいという要望がある一方で、利用制限を始めて以降、特に2021年度の当室の予約数は、コロナ禍前に比べても3倍以上に増えた。このような状況を踏まえ、改修後は、様々な学習スタイルに合わせた学習環境を提供できるよう閲覧スペースの検討を行っている。

2.2 図書館サービス機能

(1)資料の利用

北青葉山分館では、学部生5冊2週間、大学院生・教職員10冊2週間という条件で、図書の貸出のみを行っている。貸出冊数は2018年の年間貸出冊数24,487冊をピークに減少傾向にある。図書の利活用を促すべく、エントランスでは新着図書の展示のほかに、定期的にテーマ展示を行っている。また、2021年7月には、web本棚サービスの「ブクログ」を開始した。新着電子ブックの広報のほか、シラバス掲載図書の紹介、館内で行っているテーマ展示の内容も掲載している。利用者アンケートでも展示に関する項目については高評価を得ており、今後も継続して実施していきたい。

(2)文献複写・ILL サービス

電子ジャーナルの普及により、ILLの複写受付・依頼件数は年々減少している。特に受付件数はここ数年で40％弱減少しているが、依頼に対する受付の割合は約8倍と、依然として受付件数が多い傾向は変わらない。また、館内におけるセルフコピーの利用状況も減少傾向にあり、館内コピー機は当初5台を設置していたが、徐々に減らしていき2021年度には校費用と私費用の2台とした。

(3)学習支援

専攻ごとのガイダンスの一部に設けてある図書館担当の時間に参加し、館内での利用ガイダンスや情報探索講習会を行っているが、実施するのが一部の専攻に限られている。またコロナ禍以降、対面でのガイダンスの実施が難しく、ここ数年はほとんど実施できていない状況である。今後は多くの専攻で利用ガイダンス等を実施できるよう、より一層広報に力を入れていくとともに、実施方法についてはオンラインも含めて検討していく予定である。

(4)広報の強化

2022年9月に、分館ウェブサイトのリニューアルを行い、レスポンシブ対応にした。バナーやメニューアイコンにより見やすいページとなるようにし、シラバス掲載図書の紹介ページ、教職員向けの案内ページを新設した。内容については今後も充実を図っていく予定である。

3. 社会・地域への知の還元

(1)図書館の地域開放

従来から学外者の利用を認めており、また高校生などの団体見学の受入やオープンキャンパスでの開放も行っており、毎年1,500～2,000人超の学外者利用がある。

コロナ禍以前のオープンキャンパスでは、毎年エントランスホールでのミニ展示のほかに、館内オリエンテーリングやポイントラリーなどを実施し、広く図書館に親しんでもらう機会を設けていた。コロナ禍以降、学外者の利用を制限しているが、改修後は、感染状況も踏まえて、学外者への開放を検討する予定である。

4. 組織・運営

(1)事務体制の見直し

2018年度までは管理係と整理・運用係の2係があり、それぞれ係長を配置していたが、2019年度からは係長1名が2係を兼務する体制となった。さらに、2021年度からは管理系業務（図書・雑誌の発注、支払い、受入、目録）を本館へ集約したことに伴い、常勤職員が1名減となり、2係を1係に統合し、係名

も「図書係」に変更した。現在は、常勤職員2名、非常勤職員4名の計6名により、利用者サービス業務を中心に行っている。学内の他分館と比べ常勤職員数が半分以下の体制で、いかにサービスの質の維持・向上を図っていくかが課題である。

（2）財政基盤

予算は、本館配分経費のほか、理学・薬学研究科から配分される運営費負担金から成る。年々予算が減額されていく中、2017年度からは学生用図書費として配分される全学的基盤経費が大幅に減額された。これを受け、財源確保の試みとして2017年度に田嶋記念大学図書館振興財団に資料購入費の助成を申請し、50万円の助成金を受託し、2018年度に電子ブックなどの購入に充てた。

（3）職員研修

2018年8月に、附属図書館協力研究員を講師に迎え、2日間にわたり「西洋古典資料レクチャー」を開催した。本研修は、西洋古典資料についての基礎的知識の習得を目的としたもので、両日合わせて全学の図書系職員55名が参加した

（4）防災対策

2021年2月に発生した福島県沖地震では、漏水や5,000冊以上の資料の落下などの被害があったが、1週間程度で復旧作業を行い開館した。2022年3月の地震では、改修工事のための移設作業中であったため、資料落下の被害などは少なかった。防災対策としては、毎年理学研究科と共に大規模な防災訓練を行っている。また、北青葉山分館内での避難誘導マニュアルを作成し、各自の役割分担や誘導手順等の確認を行っている。

2020年6月からのコロナ禍での開館においては、図書館入口に検温器を、各階に消毒用アルコールを設置し、毎朝の館内消毒（特に手を触れるところについて）と1日4回の定期的な換気、巡回時のマスク着用の確認と注意喚起、閲覧席の間引き、グループ学習室の利用制限、学外者の利用制限などの対応をとった。また、開館時間については、当初は17時閉館としていたが、図書館のBCPレベルに応じて順次拡大し、2021年5月に20時閉館、同年11月に無人開館（青葉山北キャンパス所属者のみ、平日の早朝・夜間及び土日祝日の利用を可とするもの）を再開させた。

Ⅳ. 工学分館

工学分館は、青葉山東キャンパスのほぼ中央に位置し、工学部・工学研究科、環境科学研究科、情報科学研究科、医工学研究科、未来科学技術共同研究センター等の学生・教職員の研究・教育活動を支援する理工学系の専門図書館である。工学部では1919年の学部創設時から学科ごとに図書室が置かれていたが、1969年に学生向けの学習図書を提供するための工学部中央図書室が発足、1978年に附属図書館工学分館となり、各学科の図書室を順次統合して現在に至っている。2023年に分館設置45周年を迎える。

1. 学術情報整備の促進

1.1 学生用図書の選書

学生用図書の選書は、「工学分館資料受入基準」及び「工学分館学生用図書選定基準」に基づき、新刊書を中心に職員が行っている。2020年度までは学生用図書選定ワーキンググループ（WG）で行ってきたが、2021年度以降は人員削減に伴うフローの見直しにより同WGを廃止して、全職員で分担し常勤職員で構成される収書WGでチェックする体制へ変更した。学生からの希望や教員からの推薦も随時受け付けている 。コロナ禍を機に普及したリモート学習に対応し、電子ブックの積極的な選書にも取り組んでいるが、何を優先的に収集すべきかといった選書方針の明確化が 今後の課題である。

1.2 電子ジャーナルの整備

電子ジャーナルについては、購読費が年々増加していることから、2019年度の工学分館運営委員会において工学研究科等関連部局における購読タイトルの見直しについて議論がなされた。しかし研究・教育環境を充実させるためにはタイトルの削減は望ましくないとの意見もあり、大幅な見直しは行わず、例年春に実施される購読希望調査に合わせて可能な範囲で検討を進めている。そのため、必要な新規タイトルの購読が困難な状況である。

1.3 博士学位論文の機関リポジトリへの登録と発信

博士学位論文の機関リポジトリへの登録は、従来本館が行っていた工学研究科等関連部局分を2018年度より工学分館が行うこととした。また、本学の機関リポジトリでの博士論文公表率が低いことから、これを改善するための対策として、2019年度には工学研究科の協力を得て「博士学位論文要約登録依頼書」の様式変更を行った。依頼書提出時に要約のみを公表するとしていた論文について、従来の様式では公表可能となる時期が任意入力となっているため事実上公表不可となっていたところ、様式変更後は、3年後に工学分館が本人または指導教員へ確認の上全文を公表することを明記した。これに

基づき、2022年度には要約登録から3年を経過した論文21件について公表可否の確認作業を開始した。今後、青葉山東キャンパスの他の研究科についても依頼書の様式変更を進めていく必要があると考えている。

2. 学習環境の整備

2.1 施設・設備の改修

建物は、1980年に竣工した旧館と1995年に増築した新館で構成されており、2023年で旧館が築43年、新館が築28年を経過し、老朽化による弊害が各所に見られる。

そのため、工学研究科長戦略的経費や国の補助金により、2015年度に旧館空調更新工事、2015～2016年度に屋上等防水工事、2017～2018年度に旧館トイレ改修工事、2020年度に新館空調設備改修工事、2021年度に新館2階窓改修工事及び全館照明LED化工事を行う等、ほぼ毎年改修工事を行ってきた。共通施設として利用者に快適な環境を提供するためには施設・設備の充実が重要であり、まだ改善すべき点が残っているため、一度総点検し、中長期的な改修計画をまとめる必要があると考えている。

2.2 館内リニューアル

このほか工学分館運営費の範囲内で、ウィズコロナや本学が推進するBYOD等の時代の変化に合わせた学習環境の改善も行った。

2021年度には職員による工学分館利用環境検討WGにおいて検討を行い、運営費の範囲内でエントランスホールと1階ホール等の一部什器についてリニューアルを行った。資料やパソコンの再配置を行うと共に新たにくつろげるスペースやカフェ風のエリアを設け、空間の再構築と新たな什器の設置により学習環境の改善を図った。学生には、エントランスホールのオットマン付きのソファや1階ホールのカフェ風エリアが好評で、よく利用されている。

▲リニューアル後の 1 階ホール

2020年度には、従来グループ学習室として提供していた個室を2室増設し合計4室とした上で、需要と感染症予防の観点からウェブ面接に使用する1名用の個室へと転用した。その後、2022年度には各室へノートパソコンスタンドとリングライト、USB接続による充電も可能な電源タップを設置するなどして設備を充実させ、工学分館としてウェブ面接を支援する姿勢を明確にした。また、2022年度には、前年度のパソコン再配置に伴い整理した外付けディスプレイを利用者用に転用し、持ち込みのモバイル端末と接続して利用できるようにし

▲テラス席

て、BYOD環境の整備を図った。

2.3 情報利用環境の整備

情報利用環境としては、Wi-Fiやウェブサイト等の整備を図った。

2010年度の全学事業による導入から10年が経過し老朽化したWi-Fi機器については、2020年度に工学分館運営費にてスイッチの更新を行い、2021年度に工学研究科長戦略的経費にてアクセスポイント14台中11台を更新し、BYODに対応した。

ウェブサイトは、2018年度にリニューアルした。利用者が必要な情報へスムーズにたどり着けるように、レスポンシブ対応、よく使う情報・機能へのアクセスの容易さ、広報の視認性向上等をポイントに改修を行った。2020年度には、学内職員向けサービス案内のウェブページを設置するとともに、企画展示のウェブサイトを開設してハイブリッド展示を行い、学内外のステークホルダーに対する図書館情報へのウェブアクセシビリティの向上を目指した。また同年に、コロナ禍を受けてリモートでの問い合わせに対応するためリアルタイムチャットによるオンラインレファレンスサービスを開始し、さらに2022年度には本学のチャットボットを導入して既存のチャットと連携させることで応対可能時間を拡大し、24時間対応可能とした。

このほか2021年度には図書館利用者登録や、学外利用者用の文献複写申込ウェブフォームを開設し、データ取りまとめの省力化を実現しつつ、対面接触を減らしスムーズな資料引き渡しを行うための体制を整えた。

2.4 語学学習環境の充実

2015年度に工学教育院の事業の一環でLanguage Studioを開設し、発声可能な語学学習用の個別ブース20室と語学学習用資料約1,400冊を提供し活用されている。資料は同院の支援を受けて整備しており、従来TOEIC等の英語能力試験用参考書のみだったが、2017年度より種類を増やし、英語の多読教材や英語によるプレゼン等の語学活用資料、日本語学習用資料の提供を始めた。2020年度からは利用者の要望に応えて、中国語学習用テキストの提供も開始した。

Language Studioの開室時間についても利用者の要望に応えて、2019年度には従来の平日9～20時から、平日7～24時・土日祝日9～20時へ延長した（2023年3月現在、コロナ禍のため平日9時～16時30分へ短縮）。

3. 社会・地域への知の還元

(1)展示会の開催

工学分館では職員によるWGやチームを設置し、折々ミニ展示や企画展示などを行ってきた。主な企

画展示会としては2018年度の工学分館設置40周年記念展示、2019年度の工学部百周年記念展示がある。また、関係教員等と連携して開催したものとしては、2020年度の貴重書展示と2022年度の工学教育院と協働のトップリーダー特別講義関連展示がある。貴重書は、2020年に本学教員に調査を依頼したところ、17世紀刊の貴重な資料であることが判明したもので、今後の利活用を検討するための一歩として展示会企画した。貴重書展示では、実物の展示のほか貴重書画像や展示解説を公開する特設ウェブサイトを開設し、ハイブリッド展示を実現することができた。

▲工学分館設置40周年記念展示

▲工学分館設置40周年記念展示

（2）広報の強化

SNSによる広報にも力を入れ、2020年度に公式Twitter「@KobunLib」、YouTubeチャンネル「こうぶんチャンネル」を開設した。ターゲットを絞ったタイムリーな内容による情報発信を行い、SNS上における関連部局との関係性を構築することで、工学分館のプレゼンス向上を目指している。これらSNSサービスは職員による担当チームで発信や分析を行っており、特にTwitterに関しては、1日1ツイート以上の投稿を心がけて運用している。

（3）高大連携の取組み

例年、オープンキャンパスを通じて高大連携にも取り組んでいる。2020年度以降は、工学分館の職員が工学部オープンキャンパス実施委員会のメンバーに加わったことから、工学部全体計画の中で分館の企画を検討・実施できるようになった。同年には、コロナ禍により全学的にオンラインで実施する方針となったことに伴い、工学分館では新たにオンラインオープンキャンパスウェブサイトを開設した。その後、職員で構成される工学分館利用支援WGにおいて、2022年度まで毎年、前年度コンテンツのブラッシュアップに加え、新規コンテンツを作成している。館内360°写真マップ、おすすめ図書の紹介、クロスワード、工学分館検定、工学部生の1日等々を公開しており、高校生のみならず、保護者そして学内利用者にも興味をもってもらえるような内容のコンテンツ作成を目指している。

4. 組織・運営

(1)運営体制及び財政基盤

運営に関する重要事項の審議は、工学分館運営委員会で行っている。委員構成は、工学分館長、工学部・工学研究科の各専攻及び環境科学研究科、情報科学研究科、医工学研究科等関連部局から推薦された教員の合計19名である。2021年度に工学研究科長の下で教員の負担軽減を目的とした会議体の見直しがなされたが、本委員会は工学系の複数部局の委員で構成されていることから現状維持とし、メール審議も利用しながら運用することとなった。また、委員構成についても工学研究科の組織に合わせて19名から15名への変更の見直しを検討中である。

事務組織は、分館長のもとに図書館専門員、管理係(4名)、整理・運用係(8名)を置き、工学研究科・工学部等事務部の組織として、図書業務のほかに総務・経理・施設管理業務も行っている。人員削減が進んでおり、2018年4月に整理・運用係の常勤職員1名、2021年4月に管理係の常勤職員1名及び非常勤職員1名の削減があり、それに合わせた業務フローの見直しや業務改善を図っている。

予算は、工学部・工学研究科より配分される運営費及び資料費からなり、施設・設備を修繕する際などは別途予算要求を行っている。

(2)人材育成

分館は、部局事務等と連携しながら運営していく必要がある。そのため、図書系職員としての知識・技術の習得のみならず、大学職員としての資質向上を目指し、大学や工学部が企画する研修についても積極的な受講を推進している。図書関係については、「大学図書館職員短期研修」や「大学図書館職員長期研修」などのほか、職員の希望を踏まえて将来も考慮し、工学分野とは直接関連のない内容の研修についても推薦を行っている。コロナ禍になって研修はオンライン開催が主流となってからは常勤・非常勤問わず受講を推進し、受講後は簡単な報告メモを共有することとしている。

(3)防災対策

災害等の発生時に備え、工学分館では「国立大学法人東北大学工学研究科等事業場　防災・業務継続計画(略称:工学研究科等BCP)」に基づき、6月は分館単独で火災発生を想定した避難誘導訓練を、10月は工学研究科の総合防災訓練の一環で地震発生を想定した避難誘導訓練を毎年行っている。

2021年2月の福島県沖地震では約6,000冊の資料落下があり、2022年3月の福島県沖地震では約4万冊の資料が落下した。工学分館では2011年の東日本大震災以降、順次全ての書架棚を傾斜棚へ変更していたところだが、2022年の大量落下を鑑みて地震対策を強化することとし、雑誌架を中心に、書架各連の上2段へ落下防止バーの設置を進めている。2022年度は運営費により旧館2階(洋雑誌)の書架の一部へ設置したが、2階の残りと新館3階(和雑誌)の書架分については別途予算要求を行

うこととし、2023年度の工学研究科長戦略的経費を申請した。

（4）感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策については、大学本部からの通知を受けた2020年2月に対応を開始し、消毒用アルコールの設置、換気、入口での検温実施、職員による定期的な消毒作業、座席の間引き等、基本的な対策を徹底し、利用者が安心して図書館を利用できるよう努めてきた。同年3月には産業医に相談のうえ、グループ学習エリアの提供を休止した。同年4月以降は、本学の行動指針（BCP）レベルに応じて本館等とも足並みを揃え、郵送貸出等のサービスを実施したほか、チャットレファレンスをはじめとする各種オンラインサービスの充実を試みるなど、状況に合わせて対応した。

V. 農学分館

農学分館は1974年に雨宮キャンパスに設置され、大学の新キャンパス構想の下で、2017年に青葉山新キャンパスの青葉山コモンズ内に移転した。主に農学・生命科学分野の専門図書館としての役割を担っており、主なサービス対象は農学部・農学研究科等に所属する教職員、大学院生、及び学部生である。学部生は研究室に配属された3年生以上の利用が多い。また同キャンパスに設置されている災害科学国際研究所や環境科学研究科、ユニバーシティハウスに居住する学生など他部局の利用も多い。

1. 学術情報整備の促進

1.1 学生用図書の整備

(1)学生用図書の財源確保

農学研究科図書委員会予算及び附属図書館に配分される全学的基盤経費から学生用図書費を確保している。図書委員会予算の資料費全体における学生用図書費は2割程度であり、外国雑誌費の高騰により予算が圧迫されているが、学生用図書費の減額は最小限とするように努めている。また全学的基盤経費も年々減額されている。

(2)学生用図書の選書

シラバスに掲載されている教科書・参考図書は、入手可能なものは全て購入している。その他の資料については、受入担当者を中心に係でも分野を分担して選書を行っている。その際、近年の貸出統計や農学部・農学研究科ウェブサイト掲載の研究内容などを参照し、近接分野を含め利用が見込まれるものを選定している。また年に1～2回、教員へ選定依頼を行っている。

2017年度より農山漁村文化協会の「ルーラル電子図書館」を新たに導入した。このコンテンツには「農業技術体系」や雑誌「現代農業」などが含まれており、実践に即した情報を得ることができるため、学生にも有用と思われる。

利用者アンケートでは「16.学習・研究に十分な図書が備えられている」への重要度が高く、引き続き学生用図書の整備に努めていきたい。また、農学部以外の利用者が増えているため、他分野資料についても今後の対応を検討する必要がある。

(3)学生選書の取組み

学生からのリクエストを随時受け付けている。さらに2017年度、2018年度は書店に出向いての選書またはWeb選書を計画したが、書店選書の参加者は伸び悩み、Web選書についても参加者は限定的であった。そのため2019年度から「あなたの推し本を教えて。」という選書イベントに変更し、現在まで

実施している。この企画は、利用者に薦めたい図書を紹介文を添えて投稿してもらい、その紹介文を展示するとともに収集基準に合うものを購入するものである。しかし、このイベントも参加者が少ないため、新たな方法について検討が必要である。

(4)電子ブックの充実

これまで冊子を中心に収集してきたが、コロナ禍におけるオンライン授業の広がりを受け、2021年度より電子ブックの収集を本格的に開始した。特に広く使用されることが見込まれる授業関連図書や参考図書、冊子利用の多い主題資料を中心に選定を行っている。また、TOEICやTOEFLの語学試験対策図書も、冊子・電子の双方がよく利用されている。

電子ブックを利用者へ周知するため、新着資料ごとに二次元コードを印刷したカードを作成し、分館入口前に広報パネルを常設している。また、冊子と電子の両方を所蔵している資料については、冊子の表紙に「電子ブック利用可能」というラベルを貼り付けることで、電子ブックの存在が認知されるように努めている。

1.2 雑誌・電子ジャーナルの整備

農学研究科は学術情報整備検討の枠組みの中で生命系分野別WGに属している。共同購入外国雑誌経費に係る研究科の負担は図書委員会と各研究室で折半しているが、毎年の価格上昇により委員会予算が圧迫され、ほかの資料費や運営費に影響が生じている。

分館で購読してきた外国雑誌のほとんどは電子ジャーナルのみの購入となっており、配架する冊子の点数も製本が必要な冊数も大きく減少した。また分館で収集してきた国内の農林水産関連の報告書や雑誌等の寄贈資料についても、近年は各機関のウェブサイト等での公開が進み、受入点数が減少している。

2. 学習環境の整備

2.1 図書館施設・設備

青葉山コモンズへの移転に伴い、分館の施設面積は約4倍以上に拡充され、これまで課題であった収蔵スペースや利用スペースの狭隘化は一気に解決された。その結果、以前はやむをえず分散配架していた資料を資料種別ごとに再整理することができ、探しやすい配置となった。利用者用の閲覧席も、広々と使えるL字型の机や大きな窓に面した眺望のよい机、デザインや素材が異なる椅子など多彩な席を用意しており、利用者各自の好みやシーンに合わせて利用されている。

青葉山コモンズは農学研究科の講義室や食堂、売店を備えた共用施設であり、全学利用を標榜して設置された。この中に設置された農学分館を有効活用するため、附属図書館に「青葉山新図書館活用

検討委員会」及び「青葉山新図書館活用ワーキンググループ」が、さらにその下に管理検討・利用検討・共用書庫運用検討の3つのサブワーキンググループが設置され、全学的視点での活用を進めている。

(1)建物の維持管理

青葉山コモンズは鉄骨構造を採用しており、広く開放的な空間を特徴としている。建物や書架の耐震性が高い一方で、2021年2月及び2022年3月の福島県沖を震源地とする地震発生時には、毎回資料の大量落下や壁・天井等の施設破損が生じており、その度に長期の休館や利用エリアの制限等を余儀なくされている。

青葉山コモンズは竣工6年の新しい建物ではあるが、床からの漏水等、徐々に修理が必要な箇所が出てきており、今後メンテナンスにかかる経費の増加が予想される。

(2)空調設備・照明環境

分館の空調設備は、床下からの送風が中心となっている。壁が少なく吹き抜けのある広い空間であるため通気性はよいが、一方でアンケートの自由記述では十分ではないとの指摘が複数見られた。また夜間休日の閉館時利用時間帯の空調稼働要望もあるが、光熱費予算の確保が必要であり、現在は実施していない。照明はすべてLEDで、2階閲覧室では書架照明や間接照明を主に採用しており、閲覧席にはデスクライトも設置している。

(3)共用書庫

全学的に図書館の狭隘化が進む中、農学分館1階に新たに共用書庫が設けられた。すべて電動集密書架を設置した共用書庫では、利用頻度が少なくなった各館の資料約50万冊を収蔵することができる。運用方法は、青葉山新図書館共用書庫運用検討サブWGにおいて検討し、「共用書庫の管理及び運用ガイドライン」に基づいて運用している。各館から移管された資料管理は、農学分館スタッフが行う。開館当初は利用者の入室も可能としていたが、書架の乱れや無断持ち出しの可能性が生じたため、現在は職員による出納により利用に供している。

また共用書庫は、各館の改修工事の際の資料退避場所としても活用されており、キャンパス間資料搬送サービスを活用し、工事期間中も資料が利用できるようになった。

(4)ラーニングコモンズ

青葉山コモンズ1階にラーニングコモンズが設置された。分館のゲート内ではないが、その管理は分館が農学研究科事務と協力しながら行っている。可動式の机や椅子、可動式のホワイトボード、コンセントが利用できる広いテーブル、備付のプロジェクター、スクリーンカーテンで区切ることができるミーティン

グスペースなどを備えている。大きな窓を備えた開放的な空間は人気が高く、様々な学びの場として利用されている。ウェブ上のフォーム入力による予約も可能とした。

また、学会や講演会などのイベント等の会場としても活用されており、近接する2024年度運用開始予定の次世代放射光施設「NanoTerasu（ナノテラス）」に関連した催しも増えている。

（5）館内サインシステム

分館の移転に伴いサインも再検討し、建物の木のイメージに合わせた統一デザインを使用している。またレイアウトやサービス変更に応じて職員が適宜変更できるように、加除式のフレームを主に使用している。館内掲示物は、基本的に日英二言語で作成することとし、外国人利用者への配慮も重視している。

2.2 図書館サービス機能

（1）学生の利用状況

青葉山コモンズ移転後、年間入館者が1万人以上増加し、加えて2012年をピークに減少していた学生の貸出冊数も移転後に増加した。しかし2020年度にはコロナ禍における長期休館とオンライン授業実施の影響でいずれも激減した。さらに2021年と2022年の地震被害による利用制限の影響もあったが、現在は徐々に利用が回復してきている。定期試験期は特に入館者が多く、長く滞在して学習する学生の姿が見られている。

また、農学部以外の利用者割合が増加しており、それらの利用者は農学関係の資料利用よりも閲覧席利用が主と考えられる。

（2）開館時間外の無人利用

閉館時間中でも文献利用の便宜を図ることを主な目的として、農学部・農学研究科に所属する利用者は土日・祝日を含め毎日7時から24時まで入館利用を可能としている（この時間帯の空調は停止）。この制度は移転前から行ってきたものであるが、青葉山コモンズ移転後は、近隣に他部局施設やユニバーシティハウスがあり、また地下鉄東西線の青葉山駅に近い立地条件であること、館内に居心地の良い広い学習スペースを設けていること、加えて2022年度からの北青葉山分館の改修工事により理学部・薬学部の利用者が閉館時に利用できなくなったことから、他部局所属者も閉館時利用を認めてほしいとの要望が寄せられている。これらは所蔵資料の利用よりも学習の場としての図書館を求めているものと考えられる。青葉山コモンズは講義室を含む共用施設であるため、農学研究科との調整や入退館システムの改修、大規模地震を含むセキュリティ上の課題等、検討しなければならない事項が数多くある。2022年度から他分館も含めた利用範囲の拡大を全館で検討しているところである。

(3)情報利用環境の整備

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、学生のパソコンのBYODが進んだ結果、利用者は自分のパソコン利用が中心となった。そのため、あまり使われなくなった据置型のパソコンを撤去し、机を広く使って学習できるようにした。

館内ではどこでも無線LANに接続できるが、当初は動画を含むオンライン授業を館内で受講することが想定されていなかったため、接続環境改善の要望が多く寄せられている。2023年度から実施予定の農学研究科ネットワーク更新計画に併せて、青葉山コモンズでの無線LANは大幅に増強される予定である。

(4)情報リテラシー教育

教員からの依頼に応じて授業に出張するオーダーメイド講習会を毎年3～5件ほど実施している。対象は主に学部3年生で、各回20～30名程度、時間は120～150分、講師は2～3名の体制である。内容は教員の依頼により選択した各種データベースの使用方法を中心とし、受講者に合わせたテーマで準備している。2019年度までは対面による実施で、検索実習や館内で実際に資料を探すゲームなども導入した。コロナ禍となった2020年度以降はオンラインでの講習が主となっており、リアルタイム配信のほか、欠席者のための録画提供も行っている。オンライン講習は対面と異なり受講者の様子がわかりにくくフォローが難しい面もあるが、フォームによる質問受付や練習問題提供などの工夫を行っている。実施後のアンケートによるとおおむね好評である。

この講習会を実施していないコースもあり、また全てをこの講習のみで習得することは困難であるため、今後は各自が必要な時に必要な内容を学べるツールの作成を検討している。

(5)館内イベント

新入生向けのイベントとして、2020年度より4月と9月頃に「ウェルカムウィーク」を実施している。館内の利用案内や蔵書検索の方法、館内ルール等について日英併記ポスターを作成し、パネルで展示している。

また利用者に資料に親しんでもらうことを目的として、小規模のイベントを随時行っている。2019年度からは新年イベントとして、購入した図書の帯をおみくじ風にした「おびくじ」を開始し、2021年度からは様々なテーマに合わせて資料を集めたミニ展示を毎月行っている。いずれも利用者が楽しんで参加している様子が見られており、今後も資料利用を啓発する工夫を進めていきたい。

2.3 国際化対応

(1)留学生向けサービス

2018年に青葉山新キャンパスに新たな学生寮ユニバーシティハウスが建設され、外国人留学生の来館が増加している。そのような背景を踏まえ、青葉山新図書館管理検討サブWGにおいて国際共修資料の選定がなされ、ラウンジに日本文化紹介図書などを配置している。また学生用図書として、農学関連の洋書購入も適宜行っている。

(2)語学学習支援

学部生のTOEIC受験が増加し、大学院入試でもTOEFLが導入されるなど、学生の語学学習用資料の利用は増加している。そのため、予算の範囲内で関連図書の購入を進めている。併せて導入した電子ブックも多く利用されている。

3. 社会・地域への知の還元

(1)図書館の地域開放

立地条件もあり来館者は多くないが、これまで学外者の閲覧利用を可能としてきた。今後、次世代放射光施設の運用開始に伴い、キャンパス内に学外機関の研究室設置が進められる見込みであるため利用規則を改正し、2023年度より学外者への貸出を開始することとした。

(2)広報の強化

農学分館のウェブサイトは2017年の移転を機にリニューアルし、モバイル端末での利用にも対応している。また、附属図書館のSNS(Twitter及びInstagram)を活用し、分館の活動を魅力的に発信するように努めている。2021年度からは資料の表紙を表示できるブクログの利用を開始し、電子ブックやミニ展示資料の広報に活用している。

4. 組織・運営

(1)事務体制及び財政基盤

分館の事務組織は、分館長のもとに図書係6名(常勤職員4名、非常勤職員2名)を配置している。経理・総務等の一般業務については農学研究科事務に属している。また分館の運営は、農学研究科の各専攻から選出された教員と分館長の計5名で構成する図書委員会によって行われている。

分館運営に必要な資料費及び運営費は、農学研究科中央経費から図書委員会に配分される予算及び本館配分予算等により賄われているが、その大部分は農学研究科が負担している。また光熱水費や施設維持費、非常勤職員給与については図書委員会予算とは別に、本館配分予算及び農学研究科中

央経費で分担するかたちで賄われている。

(2)防災対策

地震対策については、2021年2月13日の地震被害(仙台市青葉区震度5強)を受けて、資料を書架の奥に押し込む、落下防止バーを上げたままにする、大型の滑り止め付きブックエンドを設置する、一部の書架に傾斜をつける試行実施などの対策を行った。しかし、2022年3月16日の地震(仙台市青葉区震度5強)では再び大量の資料が落下し、いずれの対策も効果が確認できなかった。この2回の地震は閉館時間中に発生したため幸い人的被害はなかったが、落下資料の片づけ作業や破損した施設復旧工事などで、長期間の休館や利用制限を余儀なくされた。今後は利用者が多い開館時間帯での大地震発生を念頭に、書架納入業者の協力を求めながら資料落下防止対策を強化しつつ、たとえ大量の資料落下が発生しても人的物的被害を最小限とするための方策を検討する必要がある。そのため書架の一番上の棚には配架しない、書架の間には吊り下げ式の注意喚起ポスターを設置する、閉架の学位論文室書架にゴムバンドを設置して貴重な資料の破損を防ぐ、等の対策を行った。今後も実践に即した避難訓練を実施しながら多角的な対策を進めていきたい。

また、2020年から始まったコロナ禍により、分館のサービス提供は大きく制限された。休館中(2020年4月10日～6月21日)は、職員のテレワークを行いながら、郵送貸出等の可能な範囲での利用者サービスを実施した。開館再開後は、毎朝閲覧席のアルコール消毒を行うなど、利用者の感染防止に努めている。国内や大学の状況にあわせて徐々に制限を緩和し、2021年11月15日から閉館時利用を再開し、ラーニングコモンズでのイベント受入も2022年7月から可能となった。2023年3月現在、まだ一部の座席制限が残っているが、ようやくコロナ禍以前の状態に戻りつつある。

Ⅵ. 金属材料研究所図書室

当室は部局図書室の一つで、片平キャンパスに位置している。部局図書室の運営は当該部局に委任されている。金研は、設立当初の鉄鋼中心から金属・合金全般へと研究領域を広げ、さらには非金属をも含む物質・材料全般をカバーする、基礎及び応用研究の世界的中核拠点に発展してきた。当室は物質・材料研究に関する専門図書室であり、組織としては図書係が事務部総務課に属し、図書系職員2名と事務補佐員2名が業務に携わっている。

1. 学術情報整備の促進

1.1 図書の選定

金属材料研究所（以下、金研と略）図書室では1800年代末からの材料科学に関する幅広い領域の図書資料を備え、2022年度末時点でおよそ78,500冊 の資料を蔵する。

図書資料の選定には所内の若手研究者からなる図書整備委員会委員があたるほか、教員や学生など金研所属者からの推薦も広く受け付けている。近年はコロナ禍ということもあり、自宅等学外からの利用も鑑み、購入の際には可能な限り、電子ブックを選ぶよう心がけている。さらに新規に購入した電子ブックについては、利用促進のため、タイトルリストを作成し、ウェブサイトで公開している。

1.2 雑誌の選定

外国雑誌の選定にあたっては、研究者の意向が反映されるよう全研究室を対象としたアンケートを毎年実施し、購読タイトルの見直しを図っている。

1.3 データベースの提供

閲覧室にある情報検索用パソコンでは、ICDD Cards、 ICSD、 Pearson’s Crystal Data、Alloy Phase Diagramsなど、物質科学・材料科学分野の代表的なデータベースをオンライン版またはCD-ROMの形態により提供している。物質科学・材料科学の両分野においてもデータベースのオンライン化が進展しており、今後も、研究環境の変化や動向を見極めつつ、データベースのさらなる充実に取り組む必要がある。

2. 学習環境の整備

2.1 施設・設備

当室の総面積は533.5㎡ で、閲覧室と3つの閉架書庫が金研の2号館（1993年度完成）と3号館（1994度完成）に分散配置されている。

金研関係者は、自動入退室管理システムにより、24時間利用ができる体制となっている。ただし、現在は新型コロナウイルス感染症感染防止対策の一環として、夜間・休日といった職員不在時の利用を休止している。なお、夜間・休日開室の際には、防犯カメラ等により保安維持・トラブル防止を図る。

当室の施設・設備上の懸案事項として書庫の狭隘化が挙げられる。毎年資料の新規受入を行いながら、重複資料等の廃棄処理を随時実施し、2021年度末時点の蔵書冊数は、2014年度末時点から約6,000冊減らすことができた。今後も将来的に見込まれる資料の増加に対応するため、利用状況を考慮した資料の配架や電子媒体の整備、適切な資料保存検討等を行っていきたい。

当室の施設・設備上の問題点としては温湿度管理、書庫資料へのカビ対策が挙げられる。温度に関してはエアコンを設置し、(温度むらが難点だが)適宜、使用している。湿度への対応策として2017年度には215号室書庫に、2020年度には3号館書庫に、2021年度には2号館書庫に、除湿器を設置した。また、カビへの対策として業者の点検を実施し、カビ清掃を実施(2017年度には215号室書庫の、2020年度には3号館書庫の清掃を実施)した。

その他、利用環境の向上のため、2018年度には閲覧室の椅子の布地の張替えを、2019年度には閲覧室のソファの布地の張替えを実施した。

2.2 サービス機能

(1)貸出冊数、入室者数

貸出冊数、入室者数は、どちらも特にここ3年ほど減少傾向にある。その原因について、主にコロナ禍の影響が挙げられよう。具体的にはコロナ禍の最初期には全学的に2か月以上の長期にわたり臨時休館(休室)を行い、その後も利用制限が続いたこと、当室では現在も夜間・休日といった職員不在時の利用を休止していることなどが考えられる。また、その他の要因としては、ここ数年、金研所属の教職員数、学生数、共に漸減傾向にあること、さらに直接的な影響は検証できないが、全学的に貸出を伴わず来館せずに利用できる電子ブックを積極的に導入していること、なども考えられる。

(2)ILL サービス:文献複写・現物貸借

ILLサービスの受付(金研以外からの申し込み)については文献複写・現物貸借ともに、ここ数年漸減傾向にある。依頼(主に金研所属者からの申し込み)について、文献複写はここ数年増加傾向がみられ、現物貸借はほぼ一定で推移している。

当室では金研所属者の依頼にかかる費用は基本的に当室予算で負担するといったサービスを提供しており、文献複写依頼件数の増加についてはこのサービスの浸透によるものとも推測される。

(3)遠隔地キャンパス向けサービス

金研所属でありながら当室を直接訪問し、利用することが難しい大洗地区常駐研究者の当室資料の円滑な利用方法を検討し、2020年11月5日から遠隔地キャンパス向けのサービス(所蔵資料の貸出、複写) を試行、翌2021年4月からは正式なサービスとして実施している。

(4)学術情報基盤

当室では図書業務専用と事務用のパソコンを備えるほか、閲覧室には利用者用として蔵書検索(OPAC)用1台、情報検索用4台のパソコンを設置し、利用に供している。情報検索用パソコンのうち1台は多言語に対応している。また、閲覧室及び書庫の一部では、無線LANを利用することができる。当室のネットワーク環境は、金研情報企画室ネットワーク担当により維持・整備され、パソコンは図書整備委員会の助言や附属図書館本館との連携により整備している。

(5)情報リテラシー教育

図書整備委員会の協力のもと『情報検索の手引き』(以下『手引き』と略)を冊子体で刊行し、この『手引き』に基づき、毎年、図書室オリエンテーションを開催している。『手引き』はオリエンテーション参加者等希望者に配布するほか、ウェブサイトで公開もしている。図書室オリエンテーションには新たに配属となった学生や教職員を中心に例年50名程度の参加がある。

3. 社会・地域への知の還元

(1)学外者の利用

当室は学外者も利用できる。ただし、金研の建物は常時施錠されており、来所の際には登録が必要となっている。そのため、事前に連絡調整をお願いしている。なお、学外者の利用については資料閲覧のみとしており、貸出や複写には対応していない。

(2)コレクション等の整備と提供

金研の初代所長、本多光太郎の著書及び関連資料を収集・整備し、提供している。本多を中心に金研の歴史などに関連する文献・資料をより広範に、包括的に把握し、一元的に整備・提供するよう努めている。2019年10月には北青葉山分館から移管された本多光太郎のノートの展示会を実施した。また、2021年度には、普段、あまり目にすることのない学内の他部局等の貴重な資料を借り受け、ミニ展示を5回実施した。

(3)広報活動

図書室からの通知や連絡は、ウェブサイトやツイッター、所内一斉メール、学内グループウェアの掲示板のほか、不定期で発行している「図書室だより」、文書の配布・掲示などを通じて行っている。特に「図書室だより」は、図書室に親しみを感じてもらい、電子ブックなどの使い方等必要な情報をわかりやすく伝えるよう、デザインやレイアウトに工夫を凝らしている。また、毎年、『金属材料研究所自己点検評価報告書』に図書室の活動を掲載し、業務内容を報告・公開している。

4. 組織・運営

(1)金属材料研究所図書室の位置づけ

当室は金研運営会議の下に設置されている情報企画室の図書担当教員(兼附属図書館商議員)の下、主に若手研究者からなる「図書整備委員会」(2022年度は准教授、助教併せて9名。オブザーバーとして情報企画室図書担当と総務課長が参加)を中心に運営されている。研究者と図書室とが協力し、学術情報整備に取組み、さらに所内の研究教育活動を支援している点が、当室運営上の大きな特色である。

(2)財政基盤

所内予算より図書購入費・図書管理費が配分されている。その内の大部分を図書購入費が占め、さらにその大半は全学で共同購入している電子ジャーナル・データベース費用の負担金である。電子ジャーナル・データベースの価格は年々高騰し続け、その負担金も上昇を続け、さらに年々予算が減額され続けるという状況の下、限られた予算内で資料・サービスの質を維持あるいは向上させていくことは大きな課題である。予算が減額し続ける中、財源確保の試みとして2021年度に田嶋記念大学図書館振興財団に資料購入費の助成を申請し、100万円の助成金を受託(2022年度執行済み)した。ただし、助成金は一時的な補填に過ぎず、今後も効率的な予算執行について検討していきたい。

(3)防災対策の強化

2011年3月の東日本大震災を契機に、懸案であった書架の地震対策が進み、完了していたため、2022年3月の比較的大きな地震の際も資料の落下被害は400冊程度と少なく済んだ。ただし、3号館書庫の書架に、通路側へゆるく傾斜するといった被害が出た。すぐに倒壊の恐れがあるほどではなかったが、幸いにも2022年度の所長裁量経費により、およそ半年後には修繕することができた。

また、2021年には閲覧室と事務室の要所要所(主な障害物等)に蓄光テープを貼り、非常時等急な停電が発生した際に、より安全に移動(避難)できるようにした。さらに避難後、救護班として速やかに活動するためにヘッドライトやランタンタイプの懐中電灯、エマージェンシーシートといった非常用品の拡充

も行った。

　また、新型コロナウイルス感染症の感染対策のため、本館からの指示により2020年4月13日から6月22日まで臨時休室した。その後、本館からの指示や本学BCPレベル、金研のコロナ対策チームの指導等により、徐々にサービスを再開していった。サービス再開時には入口等への消毒用アルコールの配置を行い、2021年2月には閲覧室と書庫に自動検温装置を設置。そのほか専用パソコンによるデータベースの利用については予約制とし、キーボード等からの感染を防ぐため、使用の都度、消毒等の対応を実施した。

第3部　利用者アンケート編

利用者アンケートの実施結果と分析

1. 利用者アンケートの概要

1.1 アンケートの目的と設問

このアンケート調査は、本学の図書館・図書室が提供する利用者サービスについて、利用者がどのような要素を重要と考えているか、また現状のサービスに対する満足度がどの程度かを調査することにより、今後のサービス改善に向けた検討材料を得るために実施した。

設問については、2015（平成27）年に実施した利用者アンケートの設問を土台としながら、以降のサービス内容の変化を踏まえ、設問の追加・削除、用語の見直しを行い決定した。

具体的には、利用者の属性情報等に関する設問が5問、施設・設備に関する設問が10問、資料・情報に関する設問が8問、サービスに関する設問が10問、その他の設問が2問の、合計35問とした。

数値評価を問う設問は、重要度（その設問に記載されているサービス内容をどの程度重視するか）と満足度（その設問に記載されているサービス内容に、現在どの程度満足しているか）をそれぞれ1（低）～5（高）までの5段階で評価する形式とした。利用経験が無い等の理由で評価ができない場合のため「わからない」の選択肢も設け、これを選んだ回答は集計に含めないこととした。

また、数値評価の評価理由を補足したり、数値評価で言及されていないサービス内容についての意見や感想を記入したりすることができるよう、「施設・設備」、「資料・情報」、「サービス」のそれぞれに自由記述欄を設けた。さらに、その他の設問として、コロナ禍に対する図書館（室）の対応と、図書館（室）に対する全般的な意見・感想を記載するための自由記述の設問を設定した。

■設問一覧

I. 回答される方について

1. 利用者区分を選んでください。
2. 所属を選んでください。
3. 景品の抽選に応募する方はメールアドレスを入力してください（当選の連絡にのみ使用します）。
4. 過去1年以内に最もよく利用した図書館（室）を選んでください。以下の設問では、ここで選んだ図書館（室）について回答してください。
5. その図書館（室）の利用頻度を選んでください。

II. 施設・設備について

6. 十分な数の座席がある。
7. 静かに学習・研究できるスペースが整っている。
8. グループで学習・研究できるスペースが整っている。
9. 館（室）内の案内表示が適切で分かりやすい。
10. 館（室）内は、安全で安心できる場所である。
11. 自分のモバイル端末（ノートパソコンを含む）を利用できる環境が整っている。
12. 照明・空調などの設備・環境が整っている。
13. 館（室）内は快適で、居心地がよい。

14. 施設・設備はバリアフリーである。
15. Q6～Q14の回答に対する補足があればお書きください。その他、施設・設備についてご自由にお書きください。

III. 資料・情報について

16. 学習・研究に十分な図書が備えられている。
17. 学習・研究に十分な電子ブックが備えられている。
18. 学習・研究に十分な雑誌（冊子または電子ジャーナル）が備えられている。
19. 学習・研究に十分な、文献や学術情報を検索できるデータベースが備えられている。
20. 学外から電子ブック・電子ジャーナル・データベースを利用できる。
21. 必要な資料を自力で見つけられる。
22. 所蔵していない図書や論文を迅速に取り寄せることができる。
23. Q16～Q22の回答に対する補足があればお書きください。その他、資料・情報についてご自由にお書きください。

IV. サービスについて

24. 開館（室）日・開館（室）時間が適切である。
25. 貸出期間・冊数が十分である。
26. 図書館（室）のウェブサイトから必要な情報が得られる。
27. SNSを使った効果的な広報が行われている。
28. 職員の対応が的確である。
29. 職員の対応が丁寧で親切である。
30. 研究・学習を支援する講習会や配布資料等（オンライン・動画配信等を含む）が提供されている。
31. 展示やイベントなど、魅力的な企画が開催されている。
32. グローバル化を踏まえ、留学生や海外留学を目指す学生に対応したサービスが行われている。
33. Q24～Q32の回答に対する補足があればお書きください。その他、サービスについてご自由にお書きください。

V. その他

34. コロナ禍に対する図書館（室）の対応について、ご意見・ご感想などを自由にお書きください。
35. その他、図書館（室）についてご意見・ご感想などを自由にお書きください。

1.2 調査期間

2022（令和4）年11月1日（水）～11月30日（水）

1.3　調査対象

調査対象は、学内の図書館（室）を利用した経験の有無にかかわらず、本学の教職員と大学院生、学部学生の全員とした。

1.4　調査依頼方法

図書館ウェブサイト、ツイッター、館内掲示のほか、各部局へ所属教職員・学生に対し周知を依頼した。また教職員グループウェア掲示板と学生向け掲示板（学務情報システム）でも周知した。回答数を増やすため、適宜リマインドを行った。

1.5　回答方法

アンケートは、Googleフォームで日本語版と英語版を作成した。回答は利用者自身のGoogleアカウントでログインして行うこととし、1人1回、過去1年以内に最もよく利用した図書館（室）を選択して回答することとした。

回答者のうち希望した方の中から抽選で図書カード5,000円分を1名、東北大オリジナル食品詰め合わせを5名、地元企業と当館のコラボレーションによる漱石文庫にちなんだ羊羹「吾輩は羊羹好な猫である」を20名に進呈した。

2. 回答状況の概要

2.1 所属部局･利用者区分別回答数

所属部局	学部学生	大学院生	教職員	計
文学部・文学研究科	116	50	22	188
教育学部・教育学研究科	31	15	11	57
法学部・法学研究科	55	4	0	59
経済学部・経済学研究科	58	12	12	82
理学部・理学研究科	96	37	34	167
医学部・医学系研究科	131	57	32	220
歯学部・歯学研究科	36	9	6	51
薬学部・薬学研究科	68	14	11	93
工学部・工学研究科	290	92	39	421
農学部・農学研究科	69	31	34	134
国際文化研究科	0	9	0	9
情報科学研究科	0	12	1	13
生命科学研究科	0	11	14	25
環境科学研究科	1	25	8	34
医工学研究科	0	18	6	24
病院	0	1	46	47
附置研究所、学内共同教育研究 施設等	2	1	81	84
その他	5	0	20	25
計	958	398	377	1,733

2.2 回答対象館別・利用者区分別回答数

回答対象館	学部学生	大学院生	教職員	計
本館	490	117	79	686
医学分館	168	69	72	309
北青葉山分館 （改修工事前の状況について回答してください）	24	32	28	84
工学分館	192	102	45	339
農学分館	71	48	36	155
金属材料研究所図書室	0	5	17	22
流体科学研究所図書室	0	2	6	8
電気通信研究所図書室	2	5	13	20
多元物質科学研究所図書室	0	2	5	7
法政実務図書室	0	2	1	3
文学研究科図書室	1	0	1	2
教育学研究科図書室	0	1	3	4
法学研究科図書室	2	1	0	3
経済学研究科図書室	0	0	2	2
理学研究科数学専攻研究資料室	1	2	0	3
理学研究科物理学専攻図書室	3	0	2	5
情報科学研究科数学図書室	1	0	1	2
歯学研究科図書室	1	0	4	5
なし	2	10	62	74
計	958	398	377	1,733

2.3 回答対象館別・利用者区分別利用頻度

館（室）	利用者区分	ほぼ毎日	週に1-2回	月に1-2回	年に数回	ほとんど利用しない	利用しない	計
本館	学部学生	101	242	118	24	4	1	490
	大学院生	25	42	36	13	1		117
	教職員	7	15	35	21	1		79
	小計	133	299	189	58	6	1	686
医学分館	学部学生	35	96	33	3		1	168
	大学院生	5	20	30	12	2		69
	教職員	4	7	21	31	9		72
	小計	44	123	84	46	11	1	309
北青葉山分館	学部学生	3	8	7	5	1		24
	大学院生	2	6	18	5	1		32
	教職員	2		10	12	4		28
	小計	7	14	35	22	6		84
工学分館	学部学生	37	119	32	3		1	192
	大学院生	1	23	52	24	2		102
	教職員	3	5	12	20	5		45
	小計	41	147	96	47	7	1	339
農学分館	学部学生	13	42	14	2			71
	大学院生	2	19	21	6			48
	教職員		4	14	17	1		36
	小計	15	65	49	25	1		155
金属材料研究所図書室	学部学生							0
	大学院生		1	3	1			5
	教職員	1		6	8	2		17
	小計	1	1	9	9	2		22
流体科学研究所図書室	学部学生							0
	大学院生			1	1			2
	教職員			2	4			6
	小計			3	5			8
電気通信研究所図書室	学部学生			1	1			2
	大学院生		1	2	2			5
	教職員			5	7	1		13
	小計		1	8	10	1		20
多元物質科学研究所図書室	学部学生							0
	大学院生				2			2
	教職員		2	2	1			5
	小計		2	2	3			7
法政実務図書室	学部学生							0
	大学院生			2				2
	教職員					1		1
	小計			2		1		3

館（室）	利用者区分	ほぼ毎日	週に1-2回	月に1-2回	年に数回	ほとんど利用しない	利用しない	計
文学研究科図書室	学部学生				1			1
	大学院生							0
	教職員			1				1
	小計			1	1			2
教育学研究科図書室	学部学生							0
	大学院生			1				1
	教職員			1	1	1		3
	小計			2	1	1		4
法学研究科図書室	学部学生		1	1				2
	大学院生		1					1
	教職員							0
	小計		2	1				3
経済学研究科図書室	学部学生							0
	大学院生							0
	教職員			1	1			2
	小計			1	1			2
理学研究科数学専攻研究資料室	学部学生			1				1
	大学院生			2				2
	教職員							0
	小計			3				3
理学研究科物理図書室	学部学生		3					3
	大学院生							0
	教職員		1			1		2
	小計		4			1		5
情報科学研究科数学図書室	学部学生		1					1
	大学院生							0
	教職員				1			1
	小計		1		1			2
歯学研究科図書室	学部学生			1				1
	大学院生							0
	教職員			2	2			4
	小計			3	2			5
なし	学部学生					1	1	2
	大学院生						10	10
	教職員				2	5	55	62
	小計				2	6	66	74
計		241	659	488	233	43	69	1,733

3. アンケート集計結果と分析

3.1 集計と分析の方法

3.1.1 数値評価データの集計と分析

本館と4分館について、利用者区分別に、重要度と満足度の平均値を計算した。その際、利用経験が無い等の理由で評価ができない場合のために設けた選択肢「わからない」を選んだ回答は集計に含めていない。

重要度と満足度の差が視覚的に把握できるよう、平均値をレーダーチャートにプロットした。外側ほど値が高く（最高5）、内側ほど値が低く（最低1）なっている。

また重要度と満足度の関係を表した散布図を作成し、「重要度が高いのに満足度が低いサービス内容」等を把握してサービス改善の優先順位を判断できるようにした。

3.1.2 自由記述データの集計と分析

自由記述に見られた主な意見や感想は、各館別の分析の箇所に記載した。全館的な対応が必要な事項については、3.2に示した。

3.2 全体の概要

数値評価の結果と自由記述の内容について、本館と4分館におおむね共通してみられる特徴として、以下のようなものが挙げられる。

3.2.1 施設・設備について

[7]静かな学習スペースについては、重要度も満足度も、ともに高くなっている。図書館には集中して学習できる場としての役割が求められており、一定の評価があることが分かる。

また、学部学生と工学分館を除く大学院生は、[6]座席数の重要度が高い。研究室など学内に特定の居場所を持たない学生は、自由に使える学習・研究のためのスペースが必要であり、それを図書館に期待していると考えられる。満足度は重要度に比べると低く、時期によって座席数の足りない状況が発生していたことや、新型コロナウィルス感染症による座席の間引きが行われていたことが反映していると考えられる。

[10]安全性はおおむね満足度が高く、図書館は安心して利用できる場所として認識されていることが分かる。[11]モバイル環境、[12]照明・空調、[13]快適さは、学部学生と大学院生で重要度が高く、長時間にわたって快適に利用できるスペースへの要望が反映されていると考えられる。このうち[11]モバイル環境については、自由記述にWi-Fi環境が悪いとの指摘が何件か見られたが、数値評価では満足度もある程度高い。

3.2.2　資料・情報について

資料については、[16]学習・研究に必要な図書について、満足度に比べて重要度の値がどの身分についても高くなっており、授業等で必要な教科書・参考書類や、研究に必要な専門書の充実が引き続き求められている。

教職員や大学院生では、[18]雑誌・電子ジャーナル、[19]データベースについて、満足度より重要度の値が高く、需要があることが分かる。自由記述では、選書に利用者の意見を取り入れるべきといったものや、分野や具体的な資料名を挙げて購入を希望するもの、データベースの同時アクセス数の増加を望むものなどの意見が寄せられた。

3.2.3　サービスについて

[24]開館日・開館時間については、学部学生と大学院生ともに重要度が高い。自由記述では、開館時間が長くて助かっているという意見も多くある一方、さらなる開館時間の延長や所属キャンパスとは異なるキャンパスにある図書館の利用（北青葉山分館改修工事中の代替措置も含め）についての要望もあり、検討が必要である。

職員に関する設問（[28]職員の対応が的確、[29]職員の対応が丁寧で親切）は、どの館でも満足度が高くなっており、日頃の業務にあたる態度や、資料や情報の提供の的確さについて一定の評価が得られている。自由記述でも図書館に対する感謝の声が多数寄せられ、対応が親切・丁寧であるという感想をいただいている。今後も引き続き高い満足度が得られるよう、余裕をもって勤務ができる体制の維持や、資料提供能力の向上に努めていく必要がある。

[30]講習会・配布資料、[31]展示・イベントは、満足度が4以下となっている場合が多いが、重要度も低めで、利用者にとっては重要なサービスとの認識が無いようである。ただし自由記述には、資料の探し方や使い方が分からないというコメントや、現在行っている企画展示や本の展示に対する好意的な意見が複数ある。これらのサービスを充実させることで、利用者の期待を超えた価値を提供できる魅力的な図書館へ発展できる可能性がある。

3.2.4　コロナ対応について

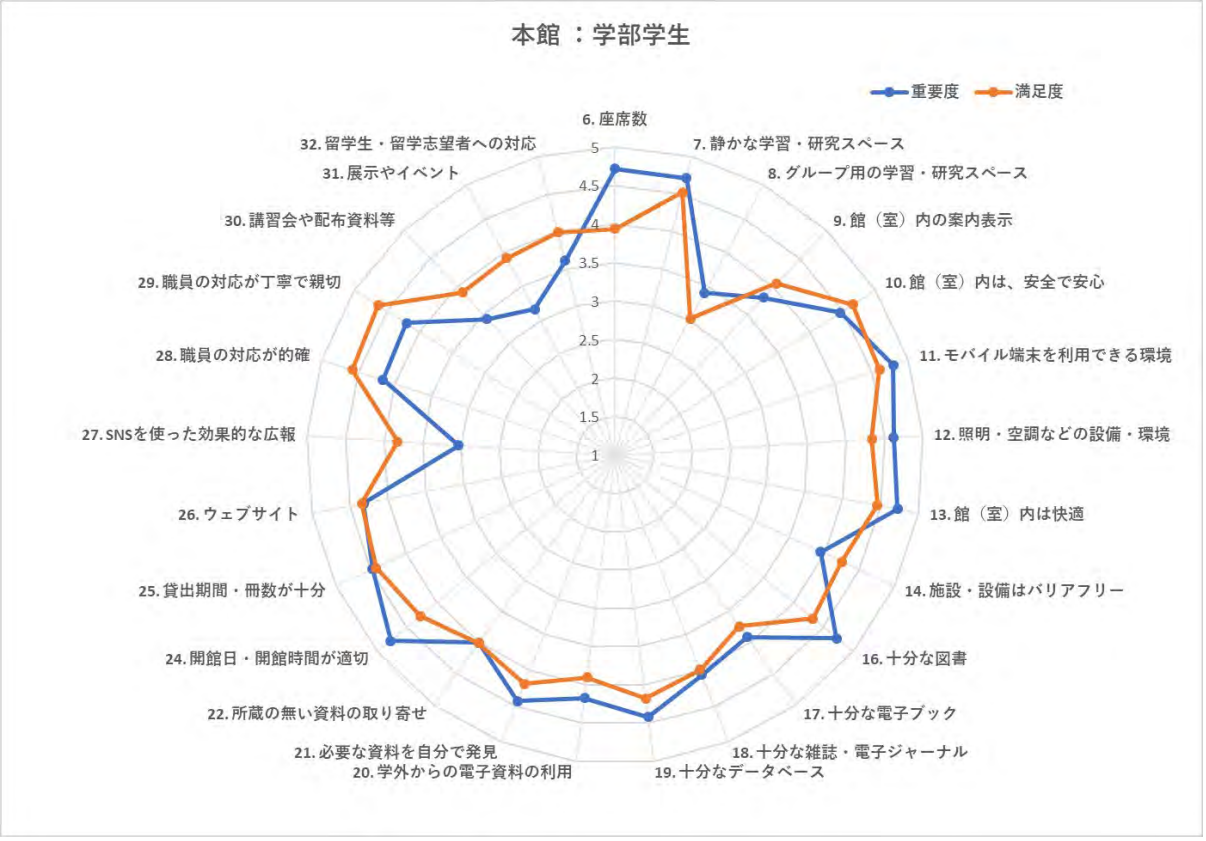
コロナ禍に対する図書館の対応について意見や感想を求めたところ、おおむね問題がないとの意見が多数を占めた。改善を求める意見として多かったものは、休館や開館時間が短縮されたことや座席数削減による不便さを訴えるもの、グループ学習再開やマスク着用義務の緩和を求めるもの、換気方法の改善についてなどである。今後、国や大学の方針や、図書館という場所の特性を踏まえながら、対応を見直していく必要がある。

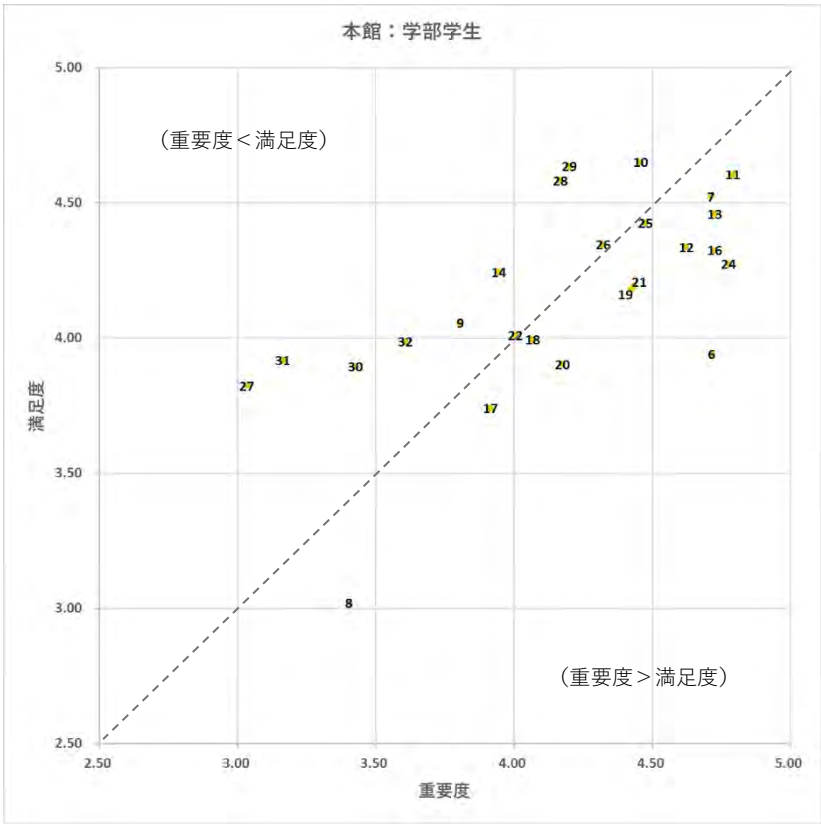
3.2.5　図書室について

回答数が少ないため、本報告書には数値評価や自由記述の掲載は行っていない。個別に該当図書室に回答を提示し、各図書室運営に活かすこととした。

3.3 本館

3.3.1 学部学生





凡例

6. 座席数
7. 静かなスペース
8. グループ用スペース
9. 案内表示
10. 安全安心
11. モバイル環境
12. 照明・空調
13. 快適
14. バリアフリー
16. 図書
17. 電子ブック
18. 雑誌・電子ジャーナル
19. データベース
20. 学外からのアクセス
21. 資料の自力発見
22. 図書・論文の取寄
24. 開館日・時間
25. 貸出期間・冊数
26. ウェブサイト
27. SNSによる広報
28. 職員の対応が的確
29. 職員の対応が丁寧
30. 講習会・配布資料
31. 展示・イベント
32. グローバル化対応

A. 施設・設備

・[6]座席数の重要度が高く(4.72)、満足度とのギャップが大きい(-0.78)。[8]グループ学習は、需要度、満足度ともに低めながら、満足度がやや低い(-0.38)。

・自由記述では、コロナ禍での「間引きで席が足りないと感じた」、という意見とともに、「テスト期間には座席が足りないと感じる」、「オンラインで利用できる座席数を増やしてほしい」といった要望が目立った。

・[7]静かなスペース[10]安全安心[11]モバイル環境は、ギャップが小さく(±0.19)、おおむね学習環境としてはニーズを満たしているといえる。

・一方で[12]照明・空調[13]快適は、満足度がやや低い。局所的なコントロール、運用期間が定められている旧式の冷暖房施設によるところが大きいと考えられる。自由記述でも暑い・寒いといった記述が目立った。

B. 資料・情報

・総じてギャップは小さめだが、比較的大きいのは[16]図書(ギャップ-0.40)である。

・大学院生・教職員と比較して、電子ブックや雑誌、データベース類に対するギャップは小さめである。

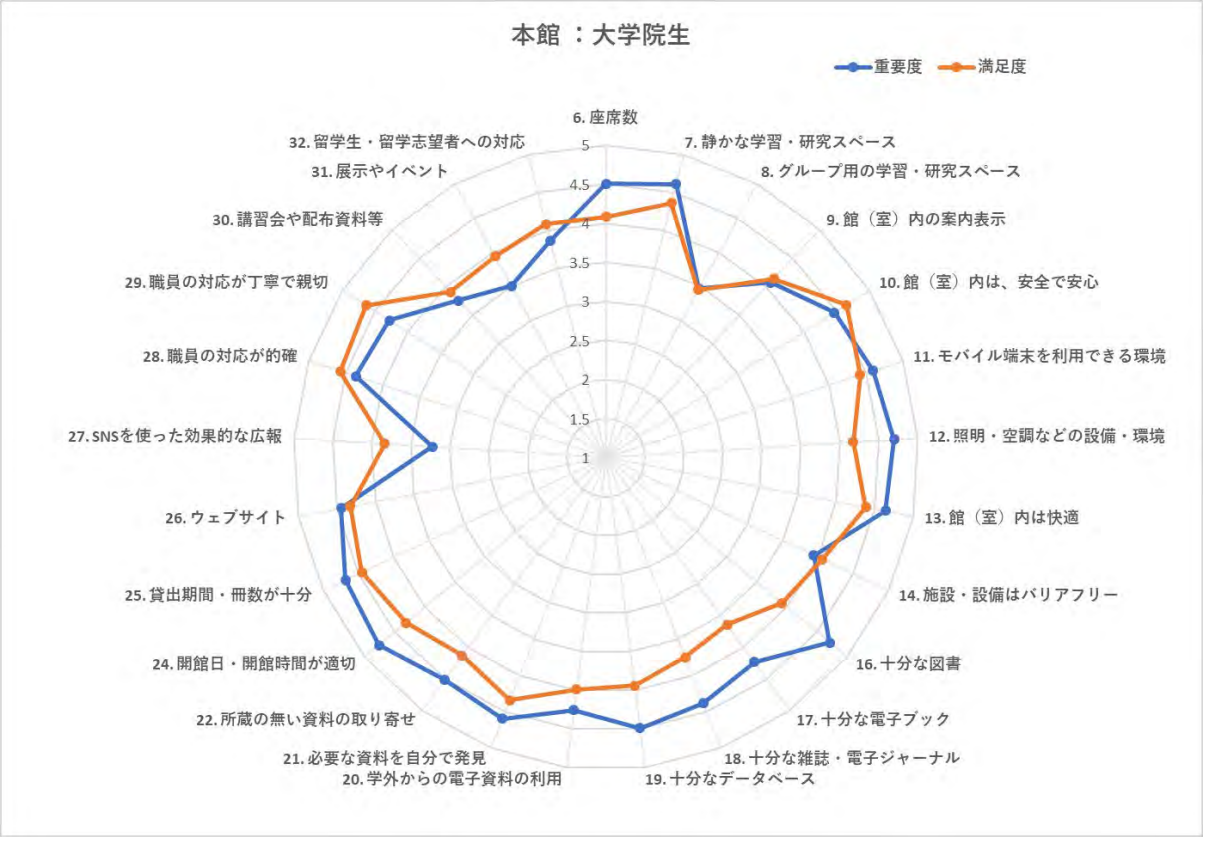
・自由記述では「新しい本」「小説」を置いてほしい、という記述が目立った。いわゆるベストセラー本のことではないか、というニュアンスの記述が多かった。

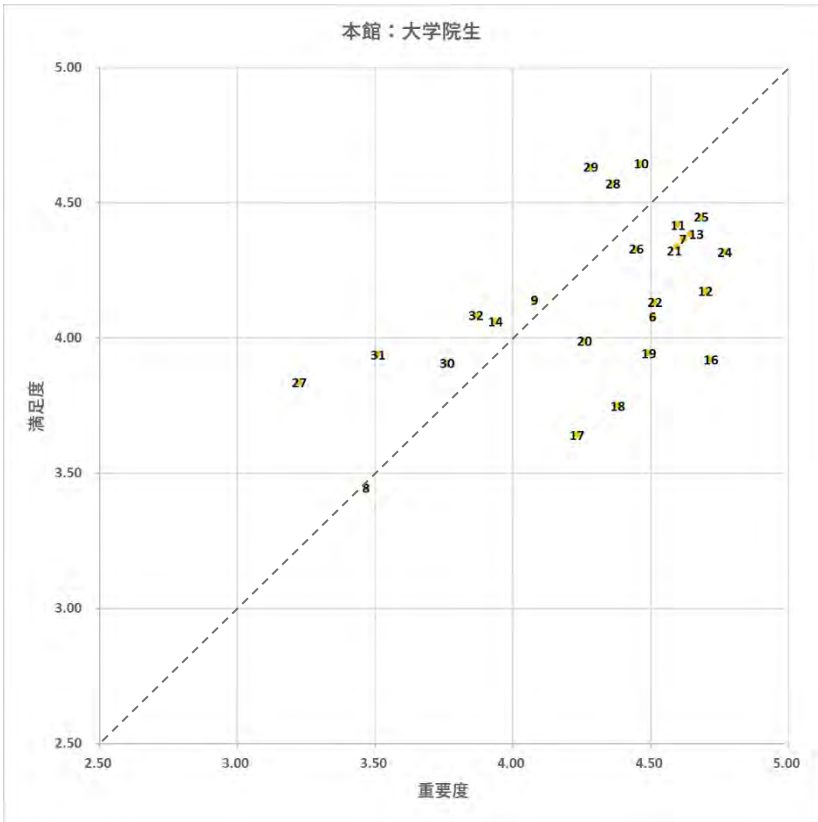
C. サービス

・[24]開館日・時間の重要度が高く(4.78)、ギャップも大きい(-0.50)。これは、コロナ禍による開館時間の短縮についての評価が反映されていると思われる。自由記述では、一時13-18時であった土日祝日の開館時間が短くて困ったというコメントが目立った。

・重要度より満足度が大きく上回ったものとして、[27]SNSによる広報(ギャップ0.79)[31]展示・イベント(ギャップ0.76)、がある。公式アカウントでのツイートや、館内展示が一定の評価を得ていると考えられる。展示については、自分では選ばない資料との出会いを楽しみにしている、というコメントが多かった。

3.3.2 大学院生





凡例
6. 座席数
7. 静かなスペース
8. グループ用スペース
9. 案内表示
10. 安全安心
11. モバイル環境
12. 照明・空調
13. 快適
14. バリアフリー
16. 図書
17. 電子ブック
18. 雑誌・電子ジャーナル
19. データベース
20. 学外からのアクセス
21. 資料の自力発見
22. 図書・論文の取寄
24. 開館日・時間
25. 貸出期間・冊数
26. ウェブサイト
27. SNSによる広報
28. 職員の対応が的確
29. 職員の対応が丁寧
30. 講習会・配布資料
31. 展示・イベント
32. グローバル化対応

A. 施設・設備

・[8]グループ用スペースは、重要度としては、学部学生と同程度であるが、満足度は、学部学生より高い。学習の形態が学部学生とは異なっていることを反映しているかもしれない。

・自由記述では、座席そのものよりも照明や空調など環境に関するコメントが目立った。

B. 資料・情報

・資料については軒並みギャップが大きい。[16]図書(-0.80)、[17]電子ブック(-0.59)、[18]雑誌・電子ジャーナル(-0.63)、[19]データベース(-0.55)、である。学部学生と比べて、重要度が高く、満足度は低めであるので、個別の専門書や研究に必要な図書へのニーズの反映と考えられる。

・「英語の資料が足りない」との自由記述も散見され、英語の案内表示を含め、留学生対応が一層必要、と考えられる。

C. サービス

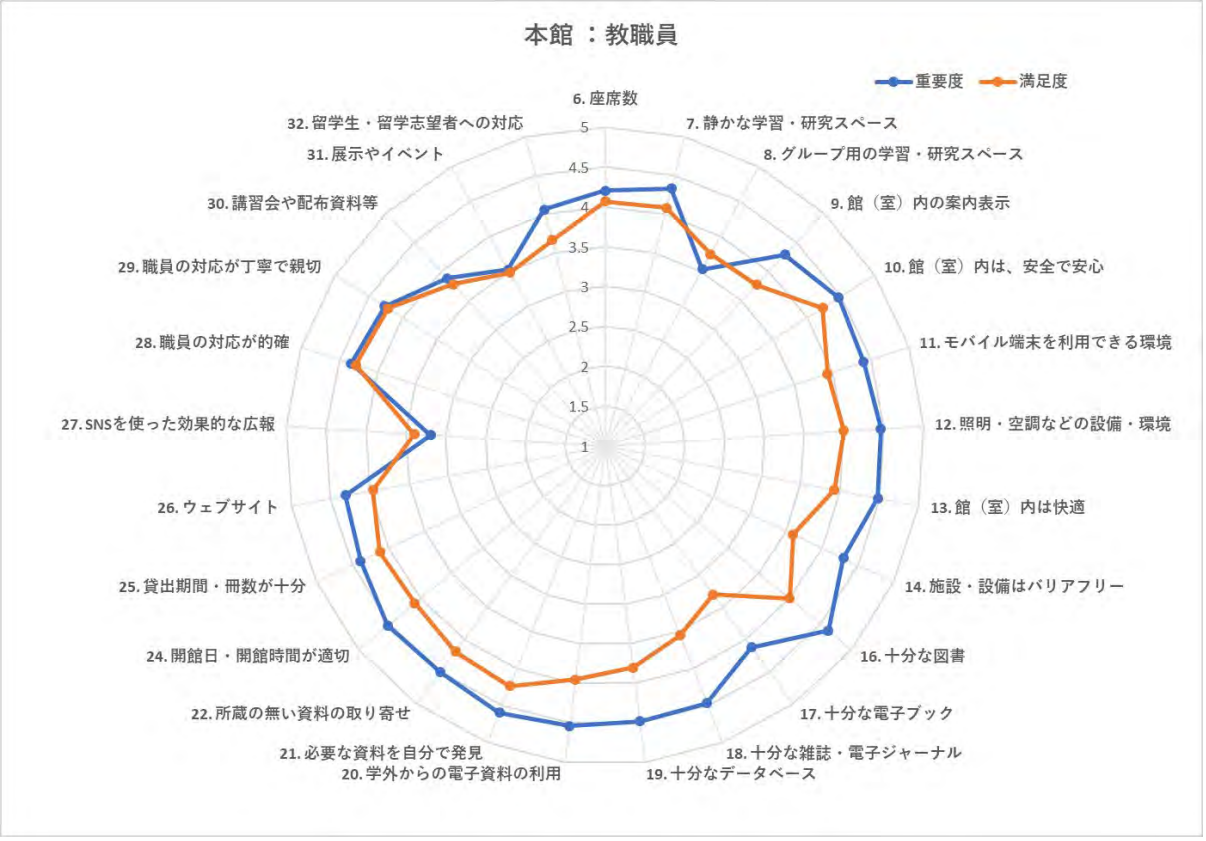
・大学院生も学部学生と同様に[24]開館日・時間の重要度が高い(4.77)。ギャップが大きい(-0.45)のは、やはり、コロナ禍が影響していると考える。

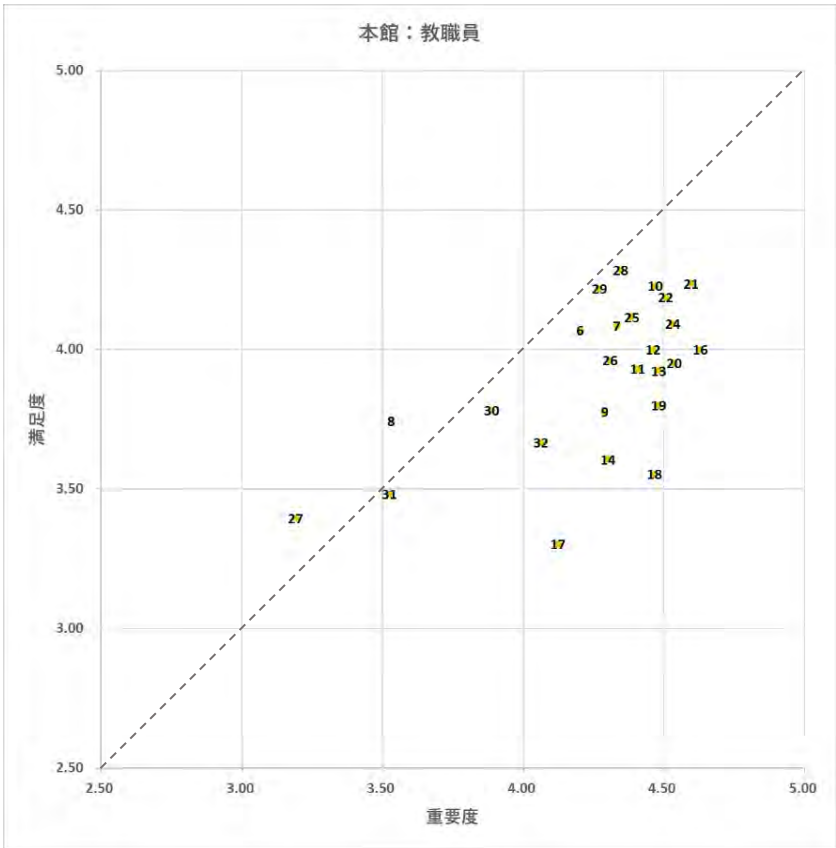
・学部学生ほどではないものの、[27]SNSによる広報(0.61)、[31]展示・イベント(0.43)も、重要度を満足度が上回った。

・[28][29]の職員によるサポートもやや評価されている。

・自由記述では、コロナ禍で実施した「郵送貸出に助けられた」とのコメントが多かった。

3.3.3 教職員





凡例

6. 座席数
7. 静かなスペース
8. グループ用スペース
9. 案内表示
10. 安全安心
11. モバイル環境
12. 照明・空調
13. 快適
14. バリアフリー
16. 図書
17. 電子ブック
18. 雑誌・電子ジャーナル
19. データベース
20. 学外からのアクセス
21. 資料の自力発見
22. 図書・論文の取寄
24. 開館日・時間
25. 貸出期間・冊数
26. ウェブサイト
27. SNSによる広報
28. 職員の対応が的確
29. 職員の対応が丁寧
30. 講習会・配布資料
31. 展示・イベント
32. グローバル化対応

A. 施設・設備

・大学院生と同様の傾向があるが、重要度は低めとなっている。グループ学習については、学生・大学院生と比べて、最も評価が高い。コロナ禍に直面していた学生に比べて、それ以前からの長期的な視点での評価とすれば、コロナ禍以前の図書館の活動に対する評価と考えられる。

B. 資料・情報

・ギャップが大きいのは[17]電子ブック(-0.82)、[18]雑誌・電子ジャーナル(-0.91)、[19]データベース(-0.68)などである。[16]図書(-0.63)に比べて、電子的資料の充実を求める要望が高めといえる

・コロナ禍でより重要度が増したと思われる[20]学外からの電子コンテンツの利用も、ギャップが他の区分に比べて2倍近くある(-0.59)。これは、単純に重要度が高い、ということのほかに、うまく活用できていない、という可能性も考えられ、今後より周知等に力を入れる必要がある。

・[21]必要な資料の自力発見は、重要度も満足度も高かった。教職員の自負、教育的観点もあるかとは思うが、使い慣れているという要因も考えられる。

C. サービス

・全体的に、重要度よりも満足度が下回っている中では、[28][29]職員の対応は、おおむね要求程度を満たしていると考えられる。[27]SNSによる広報(0.21)、[31]展示・イベント(-0.04)も、他の区分と同じく、満足度が上回る、または、ギャップが最小であった。

・[24]開館日・時間は、ややギャップが大きい(-0.44)。2号館の開館時間を延長してほしいというコメントが多かった。

3.3.4 まとめ

A. 施設・設備

・学部学生、大学院生ともに開館時間については、開館時間が長くてよい（現状に満足している）、という意見がある一方で、22-24時に利用したい、24時間にしてほしい、という意見も多い。今後、全学的に検討を行う必要がある。

・空調に関する意見も多かった。感染症対策で換気を行っていたため空調環境が十分でなかったという意見もあったが、単純に暑い・寒いというものもある。これは、本館の空調機の一部は、運転期間があらかじめ定められており、冷暖房の切り替え時に、その日の環境に十分に対応できない施設であることに起因すると思われる。

・静かな学習環境という点では、どの区分でもある程度の満足感は得られている。コロナ禍でかなり静かな環境が作られていたが、今後、グループ学習の再開等とともに、用途に応じたエリア分けとその案内が、重要になってくると思われる。

B. 資料・情報

・「小説をおいてほしい」という要望については、当館の収書方針と教養資料としての位置づけについて、十分に検討する必要がある。また、大学図書館だけでなく、公共図書館や、電子版を含む購入など用途に応じた使い分けについてのレクチャーも必要かと思われる。

・学生用図書リクエストによる資料購入及び電子ブックの試読・トライアル等の結果を参考に、限られた財源の中で今後も整備を進めていく必要がある。

・電子ブックは、今後もコンテンツの充実を図るとともに、利用の仕方について、広報等を図っていく必要があると思われる。

C. サービス

・職員の対応への評価は高かった。今後も、マニュアルの整備や、研修等を通じて、その質を維持するようにしたい。

・展示活動も、評価が高かった。いわゆる企画展だけでなく、書架のミニ展示等も、情報過多な社会の「推し」を求める傾向の現れのようにも感じられるが、それが来館目的になり、人と資料を結び、学生個々の学びにつながるのであれば、大変重要な役割であり、日常的な活動として今後も継続されるべきと思われる。

・どの区分でも重要度が最も低かったSNSを使った広報は、満足度との差分、という意味では、最も評価が高いが、満足度が「わからない」という回答が1/3ほどある。「SNSを使った広報」について、再考する必要がある。

・広報も評価を得ている。留学生コンシェルジュが役立っているという自由記述は見られるものの、情報が足りない、という意見もあり、日本語以外での広報活動にも留意していきたい。

D. コロナ対応

・マスク着用の注意喚起や、座席の間引きなど、基本的な対策、とされていた事項が実施されているので、安心して利用できている、という意見の一方で、その対策が継続されている点に不満のコメントも多い。個人差のある部分かとは思うが、今後の運用でも、利用者の便宜と公共性のバランス等を考慮して対応していきたい。

・特に学生について開館時間の短縮、座席の間引きやグループ学習の禁止が残念だったとする自由記述が目立った。

E. その他

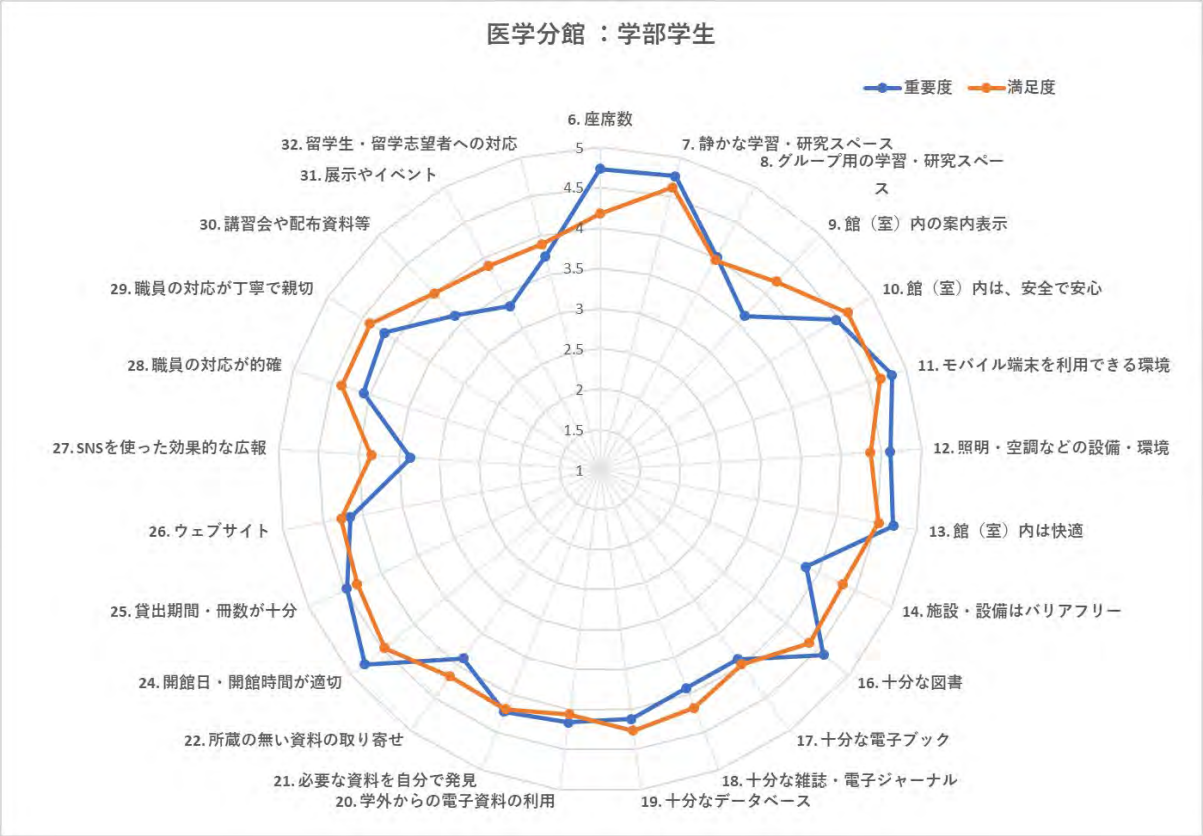
・開館時間や、座席の利用の問題だけでなく、Wi-Fiや、空調等も含めて、「場としての図書館」の役割がコロナ禍を通じて、一層強くなった、と感じられた。DXやオンライン化が一層推進すると思われる社会で、「来館する」という意味付けも再考する必要があるかもしれない。

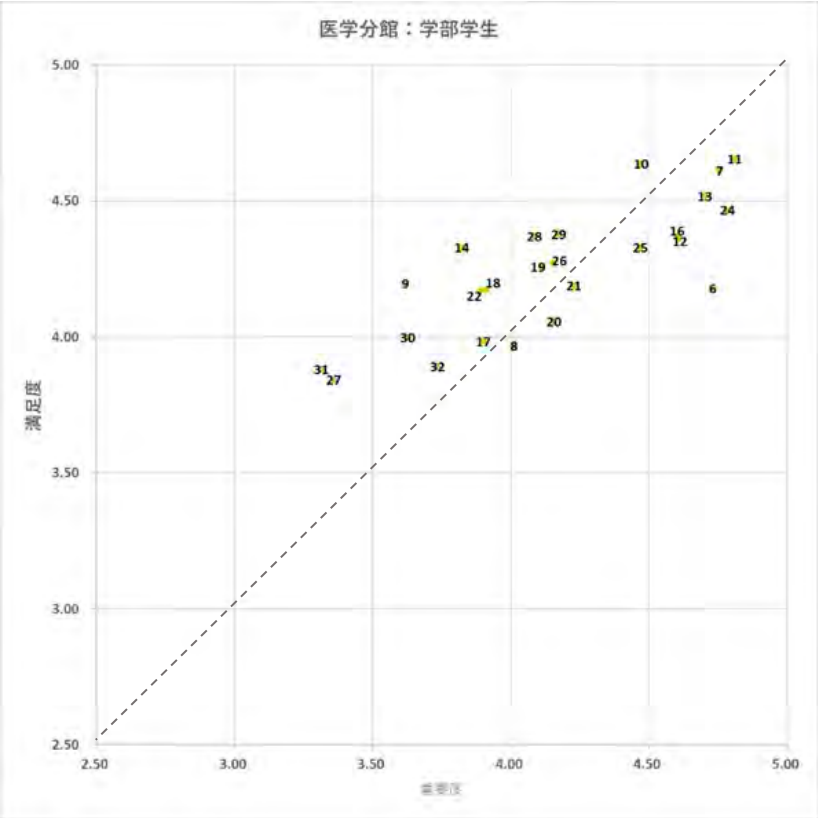
本館　アンケート集計表

	設問	学部学生			大学院生			教職員		
		満足度	重要度	差	満足度	重要度	差	満足度	重要度	差
施設・設備	6	3.94	4.72	-0.78	4.08	4.51	-0.43	4.07	4.20	-0.13
	7	4.52	4.71	-0.19	4.37	4.62	-0.25	4.08	4.33	-0.25
	8	3.02	3.40	-0.38	3.45	3.47	-0.02	3.75	3.53	0.21
	9	4.06	3.81	0.25	4.14	4.08	0.06	3.78	4.29	-0.51
	10	4.65	4.46	0.19	4.65	4.47	0.18	4.23	4.47	-0.24
	11	4.61	4.79	-0.19	4.42	4.60	-0.18	3.93	4.41	-0.47
	12	4.34	4.62	-0.29	4.17	4.70	-0.52	4.00	4.46	-0.46
	13	4.46	4.73	-0.27	4.39	4.64	-0.26	3.92	4.48	-0.56
	14	4.24	3.95	0.30	4.06	3.94	0.12	3.61	4.30	-0.69
資料・情報	16	4.33	4.73	-0.40	3.92	4.72	-0.80	4.00	4.63	-0.63
	17	3.74	3.91	-0.17	3.64	4.23	-0.59	3.30	4.12	-0.82
	18	3.99	4.07	-0.07	3.75	4.38	-0.63	3.55	4.47	-0.91
	19	4.18	4.42	-0.25	3.94	4.49	-0.55	3.80	4.48	-0.68
	20	3.90	4.17	-0.27	3.99	4.26	-0.27	3.95	4.54	-0.59
	21	4.19	4.43	-0.24	4.34	4.59	-0.26	4.24	4.60	-0.36
	22	4.01	4.00	0.01	4.13	4.51	-0.38	4.19	4.51	-0.32
サービス	24	4.28	4.78	-0.50	4.32	4.77	-0.45	4.09	4.53	-0.44
	25	4.43	4.48	-0.05	4.45	4.68	-0.24	4.12	4.38	-0.27
	26	4.35	4.32	0.02	4.33	4.45	-0.12	3.96	4.31	-0.35
	27	3.82	3.03	0.79	3.84	3.22	0.61	3.40	3.19	0.21
	28	4.58	4.17	0.42	4.57	4.36	0.21	4.29	4.35	-0.06
	29	4.64	4.20	0.43	4.63	4.28	0.35	4.22	4.27	-0.05
	30	3.89	3.43	0.47	3.91	3.76	0.15	3.78	3.89	-0.10
	31	3.92	3.16	0.76	3.94	3.51	0.43	3.48	3.52	-0.04
	32	3.99	3.61	0.38	4.09	3.87	0.22	3.67	4.06	-0.40

3.4 医学分館

3.4.1 学部学生





凡例
6. 座席数
7. 静かなスペース
8. グループ用スペース
9. 案内表示
10. 安全安心
11. モバイル環境
12. 照明・空調
13. 快適
14. バリアフリー
16. 図書
17. 電子ブック
18. 雑誌・電子ジャーナル
19. データベース
20. 学外からのアクセス
21. 資料の自力発見
22. 図書・論文の取寄
24. 開館日・時間
25. 貸出期間・冊数
26. ウェブサイト
27. SNSによる広報
28. 職員の対応が的確
29. 職員の対応が丁寧
30. 講習会・配布資料
31. 展示・イベント
32. グローバル化対応

A. 施設・設備

・満足度の平均値が4.38であり、総じて満足度が高い。重要度の平均値は4.39で同等である。

・満足度が高いのは、[7]静かなスペース(4.61)、[10]安全安心(4.64)、[11]モバイル環境(4.65)、[13]快適(4.52)であり、学習環境としてのニーズを満たしていることが分かる。

・満足度が重要度を下回るギャップが比較的大きいのは[6]座席数(-0.55)、[12]照明・空調(-0.24)である。座席数については、利用実態から判断して試験期の混雑に基づくものと推測される。また、ブース席の人気が高いため、気に入った席が空いていないことに起因するとも考えられる。照明・空調は、自由記述から冷房の温度設定がやや低かったことが要因とわかる。

・満足度が重要度を大きく上回ったのは[9]案内表示(ギャップ0.58)、[14]バリアフリー(ギャップ0.51)で、あまり重視していないが要件を満たしていると評価されたものと捉える。

・自由記述では、設問にない飲食スペースの設置希望の意見が多く寄せられた。

B. 資料・情報

・満足度の平均値が4.17で、総じて満足度が高めである。

・重要度の平均値は4.11で、どの項目もギャップが小さいが、[16]図書(ギャップ-0.23)が比較的大きい。自由記述でも、利用の多い教科書や国家試験問題集の複本を増やしてほしいという要望があり、やはり学部学生は図書への関心が高いことがわかる。学部学生が使う学習用の図書は、継続して整備することが必要である。

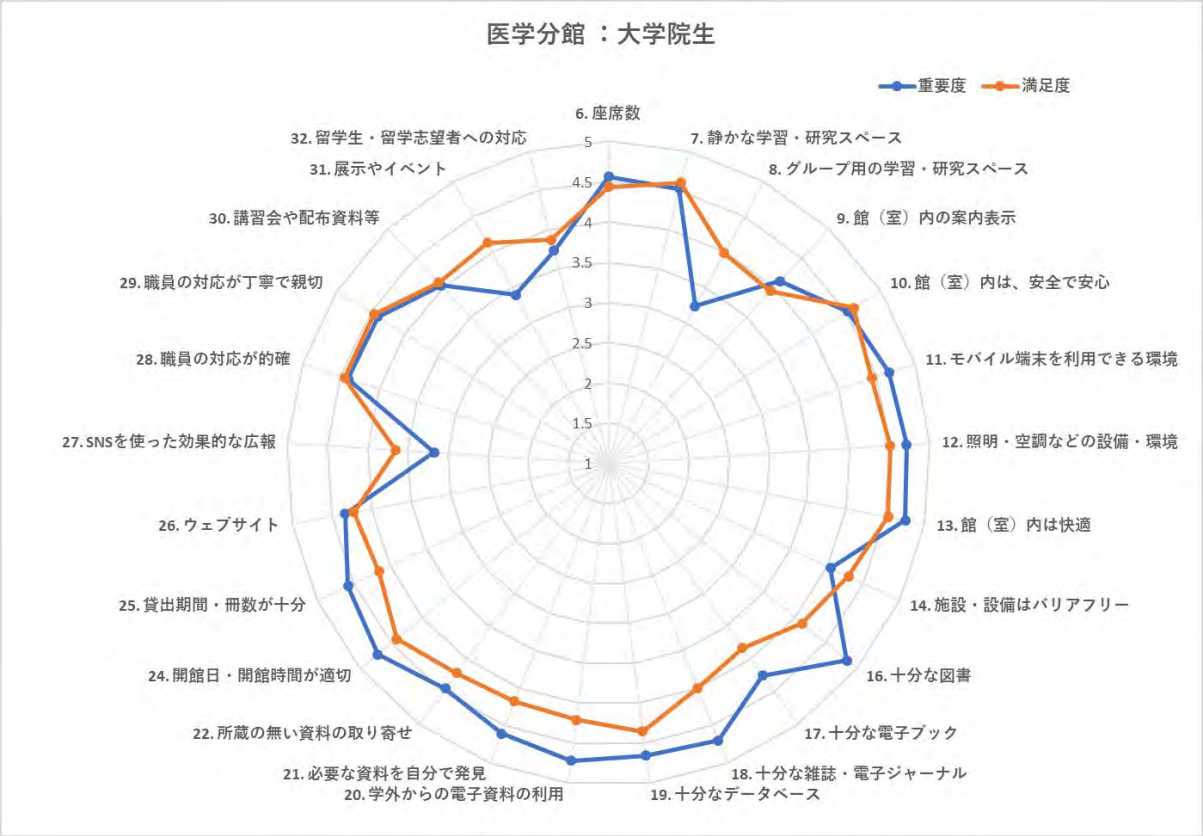
C. サービス

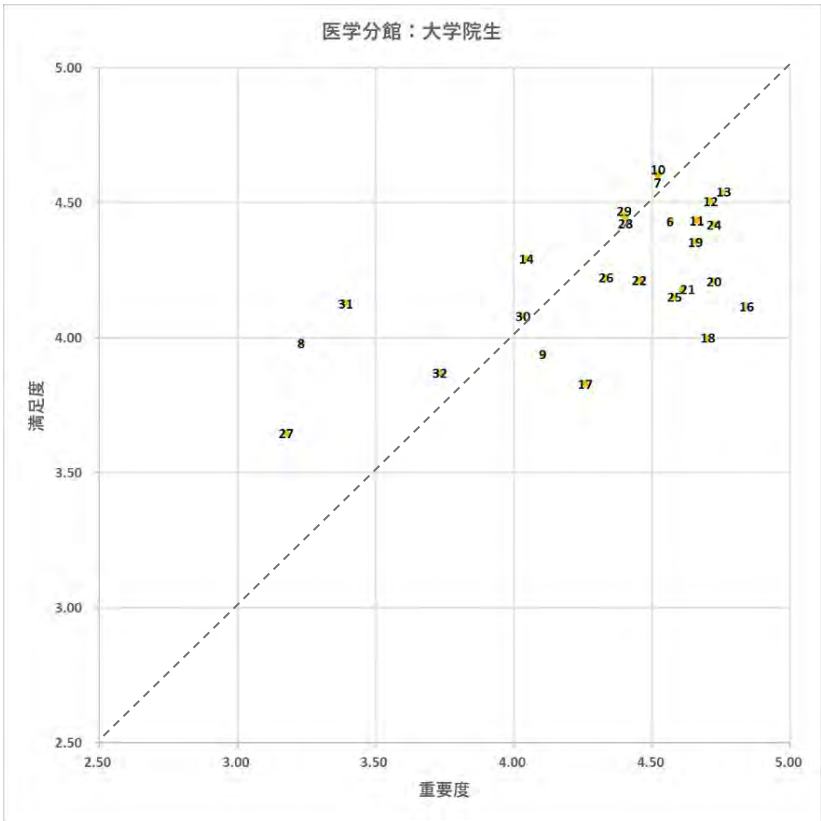
・満足度の平均値が4.16で、重要度の平均値が3.97であり、各項目も総じて満足度が高めである。

・重要度が比較的高いのは[24]開館日・時間(4.79)と[25]貸出(4.47)であるが、同時にギャップがマイナスとなったのもこの2項目である。開館日・時間のギャップ(-0.32)は、星陵地区に所属する学部学生の満足度(4.54)が高く、自由記述でも、利用時間が長くて良いと評されるのに対し、夜間や土日に利用できない他地区の学部学生の満足度が3.22(ギャップは-1.67)と低いことに起因する。貸出については、自由記述により、貸出延長に関する改善要望があることがわかる。

・満足度が重要度を大きく上回ったものとして、[31]展示・イベント(ギャップ0.57)、[27]SNSによる広報(ギャップ0.48)がある。公式アカウントでのツイートによる情報発信や、館内展示が一定の評価を得ていると考えられる。

3.4.2 大学院生





凡例

6. 座席数
7. 静かなスペース
8. グループ用スペース
9. 案内表示
10. 安全安心
11. モバイル環境
12. 照明・空調
13. 快適
14. バリアフリー
16. 図書
17. 電子ブック
18. 雑誌・電子ジャーナル
19. データベース
20. 学外からのアクセス
21. 資料の自力発見
22. 図書・論文の取寄
24. 開館日・時間
25. 貸出期間・冊数
26. ウェブサイト
27. SNSによる広報
28. 職員の対応が的確
29. 職員の対応が丁寧
30. 講習会・配布資料
31. 展示・イベント
32. グローバル化対応

A. 施設・設備

・満足度の平均値が4.37であり、総じて満足度が高い。

・重要度の平均値は4.35であり、満足度と同等で、どの項目もギャップが小さい（最大で-0.23）。

・満足度が高いのは[10]安全安心（4.61）、[7]静かなスペース（4.60）、[13]快適（4.54）、[12]照明・空調（4.51）である。リニューアルを経て、快適に利用できる施設として認識されている。

・満足度が重要度を大きく上回ったものとして、[8]グループ用スペース（ギャップ0.75）がある。満足度が学部学生と同程度でありながら重要度が低いのは、学生に比べて需要が低いためと考えられる。

B. 資料・情報

・すべての項目に対する重要度が高いのが特徴的で、かつ、すべての項目について満足度が重要度を下回っている。重要度の平均値4.61に対し、満足度の平均値が4.13である。

・ギャップが特に大きいのは[16]図書（-0.72）、[18]雑誌・電子ジャーナル（-0.70）、[20]学外からのアクセス（-0.51）、[17]電子ブック（-0.43）、[21]資料の自力発見（-0.43）である。

・自由記述では、専門書や研究に必要な図書の充実を望む意見が寄せられた。

C. サービス

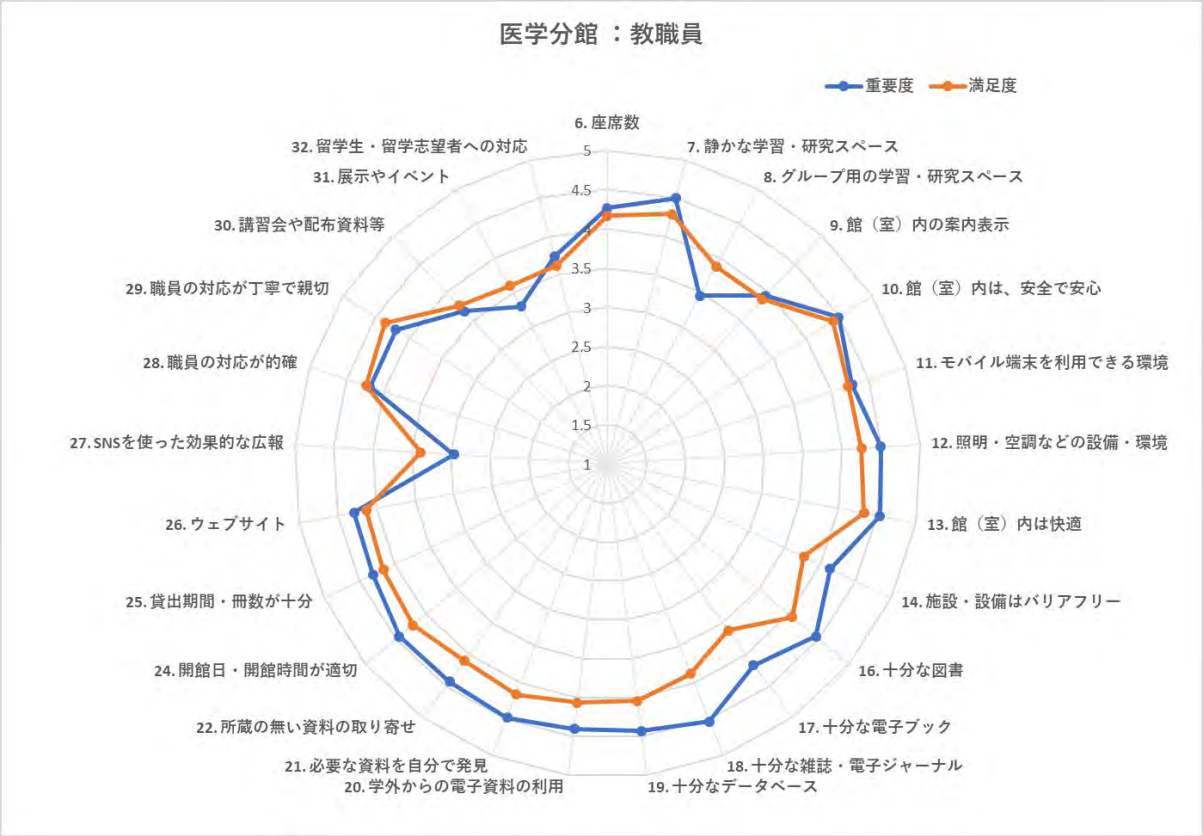
・満足度の平均値が4.16で、重要度の平均値が4.08であり、各項目も総じて満足度が高めである。この傾向は学部学生と同様である。

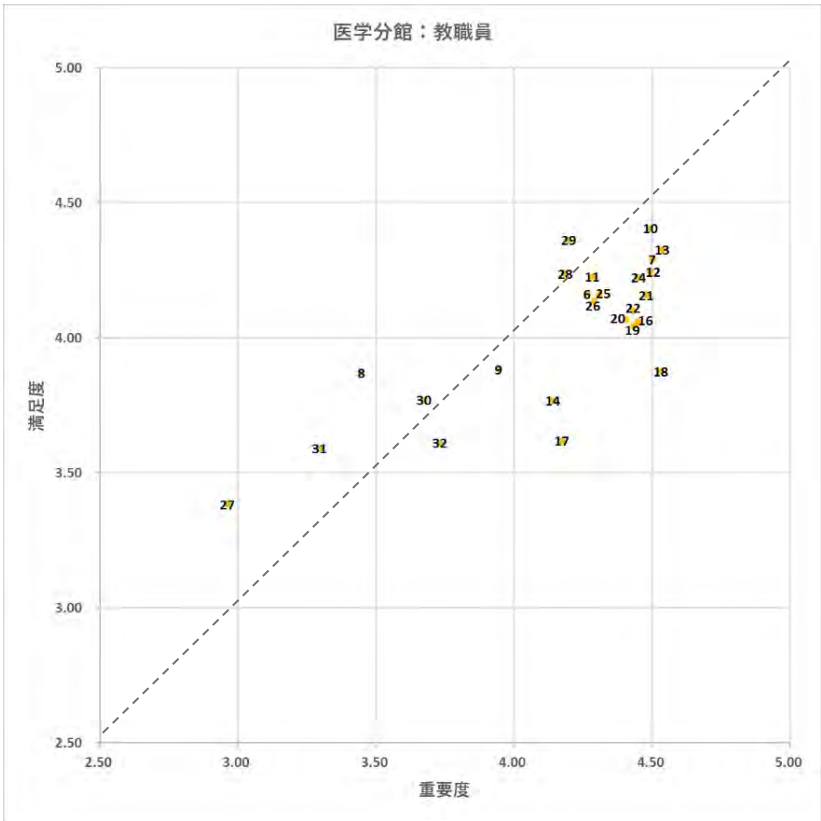
・重要度が比較的高いのは学部学生と同様で、[24]開館日・時間（4.72）と[25]貸出（4.58）である。

・ギャップが大きいのは[25]貸出期間・冊数（-0.43）である。自由記述には他館からの取り寄せ本に対する要望が見られるが、明確な要因を考察する必要がある。

・満足度が重要度を大きく上回ったのは[31]展示・イベント（0.74）、[27]SNSによる広報（0.47）であるが、重要度が低いためであり、あまり期待されていないと思われる。

3.4.3 教職員





凡例

6. 座席数
7. 静かなスペース
8. グループ用スペース
9. 案内表示
10. 安全安心
11. モバイル環境
12. 照明・空調
13. 快適
14. バリアフリー
16. 図書
17. 電子ブック
18. 雑誌・電子ジャーナル
19. データベース
20. 学外からのアクセス
21. 資料の自力発見
22. 図書・論文の取寄
24. 開館日・時間
25. 貸出期間・冊数
26. ウェブサイト
27. SNSによる広報
28. 職員の対応が的確
29. 職員の対応が丁寧
30. 講習会・配布資料
31. 展示・イベント
32. グローバル化対応

A. 施設・設備

・満足度の平均値が4.17であり、総じて満足度が高い。

・大学院生と同様の傾向で、あまり利用しないグループ学習への重要度が特に低い。

・医局等に研究スペースがあるため、施設や設備についてのニーズは低めであると考えられるが、教員と職員に分けて分析すると、職員は[10]安全安心、[7]静かなスペース、[13]快適の重要度が高いことがわかる。

B. 資料・情報

・重要度の平均値4.41に対し、満足度の平均値が3.99であり、やや厳しい評価となっている。すべての項目について満足度が重要度を下回っているのは、大学院生と同じ傾向である。

・ギャップが大きいのは[18]雑誌・電子ジャーナル(-0.65)、[17]電子ブック(-0.55)、[16]図書(-0.39)、[19]データベース(-0.39)などである。

・自由記述では、一般教養の図書など医学分館の収集対象外となっている資料の増加を望む意見が寄せられた。

C. サービス

・重要度の平均値3.90に対し、満足度の平均値が3.94であり、おおむね期待通りの満足度が得られていると感じているようだ。

・満足度が特に高かった項目は[29]職員の対応が丁寧(4.36)である。

・満足度が重要度を大きく上回ったのは[27]SNSによる広報(0.47)であるが、重要度が2.96と極めて低いためである。

3.4.4 まとめ

A. 施設・設備

・学部学生、大学院生、教職員ともに、3つの設問グループABCのうち最も満足度が高い。2021年5月のリニューアルオープンにより、快適で充実した利用環境が提供できていると判断される。

・学部学生の座席数に対するギャップの大きさについては、試験期の混雑が主な要因とは思われるが、何らかの対策を打つ必要がある。

・空調の温度調整については、これまで以上に管理に気を配ることとしたい。

・キータッチ音に起因するパソコン使用エリアの制限要望については、オンラインによる学習機会の増加やBYODが主流の時代にあって、面積が小さい中での制限は困難だが、マナーとしての注意喚起を求める対策が必要であろう。

・自由記述で意見の多かった入館ゲートの操作の煩雑さについては、わかりやすい案内の掲示など改善を行う必要がある。

B. 資料・情報

・全体として、学部学生はおおむね満足度が高い傾向にある。大学院生・教職員も満足度は決して低くはないが、重要度に比べて低い傾向にある。

・学部学生は図書に対する重要度が突出して高いため、学習用図書の継続的な整備が必要である。

・大学院生や教職員は研究用の専門書に対する満足度がやや低いが、専門分野も利用者も限定的なため、少ない予算で網羅的に整備するのが困難な現状を反映している。

・利用者のニーズをさらに満たした蔵書構成とするため、学生用図書リクエストサービスのさらなる広報や、専門書の選定方法の工夫などが必要である。

・電子ブックは、学部学生、大学院生、教職員ともに満足度が4以下となっている。購入点数の増加を鋭意進めているが、認知度を上げるための周知にも一層の力を入れる必要がある。

・一般教養書の充実を望む意見に対しては、キャンパス間資料搬送サービスの広報強化も対応策として考えられる。

・電子ジャーナル等への学外からのアクセスについても、一層の周知対策が必要であろう。

C. サービス

・サービスについては、学部学生、大学院生、教職員ともに、おおむね期待通りの満足度になっていると判断される。

・満足度の高かった、職員の丁寧で的確な対応については、職員の適切な配置や研修を通じて、引き続きサービスの水準を維持したい。

・開館日・開館時間については、星陵地区の所属者にとっては満足度が高い。夜間や土日に利用できない他地区の所属者からは利用を要望する意見が寄せられているが、星陵地区の利用者への影響を考慮しながら対策を検討する必要がある。

・貸出延長については、全学的な検討が必要であろう。

D. コロナ対応

・マスクの着用義務を緩和してほしいとの意見が多くあったが、病院のある星陵地区特有の事情も踏まえ、医学系研究科と連携しながらバランスの取れた対応を心掛ける必要がある。

・要望の記載があったアルコール消毒液の増設については、令和5年3月に各階のエレベータ前とトイレ前に計7台を設置した。

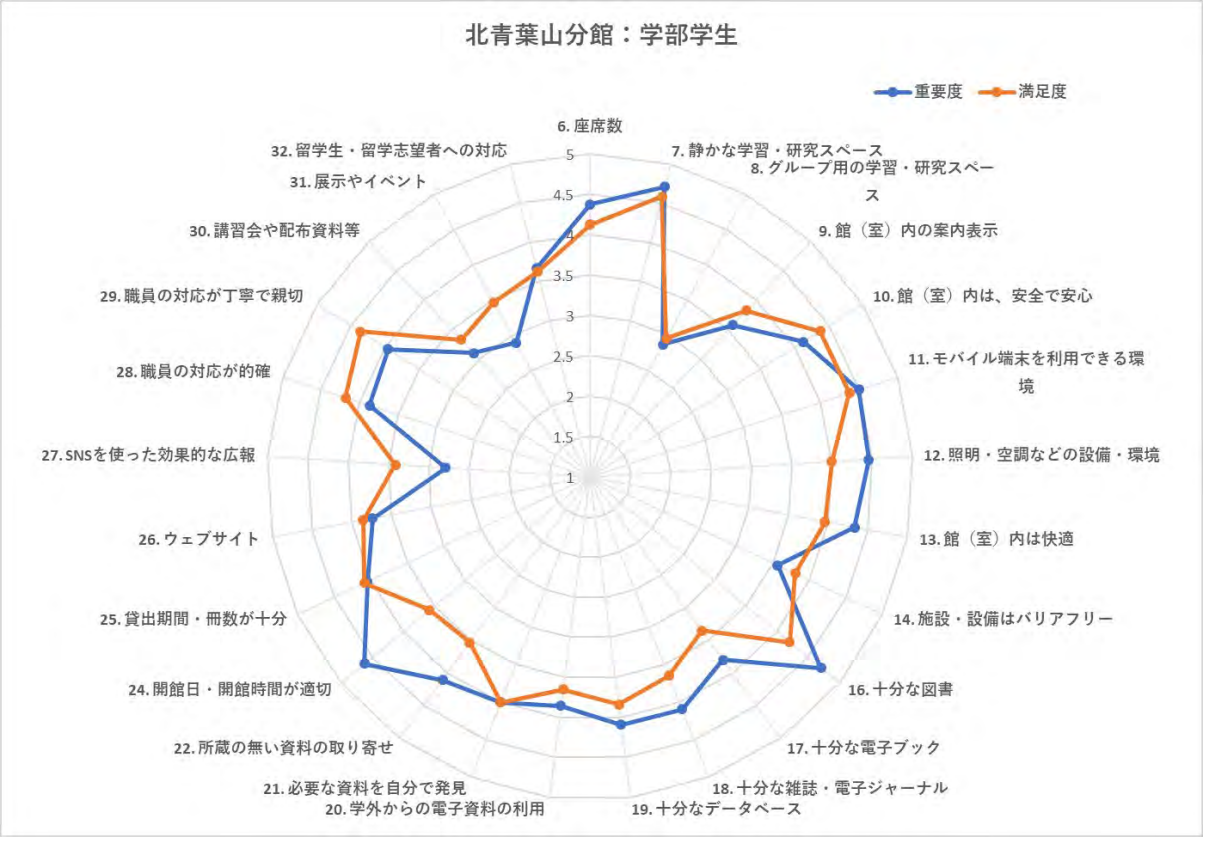
・その他の意見に対しては、対策を検討し、利用者の安心感が一層高まるよう努力したい。

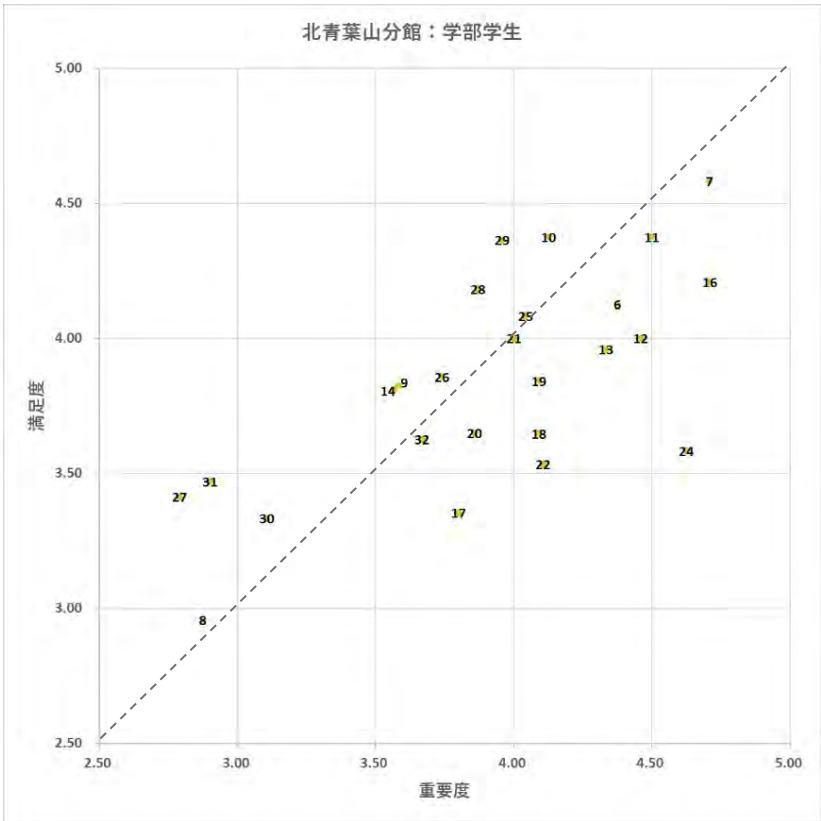
医学分館　アンケート集計表

	設問	学部学生			大学院生			教職員		
		満足度	重要度	差	満足度	重要度	差	満足度	重要度	差
施設・設備	6	4.18	4.73	-0.55	4.43	4.57	-0.13	4.16	4.26	-0.10
	7	4.61	4.76	-0.14	4.60	4.52	0.08	4.29	4.50	-0.21
	8	3.97	4.01	-0.04	3.98	3.23	0.75	3.87	3.45	0.43
	9	4.20	3.62	0.58	3.94	4.10	-0.17	3.88	3.94	-0.06
	10	4.64	4.47	0.17	4.61	4.52	0.09	4.41	4.49	-0.09
	11	4.65	4.81	-0.15	4.44	4.66	-0.23	4.23	4.28	-0.05
	12	4.36	4.61	-0.24	4.51	4.71	-0.20	4.25	4.49	-0.25
	13	4.52	4.70	-0.18	4.54	4.75	-0.22	4.33	4.54	-0.21
	14	4.33	3.82	0.51	4.29	4.05	0.25	3.77	4.14	-0.37
資料・情報	16	4.37	4.60	-0.23	4.12	4.84	-0.72	4.06	4.45	-0.39
	17	3.98	3.90	0.08	3.83	4.26	-0.43	3.62	4.17	-0.55
	18	4.17	3.91	0.26	4.00	4.70	-0.70	3.88	4.53	-0.65
	19	4.26	4.11	0.14	4.36	4.66	-0.30	4.05	4.43	-0.39
	20	4.06	4.16	-0.10	4.21	4.72	-0.51	4.07	4.41	-0.34
	21	4.19	4.23	-0.04	4.18	4.61	-0.43	4.16	4.48	-0.32
	22	4.17	3.89	0.28	4.21	4.45	-0.24	4.10	4.43	-0.33
サービス	24	4.47	4.79	-0.32	4.42	4.72	-0.30	4.22	4.45	-0.23
	25	4.33	4.47	-0.14	4.15	4.58	-0.43	4.16	4.31	-0.15
	26	4.27	4.15	0.12	4.22	4.33	-0.11	4.14	4.29	-0.15
	27	3.84	3.36	0.48	3.65	3.18	0.47	3.38	2.96	0.42
	28	4.37	4.08	0.29	4.45	4.40	0.04	4.24	4.18	0.06
	29	4.38	4.17	0.21	4.45	4.40	0.06	4.36	4.20	0.17
	30	4.00	3.63	0.37	4.08	4.03	0.05	3.77	3.67	0.10
	31	3.88	3.31	0.57	4.13	3.39	0.74	3.59	3.30	0.30
	32	3.89	3.73	0.16	3.87	3.73	0.14	3.61	3.73	-0.12

3.5 北青葉山分館

3.5.1 学部学生





凡例

6. 座席数
7. 静かなスペース
8. グループ用スペース
9. 案内表示
10. 安全安心
11. モバイル環境
12. 照明・空調
13. 快適
14. バリアフリー
16. 図書
17. 電子ブック
18. 雑誌・電子ジャーナル
19. データベース
20. 学外からのアクセス
21. 資料の自力発見
22. 図書・論文の取寄
24. 開館日・時間
25. 貸出期間・冊数
26. ウェブサイト
27. SNSによる広報
28. 職員の対応が的確
29. 職員の対応が丁寧
30. 講習会・配布資料
31. 展示・イベント
32. グローバル化対応

A. 施設・設備

・[7]静かなスペースの重要度が高く(4.71)、満足度も高い(4.58)。また、満足度が高い項目は、[10]安全安心(4.38)、[11]モバイル環境(4.38)、[6]座席数(4.13)である。静かに学習ができる環境として利用者のニーズを満たしていることが分かる。

・重要度が高く、満足度とのキャップが大きい項目は、[12]照明・空調(-0.46)と[13]快適(-0.38)であり、室内の明るさや温度の点から快適な環境とは言い難いことが分かる。

B. 資料・情報

・総じて重要度より満足度が下回る項目が多い結果となり、資料の充実を求める要望が高いことが分かる。特にギャップが大きい項目は、[22]図書・論文の取寄(-0.57)、[16]図書(-0.50)である。

・[16]図書については、選書イベントの実施や学生リクエスト図書の購入によって、一定の満足度(4.21)が得られていると考えられるが、より一層、学生用図書リクエストサービスの周知及び選書イベントの企画・実施に注力が必要である。

・[22]図書・論文の取寄サービスについては、大学院生の満足度と比較すると、学部学生のサービスに対する認知度が低いと考えられるため、オリエンテーションや講習会などで積極的に広報していく必要がある。

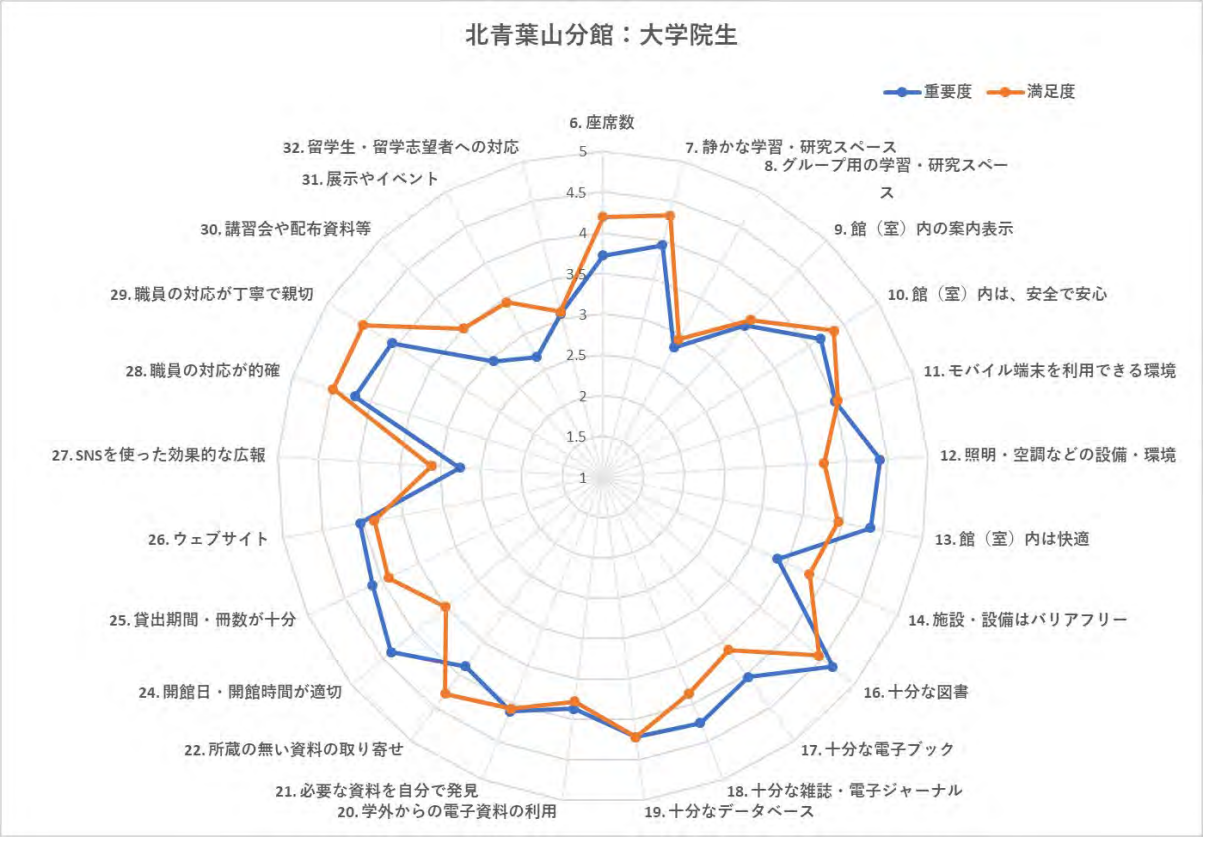
C. サービス

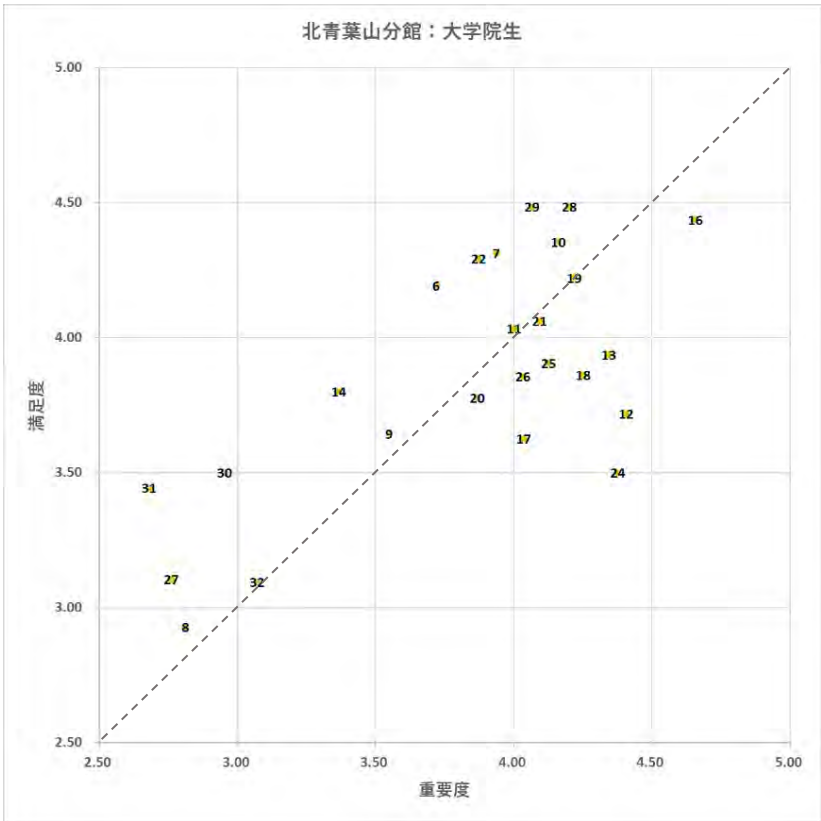
・[24]開館日・時間は重要度が高く(4.63)、満足度とのギャップが大きい(-1.04)。自由記述にも、改修工事により、平日の早朝・夜間や土日に最寄りの図書館が利用できないことに対しての不満の声が多数寄せられた。

・満足度が高い項目は、[29]職員の対応が丁寧(4.36)、[28]職員の対応が的確(4.18)、[25]貸出期間・冊数(4.08)などである。

・ギャップが大きい項目は、[27]SNSによる広報(0.62)、[31]展示・イベント(0.57)である。

3.5.2 大学院生





凡例

6. 座席数
7. 静かなスペース
8. グループ用スペース
9. 案内表示
10. 安全安心
11. モバイル環境
12. 照明・空調
13. 快適
14. バリアフリー
16. 図書
17. 電子ブック
18. 雑誌・電子ジャーナル
19. データベース
20. 学外からのアクセス
21. 資料の自力発見
22. 図書・論文の取寄
24. 開館日・時間
25. 貸出期間・冊数
26. ウェブサイト
27. SNSによる広報
28. 職員の対応が的確
29. 職員の対応が丁寧
30. 講習会・配布資料
31. 展示・イベント
32. グローバル化対応

A. 施設・設備

・[10]安全安心は重要度が高く(4.16)、満足度も高い(4.35)。また、重要度より満足度が大きく上回っている項目は、[6]座席数(ギャップ0.47)、[14]バリアフリー(ギャップ0.43)、[7]静かなスペース(ギャップ0.38)である。自由記述にも静かで落ち着いた雰囲気が保たれているとの意見があった。

・重要度が高く、満足度とのキャップが大きい項目は[12]照明・空調(-0.69)、[13]快適(-0.41)である。自由記述には館内の寒さ、トイレの汚さ、コンセントの不足など関する意見が複数寄せられた。

・学部学生との重要度と比較すると、全体的に施設・設備に関するニーズは低めとなっていることがわかる。

B. 資料・情報

・[16]図書は重要度が高く(4.66)、満足度も高い(4.44)。自由記述には、学生リクエストに迅速に対応しているとの意見があった。

・満足度が重要度より大きく下回っている項目は、[17]電子ブック(ギャップ-0.41)である。今後は、専門書の電子ブックについても整備に注力していく必要がある。

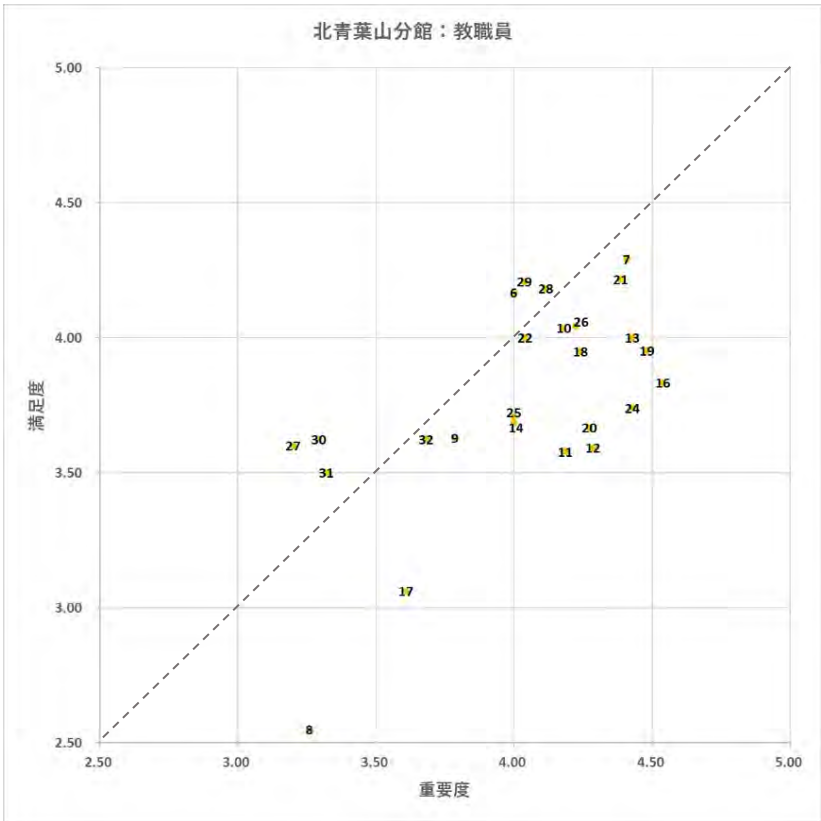
・重要度より満足度が大きく上回っている項目は、[22]図書・論文の取寄(ギャップ0.42)である。オリエンテーションなどを通して、大学院生に対しては広く取寄せサービスを周知できていると考えられる。

C. サービス

・満足度が重要度より大きく下回っている項目は、[24]開館日・時間(ギャップ-0.88)である。

・重要度より満足度が大きく上回っている項目は、[31]展示・イベント(ギャップ0.76)、[30]講習会・配布資料(ギャップ0.55)である。ここ数年は院生向けの講習会は行っていなかったので、新入生オリエンテーションで配布している簡易の利用案内が評価を得られているのではないかと考えられる。

3.5.3 教職員



凡例

6. 座席数
7. 静かなスペース
8. グループ用スペース
9. 案内表示
10. 安全安心
11. モバイル環境
12. 照明・空調
13. 快適
14. バリアフリー
16. 図書
17. 電子ブック
18. 雑誌・電子ジャーナル
19. データベース
20. 学外からのアクセス
21. 資料の自力発見
22. 図書・論文の取寄
24. 開館日・時間
25. 貸出期間・冊数
26. ウェブサイト
27. SNSによる広報
28. 職員の対応が的確
29. 職員の対応が丁寧
30. 講習会・配布資料
31. 展示・イベント
32. グローバル化対応

A. 施設・設備

・総じて重要度より満足度が下回っている項目が多い結果となった。特にギャップが大きい項目は、[12]照明・空調(-0.69)、[11]モバイル環境(-0.61)、[13]快適(-0.43)である。

・学部学生や大学院生と比べて教職員の満足度が全体的に低い要因としては、あまり図書館を利用する機会が無いからではないかと考えられる。教職員に対しても積極的な広報が必要である。

・[7]静かなスペースは重要度が高く(4.41)、満足度も高い(4.29)。他に満足度が高い項目は、[6]座席数(4.17)である。

・[8]グループ用スペースは重要度も満足度も低いが、ギャップが最大値(-0.71)であることから、グループ用スペースの充実を求めていることがわかる。

B. 資料・情報

・総じて重要度より満足度が下回っている項目が多い結果となった。特にギャップが大きい項目は、[16]図書(-0.71)、[20]学外からのアクセス(-0.61)である。自由記述には、一部のデータベースがVPN対応しておらず不便であるという意見があった。

・[16]図書については、学部学生や大学院生と比べて満足度が最も低い結果となった。需要の把握や選定方法などを検討する必要がある。

・満足度が高い項目は、[21]資料の自力発見(4.22)、[22]図書・論文の取寄(4.00)である。

C. サービス

・満足度が重要度より大きく下回っている項目は、[24]開館日・時間(ギャップ-0.69)である。

・満足度が高い項目は、[29]職員の対応が丁寧(4.21)、[26]ウェブサイト(4.04)である。

・満足度が重要度より大きく上回っている項目は、[27]SNSによる広報(ギャップ0.40)、[30]講習会・配布資料(ギャップ0.33)である。

3.5.4 まとめ

A. 施設・設備

・静かな学習環境としては全体的に高評価を得られている。座席数の満足度も高い。一方で、グループ用のスペースについては、全体的に重要度・満足度は低いが、自由記述には、複数人で学習できるスペースやオンライン会議が可能なスペースに関する要望があるので、そういったスペースの充実も図っていく必要がある。

・建物の老朽化により快適性といった面では全体的に満足度が低いが、改修工事により、室内環境の改善を図ることができると考えている。

B. 資料・情報

・全体的に図書についての重要度が高く、学部学生と大学院生の満足度は高いが、教職員の満足度は低い。継続して学生用図書の充実を図っていくとともに、研究用の専門書の選定にも注力が必要である。

・電子ブックについては全体的に重要度が低いが、ギャップが大きいので、利用者のニーズに合った選定を行い、広くアピールしていくことが重要であると考える。

C. サービス

・開館日・時間については、全体的にギャップが大きく、自由記述にも時間外利用の希望についての意見が多数寄せられた。改修工事後はできる限り早急に時間外利用を再開させる予定である。

・職員の対応については全体的に満足度が高く、今後もサービス品質の維持と向上を目指していく。

・全体的に満足度の高かった展示・イベント、SNSによる広報、講習会などは、より魅力的なものとなるよう継続して実施していく。

D. コロナ対応

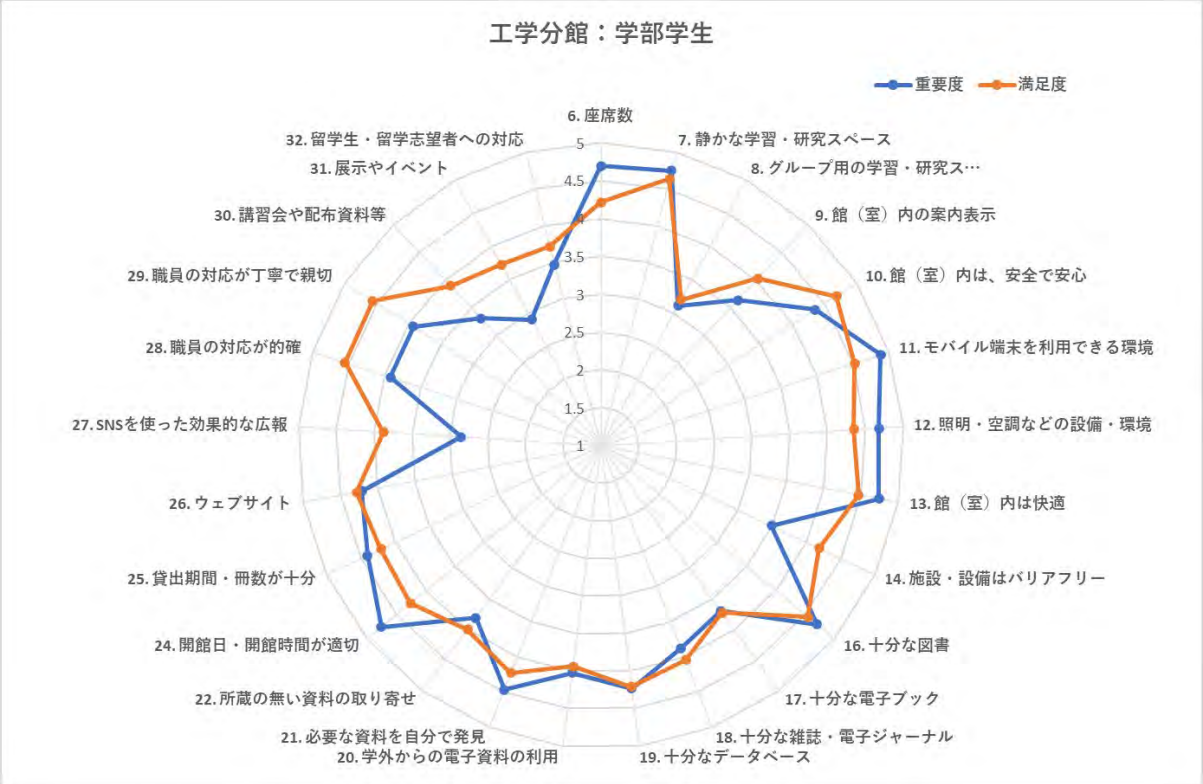
・ソーシャルディスタンスの確保などをはじめ必要な対策をとっているという意見が多くあった。一方で、館内でのコロナ対策状況が分からず図書館の利用に不安を感じているとの意見もあった。学内の対応方針に基づき、今後の対応を考え、広く広報することが必要である。

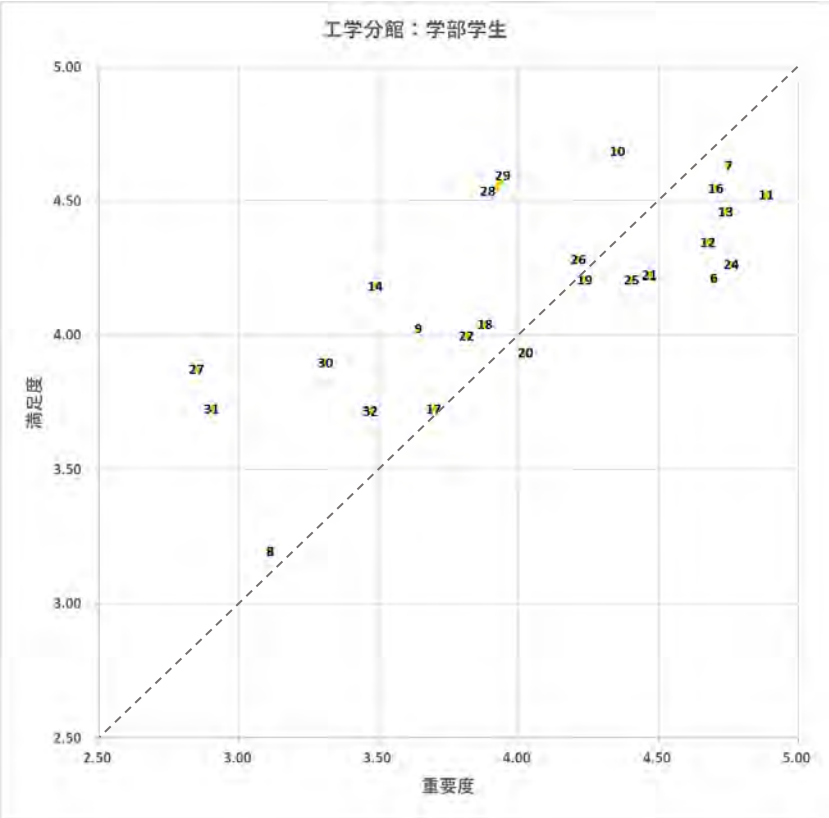
北青葉山分館(改修前)　アンケート集計表

	設問	学部学生			大学院生			教職員		
		満足度	重要度	差	満足度	重要度	差	満足度	重要度	差
施設・設備	6	4.13	4.38	-0.25	4.19	3.72	0.47	4.17	4.00	0.17
	7	4.58	4.71	-0.13	4.31	3.94	0.38	4.29	4.41	-0.12
	8	2.96	2.88	0.08	2.93	2.81	0.12	2.55	3.26	-0.71
	9	3.83	3.58	0.24	3.65	3.55	0.10	3.63	3.79	-0.16
	10	4.38	4.13	0.25	4.35	4.16	0.19	4.04	4.18	-0.14
	11	4.38	4.50	-0.13	4.03	4.00	0.03	3.58	4.19	-0.61
	12	4.00	4.46	-0.46	3.72	4.41	-0.69	3.59	4.29	-0.69
	13	3.96	4.33	-0.38	3.94	4.34	-0.41	4.00	4.43	-0.43
	14	3.81	3.57	0.24	3.80	3.37	0.43	3.68	4.00	-0.32
資料・情報	16	4.21	4.71	-0.50	4.44	4.66	-0.22	3.83	4.54	-0.71
	17	3.35	3.80	-0.45	3.63	4.03	-0.41	3.06	3.61	-0.55
	18	3.65	4.09	-0.44	3.86	4.25	-0.39	3.95	4.24	-0.29
	19	3.84	4.09	-0.25	4.22	4.22	0.00	3.95	4.48	-0.53
	20	3.65	3.86	-0.21	3.78	3.87	-0.09	3.67	4.27	-0.61
	21	4.00	4.00	0.00	4.06	4.09	-0.03	4.22	4.38	-0.17
	22	3.53	4.11	-0.57	4.29	3.87	0.42	4.00	4.04	-0.04
サービス	24	3.58	4.63	-1.04	3.50	4.38	-0.88	3.74	4.43	-0.69
	25	4.08	4.04	0.04	3.91	4.13	-0.22	3.71	4.00	-0.29
	26	3.86	3.74	0.12	3.86	4.03	-0.18	4.04	4.22	-0.18
	27	3.41	2.79	0.62	3.11	2.76	0.35	3.60	3.20	0.40
	28	4.18	3.87	0.31	4.48	4.20	0.28	4.18	4.12	0.07
	29	4.36	3.96	0.41	4.48	4.06	0.42	4.21	4.04	0.17
	30	3.33	3.11	0.23	3.50	2.95	0.55	3.63	3.29	0.33
	31	3.47	2.90	0.57	3.44	2.68	0.76	3.50	3.32	0.18
	32	3.63	3.67	-0.04	3.10	3.07	0.02	3.63	3.68	-0.06

3.6 工学分館

3.6.1 学部学生





凡例

6. 座席数
7. 静かなスペース
8. グループ用スペース
9. 案内表示
10. 安全安心
11. モバイル環境
12. 照明・空調
13. 快適
14. バリアフリー
16. 図書
17. 電子ブック
18. 雑誌・電子ジャーナル
19. データベース
20. 学外からのアクセス
21. 資料の自力発見
22. 図書・論文の取寄
24. 開館日・時間
25. 貸出期間・冊数
26. ウェブサイト
27. SNSによる広報
28. 職員の対応が的確
29. 職員の対応が丁寧
30. 講習会・配布資料
31. 展示・イベント
32. グローバル化対応

A. 施設・設備

・重要度が最も高いのは[11]モバイル環境で(4.89)、満足度も高い(4.53)。次いで重要度が高いのは[7]静かなスペースで(4.75)、満足度も高い(4.64)。持込みのモバイル端末を利用しながら静かに集中して学習するスペースの提供が求められており、そのニーズをおおむね満たしている。一方で、自由記述ではWi-Fi環境が悪い、モバイル端末を充電するための電源不十分といった声があり、今後も本学が推進するBYODに対応していく必要がある。

・[8]グループ学習の重要度は低いが(3.11)、自由記述ではグループ利用の再開を望む声が多いためニーズはあると考えられる。

・[6]座席数は重要度が高い(4.70)ものの、満足度とのギャップが大きい(-0.48)。自由記述では、コロナ禍に伴う座席制限への不満の声があり、これが大きな要因となっていると考えられる。

・重要度より満足度が大きく上回った項目としては、[14]バリアフリー(ギャップ0.70)があり、他に[9]案内表示(ギャップ0.39)、[10]安全安心(ギャップ0.33)がある。自由記述でも、消毒液の設置や座席間の距離の確保等によるコロナ対応や換気等の館内環境に対する好意的な意見が多く寄せられた。

B. 資料・情報

・重要度が最も高いのは[16]図書(4.71)で満足度も高い(4.55)。自由記述では資料が充実しているとの意見が多くあった。他の項目もギャップが小さくおおむねニーズを満たしているといえる。一方で件数は少ないながらも一般教養の図書も取り揃えて欲しいとの自由記述があり、引き続き学部学生が使用する学習用図書の整備が必要である。

C. サービス

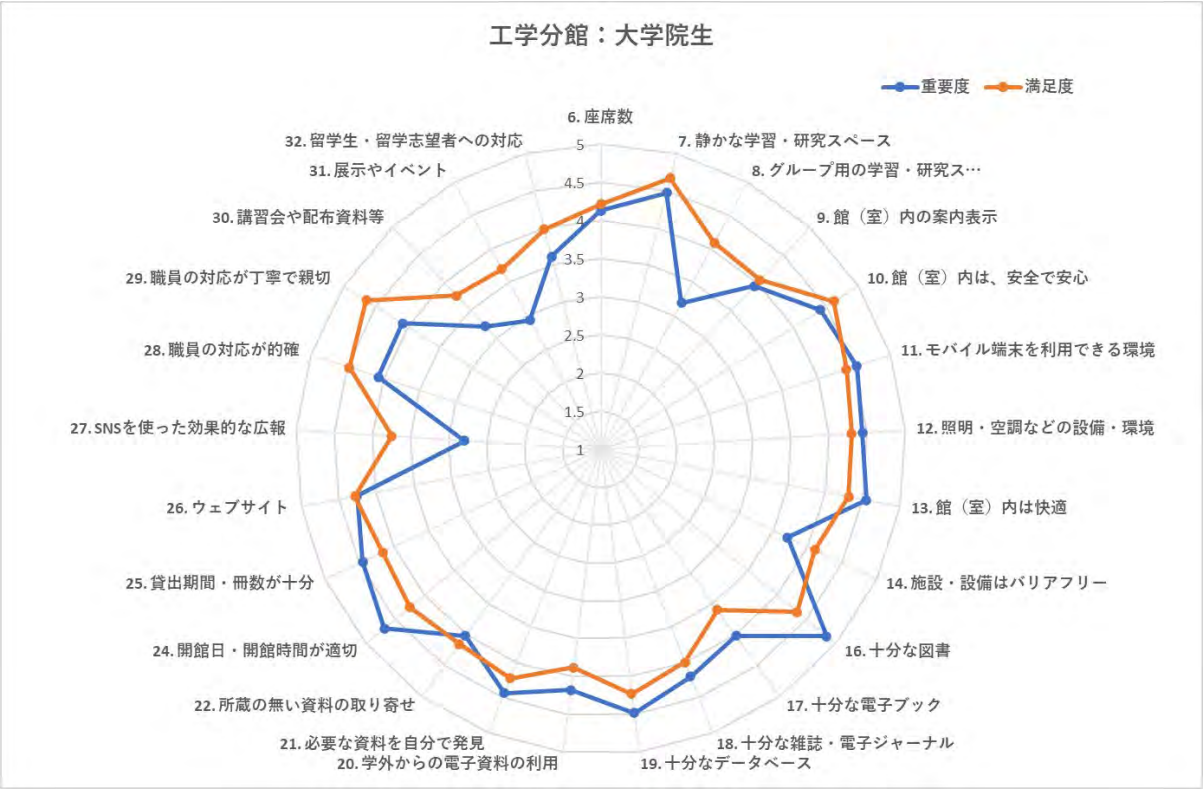
・[24]開館日・時間の重要度が高く(4.76)、ギャップが大きい(-0.49)。自由記述でも、24時間開館や土日祝日の利用時間拡大の意見が多かった。

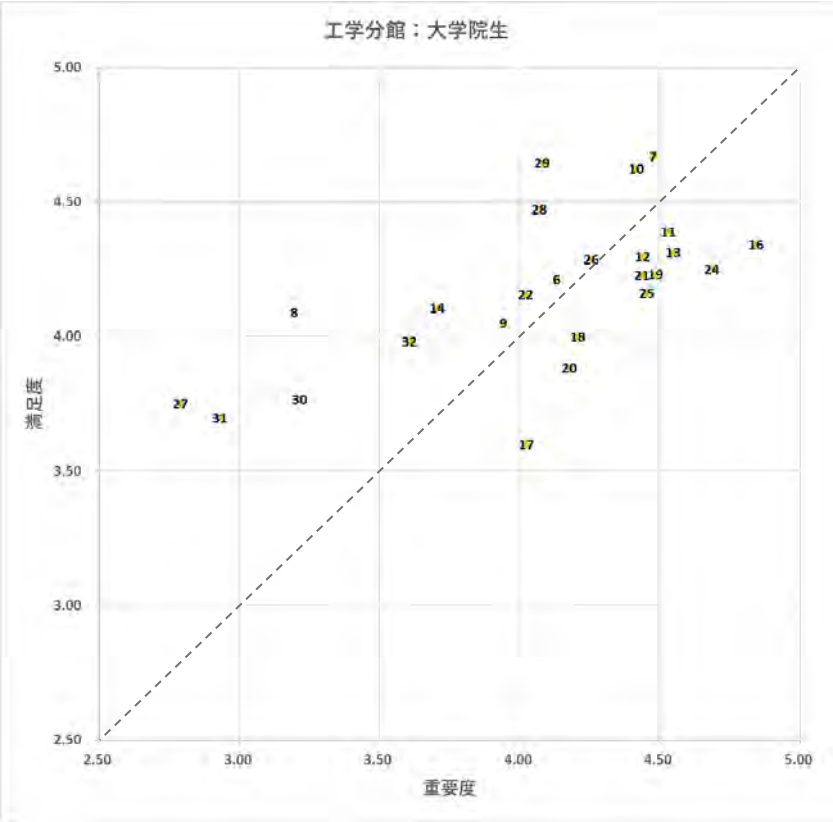
・重要度は低いが満足度が大きく上回ったものとして、[27]SNSによる広報(ギャップ1.03)、[31]展示・イベント(ギャップ0.82)がある。工学分館独自の公式アカウントによるツイートや、折々に行ってきた館内展示が一定の評価を得ていると考えられる。展示については少数だが定期的な開催を望む声があった。コロナ禍になってから展示の機会が減少したことによるものと考えられ、利用者と資料をつなぐ機会の一つとして継続していく必要がある。

・次いで重要度より満足度が上回ったものとして、[29]職員の対応が丁寧(ギャップ0.64)と[28]職員の対応が的確(ギャップ0.63)がある。自由記述でも好意的な意見が多かった。

・自由記述では、利用の仕方がわからないといった意見が多く、利用案内の充実が求められている。

3.6.2 大学院生





凡例

6. 座席数
7. 静かなスペース
8. グループ用スペース
9. 案内表示
10. 安全安心
11. モバイル環境
12. 照明・空調
13. 快適
14. バリアフリー
16. 図書
17. 電子ブック
18. 雑誌・電子ジャーナル
19. データベース
20. 学外からのアクセス
21. 資料の自力発見
22. 図書・論文の取寄
24. 開館日・時間
25. 貸出期間・冊数
26. ウェブサイト
27. SNSによる広報
28. 職員の対応が的確
29. 職員の対応が丁寧
30. 講習会・配布資料
31. 展示・イベント
32. グローバル化対応

A. 施設・設備

・重要度が最も高いのは[13]快適で(4.55)満足度も高い(4.31)。次いで高いのは[11]モバイル環境(4.53)だが満足度が低い(ギャップ-0.14)。自由記述でもWi-Fi環境や電源に関する問題点が指摘されている。[7]静かなスペースは重要度が高く(4.48)満足度も高い(4.67)。[8]グループ学習の重要度は低く(3.19)満足度が大きく上回っている(ギャップ0.90)。静かで快適な環境の提供が求められておりおおむねニーズを満たしているが、BYOD対応に課題があり改善が必要である。

・他に重要度より満足度が上回っている項目としては[14]バリアフリー(ギャップ0.40)、[10]安心安全(ギャップ0.21)などがある。自由記述でも、消毒液や空気清浄機の設置、換気等のコロナ対応を評価する意見が寄せられた。

B. 資料・情報

・他の項目に比べて資料についてはギャップが大きい。最も大きいのは[16]図書(-0.50)で重要度も高(4.84)く、次いで[17]電子ブック(-0.42)となっている。自由記述では一般教養や建築・アート系の図書も取り揃えて欲しいとの声もあった。専門的な資料を中心に図書の充実が必要である。

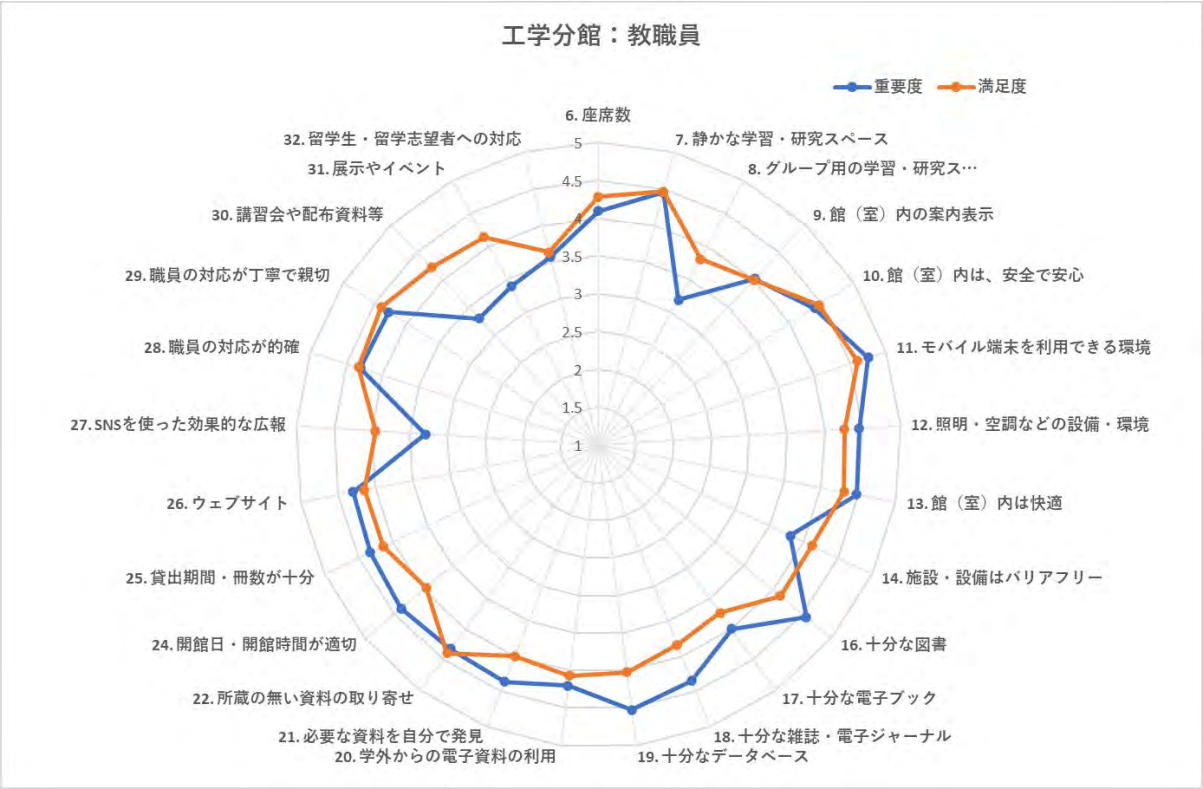
・重要度より満足度が上回った項目は[22]取り寄せ(ギャップ0.13)である。一方で自由記述では取寄せを利用したことがないといったコメントが何件かあったため、サービス案内を充実させていく必要がある。

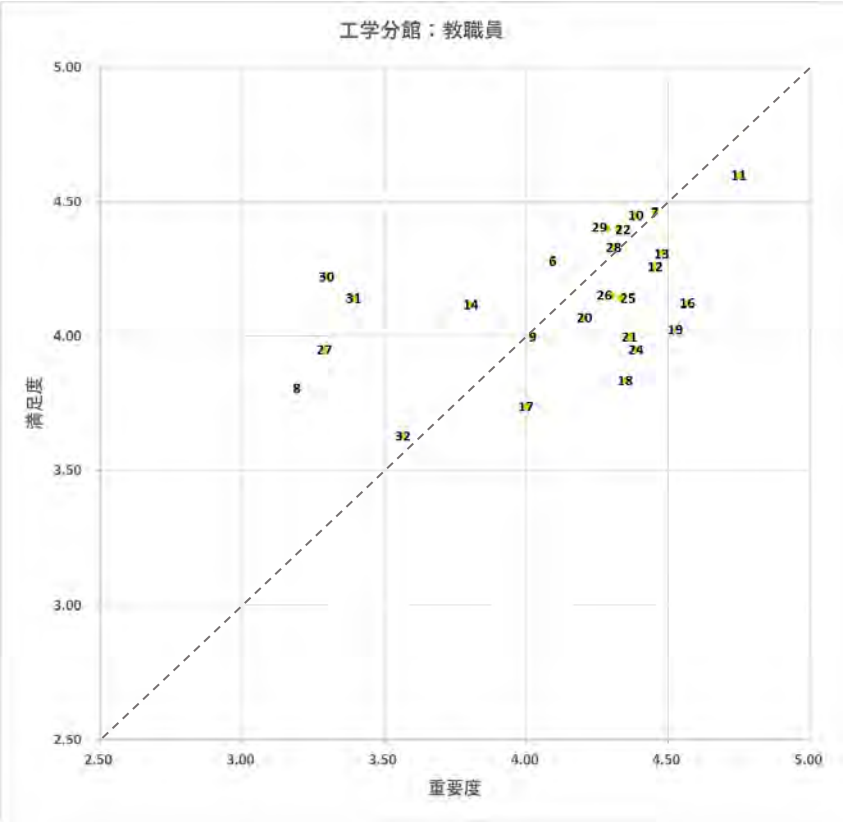
C. サービス

・学部学生と同様に[24]開館日・時間の重要度が高く(4.69)、ギャップが大きい(-0.44)。

・重要度より満足度が上回ったのは、[27]SNSによる広報(ギャップ0.96)、[31]展示・イベント(ギャップ0.77)、[29]職員の対応が丁寧(ギャップ0.56)と[28]職員の対応が的確(ギャップ0.55)である。

3.6.3 教職員





凡例

6. 座席数
7. 静かなスペース
8. グループ用スペース
9. 案内表示
10. 安全安心
11. モバイル環境
12. 照明・空調
13. 快適
14. バリアフリー
16. 図書
17. 電子ブック
18. 雑誌・電子ジャーナル
19. データベース
20. 学外からのアクセス
21. 資料の自力発見
22. 図書・論文の取寄
24. 開館日・時間
25. 貸出期間・冊数
26. ウェブサイト
27. SNSによる広報
28. 職員の対応が的確
29. 職員の対応が丁寧
30. 講習会・配布資料
31. 展示・イベント
32. グローバル化対応

A. 施設・設備

・重要度が最も高いのは[11]モバイル端末で(4.75)、次いで高いのは[13]快適(4.48)である。

・ギャップがあるのは[12]照明・空調(-0.19)、[13]快適(-0.17)。自由記述でも館内が少し暗い、冬は寒いといった意見があった。

・重要度より満足度が上回った項目は[8]グループ学習(ギャップ0.62)、[14]バリアフリー(ギャップ0.31)などがある。

B. 資料・情報

・学部学生、大学院生と比較して資料に関するギャップが大きい。ギャップが最も大きいのは[18]雑誌で(-0.51)、次いで大きいのは[19]データベース(-0.50)。自由記述でも電子ジャーナルの充実に関する要望があり、必要なジャーナルの整備に課題があることが伺える。

・重要度より満足度が上回った項目は[22]取り寄せ(ギャップ0.08)である。

C. サービス

・[24]開館日・時間の重要度が高く(4.39)ギャップが大きい(-0.43)。次いで高いのは[25]貸出期間・冊数(4.33)(ギャップ-0.19)、[26]ウェブサイト(4.30)(ギャップ-0.15)である。自由記述でも貸出期間が短いとの意見があった。

・重要度より満足度が上回った項目は、[30]講習会・配布資料(ギャップ0.92)、[31]展示・イベント(ギャップ0.75)である。工学分館が行っている図書館の使い方や論文の探し方等のリーフレット・小冊子の配布が、一定の評価を得ていると考えられる。

3.6.4 まとめ

A. 施設・設備

・静かで快適な環境が求められているが、快適さについては満足度が低い。空調改修工事や照明のLED化工事等を行ってきているが、建物老朽化による弊害が見受けられるため対策が必要である。

・モバイル端末の利用環境に対する重要度が高く満足度が低い。Wi-Fi環境及び電源環境の整備を行ってきてはいるが、自由記述でも不十分な点の指摘があり、また技術の進歩に伴う要求の高度化へ対応するため、引き続き対応が必要である。

B. 資料・情報

・資料については他の項目に比べて全体的に満足度が低く、特に大学院生の図書と電子ブック、教職員の図書と雑誌の満足度が低い。

・専門書や電子ブックについてはニーズの把握や選定方針の検討が必要であり、電子ジャーナルについては、必要なジャーナルの整備が課題である。

・学部学生向けについても引き続き学習用図書の整備が必要である。

C. サービス

・開館時間に対する満足度が低く、特に土日祝日の開館時間延長の要望が多かった。現在は9:00-20:00となっているが、2023年4月から平日と同じ7:00-24:00へ延長する方向で検討中である。

・職員対応については満足度が高く、引き続き対応マニュアルの整備を行いながら資質向上を目指していく。

・SNSによる広報と展示・イベントは、ギャップが大きいことから一定の評価が得られていると考えられるが重要度が低い。SNSは広報手段の一つとして、展示・イベントも図書と利用者をつなぐサービスの一つとして捉えて、今後も継続して取り組んでいく。

D. コロナ対応

・消毒液の設置や入館時の検温、座席の間引き、換気など適切な対策がとられており安心という意見がある一方で、一時閉鎖状態となったことについては過剰であるとの意見があった。

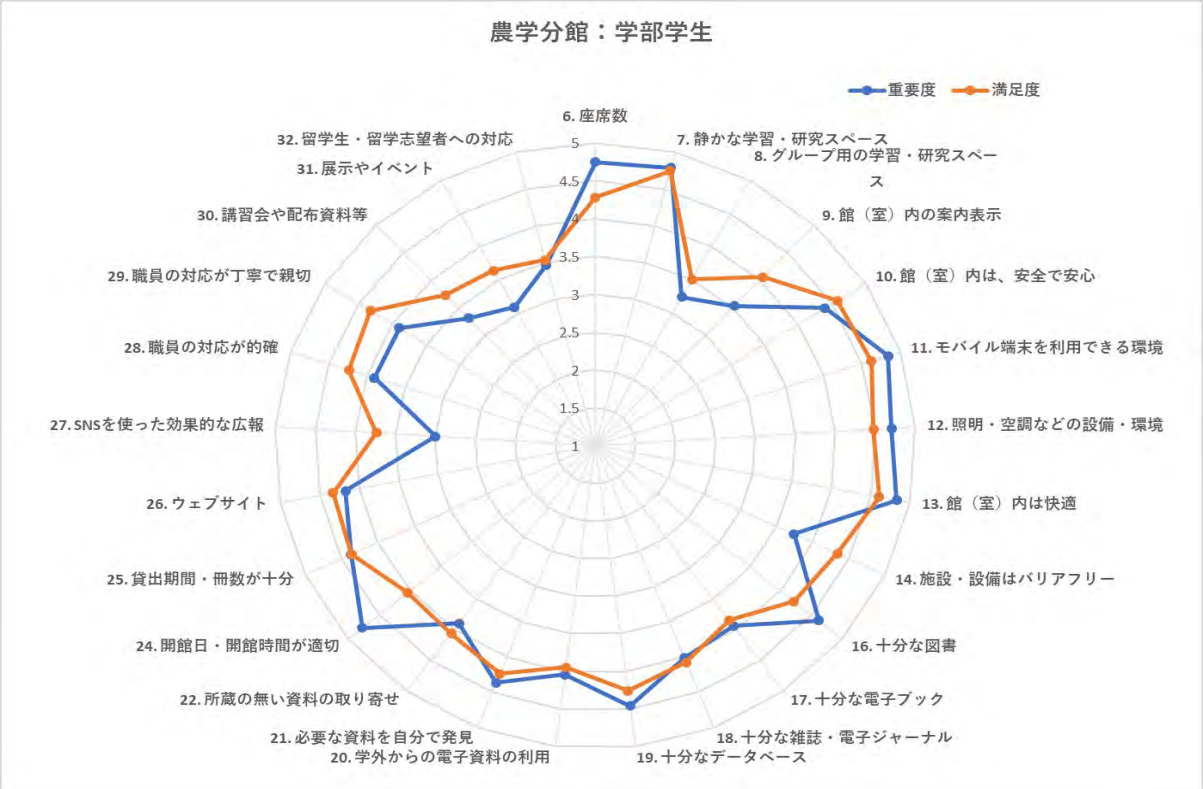
・さらに拡大した場合でも全面禁止ではなく部分的に使用できるような対応を望む声もあり、今後、利便性も考慮しながら対応していく必要がある。

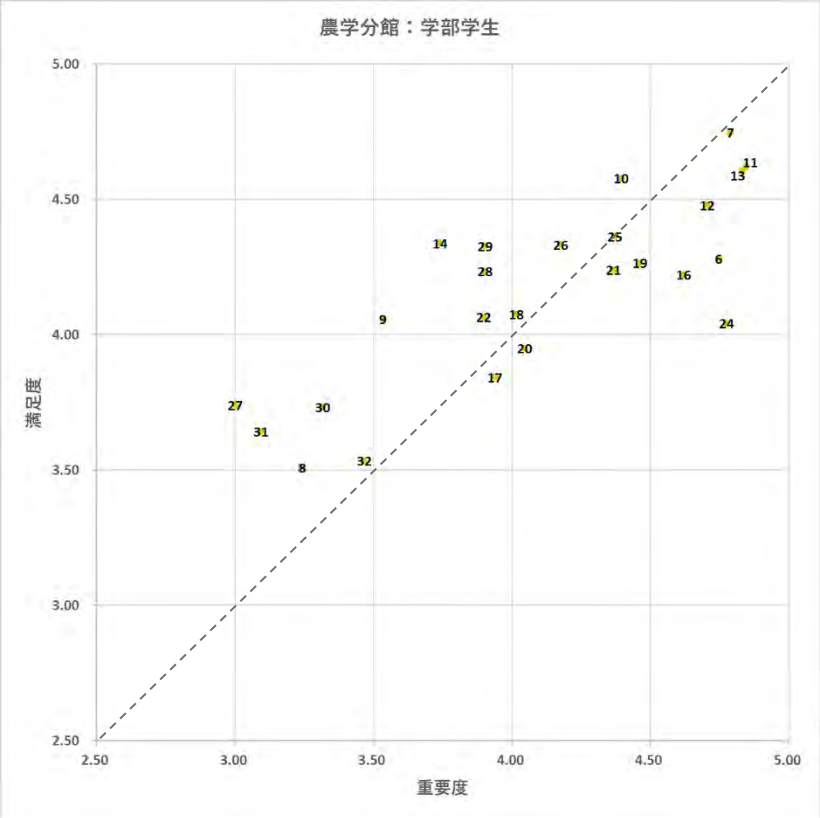
工学分館　アンケート集計表

	設問	学部学生			大学院生			教職員		
		満足度	重要度	差	満足度	重要度	差	満足度	重要度	差
施設・設備	6	4.21	4.70	-0.48	4.21	4.13	0.08	4.28	4.09	0.19
	7	4.64	4.75	-0.11	4.67	4.48	0.19	4.46	4.45	0.01
	8	3.20	3.11	0.09	4.09	3.19	0.90	3.81	3.19	0.62
	9	4.03	3.64	0.39	4.05	3.94	0.11	4.00	4.02	-0.02
	10	4.69	4.35	0.33	4.62	4.42	0.21	4.45	4.39	0.07
	11	4.53	4.89	-0.36	4.39	4.53	-0.14	4.60	4.75	-0.15
	12	4.35	4.68	-0.33	4.30	4.44	-0.14	4.26	4.45	-0.19
	13	4.46	4.74	-0.28	4.31	4.55	-0.24	4.31	4.48	-0.17
	14	4.18	3.49	0.70	4.11	3.71	0.40	4.12	3.81	0.31
資料・情報	16	4.55	4.71	-0.15	4.34	4.84	-0.50	4.13	4.57	-0.44
	17	3.73	3.70	0.03	3.60	4.02	-0.42	3.74	4.00	-0.26
	18	4.04	3.88	0.16	4.00	4.21	-0.21	3.84	4.35	-0.51
	19	4.21	4.24	-0.03	4.23	4.48	-0.25	4.03	4.53	-0.50
	20	3.94	4.02	-0.09	3.88	4.18	-0.29	4.07	4.21	-0.13
	21	4.23	4.47	-0.24	4.23	4.44	-0.21	4.00	4.36	-0.36
	22	4.00	3.81	0.19	4.16	4.02	0.13	4.40	4.33	0.08
サービス	24	4.27	4.76	-0.49	4.25	4.69	-0.44	3.95	4.39	-0.43
	25	4.21	4.40	-0.20	4.16	4.45	-0.29	4.14	4.33	-0.19
	26	4.28	4.21	0.07	4.29	4.26	0.03	4.15	4.30	-0.15
	27	3.88	2.85	1.03	3.75	2.79	0.96	3.95	3.29	0.66
	28	4.55	3.92	0.63	4.47	4.07	0.40	4.33	4.31	0.02
	29	4.57	3.93	0.64	4.65	4.08	0.56	4.40	4.29	0.11
	30	3.90	3.31	0.59	3.77	3.22	0.55	4.22	3.30	0.92
	31	3.73	2.90	0.82	3.70	2.93	0.77	4.14	3.39	0.75
	32	3.72	3.47	0.25	3.98	3.61	0.37	3.63	3.57	0.06

3.7 農学分館

3.7.1 学部学生





凡例

6. 座席数
7. 静かなスペース
8. グループ用スペース
9. 案内表示
10. 安全安心
11. モバイル環境
12. 照明・空調
13. 快適
14. バリアフリー
16. 図書
17. 電子ブック
18. 雑誌・電子ジャーナル
19. データベース
20. 学外からのアクセス
21. 資料の自力発見
22. 図書・論文の取寄
24. 開館日・時間
25. 貸出期間・冊数
26. ウェブサイト
27. SNSによる広報
28. 職員の対応が的確
29. 職員の対応が丁寧
30. 講習会・配布資料
31. 展示・イベント
32. グローバル化対応

A. 施設・設備

・[11]モバイル環境の重要度が最も高く(4.85)、満足度も高い(4.62)。また[13]快適の重要度が次いで高く(4.83)、満足度も高い(4.61)。さらに[7]静かなスペースの重要度が高く(4.79)、満足度も高い(4.75)。オンライン環境が整備された静かで集中して学習できる「場所」としてのスペースが求められており、そのニーズをおおむね満たしているが、今後も整備に努める必要がある。

・[6]座席数の重要度が高く(4.75)、満足度とのギャップが大きい(-0.46)。これは農学部の学生の回答が最も大きく(-0.60)、2022年3月に発生した福島県沖地震を受けての座席制限によるものと思われる。同年10月に修復工事は完了しており、今後の利用状況を確認し、対応を検討したい。

・他に満足度が高い項目として[10]安全安心(4.58)、[12]照明・空調(4.48)があり、使い勝手の良い学習スペースとして利用されている。

・重要度より満足度が大きく上回っている項目としては、[14]バリアフリー(ギャップ0.60)、[9]案内表示(ギャップ0.52)がある。

・自由記述では、地震後の利用制限が長かった、空調が弱いという意見や、Wi-Fi接続の安定化、閉館時の空調利用などの要望があった。

B. 資料・情報

・[16]図書の重要度が高く(4.62)、満足度とのギャップが大きい(-0.40)。これは農学部以外に所属している学生の回答に起因しており(-0.56)、農学部の学生の回答とは大きな開きがある(-0.30)。アンケートの時期が北青葉山分館の改修工事期間であったことの影響が大きかったと考えられる。学部学生が使う学習用の図書は、継続して整備することが必要であり、また他部局利用者への資料提供についても今後の検討が必要である。

・その他は総じてギャップは小さめだったが、農学部の学生についてはどの項目もギャップがマイナスとなっており、充実に努める必要がある。

・自由記述では、北青葉山分館の改修工事に関連して、理学・薬学関係の図書を置いてほしいという要望があった。

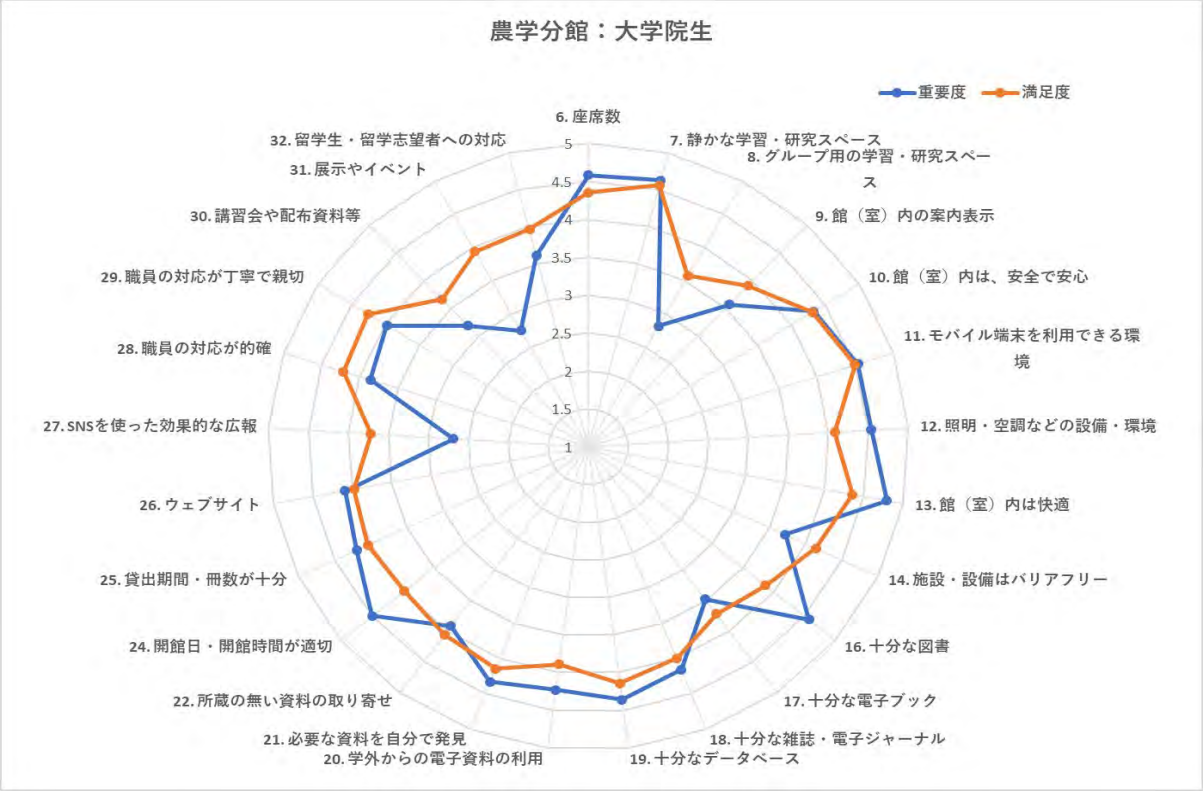
C. サービス

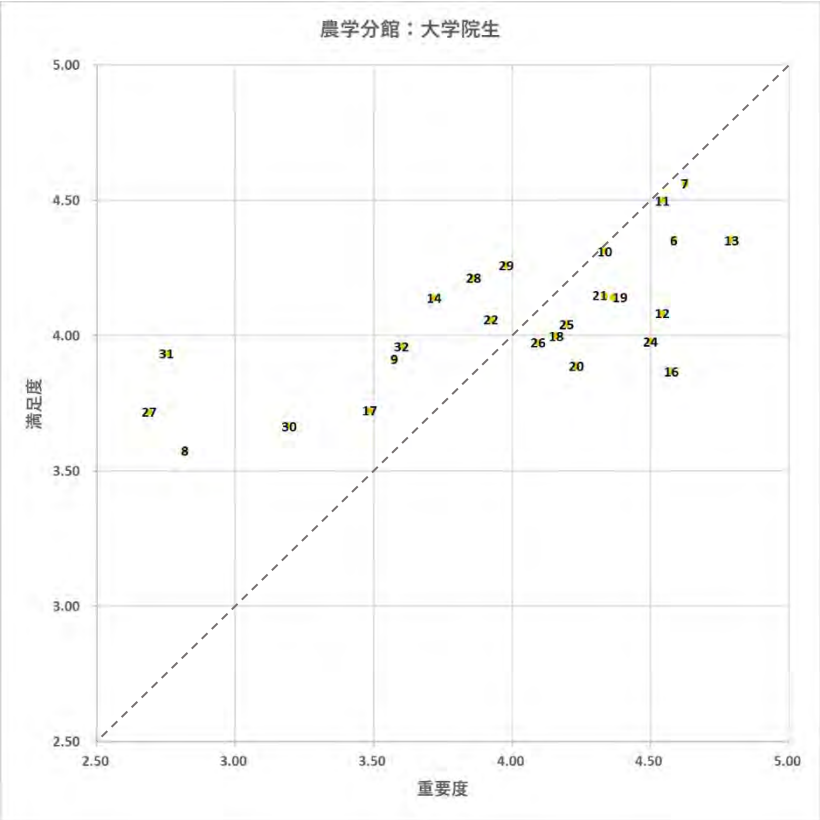
・[24]開館日・時間は重要度が高く(4.77)、満足度とのギャップが大きい(-0.73)。これは農学部以外に所属している学生の回答に起因しており(-1.25)、農学部の学生の回答とは大きな違いがある(-0.31)。北青葉山分館の改修工事のため夜間休日の利用ができなかったことの影響が大きいと思われるが、他部局利用者の割合が高い農学分館として今後の対応を検討する必要がある。

・重要度より満足度が大きく上回ったものとして、[27]SNSによる広報(ギャップ0.74)、[31]展示・イベント(ギャップ0.55)がある。公式アカウントでのツイートや、館内展示が一定の評価を得ていると考えられる。

・自由記述では、北青葉山分館の改修工事や近隣のユニバーシティハウスに関連して、他部局の学生も夜間休日の閉館時利用をさせてほしいという要望が多かった。

3.7.2 大学院生





凡例

6. 座席数
7. 静かなスペース
8. グループ用スペース
9. 案内表示
10. 安全安心
11. モバイル環境
12. 照明・空調
13. 快適
14. バリアフリー
16. 図書
17. 電子ブック
18. 雑誌・電子ジャーナル
19. データベース
20. 学外からのアクセス
21. 資料の自力発見
22. 図書・論文の取寄
24. 開館日・時間
25. 貸出期間・冊数
26. ウェブサイト
27. SNSによる広報
28. 職員の対応が的確
29. 職員の対応が丁寧
30. 講習会・配布資料
31. 展示・イベント
32. グローバル化対応

A. 施設・設備

・満足度が高いのは[7]静かなスペース(4.56)、[11]モバイル環境(4.50)、[6]十分な数の座席(4.35)、[13]快適(4.35)などである。1人で静かに利用する環境は、おおむね満足を得ている。

・重要度に比べ満足度が大きく上回ったものとして、[8]グループ用スペース(ギャップ0.76)、[14]バリアフリー(ギャップ0.42)、[9]案内表示(ギャップ0.34)がある。

・傾向は学部学生と同様だが、相対的に満足度は低くなる傾向にある。

・自由記述では、空調が弱い、Wi-Fiがつながりにくいときがある、という意見があった。

B. 資料・情報

・ギャップが大きいのは[16]図書(-0.70)、[20]学外からのアクセス(-0.34)である。特に[16]図書の満足度は学部学生と比較して低くなっており、専門的な資料の充実が必要である。

・重要度が特に高いのは[16]図書(4.57)、[19]データベース(4.36)などであり、資料の充実を求めている利用者が多いことが分かる。

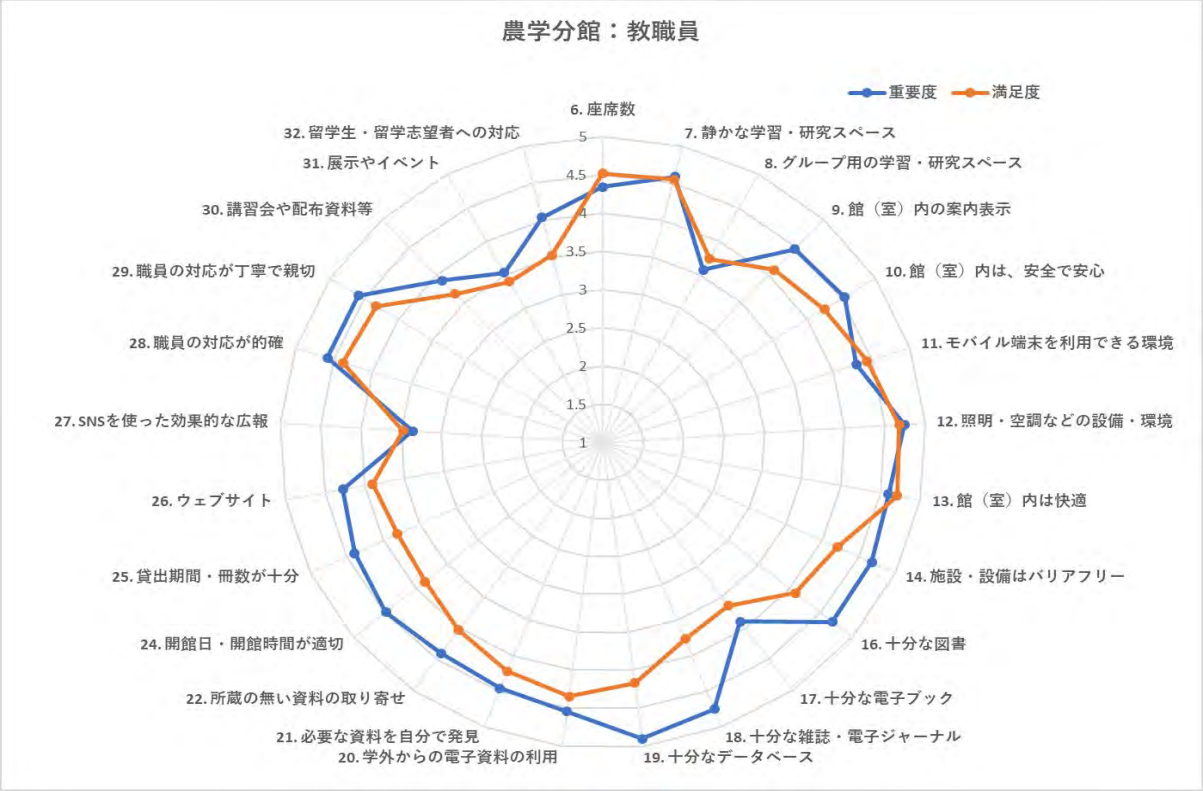
C. サービス

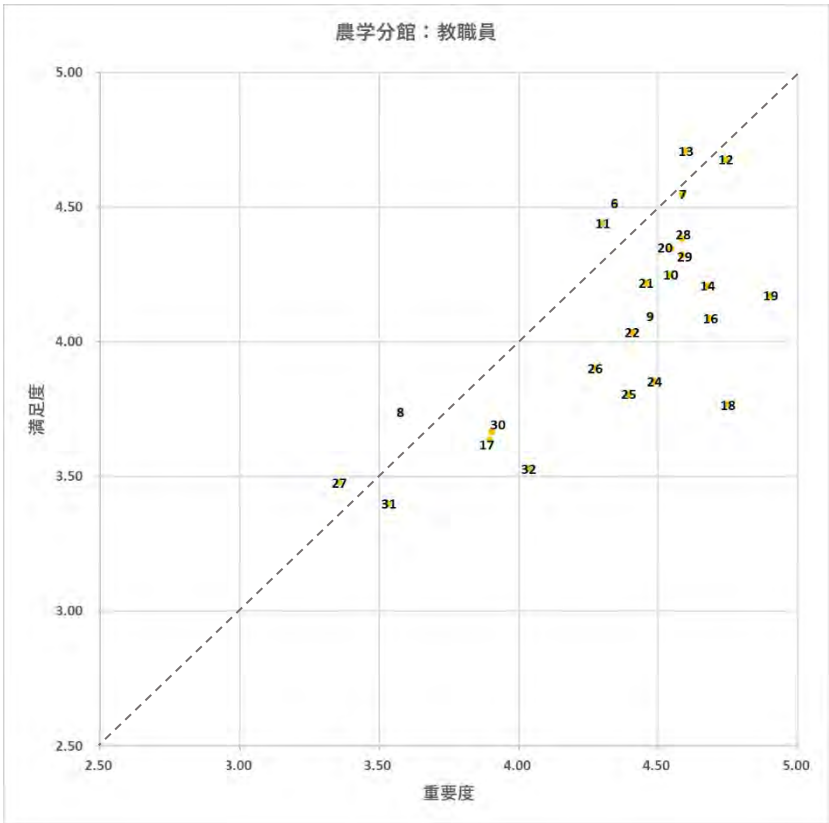
・ギャップが大きいのは[24]開館日・時間(-0.52)である。これは北青葉山分館の改修工事の影響に伴う他部局大学院生の回答が大きい(-0.65)。しかし農学研究科の大学院生も学部学生と比較して満足度が低くなっている(-0.45)。

・満足度が大きく上回ったのは[31]展示・イベント(1.19)、[27]SNSによる広報(1.03)、[30]講習会・配布資料(0.47)などである。

・自由記述では、他部局でも夜間休日の利用がしたいという意見があった。

3.7.3 教職員





凡例

6. 座席数
7. 静かなスペース
8. グループ用スペース
9. 案内表示
10. 安全安心
11. モバイル環境
12. 照明・空調
13. 快適
14. バリアフリー
16. 図書
17. 電子ブック
18. 雑誌・電子ジャーナル
19. データベース
20. 学外からのアクセス
21. 資料の自力発見
22. 図書・論文の取寄
24. 開館日・時間
25. 貸出期間・冊数
26. ウェブサイト
27. SNSによる広報
28. 職員の対応が的確
29. 職員の対応が丁寧
30. 講習会・配布資料
31. 展示・イベント
32. グローバル化対応

A. 施設・設備

・満足度が高いのは[13]快適(4.71)、[12]照明・空調(4.68)、[7]静かなスペース(4.55)、[6]座席数(4.52)などである。

・重要度が高いのが[12]照明・空調(4.74)、[14]バリアフリー(4.68)などである。特に[14]バリアフリーは学部学生(3.74)や大学院生(3.72)よりも高く、教職員がバリフリーの重要性を意識していることがわかる。

・ギャップが大きい項目は、農学研究科の教員に限ると[10]安全安心で(-0.50)ある。相次ぐ大地震被害が影響していると思われ、自由記述でも地震対策が必要という意見が多かった。今後もさらなる対策が必要である。

B. 資料・情報

・重要度が高いのは、[19]データベース(4.90)、[18]雑誌・電子ジャーナル(4.75)、[16]図書(4.69)である。

・ギャップが大きいのは[18]雑誌・電子ジャーナル(-1.05)、[16]図書(-0.64)、[19]データベース(-0.64)である。電子ジャーナルを中心とした資料の充実を求める要望が大変高いことが分かる。資料・情報で満足度が重要度を上回る項目はなく、教員が資料の充実を望んでいることがわかる。

C. サービス

・ギャップが大きかったのは[24]開館日・時間(ギャップ-0.63)、[25]貸出期間・冊数(ギャップ-0.59)、[32]グローバル化対応(ギャップ-0.50)であった。学部学生や大学院生と比較するとギャップが大きく、サービスの強化が求められていることがわかる。

・自由記述では、他館から取り寄せた資料の貸出期間が短いとの意見があった。

3.7.4 まとめ

A. 施設・設備

・2017年4月の移転開館を経て、全体的に快適な環境として満足度が高い。
・特に学部学生は、施設・設備に対する重要度・満足度が高い傾向にあり、「場所」としての快適さを求めていることがわかる。
・自由記述の中でWi-Fiが弱い、空調が弱いという意見が多く見られた。滞在型の利用に対する環境改善が必要である。
・大地震被害の影響による利用制限への自由記述も多く、さらなる対策が必要である。

B. 資料・情報

・学部学生はおおむね満足度が高いが、学習用図書は引き続き整備が必要である。また他部局利用者向けの資料整備についても検討が必要である。
・大学院生や教員は研究用の専門書や電子ジャーナルの整備が必要である。
・自由記述の中で電子ブックについてはよくわからないという意見があり、今後の周知に努める必要がある。

C. サービス

・開館日・時間についての満足度が低い。特に北青葉山分館の改修工事や近隣他部局、ユニバーシティハウス居住の利用者から、夜間休日の閉館時利用に対する要望が多かった。今後附属図書館としての対応を検討する必要がある。
・職員の対応については比較的満足度が高かった。引き続きサービス水準を高めていく必要がある。
・SNSによる広報や展示・イベントの重要度は、他の項目と比較すると低かった。一方で自由記述の中では展示に期待する声もあった。

D. コロナ対応

・座席の間隔等があり安心という意見と、過剰である、緩和すべきとの意見の双方が見られた。
・利用時間や閲覧席が制限されたことに対する苦情も多く見られた。一方で、もっと消毒してほしいという意見もあった。
・オンライン授業を館内で受講できてよかった、郵送貸出制度が良かったという意見もあった。

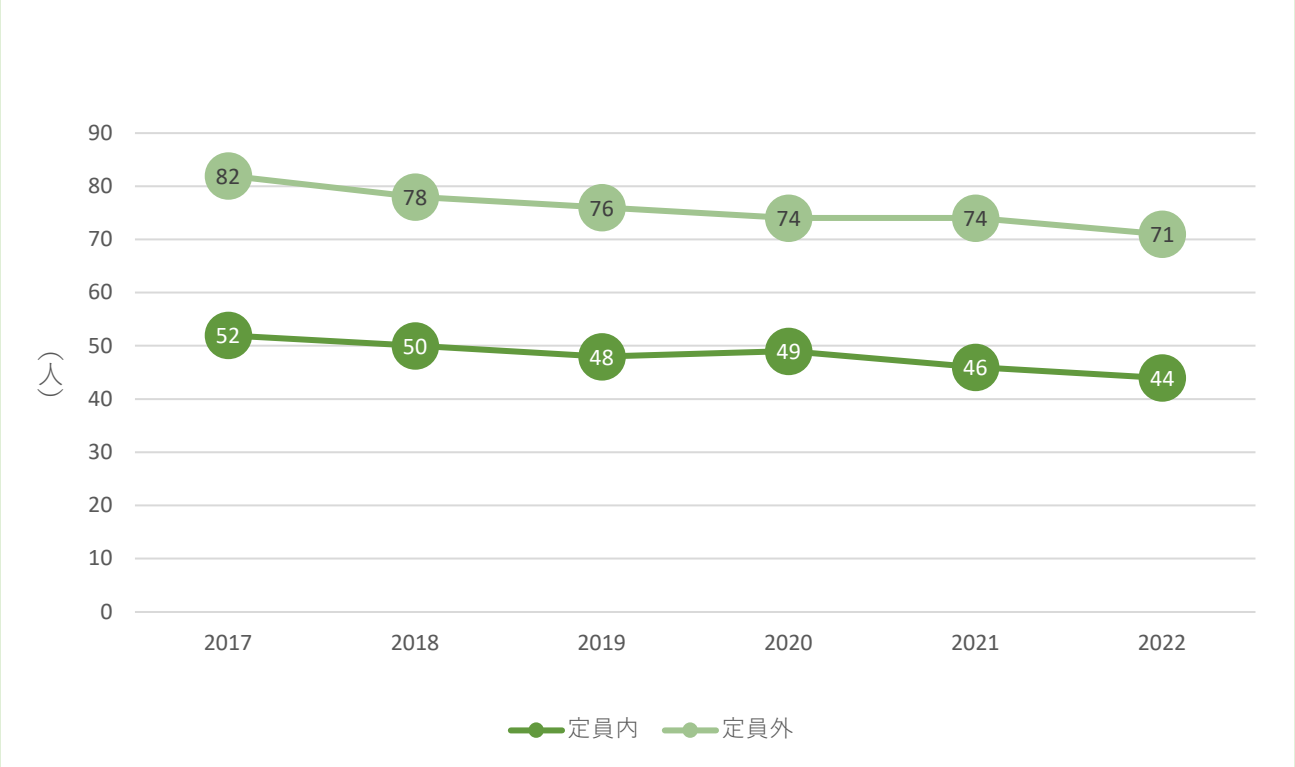
農学分館　アンケート集計表

	設問	学部学生			大学院生			教職員		
		満足度	重要度	差	満足度	重要度	差	満足度	重要度	差
施設・設備	6	4.28	4.75	-0.46	4.35	4.58	-0.23	4.52	4.34	0.17
	7	4.75	4.79	-0.04	4.56	4.63	-0.06	4.55	4.59	-0.04
	8	3.51	3.24	0.27	3.58	2.82	0.76	3.74	3.58	0.16
	9	4.06	3.54	0.52	3.91	3.57	0.34	4.10	4.47	-0.37
	10	4.58	4.39	0.18	4.31	4.33	-0.02	4.25	4.54	-0.29
	11	4.62	4.85	-0.23	4.50	4.54	-0.04	4.44	4.30	0.14
	12	4.48	4.70	-0.23	4.08	4.54	-0.46	4.68	4.74	-0.07
	13	4.61	4.83	-0.23	4.35	4.79	-0.44	4.71	4.60	0.11
	14	4.34	3.74	0.60	4.14	3.72	0.42	4.21	4.68	-0.47
資料・情報	16	4.22	4.62	-0.40	3.87	4.57	-0.70	4.09	4.69	-0.60
	17	3.84	3.94	-0.10	3.72	3.49	0.24	3.64	3.90	-0.26
	18	4.08	4.02	0.06	4.00	4.16	-0.16	3.77	4.75	-0.98
	19	4.26	4.46	-0.20	4.14	4.36	-0.22	4.17	4.90	-0.73
	20	3.95	4.05	-0.10	3.89	4.23	-0.34	4.34	4.55	-0.20
	21	4.24	4.37	-0.13	4.15	4.33	-0.19	4.22	4.46	-0.24
	22	4.07	3.90	0.17	4.06	3.92	0.14	4.04	4.41	-0.37
サービス	24	4.04	4.77	-0.73	3.98	4.50	-0.52	3.85	4.49	-0.63
	25	4.36	4.37	-0.01	4.04	4.20	-0.15	3.81	4.39	-0.59
	26	4.33	4.18	0.16	3.98	4.09	-0.12	3.90	4.27	-0.37
	27	3.74	3.00	0.74	3.72	2.69	1.03	3.48	3.36	0.12
	28	4.23	3.90	0.33	4.21	3.86	0.35	4.38	4.58	-0.20
	29	4.33	3.90	0.43	4.26	3.98	0.28	4.32	4.58	-0.26
	30	3.73	3.32	0.42	3.67	3.19	0.47	3.67	3.90	-0.24
	31	3.64	3.09	0.55	3.94	2.75	1.19	3.40	3.53	-0.13
	32	3.53	3.47	0.07	3.96	3.60	0.36	3.53	4.04	-0.51

第4部　資料編

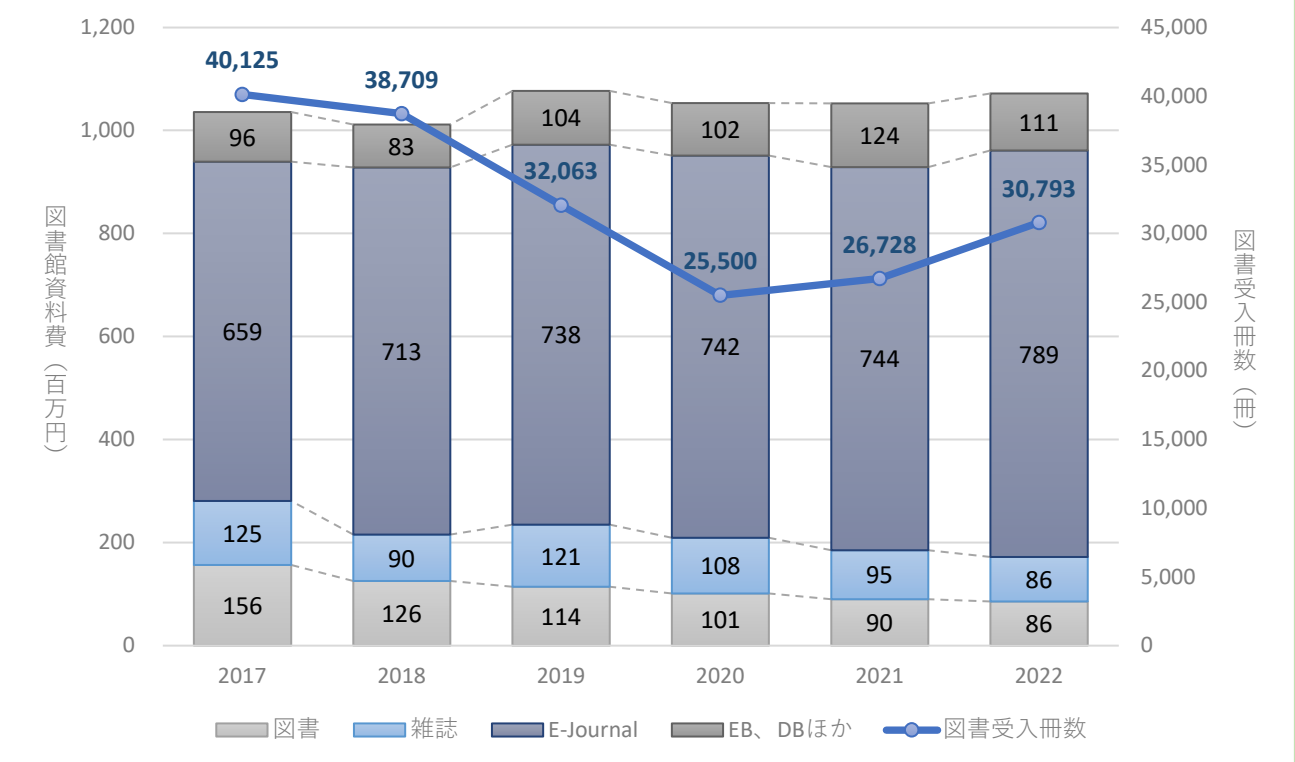
グラフで見る附属図書館

1. 職員数



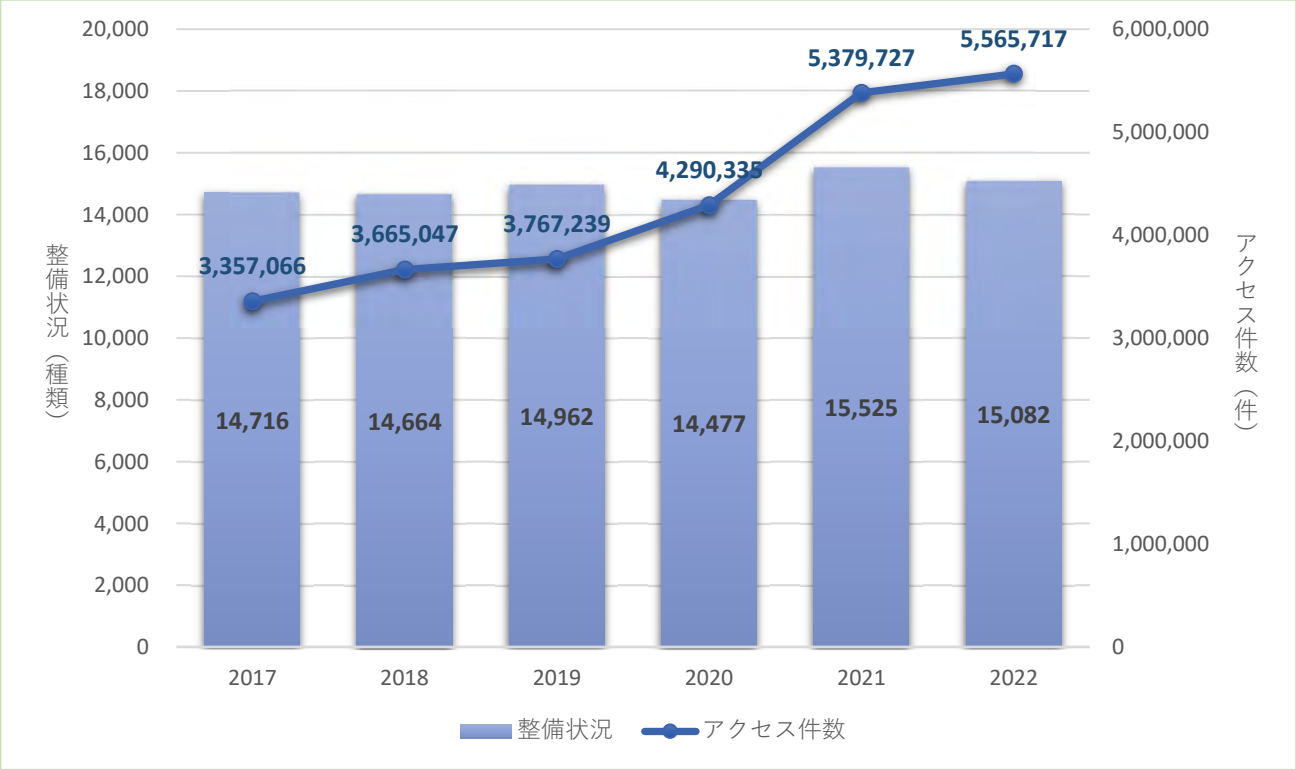
※本館・分館・図書室の合計。詳細は「4 職員数」参照。2021年度、事務統合による組織改編あり。

2. 図書館資料費と図書受入冊数



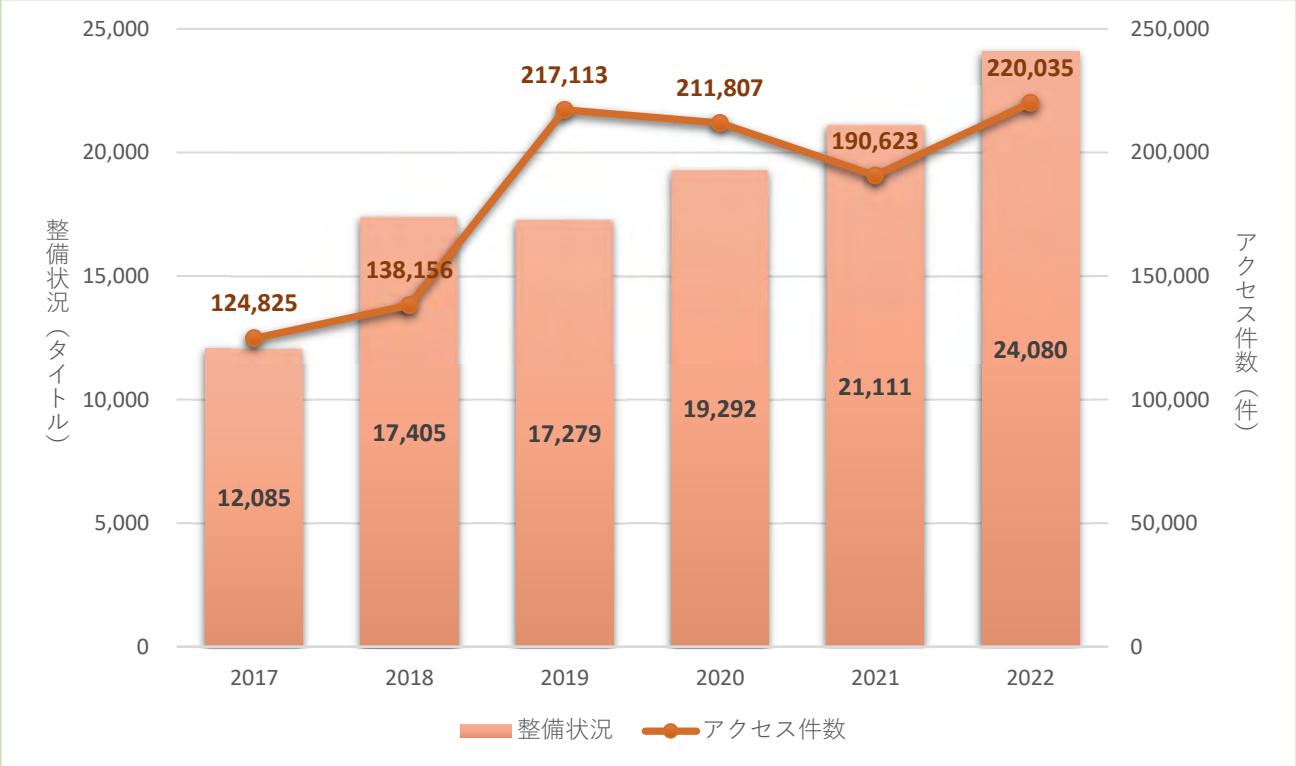
※本館・分館・図書室の合計。詳細は、「12.1（図書館資料費）資料区分別の年度別推移」、「8.1 図書受入冊数」参照。

3. 電子ジャーナルの整備状況とアクセス件数



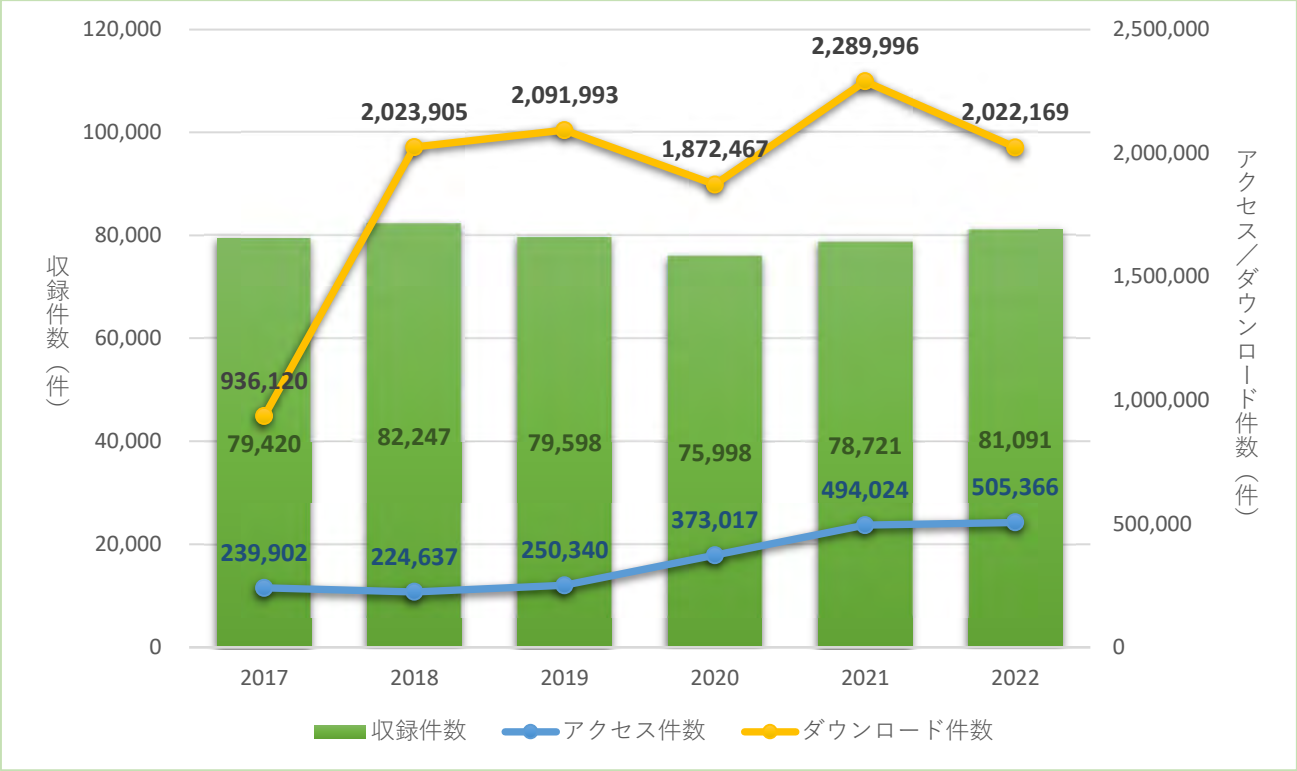
※詳細は、「9.1 電子ジャーナルの整備状況」「11.51 電子ジャーナルアクセス件数」参照。

4. 電子ブックの整備状況とアクセス件数



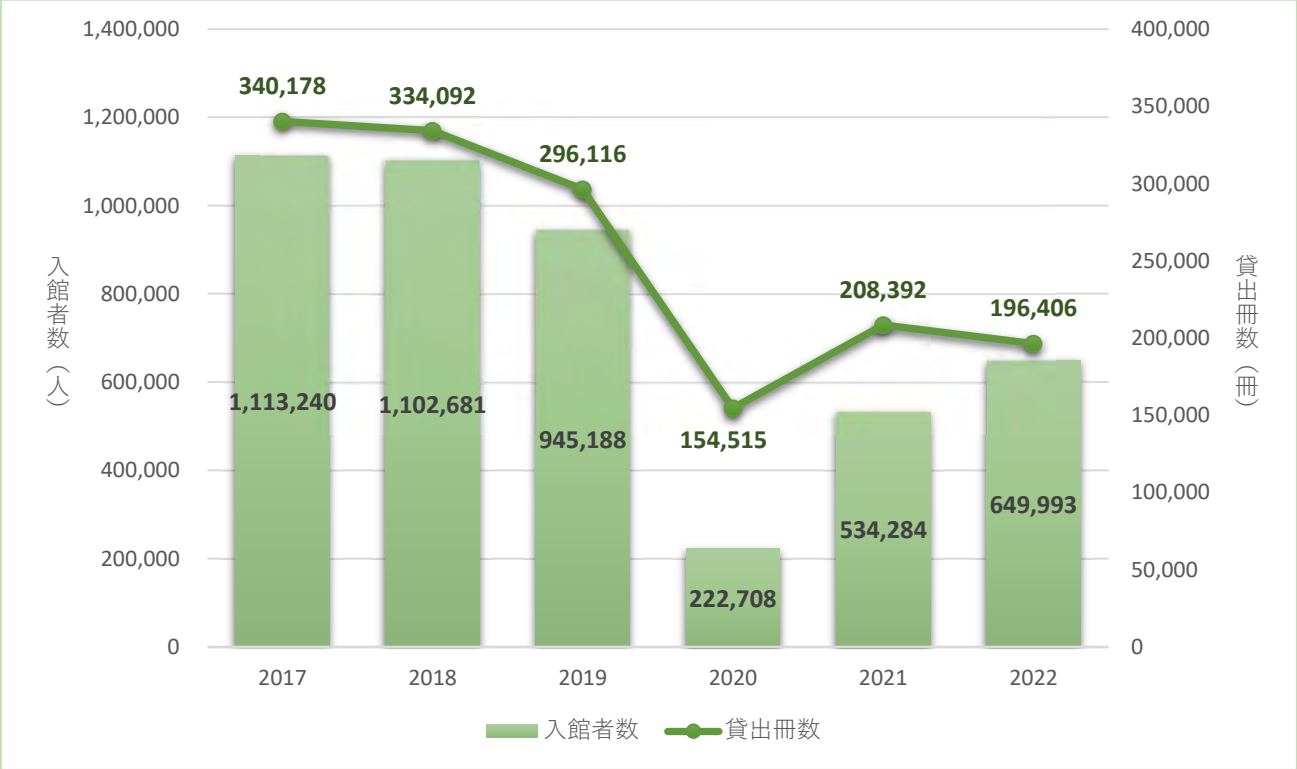
※詳細は、「9.2 電子ブックの整備状況」「11.52 電子ブックアクセス件数」参照。

5. 機関リポジトリ（TOUR）収録件数と利用件数



※詳細は、「9.4 機関リポジトリ（TOUR）収録件数」「11.53 機関リポジトリ（TOUR）利用件数」参照。

6. 入館者数と貸出冊数



※本館・分館の合計。詳細は、「11.11 館別入館者数」「11.21 館別貸出者数」参照。

1 沿革

明治			
40	1907	6月	東北帝国大学創立
44	1911	1月	理科大学開設
		6月	図書館設置
		9月	理科大学開講
45	1912	4月	医学専門部設置（前身の仙台医学専門学校は大正7.4廃止）
		4月	工学専門部設置（前身の仙台高等工業学校は大正10.4廃止）
大正			
元	1912	10月	狩野文庫を受入開始（～1943）
4	1915	7月	医科大学開設
		12月	医科分館（現・医学分館）設置
5	1916	6月	官制改正により図書館を附属図書館に改称
7	1918	4月	農科大学が分離し、北海道帝国大学農科大学となる
			医科分館が「医学文献週報」の作成・配布による国内初のコンテンツシートサービス開始
8	1919	4月	理科大学及び医科大学がそれぞれ理学部・医学部となる
		5月	工学部設置
11	1922	8月	法文学部設置
		8月	事務組織が第一部（理工系担当）、第二部（法文系担当）の2部制となる
13	1924	10月	本館書庫竣工
14	1925	2月	医科分館書庫竣工
		4月	事務組織の2部制を廃止
		秋	図書館で最初の展示会を開催
		12月	図書館閲覧室・事務室（現・史料館）竣工
昭和			
2	1927	3月	医科分館閲覧室・事務室竣工
6	1931	1月	医科分館に事務主任を置く
16	1941	7月	狩野文庫の『類聚国史』『史記』が国宝指定
18	1943	12月	漱石文庫を受入開始（～1943）
20	1945	3月	貴重図書を県内3カ所へ疎開
		7月	仙台空襲（10日）
22	1947	4月	農学部設置
		9月	農学部図書室開設
		9月	本館にアメリカ教育文庫開設
		10月	東北大学に改称
23	1948	9月	本館に庶務受入掛、目録掛、書庫閲覧掛の3掛を置く
24	1949	4月	法文学部が3学部（文学部・法学部・経済学部）に分立
		5月	国立学校設置法が公布・施行。国立大学に附属図書館を置くことが制定
		5月	新制・東北大学に改組。学部は文学部・教育学部・法学部・経済学部・理学部・医学部・工学部・農学部の8学部、第二高等学校・仙台工業専門学校・宮城師範学校・同青年師範学校を包摂、研究所は金属材料研究所等9研究所（ガラス研究所は昭27.4廃止）、司書官制が事務部事務長制となる
		6月	分校教養部設置に伴い教養部に図書掛を置く
27	1952	6月	大学基準協会「大学図書館基準」を公表
		11月	文部省国立大学図書館改善研究委員会「国立大学図書館改善要項及びその解説」を公表
29	1954	11月	附属図書館商議会設置

		11月	医科分館を附属図書館分館医学図書館に改称
30	1955	4月	分館医学図書館に管理掛、整理運用掛の2掛を置く
		9月	マイクロフィルム撮影機による複写サービス開始
31	1956	4月	本館3掛から総務掛、受入掛、和漢書目録掛、洋書目録掛、書庫掛、閲覧掛の6掛となる
		10月	文部省令「大学設置基準」公布・施行
32	1957	4月	附属図書館分館医学図書館を医学部分館（医学図書館）に改称
		4月	附属図書館富沢分校分館設置
33	1958	9月	富沢分校の川内地区移転に伴い、富沢分校分館を川内分校分館に改称し、管理掛、整理掛の2掛を置く
34	1959	12月	農学部図書掛設置
35	1960	1月	本館6掛から総務掛、受入掛、和漢書目録掛、洋書目録掛、雑誌掛、運用掛、書庫掛の7掛となる
		4月	文系4学部図書委員会設置
36	1961	3月	医学部分館事務室及び閲覧室増築
38	1963	3月	和漢書古典目録編纂委員会発足
		7月	記念資料室（現・史料館）が設置され、附属図書館の管理のもとに置く
39	1964	4月	川内分校分館を教養部分館に改称
		4月	図書館新築小委員会設置
		8月	医学部分館電子複写機による複写サービス開始
		11月	本館に学生閲覧室・書庫を増設
40	1965	3月	医学部分館2掛から総務掛、整理掛、運用掛の3掛となる
		4月	歯学部設置
		4月	附属図書館に部課長制施行、2課7掛となる（整理課:総務掛、受入掛、和漢書目録掛、洋書目録掛、閲覧課:運用掛、書庫掛、雑誌掛）
		4月	指定書制度実施
		7月	本館、国連寄託図書館に指定
		11月	理工系の図書行政に関する小委員会設置
41	1966	1月	調査研究室設置
		1月	和漢書古典目録編纂室設置
		3月	文部省「大学図書館施設計画要項」を公表
		6月	理学部に理学部中央図書室設置
		9月	本館、学生への図書の貸出を開始
42	1967	8月	工学部に工学部中央図書室設置
43	1968	5月	「東北大学附属図書館の現状と新営本館の構想」が商議会で承認
		11月	医学部分館学生閲覧室を増設
45	1970	1月	本館OECD（経済協力開発機構）寄託図書館に指定
		5月	工学部図書掛設置（工学分館設置に伴い、1978年3月をもって廃止）
47	1972	4月	教養部分館廃止、本館に統合、2課10掛となる（整理課:庶務掛、会計掛、受入掛、和漢書目録掛、洋書目録掛、渉外掛、閲覧課:運用掛、書庫掛、雑誌掛、参考掛）
		4月	医学部分館を医学分館に改称
		5月	医学部薬学科が薬学部となる
		9月	医学分館、旧第二内科研究棟跡に移転
		10月	川内地区に新営本館が竣工、移転
		12月	本館部分開館
		12月	商議会の下に「学生用図書に関する専門委員会」設置
48	1973	6月	学生用図書に関する専門委員会「学生用図書の運営について」を答申
		11月	本館全面開館

		12月	学生用図書に関する専門委員会「学生用図書予算の構成」を答申
49	1974	3月	『東北大学所蔵和漢書古典分類目録』刊行開始
		4月	本館3課10掛となる（総務課:庶務掛、会計掛、企画・渉外掛、整理課:受入掛、和漢書目録掛、洋書目録掛、閲覧課:参考調査掛、閲覧掛、書庫掛、相互利用掛）
		4月	農学部分館（現・農学分館）設置
		4月	理学部図書掛設置（北青葉山分館設置に伴い、1982年3月をもって廃止）
51	1976	4月	医学分館に事務長制施行
		4月	新入生図書館利用オリエンテーションを開始
		6月	「図書選定委員会内規」を制定
52	1977	7月	「本館と分館の関係について」が評議会で承認
53	1978	4月	工学分館設置
		4月	農学部分館を農学分館に改称
		4月	医学分館、外国雑誌センター館（医学・生物学系）に指定
		6月	宮城県沖地震により被災
		12月	オンライン情報検索サービス開始
54	1979	4月	農学分館新館竣工
55	1980	1月	学術審議会「今後における学術情報システムの在り方について」を答申
		11月	工学分館竣工
56	1981	4月	本館整理課に逐次刊行物掛を設置
57	1982	3月	『東北大学所蔵和漢書古典分類目録』全七巻完成
		4月	北青葉山分館設置
		4月	本館、試験期の開館時間を平日20時まで延長
		9月	附属図書館業務電算化計画検討委員会設置
58	1983	4月	工学分館2掛（管理掛、整理・運用掛）となる
		9月	本館、EC（ヨーロッパ共同体）資料センター（現・EUi）に指定
		10月	本館に図書館専門員が設置され、整理課に配置
59	1984	1月	医学分館新館竣工
		4月	授業の一環としての情報検索講習会を開始
		12月	東京大学文献情報センター（現・国立情報学研究所）目録所在情報サービス開始
60	1985	3月	北青葉山分館新館竣工
		6月	図書館業務電算化推進室を設置
		10月	北青葉山分館2掛（管理掛、整理・運用掛）となる
61	1986	10月	片平地区の旧本館が改修され、記念資料室となる
		12月	本館に電算機（日本電気ACOS610/10）搬入据付。T-LINES（東北大学附属図書館情報処理ネットワ-クシステム）導入
62	1987	1月	学術情報センター（現・国立情報学研究所）のコンピュータシステムと接続。目録所在情報データベースのオンライン共同分担方式に参加
		4月	本館整理課配置の図書館専門員を総務課に配置換、同総務課の企画・渉外掛を改組し学術情報掛を設置
		9月	T-LINES全面稼働
63	1988	1月	貴重図書選定委員会設置
		4月	本館整理課を情報管理課に、閲覧課を情報サ-ビス課に課名変更
		12月	「東北大学附属図書館（室）間における文献複写サービス実施要項」を制定
平成			
元	1989	4月	蔵書目録の遡及入力開始
		11月	本館・新（2号）館竣工

2	1990	4月	本館に図書館専門員が増設され、情報管理課に配置、掛の改組及び名称変更（学術情報掛をシステム管理掛に、和漢書目録掛を和漢書目録情報掛に洋書目録掛を洋書目録情報掛に、閲覧掛を閲覧第一掛に、閲覧第二掛を新設、書庫掛を廃止）
		5月	本館2号館開館
3	1991	2月	大学審議会「大学教育の改善について」を答申
		5月	図書館広報委員会設置
		11月	狩野文庫マイクロ化に着手
		12月	T-LINES（第2次）更新
4	1992	3月	晴山文書マイクロ化（3年計画）に着手
		4月	学術情報センター、ILLシステムの運用開始
		7月	学術審議会「21世紀を展望した学術研究の総合的推進方策について」を答申
5	1993	1月	商議会組織の改組
		3月	医学分館にCD-ROMサーバー設置
		3月	狩野文庫和書部マイクロ化撮影終了
		3月	狩野文庫和書目録編纂終了
		4月	大学院国際文化研究科、大学院情報科学研究科、大学教育研究センター、言語文化部設置
		5月	川内地区図書委員会設置（文系4学部図書委員会を改組）
		12月	学術審議会学術情報資料分科会学術情報部会「大学図書館機能の強化・高度化の推進について」を報告
		12月	「東北大学附属図書館の現状と課題－平成4年度東北大学附属図書館年次報告－」を上梓
6	1994	4月	本館地下書庫に電動式集密書架設置
		6月	長期計画に関する検討委員会設置
		11月	長期計画に関する検討委員会「東北大学における図書館機能の強化・高度化に向けて」を提言
		11月	当面の課題に関する検討委員会設置
		11月	狩野文庫カラー化編集委員会設置
7	1995	2月	本館総務課に課長補佐を設置、同課図書館専門員を情報サービス課に配置
		2月	全学図書系掛長会議設置
		2月	工学分館新館竣工
		3月	本館2号館に視聴覚コーナー設置
		4月	工学分館に工学部の学科図書室を統合
		9月	図書館ホームページ運用開始
		10月	漱石文庫マイクロ化（3年計画）に着手
8	1996	3月	パソコン・ラボラトリシステム（利用者用パソコン）設置
		4月	データベースサービスを全学的に開始
		4月	当面の課題に関する検討委員会「当面の課題に関する検討結果報告」を上梓
		7月	学術審議会「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」を建議
		11月	施設の将来構想に関する検討委員会設置
		12月	T-LINES（第3次）更新
9	1997	1月	電子図書館システム委員会設置
		2月	電子情報データベースサービスに関する検討委員会設置
		2月	電子ジャーナルサービス試行
		3月	図書館利用者教育支援システム導入
		4月	工学分館に図書館専門員を設置
		9月	「施設の将来構想に関する検討委員会報告」を上梓
		12月	図書館ホームページ上に貴重書展示室を設け、貴重書画像の電子公開開始
10	1998	2月	漱石文庫マイクロ化・フォトCD化完了
		3月	事務見直しに関する検討委員会「事務見直しについて（基本報告）」を上梓

		8月	本館、エントランスホールの一角に展示コーナーを新装・開設
		9月	インターネットからの学内文献複写申込実施
		10月	大学審議会「21世紀の大学像と今後の改革方策について」を答申
		10月	本館、企画展を開催。以後、定期的に開催
11	1999	2月	「東北大学の在り方に関する検討委員会報告」が評議会で承認
		4月	情報管理課の改組及び名称変更（和漢書目録情報掛と洋書目録情報掛を統合して図書情報掛を設置、電子情報掛を新設、逐次刊行物掛を雑誌情報掛に）
		5月	狩野文庫・漱石文庫画像データベース公開
		6月	学術審議会「科学技術創造立国を目指す我が国の学術研究の総合的推進について－「知的存在感のある国」を目指して－」を答申
		7月	東北大学附属図書館の将来構想に関する検討委員会設置
12	2000	2月	「東北大学附属図書館の将来構想」を上梓し、ミッション声明を制定公表
		2月	東北大学附属図書館の将来構想推進に関する検討委員会設置
		4月	漱石自筆資料・漱石文庫目録及び狩野文庫和書目録をインターネット公開
		6月	医学分館、貴重資料室等の利用環境整備開始
		7月	東北大学附属図書館の将来構想推進に関する検討委員会の下に、学生用図書等専門委員会、学術雑誌等共同利用専門委員会、利用者サービス専門委員会を設置
		11月	史料館設置（記念資料室を改組）
		12月	附属図書館副館長を設置
		12月	T-LINES（第4次）更新（新CAT/ILLに準拠したシステム稼働）
13	2001	4月	情報シナジーセンター学術情報分室設置（附属図書館調査研究室を平成13年3月をもって廃止し同センター学術情報研究部に、総務課システム管理掛を同センター学術情報支援掛に転換）
		12月	統合型学術情報システムの導入
14	2002	3月	「東北大学附属図書館の現状と課題－自己点検・自己評価報告書－」を上梓
		4月	情報管理課の電子情報掛を廃止し、総務課に情報企画掛を設置
		7月	学術情報整備検討委員会設置
		10月	統合型学術情報提供システム「学術情報ポータル」を公開
		12月	片平分館（仮称）設置構想検討委員会設置
15	2003	3月	学術情報資料選定小委員会設置
		3月	図書自動貸出返却装置導入（本館・工学分館）
		3月	『東北大学生のための情報探索の基礎知識（基本編）』刊行
		4月	本館、日曜・祝日開館開始
		6月	学生用図書整備検討委員会設置
		6月	国立大学の法人化（平成16年度）に伴う、附属図書館の中期目標・中期計画及び年度計画の策定
		12月	齋藤養之助家史料受入・整理検討委員会設置
16	2004	3月	古典資料修復保存小委員会設置
		3月	医学分館、書庫・学生閲覧室増築
		4月	国立大学法人東北大学発足
		4月	本館、学外者への貸出開始
		10月	全学教育科目「大学生のための情報検索術」開講
17	2005	12月	T-LINES（第5次）更新
		12月	『東北大学生のための情報探索の基礎知識（自然科学編）』刊行
18	2006	3月	科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会・学術情報基盤作業部会「学術情報基盤の今後の在り方について」を報告
		3月	国立大学図書館協会経営問題委員会「法人化のなかの国立大学図書館経営」を報告
		6月	学術情報戦略会議設置

		7月	キャンパス間資料搬送サービス試行（7月3日～12月25日）
		10月	オンライン・レファレンス・サービス試行（10月4日～3月31日）
		11月	私費での学内ILL「文献複写申込」を試行
		12月	東北大学機関リポジトリ「TOUR」試行版公開
19	2007	1月	キャンパス間資料搬送サービス試行延長（1月9日～3月30日）
		2月	複合機と文献複写画像伝達システム「e-DDS」を活用した文献伝達システムの運用開始
		3月	「井上プラン2007－世界リーディング・ユニバーシティに向けて－」を公表
		3月	東北大学機関リポジトリ「TOUR」正式公開
		3月	e-DDS（電子文献デリバリーサービス）開始
		3月	「東北大学附属図書館－自己点検・評価報告書－」を上梓
		3月	『東北大学生のための情報探索の基礎知識（人文社会科学編）』刊行
		3月	工学分館、電子ブックを導入
		4月	キャンパス間資料搬送サービス開始
		6月	東北大学創立100周年
		8月	調査研究室再設置
		9月	東北大学創立100周年記念展示「東北大学の至宝」展を江戸東京博物館で開催
		9月	東北大学創立100周年・漱石朝日新聞社入社100年・江戸東京博物館開館15周年「文豪・夏目漱石」展を江戸東京博物館で開催
		11月	東北大学創立100周年記念展示「東北大学の至宝」展を仙台市博物館で開催
		11月	「東北大学附属図書館 外部委員会報告書」を上梓
20	2008	3月	東北大学創立100周年記念特別展「学都に息づく夏目漱石の精神」を仙台文学館で開催
		3月	「Guide to Academic Information Search for Students of Tohoku University. Natural Science 2008」刊行
		4月	サイバーサイエンスセンターの改組に伴い、情報部情報基盤課学術情報支援係を本館総務課学術情報支援係に転換
		10月	附属図書館イメージキャラクター誕生（2009年に「はぎのすけ」と命名）
		12月	中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて」を答申
		12月	科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会「学術情報基盤整備に関する対応方策等について（審議のまとめ）－情報基盤センターの在り方及び学術情報ネットワークの今後の整備の在り方－」を公開
21	2009	1月	「ものがたり東北大学の至宝」刊行
		2月	本館、耐震改修工事終了
		4月	本館、開館時間を22時まで延長
		7月	科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会「大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について（審議のまとめ）－電子ジャーナルの効率的な整備及び学術情報発信・流通の推進－」を公開
22	2010	3月	第2期中期目標・中期計画策定
		3月	「東北大学和算ポータル」日本数学会出版賞受賞
		4月	東北大学デジタルコレクション稼働
		12月	科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会「大学図書館の整備について（審議のまとめ）－変革する大学にあって求められる大学図書館像－」を公開
		12月	T-LINES（第6次）更新
23	2011	3月	東日本大震災により被災
		3月	附属図書館公式Twitterアカウント運用開始
		3月	本館に東北大ゆかりコレクションコーナー設置
		6月	附属図書館創立100周年
		9月	本館に英語多読リーダーズコーナー設置

24	2012	3月	震災ライブラリー開設
		3月	調査研究室年報刊行開始
		7月	科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会「学術情報の国際発信・流通力強化に向けた基盤整備の充実について」を公表
		8月	中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」を答申
		11月	本館、ラーニング・コモンズ開設
		11月	本館、留学生コンシェルジュサービス開始
25	2013	3月	東日本大震災関連資料をホームページで公開開始
		7月	本館総務課庶務係を総務係に改称
		8月	「里見ビジョン」公表
		8月	科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）」を公表
		11月	日英学術交流150周年記念展示「近代日本の文豪・夏目漱石」展をロンドン大学図書館で開催
26	2014	1月	本館総務課学術情報支援係と情報企画係を統合して学術情報基盤係を設置
		8月	ジャーナル問題に関する検討会「大学等におけるジャーナル環境の整備と我が国のジャーナルの発信力強化の在り方について」を公表
		10月	本館リニューアル開館
		10月	医学分館事務長制を廃止、図書館専門員を配置
27	2015	3月	第3回国連防災世界会議記念展示「The Amazing Collections of Tohoku University Library」を開催
		4月	図書館カフェ（シアトルズベストコーヒー）開店
		9月	工学分館に“Active Learning Square: Abelujo（アベルーヨ）”がオープン
		10月	狩野亨吉生誕150周年記念展示
		12月	医学分館創立100周年
		12月	本館、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの提供を開始
		12月	T-LINES（第7次）更新
28	2016	2月	科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会「学術情報のオープン化の推進について（審議まとめ）」を公表
		6月	青葉山新キャンパスに青葉山コモンズ竣工
		6月	附属図書館公式Facebook運用開始（～2019年3月）
		6月	国立大学図書館協会「「国立大学図書館機能の強化と革新に向けて ～国立大学図書館協会ビジョン2020～」を策定
		7月	情報サービス課の改組及び名称変更（閲覧第一係と閲覧第二係を統合して閲覧係を設置、貴重書係を新設）
		9月	「東北大学附属図書館　自己点検・評価報告書」を上梓
		12月	農学分館（雨宮キャンパス）閉館
29	2017	3月	「東北大学附属図書館　外部評価委員会報告書」を上梓
		4月	農学分館（青葉山コモンズ内）移転開館
		11月	共用書庫（青葉山コモンズ内）全面利用開始
30	2018	3月	「東北大学オープンアクセス方針」策定
		11月	中央教育審議会「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」を答申
		11月	「東北大学ビジョン2030」を策定
		11月	附属図書館公式Instagram運用開始
31	2019	3月	東北大学特定基金「図書館のみらい基金」開設
		4月	図書館カフェ（シアトルズベストコーヒー）閉店

令和			
元	2019	7月	情報サービス課の改組及び名称変更（参考調査係と相互利用係を統合してレファレンス係を設置、学習支援係を新設）
		11月	クラウドファンディング「漱石の肉筆を後世へ！漱石文庫デジタルアーカイブプロジェクト」実施（～2020年12月）
2	2020	3月	COVID-19対応開始
		4月	COVID-19感染拡大防止のため、全館休館（4/16-6/21）
		7月	東北大学ビジョン2030（アップデート版）「コネクテッドユニバーシティ戦略」を策定
		9月	狩野文庫の古典籍をデジタル化、国文学研究資料館の「新日本古典籍総合データベース」で公開
		9月	科学技術・学術審議会学術分科会・情報委員会「コロナ新時代に向けた今後の学術研究及び情報科学技術の振興方策について」を提言
		9月	日本学術会議第三部理工系学協会の活動と学術情報に関する分科会「学術情報流通の大変革時代に向けた学術情報環境の再構築と国際競争力強化」を提言
		9月	工学分館公式Twitter運用開始
		12月	工学分館公式YouTubeチャンネル「こうぶんチャンネル」開設
		12月	附属図書館公式YouTubeチャンネル開設
3	2021	2月	科学技術・学術審議会情報委員会ジャーナル問題検討部会「我が国の学術情報流通における課題への対応について（審議まとめ）」を公表
		2月	福島県沖地震により被災
		3月	「展開科目 総合科学群 カレントトピックス科目」大学生のレポート作成入門：図書館を活用したスタディスキルが令和2年度全学教育貢献賞を受賞
		4月	北青葉山分館管理係と整理・運用係を統合して図書係を設置
		5月	医学分館リニューアル開館
		6月	教育再生実行会議「ポストコロナ期における新たな学びの在り方について（第十二次提言）」を公表
		6月	国立大学図書館協会「国立大学図書館機能の強化と革新に向けて ～国立大学図書館協会ビジョン2025～」を策定
		6月	「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」（国文学研究資料館）事業により、狩野文庫の第7門（数学）、第8門（理学）、第10門（工学・兵学）に含まれる約4,000点（27万画像）を公開
		7月	総務課に情報企画係を新設
		9月	川内キャンパス事務センターへの事務統合に伴い、総務課総務係と会計係を廃止
		12月	T-LINES（第8次）更新
4	2022	2月	本館に教職員・学生向けスタートアップ情報発信拠点として「川内ガレージ」がオープン
		3月	福島県沖地震により被災
		4月	Wiley社電子ジャーナル転換契約パイロットプロジェクト開始
		4月	本館総務課の課長補佐を廃止、同課図書館専門員を配置
		6月	東北大学創立115周年、総合大学100周年、附属図書館創立111周年
		10月	「大学設置基準等の一部を改正する省令」（令和４年文部科学省令第34号）施行
5	2023	1月	Springer 電子ジャーナル転換契約パイロットプロジェクト
		秋	北青葉山分館リニューアル開館（予定）

2　歴代附属図書館長・副館長・分館長

2.1　附属図書館長

代	館長名	所属（分野・専攻等）	在任期間		
1	林 鶴一	理学部（数学）	1916/6/9	～	1924/7/30
2	武内 義雄	文学部（中国哲学）	1924/7/31	～	1929/9/9
3	村岡 典嗣	文学部（日本思想史）	1929/9/10	～	1937/11/29
4	石原 謙	文学部（哲学）	1937/11/30	～	1940/9/29
5	小宮 豊隆	文学部（ドイツ文学）	1940/9/30	～	1946/5/29
6	高橋 穣	文学部（倫理学）	1946/5/30	～	1947/3/30
7	木村 亀二	法学部（刑法）	1947/3/31	～	1950/11/29
8	三宅 剛一	文学部（哲学）	1950/11/30	～	1953/11/29
9	中村 吉治	経済学部（日本経済史）	1953/11/30	～	1958/11/30
10	世良 晃志郎	法学部（西洋法制史）	1958/12/1	～	1963/11/30
11	金谷 治	文学部（中国哲学）	1963/12/1	～	1968/11/30
12	竹内 利美	教育学部（社会教育学）	1968/12/1	～	1971/11/30
13	吉田 震太郎	経済学部（財政学）	1971/12/1	～	1975/11/30
14	和田 正信	工学部（固体電子工学）	1975/12/1	～	1979/11/30
15	服藤 弘司	法学部（日本法制史）	1979/12/1	～	1982/11/30
16	吉岡 昭彦	文学部（西洋史）	1982/12/1	～	1985/11/30
17	塚本 哲人	教育学部（社会教育学）	1985/12/1	～	1988/11/30
18	勾坂 馨	医学部（法医学）	1988/12/1	～	1991/11/30
19	菊地 和聖	経済学部（会計学）	1991/12/1	～	1994/11/30
20	小山 貞夫	法学部（西洋法制史）	1994/12/1	～	1997/11/30
21	小田 忠雄	理学部（代数学）	1997/12/1	～	2002/11/5
22	大西 仁	法学部（国際政治学）	2002/11/6	～	2005/3/31
23	野家 啓一	文学研究科（哲学）	2005/4/1	～	2012/3/31
24	植木 俊哉	法学研究科（国際法学）	2012/4/1	～	2018/3/31
25	大隅 典子	医学系研究科（発生発達神経科学）	2018/4/1	～	

※林鶴一　1911/6/14から1916/6/8まで主幹

2.2　副館長

代	副館長名	所属（分野・専攻等）	在任期間		
1	布田 勉	国際文化研究科（ヨーロッパ文化論・憲法学）	2000/12/1	～	2002/11/30
2	今泉 隆雄	文学部（日本史）	2002/12/1	～	2005/9/30
3	倉本 義夫	理学研究科（物性理論）	2005/10/1	～	2009/9/30
4	柳澤 輝行	医学系研究科（分子薬理学）	2009/10/1	～	2013/9/30
5	西尾 剛	農学研究科（遺伝育種学）	2013/10/1	～	2018/3/31
6	柳原 敏昭	文学研究科（日本史）	2018/4/1	～	2020/3/31
7	有光 秀行	文学研究科（西洋史）	2020/4/1	～	

2.3　医学分館長

代	分館長名	所属（分野・専攻等）	在任期間		
1	青木 薫	医学部（細菌学）	1916/5/19	～	1925/1/1
2	藤田 敏彦	医学部（生理学）	1925/1/2	～	1927/12/30
3	井上 嘉都治	医学部（医化学）	1927/12/31	～	1929/12/30
4	佐武 安太郎	医学部（生理学）	1929/12/31	～	1931/12/31
5	八木 精一	医学部（薬物学）	1931/12/31	～	1933/12/30

6	石川 哲郎	医学部（法医学）	1933/12/31	～	1935/12/30
7	木村 男也	医学部（病理学）	1935/12/31	～	1937/12/30
8	那須 省三郎	医学部（病理学）	1937/12/31	～	1939/12/30
9	内野 仙治	医学部（医化学）	1939/12/31	～	1941/12/25
10	本川 弘一	医学部（生理学）	1941/12/26	～	1943/12/25
11	正宗 一	医学部（医化学）	1943/12/26	～	1945/12/25
12	黒屋 政彦	医学部（細菌学）	1945/12/26	～	1947/12/26
13	松田 幸次郎	医学部（生理学）	1947/12/27	～	1950/12/26
14	和田 正男	医学部（生理学）	1950/12/27	～	1954/12/26
15	寺坂 源雄	医学部（薬理学）	1954/12/27	～	1958/12/26
16	村上 次男	医学部（法医学）	1958/12/27	～	1962/12/26
17	浦 良治	医学部（解剖学）	1962/12/27	～	1966/12/26
18	高橋 英次	医学部（衛生学）	1966/12/27	～	1970/12/26
19	橋本 虎六	医学部（薬理学）	1970/12/27	～	1973/12/26
20	田崎 京二	医学部（生理学）	1973/12/27	～	1977/12/26
21	鈴木 泰三	医学部（応用生理学）	1977/12/27	～	1979/7/31
22	山本 敏行	医学部（解剖学）	1979/8/1	～	1983/7/31
23	笹野 伸昭	医学部（病理学）	1983/8/1	～	1987/7/31
24	勾坂 馨	医学部（法医学）	1987/8/1	～	1988/11/30
25	櫻井 實	附属病院（整形外科学）	1988/12/1	～	1991/11/30
26	林 典夫	医学部（医化学）	1991/12/1	～	1995/11/30
27	髙坂 知節	附属病院（耳鼻咽喉科学）	1995/12/1	～	1999/11/30
28	飯沼 一宇	附属病院（小児病態学）	1999/12/1	～	2003/11/30
29	佐藤 洋	医学系研究科（環境保健医学）	2003/12/1	～	2007/11/30
30	柳澤 輝行	医学系研究科（分子薬理学）	2007/12/1	～	2010/3/31
31	柴原 茂樹	医学系研究科（分子生物学）	2010/4/1	～	2014/3/31
32	丸山 芳夫	医学系研究科（細胞生理学）	2014/4/1	～	2016/3/31
33	北本 哲之	医学系研究科（病態神経学）	2016/4/1	～	2020/3/31
34	笹野 公伸	医学系研究科（病理診断学）	2020/4/1	～	2022/3/31
35	藤森 研司	医学系研究科（医療管理学）	2022/4/1	～	

2.4 北青葉山分館長

代	分館長名	所属（分野・専攻等）	在任期間		
1	服藤 弘司	法学部（日本法制史）	1982/4/1	～	1982/6/30
2	中島 威	理学部（有機物理化学）	1982/7/1	～	1986/3/31
3	高柳 洋吉	理学部（古生物学）	1986/4/1	～	1990/3/31
4	鳥羽 良明	理学部（海洋物理学）	1990/4/1	～	1994/3/31
5	鈴木 康男	薬学部（薬剤学）	1994/4/1	～	1995/3/31
6	金子 主税	薬学部（薬化学）	1995/4/1	～	1996/3/31
7	加藤 順二	理学部（応用数理）	1996/4/1	～	1999/3/31
8	吉藤 正明	理学部（有機化学）	1999/4/1	～	2003/3/31
9	井原 正隆	薬学部（創薬化学）	2003/4/1	～	2005/3/31
10	倉本 義夫	理学研究科（物性理論）	2005/4/1	～	2005/10/31
11	高木 泉	理学研究科（応用数理）	2005/11/1	～	2009/3/31
12	佐藤 春夫	理学研究科（地球物理学）	2009/4/1	～	2011/3/31
13	岩渕 好治	薬学研究科（合成制御化学）	2011/4/1	～	2013/3/31
14	河野 裕彦	理学研究科（物理化学）	2013/4/1	～	2015/3/31
15	竹田 雅好	理学研究科（解析学）	2015/4/1	～	2017/3/31

16	小原 隆博	理学研究科（惑星電波物理学）	2017/4/1	～	2019/6/30
17	藤井 朱鳥	理学研究科（量子化学）	2019/7/1	～	2021/3/31
18	土井 隆行	薬学研究科（反応制御化学）	2021/4/1	～	2023/3/31
19	大野 泰生	理学研究科（数論）	2023/4/1	～	

2.5 工学分館長

代	分館長名	所属（分野・専攻等）	在任期間		
1	斎藤 秀雄	工学部（機械力学及び機械設計学）	1978/6/1	～	1982/3/31
2	下飯坂 潤三	工学部（鉱物処理工学）	1982/4/1	～	1984/3/31
3	井川 克也	工学部（鋳造工学）	1984/4/1	～	1986/3/31
4	斎藤 伸自	工学部（回路網学）	1986/4/1	～	1988/3/31
5	只木 楨力	工学部（物質変換工学）	1988/4/1	～	1990/3/31
6	箱守 京次郎	工学部（自動制御学）	1990/4/1	～	1992/3/31
7	守田 徹	工学部（計算機工学）	1992/4/1	～	1994/3/31
8	中鉢 憲賢	工学部（生体電磁工学）	1994/4/1	～	1996/3/31
9	福田 正	工学部（交通制御）	1996/4/1	～	1998/3/31
10	本間 基文	工学研究科（磁性材料学）	1998/4/1	～	2000/3/31
11	宮﨑 照宣	工学研究科（応用界面物理学）	2000/4/1	～	2002/3/31
12	奥脇 昭嗣	工学研究科（環境資源化学）	2002/4/1	～	2003/3/31
13	江村 超	工学研究科（メカトロニクス）	2003/4/1	～	2005/3/31
14	松本 繁	工学研究科（プロセス制御）	2005/4/1	～	2007/3/31
15	阿曽 弘具	工学研究科（通信システム工学）	2007/4/1	～	2009/3/31
16	吉野 博	工学研究科（建築環境・設備）	2009/4/1	～	2011/3/31
17	宮城 俊彦	情報科学研究科（交通工学）	2011/4/1	～	2013/3/31
18	進藤 裕英	工学研究科（材料システム設計学）	2013/4/1	～	2015/3/31
19	正田 晋一郎	工学研究科（機能高分子化学）	2015/4/1	～	2017/3/31
20	高橋 弘	環境科学研究科（地球開発環境学）	2017/4/1	～	2019/3/31
21	羽根 一博	工学研究科（オプトメカニクス）	2019/4/1	～	2021/3/31
22	金井 浩	工学研究科（電子工学）	2021/4/1	～	2023/3/31
23	小玉 哲也	医工学研究科（医工学）	2023/4/1	～	

2.6 農学分館長

代	分館長名	所属（分野・専攻等）	在任期間		
1	柴崎 一雄	農学部（食品保蔵学）	1974/5/1	～	1978/4/30
2	高橋 甫	農学部（応用微生物学）	1978/5/1	～	1982/4/30
3	金田 尚志	農学部（食品学）	1982/5/1	～	1984/4/30
4	秦 満夫	農学部（水産利用学）	1984/5/1	～	1986/3/31
5	堀 裕	農学部（園芸学）	1986/4/1	～	1987/3/31
6	堀口 雅昭	農学部（家畜飼養学）	1987/4/1	～	1989/3/31
7	山下 恭平	農学部（農薬化学）	1989/4/1	～	1991/3/31
8	竹内 昌昭	農学部（水産利用学）	1991/4/1	～	1993/3/31
9	目黒 熙	農学部（生体分子分析学）	1993/4/1	～	1995/3/31
10	酒井 惇一	農学部（資源経営経済学）	1995/4/1	～	1997/3/31
11	伊藤 敞敏	農学研究科（動物資源化学）	1997/4/1	～	1999/3/31
12	折谷 隆之	農学研究科（生物制御化学）	1999/4/1	～	2001/3/31
13	大森 迪夫	農学研究科（水圏資源生態学）	2001/4/1	～	2003/3/31
14	谷口 旭	農学研究科（水圏生態学）	2003/4/1	～	2005/3/31
15	國分 牧衛	農学研究科（作物学）	2005/4/1	～	2007/3/31

16	池上 正人	農学研究科（植物病理学）	2007/4/1	～	2009/3/31
17	山下 まり	農学研究科（生体物理化学）	2009/4/1	～	2011/3/31
18	加藤 和雄	農学研究科（動物生理科学）	2011/4/1	～	2013/3/31
19	西尾 剛	農学研究科（植物遺伝育種学）	2013/4/1	～	2013/11/30
20	藤井 智幸	農学研究科（テラヘルツ食品工学）	2013/12/1	～	2015/3/31
21	盛田 清秀	農学研究科（フィールド社会技術学）	2015/4/1	～	2017/3/31
22	藤井 智幸	農学研究科（テラヘルツ食品工学）	2017/4/1	～	2019/3/31
23	金山 喜則	農学研究科（園芸学）	2019/4/1	～	2021/3/31
24	大越 和加	農学研究科（生物海洋学）	2021/4/1	～	2023/3/31
25	佐藤 幹	農学研究科（動物栄養生化学）	2023/4/1	～	

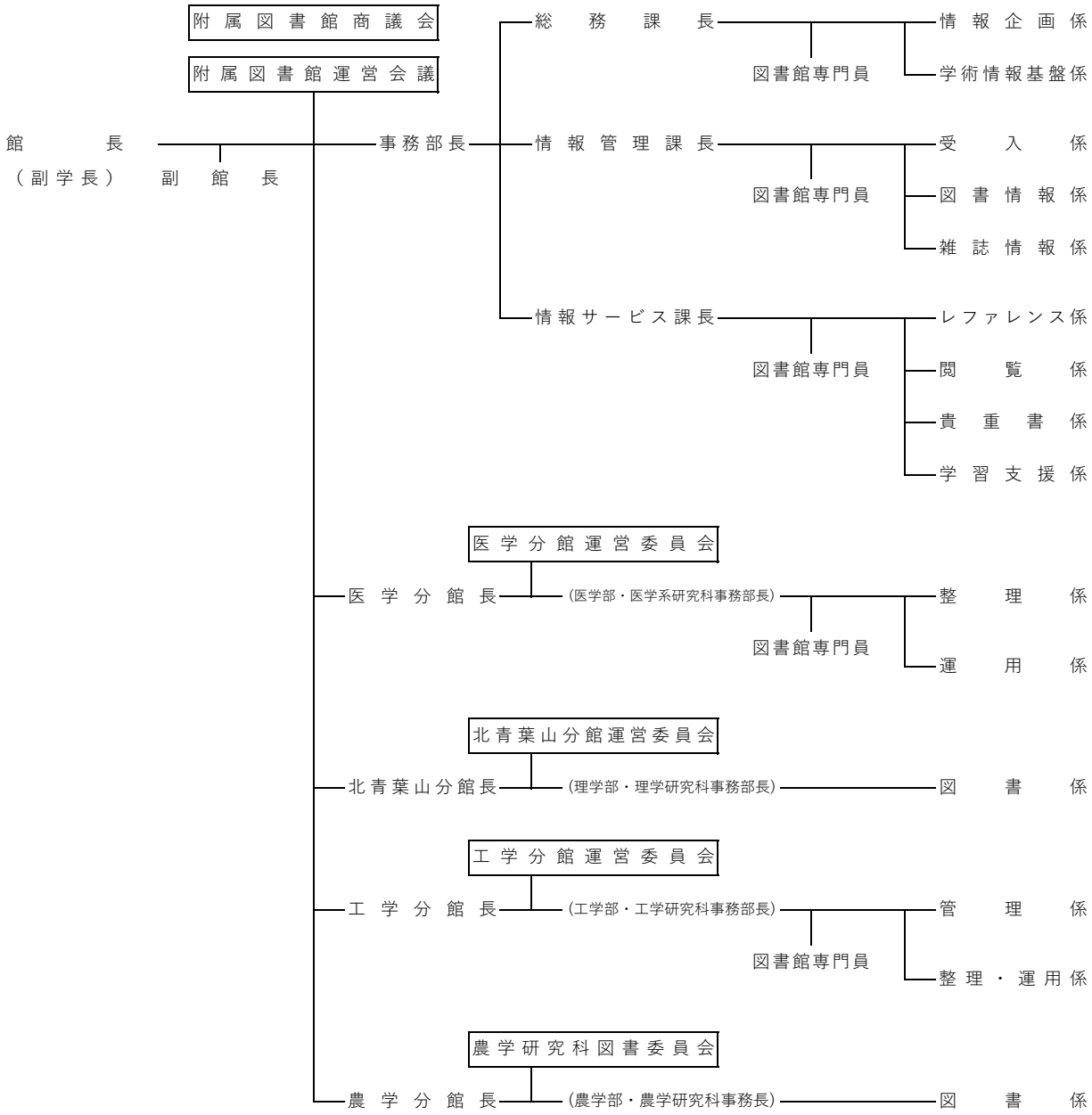
2.7 教養部分館長

代	分館長名	所属（分野・専攻等）	在任期間		
1	福本 喜繁	（物理学）	1957/4/1	～	1961/3/31
2	嶺岸 義秋	（国文学）	1961/4/1	～	1963/3/31
3	白井 俊二	（物理学）	1963/4/1	～	1964/4/16
4	宮川 善造	（人文地理学）	1964/4/17	～	1967/4/16
5	蟻坂 仲明	（数学）	1967/4/17	～	1969/4/16
6	黒田 正典	（心理学）	1969/4/17	～	1971/8/31
7	西村 貞二	（西洋史）	1971/9/1	～	1972/3/31

※1972年4月教養部分館廃止、本館に統合

3 組織図

2022年5月1日現在



4 職員数

4.1 職員数の年度別推移

単位：人

年度		2017	2018	2019	2020	2021	2022
本館		**55**	**50**	**50**	**50**	**50**	**49**
	事務部長・課長	4	4	4	4	4	4
	補佐・係長級	12	11	12	13	13	13
	主任・係員	10	9	10	10	9	7
	定員外	29	26	24	23	24	25
医学分館		**17**	**18**	**17**	**17**	**16**	**16**
	補佐・係長級	3	3	3	3	3	3
	主任・係員	3	3	3	3	3	3
	定員外	11	12	11	11	10	10
北青葉山分館		**10**	**10**	**8**	**8**	**6**	**6**
	補佐・係長級	2	2	1	1	1	1
	主任・係員	2	2	2	2	1	1
	定員外	6	6	5	5	4	4
工学分館		**15**	**15**	**14**	**13**	**13**	**13**
	補佐・係長級	3	3	3	3	3	3
	主任・係員	5	4	3	3	3	3
	定員外	7	8	8	7	7	7
農学分館		**6**	**6**	**6**	**6**	**6**	**6**
	補佐・係長級	1	1	1	1	1	1
	主任・係員	2	3	3	3	3	3
	定員外	3	2	2	2	2	2
部局図書室		**31**	**29**	**29**	**29**	**29**	**25**
	補佐・係長級	2	2	2	2	1	1
	主任・係員	3	3	1	1	1	1
	定員外	23	21	22	22	23	20
	事務職員外	3	3	4	4	4	3
計		**134**	**128**	**124**	**123**	**120**	**115**
	事務部長・課長	4	4	4	4	4	4
	補佐・係長級	23	22	22	23	22	22
	主任・係員	25	24	22	22	20	18
	定員外	79	75	72	70	70	68
	事務職員外	3	3	4	4	4	3

※上記のほか、2017-2019年度には本部事務機構付課長1名が本館に常駐
※2021年度は、川内事務センターへの事務統合による組織改編あり
※事務職員外は、技術専門職員、助手等の事務職員以外の教職員
※育児休暇期間に係る代替職員は、含まない

4.2 職員数（本館、分館）

単位：人（2022年5月1日現在）

役職・職位等	館長 副館長 分館長	定員 事務部長 課長	定員 課長補佐級 係長級	定員 主任 係員	定員外	計
本館	2					2
事務部		1				1
総務課		1	1	1		3
情報企画係			1		2	3
学術情報基盤係			1	1	1	3
情報管理課		1	1			2
受入係			1	1	3	5
図書情報係			1	1	4	6
雑誌情報係			1	1	2	4
情報サービス課		1	2		5	8
レファレンス係			1	1	2	4
閲覧係			1	1	3	5
貴重書係			1		2	3
学習支援係			1		1	2
本館　計	**2**	**4**	**13**	**7**	**25**	**51**
医学分館	1		1			2
整理係			1	1	6	8
運用係			1	2	4	7
医学分館　計	**1**	**0**	**3**	**3**	**10**	**17**
北青葉山分館	1					1
図書係			1	1	4	6
北青葉山分館　計	**1**	**0**	**1**	**1**	**4**	**7**
工学分館	1		1			2
管理係			1	1	2	4
整理・運用係			1	2	5	8
工学分館　計	**1**	**0**	**3**	**3**	**7**	**14**
農学分館	1					1
図書係			1	3	2	6
農学分館　計	**1**	**0**	**1**	**3**	**2**	**7**
計	**6**	**4**	**21**	**17**	**48**	**96**

4.3 職員数（部局図書室）

単位：人（2022年5月1日現在）

役職・職位等		定員 係長	定員 係員	定員外	事務職員外	計
片平キャンパス		**1**	**1**	**9**	**1**	**12**
	金属材料研究所図書室	1	1	2		**4**
	流体科学研究所図書室			2		**2**
	電気通信研究所図書室			2		**2**
	多元物質科学研究所図書室			1		**1**
	生命科学研究科図書室				1	**1**
	法政実務図書室			2		**2**
川内キャンパス				**6**	**2**	**8**
	東北アジア研究センター図書室			2		**2**
	文学部・文学研究科図書室			2		**2**
	教育学部・教育学研究科図書室			2		**2**
	法学部・法学研究科図書室				1	**1**
	経済学部・経済学研究科図書室				1	**1**
星陵キャンパス				**1**		**1**
	歯学研究科図書室			1		**1**
青葉山キャンパス				**4**		**4**
	理学研究科数学専攻研究資料室			1		**1**
	理学研究科物理図書室			1		**1**
	情報科学研究科数学図書室			2		**2**
計		**1**	**1**	**20**	**3**	**25**

5 施設・設備

（2022年5月1日現在）

	総延面積（㎡）	閲覧座席数（席）	利用者用端末台数（台） 常設	うちOPAC専用	貸出用ノート	計
本館	**18,215**	**543**	38	7	0	**38**
医学分館	**4,476**	**404**	24	3	5	**29**
北青葉山分館	**3,356**	**335**	10	3	2	**12**
工学分館	**5,365**	**406**	8	1	0	**8**
農学分館	**5,732**	**369**	8	3	5	**13**

6 利用対象在籍者数

単位：人（2022年5月1日現在）

利用者区分	役員・教員	職員	教職員 計	学部学生	大学院生	学生 計	計
川内キャンパス	**416**	**92**	**508**	**3,067**	**1,246**	**4,313**	**4,821**
文学部・文学研究科	91	10	101	948	424	1,372	1,473
教育学部・教育学研究科	41	7	48	302	171	473	521
法学部・法学研究科	56	12	68	696	267	963	1,031
経済学部・経済学研究科	61	11	72	1,121	255	1,376	1,448
国際文化研究科	34	10	44		118	118	162
教育情報学教育部					11	11	11
その他	133	42	175				175
星陵キャンパス	**948**	**1,927**	**2,875**	**1,696**	**1,152**	**2,848**	**5,723**
医学部・医学系研究科	291	38	329	1,374	949	2,323	2,652
歯学部・歯学研究科	83	22	105	322	203	525	630
その他	574	1,867	2,441				2,441
青葉山北キャンパス	**519**	**102**	**621**	**1,753**	**1,425**	**3,178**	**3,799**
理学部・理学研究科	244	67	311	1,370	809	2,179	2,490
薬学部・薬学研究科	67	15	82	383	182	565	647
情報科学研究科	96	12	108		434	434	542
その他	112	8	120				120
青葉山東キャンパス	**475**	**147**	**622**	**3,475**	**2,162**	**5,637**	**6,259**
工学部・工学研究科	371	101	472	3,475	2,018	5,493	5,965
医工学研究科	30	6	36		144	144	180
その他	74	40	114				114
青葉山新キャンパス	**262**	**53**	**315**	**638**	**657**	**1,295**	**1,610**
農学部・農学研究科	113	28	141	638	351	989	1,130
環境科学研究科	57	6	63		306	306	369
その他	92	19	111				111
片平キャンパス	**540**	**900**	**1,440**		**320**	**320**	**1,760**
生命科学研究科	85	15	100		320	320	420
その他	455	885	1,340				1,340
三神峯キャンパス	**17**		**17**				**17**
計	**3,177**	**3,221**	**6,398**	**10,629**	**6,962**	**17,591**	**23,989**

※人数は、東北大学概要2022による。

※再雇用職員、休職者含む。

7 蔵書数

7.1 図書所蔵冊数

単位：冊

年度末		2017	2018	2019	2020	2021	2022
本館		**2,802,495**	**2,818,900**	**2,833,013**	**2,825,842**	**2,870,386**	**2,884,912**
	和漢書	1,630,451	1,645,167	1,656,564	1,664,261	1,687,799	1,705,785
	洋書	1,172,044	1,173,733	1,176,449	1,161,581	1,182,587	1,179,127
医学分館		**417,425**	**419,376**	**444,986**	**396,892**	**397,021**	**394,192**
	和漢書	172,654	174,393	173,201	159,967	160,168	158,474
	洋書	244,771	244,983	271,785	236,925	236,853	235,718
北青葉山分館		**398,464**	**400,106**	**401,834**	**403,575**	**403,007**	**381,751**
	和漢書	92,255	92,914	93,922	95,291	95,925	95,409
	洋書	306,209	307,192	307,912	308,284	307,082	286,342
工学分館		**364,444**	**368,551**	**366,209**	**368,572**	**365,811**	**368,337**
	和漢書	181,083	184,131	182,743	184,592	182,572	184,580
	洋書	183,361	184,420	183,466	183,980	183,239	183,757
農学分館		**150,348**	**152,160**	**155,436**	**156,826**	**158,115**	**160,415**
	和漢書	88,763	90,266	92,918	94,098	94,974	97,125
	洋書	61,585	61,894	62,518	62,728	63,141	63,290
計		**4,133,176**	**4,159,093**	**4,201,478**	**4,151,707**	**4,194,340**	**4,189,607**
	和漢書	2,165,206	2,186,871	2,199,348	2,198,209	2,221,438	2,241,373
	洋書	1,967,970	1,972,222	2,002,130	1,953,498	1,972,902	1,948,234

※川内キャンパス及び片平キャンパスの図書室は本館に含む。

7.2 雑誌所蔵種類数

単位：種類

年度末		2017	2018	2019	2020	2021	2022
本館		**44,121**	**45,116**	**45,233**	**45,208**	**45,000**	**45,081**
	和雑誌	26,679	27,429	27,509	27,515	27,317	27,399
	洋雑誌	17,442	17,687	17,724	17,693	17,683	17,682
医学分館		**14,824**	**14,839**	**14,858**	**14,892**	**15,125**	**14,716**
	和雑誌	5,408	5,413	5,434	5,469	5,423	5,321
	洋雑誌	9,416	9,426	9,424	9,423	9,702	9,395
北青葉山分館		**11,245**	**11,460**	**11,713**	**11,583**	**11,350**	**10,682**
	和雑誌	2,686	2,825	2,884	2,899	2,723	2,436
	洋雑誌	8,559	8,635	8,829	8,684	8,627	8,246
工学分館		**8,127**	**8,113**	**8,109**	**8,351**	**8,380**	**8,384**
	和雑誌	3,743	3,740	3,739	3,980	4,011	3,993
	洋雑誌	4,384	4,373	4,370	4,371	4,369	4,391
農学分館		**6,662**	**6,670**	**6,686**	**6,669**	**6,674**	**6,699**
	和雑誌	4,363	4,369	4,381	4,368	4,371	4,392
	洋雑誌	2,299	2,301	2,305	2,301	2,303	2,307

※川内キャンパス及び片平キャンパスの図書室は本館に含む。

※本・分館において重複等があるため、全館合計は算出していない。

8 図書・雑誌受入数

8.1 図書受入冊数

単位：冊

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
本館	**24,755**	**24,025**	**18,651**	**15,823**	**17,092**	**21,717**
和漢書	**19,392**	**18,712**	**14,895**	**12,679**	**13,992**	**19,443**
購入	11,568	11,473	9,275	7,931	8,228	7,903
寄贈・その他	7,824	7,239	5,620	4,748	5,764	11,540
洋書	**5,363**	**5,313**	**3,756**	**3,144**	**3,100**	**2,274**
購入	2,574	1,575	1,763	1,167	932	764
寄贈・その他	2,789	3,738	1,993	1,977	2,168	1,510
医学分館	**4,241**	**3,863**	**2,314**	**2,283**	**2,169**	**1,849**
和漢書	**3,427**	**2,980**	**1,790**	**1,678**	**1,672**	**1,501**
購入	1,376	1,527	1,131	957	813	669
寄贈・その他	2,051	1,453	659	721	859	832
洋書	**814**	**883**	**524**	**605**	**497**	**348**
購入	52	55	56	15	36	38
寄贈・その他	762	828	468	590	461	310
北青葉山分館	**3,266**	**4,553**	**4,207**	**2,913**	**2,398**	**2,399**
和漢書	**1,912**	**2,364**	**3,007**	**1,652**	**1,168**	**1,006**
購入	1,611	1,575	1,729	1,423	1,006	882
寄贈・その他	301	789	1,278	229	162	124
洋書	**1,354**	**2,189**	**1,200**	**1,261**	**1,230**	**1,393**
購入	648	577	483	422	417	1,018
寄贈・その他	706	1,612	717	839	813	375
工学分館	**2,907**	**4,446**	**3,615**	**2,496**	**3,779**	**2,527**
和漢書	**2,317**	**3,311**	**2,782**	**1,948**	**2,359**	**2,009**
購入	1,691	1,966	1,860	1,510	1,322	1,929
寄贈・その他	626	1,345	922	438	1,037	80
洋書	**590**	**1,135**	**833**	**548**	**1,420**	**518**
購入	362	423	415	510	517	457
寄贈・その他	228	712	418	38	903	61
農学分館	**4,956**	**1,822**	**3,276**	**1,985**	**1,290**	**2,301**
和漢書	**1,753**	**1,513**	**2,652**	**1,715**	**877**	**2,152**
購入	1,234	1,196	1,380	1,003	716	962
寄贈・その他	519	317	1,272	712	161	1,190
洋書	**3,203**	**309**	**624**	**270**	**413**	**149**
購入	181	158	282	250	153	74
寄贈・その他	3,022	151	342	20	260	75
計	**40,125**	**38,709**	**32,063**	**25,500**	**26,728**	**30,793**
和漢書	**28,801**	**28,880**	**25,126**	**19,672**	**20,068**	**26,111**
購入	17,480	17,737	15,375	12,824	12,085	12,345
寄贈・その他	11,321	11,143	9,751	6,848	7,983	13,766
洋書	**11,324**	**9,829**	**6,937**	**5,828**	**6,660**	**4,682**
購入	3,817	2,788	2,999	2,364	2,055	2,351
寄贈・その他	7,507	7,041	3,938	3,464	4,605	2,331

※川内キャンパス及び片平キャンパスの図書室は本館に含む。

8.2 雑誌受入種類数

単位：種類

年度			2017	2018	2019	2020	2021	2022
本館			**5,826**	**5,552**	**5,319**	**5,148**	**4,840**	**4,689**
	国内雑誌		**3,776**	**3,569**	**3,460**	**3,347**	**3,093**	**2,980**
		購入	1,026	990	914	901	837	820
		寄贈・その他	2,750	2,579	2,546	2,446	2,256	2,160
	国外雑誌		**2,050**	**1,983**	**1,859**	**1,801**	**1,747**	**1,709**
		購入	1,806	1,736	1,661	1,618	1,588	1,565
		寄贈・その他	244	247	198	183	159	144
医学分館			**1,784**	**1,735**	**1,515**	**1,471**	**1,417**	**1,368**
	国内雑誌		**815**	**794**	**659**	**624**	**590**	**562**
		購入	104	99	88	87	84	78
		寄贈・その他	711	695	571	537	506	484
	国外雑誌		**969**	**941**	**856**	**847**	**827**	**806**
		購入	830	801	759	753	750	739
		寄贈・その他	139	140	97	94	77	67
北青葉山分館			**1,352**	**1,349**	**1,509**	**1,489**	**955**	**901**
	国内雑誌		**398**	**401**	**556**	**540**	**250**	**226**
		購入	72	70	70	63	59	58
		寄贈・その他	326	331	486	477	191	168
	国外雑誌		**954**	**948**	**953**	**949**	**705**	**675**
		購入	534	530	527	524	515	504
		寄贈・その他	420	418	426	425	190	171
工学分館			**1,367**	**1,292**	**1,137**	**1,112**	**1,062**	**1,045**
	国内雑誌		**769**	**715**	**618**	**606**	**590**	**585**
		購入	189	157	140	133	116	114
		寄贈・その他	580	558	478	473	474	471
	国外雑誌		**598**	**577**	**519**	**506**	**472**	**460**
		購入	541	523	477	464	431	419
		寄贈・その他	57	54	42	42	41	41
農学分館			**1,010**	**1,011**	**1,010**	**970**	**938**	**921**
	国内雑誌		**781**	**785**	**784**	**747**	**722**	**709**
		購入	93	94	94	79	77	77
		寄贈・その他	688	691	690	668	645	632
	国外雑誌		**229**	**226**	**226**	**223**	**216**	**212**
		購入	177	175	174	173	171	168
		寄贈・その他	52	51	52	50	45	44

※川内キャンパス及び片平キャンパスの図書室は本館に含む。

※本・分館において重複等があるため、全館合計は算出していない。

9　電子情報資源・視聴覚資料

9.1　電子ジャーナルの整備状況

単位：種類

年度末		2017	2018	2019	2020	2021	2022
本館		**13,382**	**13,285**	**13,541**	**13,005**	**14,020**	**13,532**
	国内	13	13	13	34	36	34
	国外	13,369	13,272	13,528	12,971	13,984	13,498
医学分館		**1,334**	**1,379**	**1,421**	**1,472**	**1,505**	**1,550**
	国内	1,334	1,379	1,421	1,472	1,505	1,550
	国外	–	–	–	–	–	–
北青葉山分館		–	–	–	–	–	–
	国内	–	–	–	–	–	–
	国外	–	–	–	–	–	–
工学分館		–	–	–	–	–	–
	国内	–	–	–	–	–	–
	国外	–	–	–	–	–	–
農学分館		–	–	–	–	–	–
	国内	–	–	–	–	–	–
	国外	–	–	–	–	–	–
計		**14,716**	**14,664**	**14,962**	**14,477**	**15,525**	**15,082**
	国内	1,347	1,392	1,434	1,506	1,541	1,584
	国外	13,369	13,272	13,528	12,971	13,984	13,498

※一部キャンパス限定あり

9.2　電子ブックの整備状況

単位：タイトル

年度末		2017	2018	2019	2020	2021	2022
本館		**8,374**	**9,666**	**8,609**	**9,375**	**9,988**	**11,904**
	国内	6,266	6,048	5,796	6,230	6,652	7,465
	国外	2,108	3,618	2,813	3,145	3,336	4,439
医学分館		**1,448**	**5,275**	**6,020**	**6,870**	**7,598**	**8,432**
	国内	1,312	5,139	5,887	6,736	7,434	8,249
	国外	136	136	133	134	164	183
北青葉山分館		**821**	**921**	**1,004**	**1,249**	**1,532**	**1,680**
	国内	28	61	90	269	335	371
	国外	793	860	914	980	1,197	1,309
工学分館		**1,309**	**1,410**	**1,513**	**1,665**	**1,740**	**1,765**
	国内	869	961	1,057	1,108	1,183	1,199
	国外	440	449	456	557	557	566
農学分館		**133**	**133**	**133**	**133**	**253**	**299**
	国内	132	132	132	132	252	298
	国外	1	1	1	1	1	1
計		**12,085**	**17,405**	**17,279**	**19,292**	**21,111**	**24,080**
	国内	8,607	12,341	12,962	14,475	15,856	17,582
	国外	3,478	5,064	4,317	4,817	5,255	6,498

※川内キャンパス及び片平キャンパスの図書室は本館に含む。

9.3 データベースの整備状況

単位：種類

年度末		2017	2018	2019	2020	2021	2022
本館		**34**	**38**	**38**	**58**	**59**	**60**
	国内	17	17	17	30	30	31
	国外	17	21	21	28	29	29
医学分館		**4**	**5**	**4**	**2**	**3**	**2**
	国内	2	2	2	2	2	2
	国外	2	3	2	−	1	−
北青葉山分館		−	−	−	−	−	−
	国内	−	−	−	−	−	−
	国外	−	−	−	−	−	−
工学分館		−	−	−	−	−	−
	国内	−	−	−	−	−	−
	国外	−	−	−	−	−	−
農学分館		−	−	−	−	−	−
	国内	−	−	−	−	−	−
	国外	−	−	−	−	−	−
計		**38**	**43**	**42**	**60**	**62**	**62**
	国内	19	19	19	32	32	33
	国外	19	24	23	28	30	29

※一部キャンパス限定あり。川内キャンパス及び片平キャンパスの図書室は本館に含む。

9.4 機関リポジトリ（TOUR）収録件数

単位：件

年度末	2017	2018	2019	2020	2021	2022
学術雑誌論文	5,615	5,620	5,907	6,479	6,640	6,682
学位論文	4,224	4,805	5,261	5,973	6,527	7,129
紀要論文	41,558	42,979	39,042	33,519	34,984	36,465
会議発表資料	44	46	47	50	52	62
研究報告書	769	769	769	785	785	785
教材	126	152	154	154	155	155
その他（学位論文要旨及び審査結果要旨含む）	27,084	27,876	28,418	29,038	29,578	29,813
計	**79,420**	**82,247**	**79,598**	**75,998**	**78,721**	**81,091**

※NII-ELS終了に伴い2017年に紀要論文データ約22,000件を移行登録、
以後重複調整等により2022年度末までに約19,000件を削除。

9.5 視聴覚資料

単位：タイトル

年度末	2017	2018	2019	2020	2021	2022
マイクロフィルム	**1,425**	**1,425**	**1,426**	**1,426**	**1,430**	**1,430**
本館	1,419	1,419	1,419	1,419	1,423	1,423
医学分館	1	1	2	2	2	2
北青葉山分館	–	–	–	–	–	–
工学分館	5	5	5	5	5	5
農学分館	–	–	–	–	–	–
マイクロフィッシュ	**197**	**197**	**197**	**197**	**197**	**197**
本館	195	195	195	195	195	195
医学分館	–	–	–	–	–	–
北青葉山分館	–	–	–	–	–	–
工学分館	2	2	2	2	2	2
農学分館	–	–	–	–	–	–
カセットテープ	**70**	**70**	**70**	**70**	**70**	**70**
本館	66	66	66	66	66	66
医学分館	3	3	3	3	3	3
北青葉山分館	–	–	–	–	–	–
工学分館	1	1	1	1	1	1
農学分館	–	–	–	–	–	–
ビデオテープ	**2,265**	**2,265**	**2,265**	**2,265**	**2,265**	**2,265**
本館	1,853	1,853	1,853	1,853	1,853	1,853
医学分館	130	130	130	130	130	130
北青葉山分館	2	2	2	2	2	2
工学分館	268	268	268	268	268	268
農学分館	12	12	12	12	12	12
CD・LD・DVD・BD	**3,701**	**3,775**	**3,825**	**3,835**	**3,861**	**3,880**
本館	2,750	2,803	2,849	2,859	2,880	2,899
医学分館	469	470	470	470	470	470
北青葉山分館	190	190	190	190	194	194
工学分館	130	130	130	130	131	131
農学分館	162	182	186	186	186	186
レコード	**7**	**7**	**7**	**7**	**7**	**7**
本館	7	7	7	7	7	7
医学分館	–	–	–	–	–	–
北青葉山分館	–	–	–	–	–	–
工学分館	–	–	–	–	–	–
農学分館	–	–	–	–	–	–
その他	**49**	**50**	**50**	**50**	**50**	**50**
本館	21	22	22	22	22	22
医学分館	28	28	28	28	28	28
北青葉山分館	–	–	–	–	–	–
工学分館	–	–	–	–	–	–
農学分館	–	–	–	–	–	–

※川内キャンパス及び片平キャンパスの図書室は本館に含む。

10 開館状況

10.1 開館日数

単位：日

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
本館	**351**	**352**	**347**	**237**	**336**	**351**
医学分館	**361**	**361**	**271**	**190**	**326**	**355**
北青葉山分館	**358**	**359**	**360**	**191**	**264**	**238**
工学分館	**356**	**356**	**354**	**192**	**249**	**340**
農学分館	**355**	**357**	**354**	**160**	**240**	**329**

10.2 開館時間数

単位：時間

年度		2017	2018	2019	2020	2021	2022
本館		**4,723**	**4,789**	**4,667**	**2,193**	**3,512**	**4,571**
	うち時間外	2,804	2,820	2,772	649	1,616	2,659
医学分館		**6,137**	**6,137**	**3,314**	**1,528**	**5,110**	**6,010**
	うち時間外	4,169	4,169	1,466	8	3,222	4,098
北青葉山分館		**8,550**	**8,562**	**8,640**	**1,839**	**3,917**	**1,904**
	うち時間外	6,622	6,618	6,896	327	1,741	0
工学分館		**8,471**	**8,544**	**8,496**	**4,608**	**5,976**	**7,816**
	うち時間外	6,559	6,640	6,616	1,216	2,512	5,876
農学分館		**6,035**	**6,069**	**6,052**	**1,457**	**3,213**	**5,254**
	うち時間外	4,059	4,165	4,188	0	1,581	3,270

11　利用統計

11.1　入館者数

11.11　館別入館者数

単位：人

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
本館	669,368	650,100	590,699	151,947	299,631	378,999
医学分館	188,059	171,819	66,712	3,956	117,991	127,714
北青葉山分館	67,321	61,768	61,131	19,314	30,076	926
工学分館	122,394	157,690	161,650	30,471	57,535	100,381
農学分館	66,098	61,304	64,996	17,020	29,051	41,973
計	**1,113,240**	**1,102,681**	**945,188**	**222,708**	**534,284**	**649,993**

11.12　利用者区分別入館者数（本館）

単位：人

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
学生	595,877	582,616	527,342	132,166	272,398	347,880
教職員	14,109	13,368	13,744	6,166	10,093	10,564
学外者	26,888	23,597	18,874	368	0	1,482
計	**636,874**	**619,581**	**559,960**	**138,700**	**282,491**	**359,926**

※11.11は風除室等での計測による建物入館者数、11.12は受付通過者数のため、一致しない。

11.2 貸出冊数

11.21 館別貸出冊数

単位：冊

年度		2017	2018	2019	2020	2021	2022
本館		**227,603**	**226,112**	**201,483**	**108,381**	**141,056**	**135,991**
	学生	201,184	197,964	174,070	90,465	118,307	112,106
	教職員	21,874	22,974	22,137	17,055	21,878	21,263
	その他	4,545	5,174	5,276	861	871	2,622
医学分館		**30,284**	**27,688**	**15,584**	**6,601**	**11,806**	**15,520**
	学生	24,056	21,759	14,173	4,995	8,688	11,585
	教職員	5,444	5,363	1,350	1,606	3,100	3,899
	その他	784	566	61	–	18	36
北青葉山分館		**24,442**	**24,487**	**24,003**	**14,450**	**17,237**	**2,637**
	学生	22,658	22,370	21,577	12,897	14,955	1,854
	教職員	1,784	2,117	2,426	1,553	2,282	783
	その他	–	–	–	–	–	–
工学分館		**49,795**	**48,335**	**45,004**	**18,961**	**31,702**	**34,574**
	学生	45,330	44,634	41,337	16,642	28,008	31,266
	教職員	4,309	3,415	3,399	2,253	3,556	3,205
	その他	156	286	268	66	138	103
農学分館		**8,054**	**7,470**	**10,042**	**6,122**	**6,591**	**7,684**
	学生	6,810	6,335	8,471	4,816	4,595	5,658
	教職員	1,244	1,135	1,571	1,306	1,996	2,026
	その他	–	–	–	–	–	–
計		**340,178**	**334,092**	**296,116**	**154,515**	**208,392**	**196,406**
	学生	300,038	293,062	259,628	129,815	174,553	162,469
	教職員	34,655	35,004	30,883	23,773	32,812	31,176
	その他	5,485	6,026	5,605	927	1,027	2,761

※マニュアル貸出を含む。

11.22 開架／書庫別貸出冊数（本館）

単位：冊（2022年度）

種別	開架	書庫	計
学生	78,986	28,487	**107,473**
教職員	7,848	12,619	**20,467**
その他	1,168	497	**1,665**
計	**88,002**	**41,603**	**129,605**

11.23 学生の所属別貸出冊数

単位：冊（2022年度）

貸出館	本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	部局図書室等	計
川内キャンパス	**75,553**	**172**	**17**	**159**	**254**	**1,587**	**77,742**
文学部・文学研究科	47,810	40	5	20	109	24	48,008
教育学部・教育学研究科	5,923	46	2	6	5	147	6,129
法学部・法学研究科	8,785	57	–	16	55	1,389	10,302
経済学部・経済学研究科	9,552	19	2	101	85	24	9,783
国際文化研究科	2,807	8	7	–	–	–	2,822
教育情報学教育部	168	–	–	–	–	3	171
その他	508	2	1	16	–	–	527
星陵キャンパス	**1,398**	**10,936**	**0**	**34**	**7**	**435**	**12,810**
医学部・医学系研究科	1,210	8,465	–	34	7	1	9,717
歯学部・歯学研究科	188	2,447	–	–	–	434	3,069
その他	–	24	–	–	–	–	24
青葉山北キャンパス	**14,823**	**88**	**1,656**	**2,831**	**799**	**3,186**	**23,383**
理学部・理学研究科	14,117	50	1,541	2,754	732	3,186	22,380
薬学部・薬学研究科	706	38	114	77	67	–	1,002
その他	–	–	1	–	–	–	1
青葉山東キャンパス	**16,040**	**313**	**53**	**28,860**	**748**	**2,405**	**48,419**
工学部・工学研究科	14,655	220	53	27,330	543	1,836	44,637
情報科学研究科	1,105	–	–	988	182	429	2,704
医工学研究科	88	93	–	466	23	140	810
その他	192	–	–	76	–	–	268
青葉山新キャンパス	**3,552**	**42**	**4**	**770**	**3,716**	**49**	**8,133**
農学部・農学研究科	2,547	40	–	101	3,644	10	6,342
環境科学研究科	1,005	2	4	669	72	39	1,791
その他	–	–	–	–	–	–	–
片平キャンパス	**740**	**33**	**124**	**54**	**134**	**79**	**1,164**
生命科学研究科	739	33	124	47	134	66	1,143
その他	1	–	–	7	–	13	21
計	**112,106**	**11,584**	**1,854**	**32,708**	**5,658**	**7,741**	**171,651**

※システム貸出のみ

11.3 参考調査件数

単位：件

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
本館	978	356	563	352	992	508
医学分館	3,607	3,296	1,280	75	2,241	2,509
北青葉山分館	2,892	−	885	555	444	80
工学分館	4,896	6,308	6,466	1,219	2,301	4,015
農学分館	2,644	2,452	2,600	681	523	1,679
計	**15,017**	**12,412**	**11,794**	**2,882**	**6,501**	**8,791**

11.4 図書館間相互利用

単位：件

		年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
本館								
	現物貸借	貸出	841	754	2,685	679	886	836
		借受	1,225	948	884	802	1,339	1,295
	文献複写	受付	3,184	2,961	2,685	2,393	3,159	2,447
		依頼	2,114	1,567	1,929	2,057	3,324	2,380
医学分館								
	現物貸借	貸出	21	28	17	8	65	28
		借受	51	28	22	31	31	18
	文献複写	受付	5,020	5,781	3,566	2,606	3,055	2,676
		依頼	1,686	1,328	1,587	1,591	1,277	838
北青葉山分館								
	現物貸借	貸出	47	62	74	52	58	1
		借受	48	32	25	23	34	32
	文献複写	受付	779	770	712	585	557	296
		依頼	185	107	133	78	121	132
工学分館								
	現物貸借	貸出	72	68	67	77	87	56
		借受	231	180	94	154	149	72
	文献複写	受付	1,303	1,189	995	642	872	598
		依頼	367	314	200	439	554	271
農学分館								
	現物貸借	貸出	38	38	41	30	58	57
		借受	23	19	16	8	13	8
	文献複写	受付	373	327	290	196	160	124
		依頼	129	107	97	93	108	69
計								
	現物貸借	貸出	**1,019**	**950**	**2,884**	**846**	**1,154**	**978**
		借受	**1,578**	**1,207**	**1,041**	**1,018**	**1,566**	**1,425**
	文献複写	受付	**10,659**	**11,028**	**8,248**	**6,422**	**7,803**	**6,141**
		依頼	**4,481**	**3,423**	**3,946**	**4,258**	**5,384**	**3,690**

11.5 電子情報資源利用件数

11.51 電子ジャーナルアクセス件数

単位：件

年	2017	2018	2019	2020	2021	2022
計	**3,357,066**	**3,665,047**	**3,767,239**	**4,290,335**	**5,379,727**	**5,565,717**

11.52 電子ブックアクセス件数

単位：件

年	2017	2018	2019	2020	2021	2022
国内	6,210	8,379	15,461	29,724	30,348	33,472
国外	118,615	129,777	201,652	182,083	160,275	186,563
計	**124,825**	**138,156**	**217,113**	**211,807**	**190,623**	**220,035**

11.53 機関リポジトリ（TOUR）利用件数

単位：件

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
アクセス件数	**239,902**	**224,637**	**250,340**	**373,017**	**494,024**	**505,366**
ダウンロード件数	**936,120**	**2,023,905**	**2,091,993**	**1,872,467**	**2,289,996**	**2,022,169**

11.6 施設利用件数

単位：件

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
本館	**5,524**	**5,865**	**5,546**	**859**	**3,992**	**5,367**
グループ学習室	3,623	3,833	3,653	525	2,765	3,935
研究個室	1,437	1,513	1,400	325	1,224	1,408
フレキシブルワークエリア	54	54	43	5	1	7
多目的室	125	149	128	-	-	-
グローバル学習室	122	141	156	1	1	16
展示コーナー	9	5	5	3	-	-
PCエリア	56	53	46	-	-	-
2号館3F貴重書学習室	98	117	115	-	1	1
医学分館	**364**	**591**	**160**	**-**	**1,470**	**1,034**
グループ学習室	263	503	85	-	1,470	1,034
研究個室	101	88	75	-	-	-
北青葉山分館	**26**	**56**	**57**	**69**	**165**	**-**
グループ閲覧室	26	56	57	69	165	-
工学分館	**210**	**245**	**436**	**708**	**2,378**	**3,512**
Language Studio	-	-	-	**478**	**1,643**	**2,086**
グループ学習室	210	245	436	230	735	1,426

単位：人

農学分館	**67,971**	**78,089**	**104,229**	**22,037**	**31,321**	**48,675**
ラーニングコモンズ	67,971	78,089	104,229	22,037	31,321	48,675

※農学分館[ラーニングコモンズ]のみ件数ではないため、別表とした。

12 図書館資料費

12.1 資料区分別の年度別推移

単位：千円

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
図書	156,390	125,549	114,116	101,362	90,289	85,591
雑誌	124,700	89,815	120,835	108,389	94,696	86,278
電子ジャーナル	658,709	713,086	737,730	741,701	744,208	789,209
電子書籍	11,587	13,263	14,287	21,296	34,266	20,197
データベース	83,765	68,895	85,614	78,178	86,016	88,545
その他	782	1,118	4,529	2,503	3,250	2,246
計	**1,035,933**	**1,011,726**	**1,077,111**	**1,053,429**	**1,052,725**	**1,072,066**

12.2 資料区分別・館別内訳

単位：千円（2022年度）

館			本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
図書			**51,917**	**4,272**	**9,473**	**14,634**	**5,295**	**85,591**
		和漢書	37,118	3,750	3,083	7,288	3,285	54,524
		洋書	14,799	522	6,390	7,346	2,010	31,067
雑誌			**79,742**	**4,408**	**1,341**	**643**	**144**	**86,278**
		国内雑誌	21,820	4,408	1,341	643	144	28,356
		国外雑誌	57,922	-	-	-	-	57,922
電子ジャーナル			**786,596**	**2,613**	**-**	**-**	**-**	**789,209**
		国内	2,729	2,613	-	-	-	5,342
		国外	783,867	-	-	-	-	783,867
	出版社		782,462	-	-	-	-	782,462
		国内	2,729	-	-	-	-	2,729
		国外	779,733	-	-	-	-	779,733
	その他		4,134	2,613	-	-	-	6,747
		国内	-	2,613	-	-	-	2,613
		国外	4,134	-	-	-	-	4,134
電子書籍			**10,704**	**3,250**	**4,386**	**578**	**1,279**	**20,197**
		和漢書	4,945	2,486	422	76	1,279	9,208
		洋書	5,759	764	3,964	502	-	10,989
データベース			**86,767**	**1,778**	**-**	**-**	**-**	**88,545**
		和漢書	26,644	1,778	-	-	-	28,422
		洋書	60,123	-	-	-	-	60,123
その他			**1,400**	**-**	**-**	**509**	**337**	**2,246**
計			**1,017,126**	**16,321**	**15,200**	**16,364**	**7,055**	**1,072,066**

※東北アジア研究センター及び片平地区の研究所等は本館に含む。

12.3 図書館資料費に係る全学的基盤経費の推移

単位：千円

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
学生用図書整備事業	25,600	25,600	25,600	20,480	18,432	18,432
電子的学術情報基盤整備事業	315,689	334,356	344,273	349,271	359,111	381,673
計	**341,289**	**359,956**	**369,873**	**369,751**	**377,543**	**400,105**
図書館資料費に占める割合	32.95%	35.58%	34.34%	35.10%	35.86%	37.32%

13 所蔵コレクション

13.1 国宝

1. 類聚国史 巻第二十五 （一巻） 平安時代末期

『類聚国史」は，菅原道真が勅を奉じて，六国史（『日本書紀』『続日本紀』『日本後紀』『続日本後紀』『文徳実録』『三代実録』）の記事を主題別に分け編纂したもので，当時は全200巻であったが，現在は61巻を残すのみである。本館所蔵の巻第二十五は「帝王部第五」で，平安朝末期から鎌倉期時代の間に書写された古写本の一つである。

2. 史記孝文本紀 第十 （一巻） 延久5年（1073）

『史記』は，漢の司馬遷撰の史書であり，当館の『史記』は，古い時代の注釈書である裴駰撰『史記集解」を本文とする古写本である。文章博士を輩出した学問の家柄である大江家に家伝されたものであり，大江家国の筆になる。その後も大江家行・時通により校合加点と奥書が加えられ，年代の明記された『史記』の写本としては最古のものである。本文に施された朱書の乎古止点や墨書の古訓反切，また，欄外行間・紙背には史記の索隠本と漢書の旧注等，大江家の学問の風をしのばせる。なお「孝文本紀」とは，仁政を施いたとされる漢の孝文帝（太宗）の治績を記したものである。

13.2 主要特殊文庫（本館）

1. 阿部文庫

東北帝国大学法文学部教授であった阿部次郎（あべじろう1883-1959）の旧蔵書。阿部次郎は人格主義を掲げ，日本文化研究の基礎作りに力を注いだ。自伝的随想『三太郎の日記』は，旧制高校生など当時の青年教養層に広く読まれた。阿部が逝去した後，1963年に「阿部日本文化研究所」の施設一切が本学に寄贈されたのに伴い，文学部に附属日本文化研究施設が発足し蔵書5,190冊を受け入れた。さらに同施設が東北アジア研究センターに発展解消したことから，1998年に図書館へ移管された。

2. 石津文庫

文学部教授（宗教学宗教史専攻）で第11代学長を勤めた石津照璽（いしづてるじ1903-1972）の旧蔵書。蔵書の内容は，全体の7-8割が哲学および宗教関係書で占められる。量的には『大日本仏教全書』『仏教大系』等の叢書・全集が多いが，石津宗教哲学の支柱とも土壌ともいうべき哲学，社会学，文化人類学を核にすえ，また心理学，精神医学の書籍も配置されている。書き入れ本の多いことも特色として挙げられる。

3. 伊東文庫

新制東北大学教養部教授等を歴任し，考古学講座開設に伴い文学部に転じて文学部長を2期務めた伊東信雄（いとうのぶお1908-1987）の旧蔵書。考古学，歴史研究の基本文献，各地の発掘調査報告書がよく集成されており，その他身辺資料に近いものも含まれている。1987年に遺族から附属図書館に受け入れられた。

4. 梅原文庫

東アジア青銅器研究の世界的権威で，京都大学名誉教授の梅原末治（うめはらすえじ1893-1983）の旧蔵書。1964年，京都大学退官後に勤務していた天理大学を退くにあたり，蔵書の一部を本学へ寄贈することを申し出られ，本文庫が成立した。文庫の内容は，西洋の考古学に関するものと博物館関係の洋書を主とする。附属図書館には1964-1965年にかけて受け入れられ，1973年に『梅原文庫目録』が完成している。

5. 大類文庫

草創期の東北帝国大学法文学部教授であった大類伸（おおるいのぶる1884-1975）の旧蔵書。大類の研究テーマの三つの柱であったラファエロ，ダンテ，マキャヴェリ関連の蔵書が中心である。大類の全蔵書は各地の研究機関に分散所蔵されているが，当館には1962年に丸善支店を仲介して，洋書946冊，和書7冊がおさめられた。

6. 狩野文庫

秋田県大館出身の文学博士狩野亨吉（かのうこうきち1865-1942）の旧蔵書。狩野の親友で東北帝国大学の初代総長であった沢柳政太郎（1865-1927）の尽力により東北大学にもたらされ，約108，000冊からなる大コレクションになっている。和漢書古典を主体とする幅広い領域の資料を含み，「古典の百科全書」あるいは「江戸学の宝庫」とも称される。国宝2点は，この文庫に含まれていたものである。

7. 木下文庫

経済学部教授で学部長も務めた木下彰（きのしたあきら1903-82）の旧蔵書。専門の経済学関係はもちろんのこと，農業政策，農業経済，農地改革，土地行政，山村経済等を中心とする基礎資料および研究資料をはじめ，小作制度，名子制度，東北地方の農業に関する研究論文ならびに調査資料が収集されている。1983年，菅野俊作（旧教養部）教授（故人）の斡旋により遺族から附属図書館に寄贈された。

8. 櫛田文庫

代表的なマルクス主義者であった櫛田民蔵（くしだたみぞう1885-1934）の旧蔵書。蔵書の内容は，内外の社会科学，社会問題，労働問題関係の文献を含み，なかでも，Misere de la philosophie（「哲学の貧困」初版本1847年刊）は，マルクスの自用本であり，マルクス自身による多数の訂正・書き込みがある極めて貴重な資料である。マルクスの死後，エンゲルスの手を経て，ドイツ社会民主党の蔵書となったものを櫛田が譲り受けたとされる。櫛田の死後，当時法文学部の助教授であった宇野弘蔵の斡旋で彼の蔵書を購入することになり，1935-1937年度にかけて4回に分けて本館に受け入れられた。

9. 河野文庫

東北帝国大学法文学部教授であった河野與一（こうのよいち1896-1984）の旧蔵書。文学・哲学及び古典語の碩学は，大学ではプラトンやアリストテレスからホーマー，キケロ，さらにデカルト，パスカル，ライプニッツ等を講義したが，現代の西欧・東欧の諸語に対する造詣も深く，さらに和漢に対する並々ならぬ教養を備えた学問の巨人であった。河野の没後，遺族から1985年に当館に寄贈された。

10. 児島文庫

大正・昭和期の美術史家で，1923年2月から1937年3月まで東北帝国大学法文学部助教授として西洋美術史を担当した児島喜久雄（こじまきくお1887-1950）の旧蔵書。全て洋書からなり，とりわけレオナルド・ダ・ヴィンチに関する文献が豊富である。児島の没後，村田潔（児島の後任で当時本学文学部美術史講座教授）と河野與一（同じく哲学講座教授）の斡旋により，1956年に譲渡された。

11. 須永文庫

農学研究所教授の須永重光（すながしげみつ1907-1976）の旧蔵書。蔵書の内容は経済・産業関係を中心に社会科学，法律制度，日本史，科学技術など多岐にわたるが，とりわけ調査資料及び農業・農政会議資料が全体の40％近くを占めている。1977年に寄贈をうけ，1979年3月に整理が完了した。

12. 漱石文庫

文豪・夏目漱石（なつめそうせき1867-1916）の旧蔵書約3,000点を中心とするコレクション。英文学関係の図書が多く，漱石による多くの書き入れがある。また，漱石の日記，ノート，試験問題，原稿・草稿などの断片資料も含まれている。本学への譲渡は，当時の図書館長で，漱石の愛弟子でもあった小宮豊隆（1884-1966）の尽力によるもので，1943-1944年に搬入された。1971年に『漱石文庫目録』が作成され，さらに，仙台市と共同でマイクロフィルム化を進め，1997年度末に完了した。現在はインターネット上で自筆資料全点が公開されている。

13. 高柳文庫

教養部長，法学部長を務めた高柳真三（たかやなぎしんぞう1902-1990）の旧蔵書。専門は日本法制史学で，なかでも明治期家族法と江戸期刑事法の分野において幾多の優れた研究を残した。蔵書はそうした研究活動を反映した内容で，図書3,818冊のほかに，近世の古文書約1,400点が含まれている。1994年に受け入れられ，図書は1996年に整理が終了したが，古文書は現在も継続して整理が行われている。

14. 中野文庫

東北帝国大学法文学部を1940年に卒業し，法政大学経済学部長，長野経済短期大学学長を務めた中野正（なかのただし1912-1985）の旧蔵書。中野はマルクス経済学の立場から経済理論および古典派経済学を研究し，後年は近代経済学の考え方を取り入れて，マルクス経済学から脱皮する方向を試みている。蔵書は哲学・経済学関連書を中心とする。中野の没後，大学院時代に教えをうけた経済学部教授の堀元が仲介し，1988年に遺族から受け入れられた。

15. 中村文庫

東北帝国大学法文学部，のち東北大学経済学部教授で学部長も務めた中村吉治（なかむらきちじ1905-1986）の旧蔵書。1968年に定年退官するまで，教育研究を進める一方，大学の評議員，附属図書館長，東北大学五十年史編集委員長を歴任し日本学術会議会員を務めるなど，学内外の学術行政にも尽力した。蔵書の内容は主として日本経済史・社会史関係の資料から成り，1988年に附属図書館に受け入れられた。

16. 晩翠文庫

仙台の文学者にして教育者であった土井晩翠（どいばんすい1871-1952）の旧蔵書。晩翠は1945年の仙台空襲で蔵書の約8割を失った。晩翠文庫は，その際に焼け残ったものと，その後購入された書籍から成り，その内容は英文学，漢文学，仏教書，西洋思想関係など多岐にわたる。しばしば朱点，書き入れや蔵書印を押された手沢本が見られ，また夏目漱石やアインシュタインからの書簡も含まれている。1965年に遺族から購入された。

17. 松本文庫

教育学部教授で，第2代学部長として尽力した松本金寿（まつもときんじゅ1904-1984）の旧蔵書。蔵書の内容は，教育学・心理学・社会学分野の専門書を主とするものの，学制・大学問題，青少年問題，女性史関係の図書も多く，改めて民主教育の在り方を終始追求し続けた学風が偲ばれる。1990年に附属図書館に受け入れられた。

18. 宮田文庫

法学部教授，また本学評議員，法学部長などを歴任した宮田光雄（みやたみつお1928-）の旧蔵書。ドイツ政治思想，キリスト教政治思想史，平和研究，の三本の柱のもとに文献が収集されており，国家と宗教をめぐる特色ある文献も少なくない。ドイツの歴史教科書の充実ぶりも特筆される。1997年に受け入れられた。

19. 矢島文庫

1932年から1965年まで附属図書館に勤務し，1965-1967年は文学部助教授として書誌学・図書館学を究めた矢島玄亮（やじまげんりょう1903-2001）の旧蔵書。特に自らの編著を主とする「参考資料」の数々に特徴をもつ。「私の蔵書は，図書館以外に置き場所は考えられない」という本人の意志に基づき，辞書類など座右の書物から書斎の掛軸の一本までを含めた全蔵書が，1980年に本館に寄贈され，1981年中に整理が完了した。

20. 柳瀬文庫

法学部長や評議員を務め，日本学士院会員であった柳瀬良幹（やなせよしもと1905-1985）の旧蔵書。専門は行政法学であるが，その学風は，現実と理想，理論と実践，認識と価値判断をはっきり区別するという点にあり，「法実証主義」と「論理主義」とが柳瀬の学問の核心をなしていた。蔵書の内容は行政法を中心とした法律学関係の資料のみではなく，文学，芸術，思想，哲学，政治学，歴史学に及んでいる。1985年に当館に受け入れられた。

21. 和算関係文庫

東北帝国大学理学部教授で初代の図書館長でもあった林鶴一（はやしつるいち1873-1935）と，数学教室創設時の同僚であった藤原松三郎（ふじわらまつさぶろう1881-1946）の旧蔵書および両教授の収集した和算関係資料14,470冊に加え，帝国学士院会員の岡本則録（おかもとのりふみ1847-1931）の旧蔵書2,667冊その他からなる合計18,335冊の大コレクション。長く理学部数学教室で保管されてきたが，1968年に文学部附属日本文化研究施設に移管され，さらに1979年に附属図書館本館に移された。

22. 和田文庫

東北帝国大学法文学部教授であった和田佐一郎（わださいちろう1894-1944）旧蔵書のうちの洋書。和田は1922年に本学の法文学部が創設されると同時に教授に任じられ，経済学第一講座を20年余担当した。蔵書は経済学全般にわたり，ペティ著『政治算術』，ジョン・ロック著『貨幣利子並に貿易に関する論文集』等の初版本など，多くの貴重書を含む。洋書2,670冊を別置し，和書682冊は一般の図書に混ぜて配架している。

23. ケーベル文庫

1893年から1914年まで東京帝国大学において西洋哲学等を講じたRaphael von Koeber（1848-1923）の旧蔵書。夏目漱石がその著「ケーベル先生」の中で，「一番人格の高い教授」に挙げ，敬愛していたことでも知られている。蔵書の内容は，ギリシャ，ラテンの古典学を中心に哲学・文学関係の図書が多数を占める。ケーベルに師事し，後にその随筆集を翻訳した本学法文学部教授・久保勉の斡旋で，1942年に購入された。

24. ゼッケル文庫

ベルリン大学の教職にあり，総長としても令名のあったEmil Seckel（1864-1924）の旧蔵書7,380冊からなるコレクション。その文庫の立派であることは生前から自慢の種であり，死後はこれをドイツの国立図書館に売るか，イギリスならばケンブリッジ，アメリカならばハーバードに売るよう夫人に依嘱したというが，遺言執行人テオドール・キップ教授の口添えと東北帝国大学法文学部教授・栗生武夫らの尽力により1926年に本学に受入が決まった。約1万点といわれた小冊子類は1945年に製本のため館外にあったところを空襲により焼失した。

25. シュタイン文庫

ドイツの民事訴訟法および刑法学者で，ライプツィヒ大学教授であったFriedrich Stein（1859-1923）の旧蔵書6,810冊からなるコレクションである。民法，商法，民事訴訟法，破産法，刑法等法律全般に関する図書，雑誌，小冊子を含む。1926年に受け入れられた。

26. ヴント文庫

ライプツィヒ大学で新たな学問領域としての実験心理学を提唱し，同大学の学長を務めたこともあるドイツの著名な心理学者Wilhelm Wundt（1832-1920）の旧蔵書。ヴントの没後，ドイツのローレンツ書店から売り出され，ライプツィヒ大学や米国のエール大学，ハーバード大学も購入に乗り出していたが，当時京都帝国大学助教授で帰国後本学心理学教室の初代教授に就任することになっていたドイツ留学中の千葉胤成の奔走と，ヴント高弟のクリーゲル教授の好意的措置により本学が獲得した。1926年に斎藤報恩会の寄付金により購入し，受け入れたものである。

27. ヴュルフェル文庫

旧制第二高等学校で30年近くドイツ語教師を務めたGeorg Wurfel（1880-1936）の旧蔵書。ドイツの諸大学で神学・哲学を学んだ後，ドイツ伝道協会の宣教師として1906年初めて来日。早稲田大学等でドイツ語を教えるなどして，1908年に二高に着任，厳格かつ熱心な授業で知られた。愛国心が強い一方で，第二の故郷である仙台の自然をこよなく愛した。

28. チーテルマン文庫

ボン大学教授で，ドイツ民法の起草者であったErnst Zitelmann（1852-1923）の旧蔵書8,280冊からなるコレクション。没後，夫人がフォック書店を通じて処分しようとしていたところ，当時ドイツ留学中であった本学法文学部民法教授の石田文次郎が交渉し本学に譲渡されたもので，1924年に受け入れた。当初は，5,000冊余りの小冊子を含んでいたが，整理中にゼッケル文庫のパンフレットとともに1945年の戦災で焼失した。

29. 西蔵大蔵経

東北帝国大学法文学部講師で，河口慧海と並ぶチベット学者である多田等観（ただとうかん1890-1967）が，チベットにおいて収集した資料6,652部からなるコレクションである。多田は京都遊学中に西本願寺法主からチベット留学生の世話を命じられたことが縁になり，ダライラマ13世の知遇を得，10年間ラサで仏教を学んだ。大量の経典等を抱えて帰国した後，宇井伯寿（法文学部印度学初代教授）の斡旋と斎藤報恩会の援助により，1923年に「デルゲ版西蔵大蔵経」4,569部，1929年「西蔵撰述仏典」2,083部が本学に受け入れられた。

30. 秋田家史料

鎌倉時代に陸奥国津軽十三湊を拠点に栄え，後に出羽国秋田に移って戦国大名となり，近世に入って常陸国宍戸5万石，さらに陸奥国三春5万5千石の藩主となった秋田家に伝来した文書類。古文書の大半は近世以降のもので，大名家の私的側面を示す詠草や肖像画，公的側面を示す内書，法規類，覚書などから成っている。1939年，秋田子爵家から奥羽史料調査部のあった東北帝国大学法文学部へ寄託された。その後，寄託品のうち刀剣類は秋田県立博物館の開館に伴い返還され，文書類は東北大学が購入した。1955年以降附属図書館への移管が行われ，2001年に『秋田家史料目録』が完成した。

31. 晴山文書

岩手県九戸郡大野村の晴山吉三郎家に伝来した文書群。法文学部（のちに経済学部）教授の木下彰によって名子制度の研究が行われ，木下が晴山家と折衝し，文部省科学研究費補助金の交付を受けて，1951年に経済学部が購入した。1990年に図書館に移管され，地元大野村によるマイクロフィルム化事業も進められて，1997年に到って『晴山文書目録』が完成した。

32. 平山文庫

理学部数学科教授の平山諦（ひらやまあきら1904-1998）が収集した和算書コレクション1,255点である。平山は1968年に停年退官した後も研究を続け，和算研究の論文・著書を多数発表している。当文庫の特長としては，一般的な和算書に比べて，『管窺輯要』『幾何原本』『九数略』といった中国・朝鮮の暦算書が多く含まれている点が挙げられる。2006年8月に遺族から附属図書館へ寄贈され，2008年度に整理を完了した。

33. 金谷文庫

文学部長・文学研究科長・附属日本文化研究施設長・附属図書館長・評議員を歴任した本学名誉教授金谷治（かなやおさむ1920-2006）の旧蔵書。戦国秦漢期における思想史の空白を埋める文献学的研究の基盤をなした和漢古書，中国思想・哲学分野の一般書が収集されており，和漢古書2,636冊（366点），一般書（中国書・和書・洋書）2,616冊の計5,252冊である。2008年2月に遺族から附属図書館に寄贈された。

34. 宮城県桃生郡河南町前谷地齋藤養之助家史料

戦前，酒田の本間家に次ぐ日本第2位の大地主であった，宮城県桃生郡河南町前谷地（現在の石巻市）の齋藤家の旧所蔵史料。2003年7月に発生した宮城県北部連続地震がきっかけとなり，史料の所有者から寄贈されたもの。土地や鉄道，鉱山，漁場，銀行など多くの産業分野への投資に関する書類が大量に残されているため，日本資本主義の展開過程を跡づけることが可能な史料群である。

35. 熱海文庫

江戸後期・明治初期の和算家熱海又治（あつみまたじ1815-1878）の旧蔵書（206点297冊）。本文庫は，約50点近い自著や関流の和算資料を多く含むほか，明治期の教科書や歴史書，経書のほか，仙台で出版された資料もあり，当時の教育や出版文化を知る上でも重要なコレクションである。保管していた熱海家は東日本大震災の津波被害にあったが，奇跡的にも資料への被害はなく，2015年に親族より寄贈された。

36. ミュンスターベルク文庫

ドイツの東洋美術史家Oskar Münsterberg（1865-1920）の旧蔵書。1925（大正14）年に購入された。1867年のパリ万博以降欧州において盛んになった東洋日本美術研究を反映して，わが国により欧文で紹介された美術書をはじめ，東洋のさまざまな芸術作品，文化社会の研究書などからなる。大型のポートフォリオには多数の抜き刷りや写真，通信文などが収められている。

13.3 主要特殊文庫（医学分館）

1.Trendelenburg & Krayer's Collection of Scientific Papers

ドイツの薬理学者パウル・トレンデレンブルク（Paul Trendelenburg 1884-1931）及びその後継者オットー・クライヤー（Otto Krayer 1899-1982）が蒐集した薬理学等分野の論文別刷15,300編のコレクション。19～20世紀半ばにかけての薬理学分野の学問的発展を辿ることができる貴重な資料。1955年にハーバード大学でクライヤー教授から直接指導を受けた橋本虎六（本学医学部薬理学教授）が同氏から贈られたもので，本学医学分館長の任にあった1973年に同館に寄贈された。

2. 青木大輔コレクション

東北帝国大学医学部の卒業生で，宮城県衛生研究所（現・宮城県保健環境センター）を創設し初代所長を務めるなど，公衆衛生行政の第一線で活躍した青木大輔（あおきだいすけ1901-1967）の旧蔵資料群。氏が東北地方等を実地に調査・収集した飢饉・疫病史に関するデータ資料や，医史学に関する資料を中心とするコレクションで，仙台藩の医家に関する古文書などを含んでいる。1975年に夫人から医学分館に寄贈された。

※主要特殊文庫の詳細は，附属図書館ウェブページ「主要特殊文庫紹介（https://www.library.tohoku.ac.jp/collection/collection/introduce.html）」参照

14 講習会・ガイダンス等（2022年度）

名称	日時	対象	概要・備考等	参加者数（／回）
【本館】				
WelcomeWeek Library Guidance（英語）	4月6日	留学生	留学生向け図書館利用ガイダンス(オンライン)	8名
WelcomeWeek Library Guidance（中国語）	4月11日	留学生	留学生向け図書館利用ガイダンス(オンライン)	7名
図書館ガイダンス＆ツアー（5回開催）	4月11,13,15,19,21日	学内者	新入生向け図書館利用ガイダンス	72名／5回
本館書庫利用ガイダンス	4月18日-4月22日	学部生	本館書庫利用ガイダンス(受講後は入庫可)	46名／10回
Library Tour on request（留学生向け）	4月18, 19, 5月9, 11日	留学生	図書館ツアー（英語3回、中国語1回）	4名／4回
オーダーメイド講習会（法）	4月28日	授業受講者	文献情報の探し方，オンラインサービス，法律関係データベースの紹介と実習	3名
オーダーメイド講習会（教）	5月6日	授業受講者	外国語論文データベース・オンラインサービスの紹介，地下書庫見学	6名
オーダーメイド講習会（経）	5月17日	授業受講者	図書館施設・資料の探し方・オンラインサービスの紹介，本館書庫利用ガイダンス(受講後は入庫可)	24名
本館書庫利用ガイダンス	5月17日-5月23日	学部生	本館書庫利用ガイダンス(受講後は入庫可)	25名／10回
オーダーメイド講習会（文）	5月23,30日	授業受講者	オンラインサービスの紹介，本館書庫利用ガイダンス(受講後は入庫可)	24名
本館書庫利用ガイダンス	6月13日-6月17日	学部生	本館書庫利用ガイダンス(受講後は入庫可)	20名／8回
オーダーメイド講習（文）	6月30日, 7月7日	授業受講者	貴重資料の利用について，本館書庫利用ガイダンス(受講後は入庫可)	31名
オーダーメイド講習（教）	7月4日	授業受講者	図書・論文の探し方，オンラインサービスの紹介をオンラインで開催	5名
オーダーメイド講習（文）	7月11日	授業受講者	図書・論文の探し方，オンラインサービスの紹介をオンラインで開催	10名
オーダーメイド講習	7月15日	シンガポールからの短期留学生	ガイダンス＆ツアー	12名
本館書庫利用ガイダンス	7月19日-7月25日	学部生	本館書庫利用ガイダンス(受講後は入庫可)	7名／6回
オーダーメイド講習（教）	7月29日	授業受講者	文献情報の探し方，オンラインサービスの紹介，本館書庫利用ガイダンス(受講後は入庫可)	34名
本館書庫利用ガイダンス	9月13日	学部生	本館書庫利用ガイダンス(受講後は入庫可)	2名
Welcome Week Library Guidance（英語）	10月5日	留学生	ガイダンス＆ツアー	8名
多言語ガイダンス＆ツアー（コンシェルジュウィーク秋）	10月17,19,21, 11月8,10日	留学生	ガイダンス＆ツアー（英語3回、中国語2回）	17名／5回

本館書庫利用ガイダンス	10月18日-10月24日	学部生	本館書庫利用ガイダンス(受講後は入庫可)	23名／9回
オーダーメイド講習会（法）	10月27日	授業受講者	文献情報の探し方，オンラインサービス，法律関係データベースの紹介と実習	1名
本館書庫利用ガイダンス	11月14日-11月18日	学部生	本館書庫利用ガイダンス(受講後は入庫可)	10名／6回
本館書庫利用ガイダンス	12月5日-12月9日	学部生	本館書庫利用ガイダンス(受講後は入庫可)	10名／6回
本館書庫利用ガイダンス	1月16日	学部生	本館書庫利用ガイダンス(受講後は入庫可)	1名／1回
オーダーメイド講習会（文）	1月19日	授業受講者	書庫ガイダンス（受講後は入庫可）・古典資料ガイダンス	21名
【医学分館】				
新入生オリエンテーション（医学科）	4月7日	学部生	分館長による医学分館の紹介。対面開催。	約120名
新入生オリエンテーション（保健学科）	4月7日	学部生	職員による医学分館の紹介（図書館の使い方・設備、電子ブック、MyLibrary）。対面開催。	約150名
新入生オリエンテーション（医学系研究科）	4月7日-4月29日	大学院生	大学院生向けガイダンス。職員による医学分館の利用案内。3月30日に録画したものを4月に配信。	約85名
オリエンテーション（卒業研修センター）	4月1日	研修医	大学病院卒業研修センター研修医向け。職員による対面実施。	未詳
医学分館セルフツアー2022 ～じろうを探せ～	4月11日-4月22日	来館者	セルフツアー用紙を持って館内のチェックポイントをめぐる。新型コロナ感染防止対応の非接触型企画。	21名
医学系データベース活用セミナー	5月25日-5月26日	申込者	ハイブリッド（対面・オンライン）開催。内容：①医中誌Webを使った日本語論文の探し方 ②PubMedを使った英語論文の探し方　③図書・電子ブックの探し方　④文献検索基礎の基礎。　※終了から１か月間動画配信。	36名
薬剤部向け文献検索講習会（病院）	6月8日	職員	オンライン開催。病院薬剤部からの依頼による新任職員への講義。内容：医中誌Web、PubMedの使い方、文献の入手方法など。	5名
医学科３年次基礎医学特別講義（医学部）	7月20日	学部生	ハイブリッド（対面・オンライン）開催。内容：３年次基礎医学修練の前に研究に必要な基本知識やスキルを身につけるための特別講義。論文検索～入手手順、電子ジャーナル注意点、医中誌Web実習、PubMed実習。	120名
新入生オリエンテーション（医学系研究科）	10月1日-10月31日	大学院生	職員による医学分館の紹介。9月に録画しなおした動画が10月に配信された。	未詳
【北青葉山分館】				
SciFinder講習	1月10日-1月11日	学部生	ハイブリッド（対面・オンライン）開催。内容：理学部化学科2年生を対象とした講習会。（1日目）図書館の紹介とSciFinderのアカウント作成（2日目）SciFinderの講習・実習（講師：化学情報協会）	85名

【工学分館】				
新入生等向けオリエンテーション	4月4-8日	主に学部1年生、大学院1年生	対面、リモート、事前収録動画による附属図書館および工学分館の利用案内	約1,840名
【農学分館】				
新入生オリエンテーション	4月7日	農学部生	分館長挨拶・利用案内	158名
オーダーメイド講習会	7月19日	生命化学コース学部生	対面（欠席者のための録音あり）開催。内容：学術情報の探し方・Web of Science・PubMed・参考文献リストから探す・実習課題・評価指標等	27名
オーダーメイド講習会	10月4日	植物生命科学コース学部生	対面（欠席者のための録音あり）開催。内容：学術情報の探し方・CiNii・Web of Science・PubMed・参考文献リストから探す・実習課題・評価指標等	27名
オーダーメイド講習会	12月5日	動物生命科学コース学部生	オンライン開催。内容：学術情報の探し方・CiNii・Web of Science・PubMed・参考文献リストから探す・実習課題・評価指標等	24名

15 展示会

タイトル	会期／会場（／来場者数）	展示内容・講演会等
2017年度		
新入生歓迎展示 「あなたの知らない書庫の世界」	2017年3月25日-4月23日／本館エントランス展示コーナー	新入生等初めて来館する利用者を中心に大量の資料がある書庫を紹介する展示。併せて使い方を案内。
新入生向け展示 「工学分館の使い方（Q＆A）」	2017年4月1日-5月31日／工学分館エントランスホール	新入生向けに利用案内とよくある質問をQ＆Aの形式で紹介するパネル展示。
2017年度日・EUフレンドシップウィーク展示 「EUと科学技術」	2017年5月24日-7月21日／本館エントランス展示コーナー	2014～2020年の7年間にわたる総額800億ユーロ規模のEU研究・イノベーション枠組み計画「ホライズン2020」を中心に、日本の科学技術研究者とEUの協力関係を紹介。 講演会：2017年7月13日／附属図書館（本館）グローバル学習室／菅沼教授、門間教授ほか／来場者25名
「BLUE BACKS FES' ～通巻2000番突破記念～」	2017年6月5日-7月5日／工学分館1階ホール	1963年に創刊した講談社の新書シリーズ「ブルーバックス」の通巻2000番を突破を記念し、工学分館所蔵の約500冊を展示。
オープンキャンパス対応展示 「The Amazing Collection of Tohoku University Library」展	2017年7月24日-8月4日／本館多目的室	オープンキャンパスの主たる対象である高校生の興味を引くようなカラフルなもの、教科書等で目にしたことのある資料や国宝（レプリカ）の展示。
医学教育関連展示 『解体新書』から始まる医学教育の歩み －驚きと感動の医学史－	2017年7月25日-7月26日／医学分館1階特設展示コーナー	オープンキャンパス企画。日本医学の近代化や近代医学教育の確立について、貴重書や名著、学生が記録した講義ノート等の多様な資料により紹介。
オープンキャンパス対応展示「高校生の論文発表-世界中で読まれる論文-」	2017年7月25日-7月26日／北青葉山分館エントランスホール	仙台市内の高校をはじめ、日本の高校生の研究成果が論文となって発表・掲載された事例をパネル展示で紹介。
展示「学コレ☆2017～学生アルバイトが選びました～」	2017年9月15日-10月13日／工学分館1階ホール	夜間カウンターを担当するアルバイトの学生が選定した本を、選定者自身による手書きPOPとともに展示。
ホームカミングデー対応展示 「The Amazing Collection of Tohoku University Library」展	2017年9月24日-10月31日／本館多目的室	ホームカミングデーの主たる対象である卒業生の興味を引くような教養味あふれる資料や国宝（レプリカ）を展示。埋蔵文化財調査室による「川内キャンパスのむかしむかしI　-仙台城跡二の丸-」展示を併せて開催。
平成29年度企画展 夏目漱石生誕150周年「夏目漱石－その魅力と周辺の人々－」PR展示	2017年10月17日-10月30日／青葉通地下道ギャラリー	漱石文庫のパネル、レプリカ図書等、仙台文学館、神奈川近代文学館のPR展示。
研究室紹介展示 「高橋(弘)研究室」	2017年11月／工学分館エントランスホール	環境科学研究科 先進社会環境学専攻 資源戦略学講座 地球開発環境学分野の「高橋(弘)研究室」紹介パネル展示。

平成29年度企画展 夏目漱石生誕150周年「夏目漱石－その魅力と周辺の人々－」	2017年11月3日-11月14日／仙台メディアテーク／3,009名	漱石を慕い周りに集った様々な人物へアプローチすることで、「人間・夏目漱石」の魅力を再発見する漱石文庫と仙台文学館の資料を中心に展示。グッズ・羊羹販売。
パネル展「夏目漱石－その魅力と周辺の人々－」	2017年11月29日-12月8日／本館エントランス展示コーナー	平成29年度企画展の内容をコンパクト化したパネル展。漱石文庫及び漱石ゆかりの人々の個人文庫を紹介。
展示・講演会「ユネスコ：心の中に平和の砦を」	2017年12月12日-2018年1月21日／本館エントランス展示コーナー、多目的室	ユネスコの概要・文化・教育、仙台ユネスコに関する展示。 講演会：2017年12月14日／法学研究科 植木俊哉 教授（国際展開担当理事／附属図書館長）、環境科学研究科 古川柳蔵 准教授（ユネスコスクール支援大学間ネットワークASPUnivNet担当）
展示「学コレ☆PartII～学生アルバイトが選びました～」	2018年1月18日-2月28日／工学分館1階ホール	夜間カウンターを担当するアルバイトの学生が選定した本を、選定者自身による手書きPOPとともに展示。
漱石文庫修復公開展示 「漱石文庫を守る－修復とレプリカ展－」	2018年2月1日-2月13日／本館多目的室／113名	朝日新聞文化財団及び東日本鉄道財団の助成により行った、漱石文庫資料修復事業の成果を主とする公開展示。
電子ブック利用促進展示 「使ってみよう！電子ブック～『建築設計資料』編～」	2018年3月7日-4月30日／工学分館1階ホール	利用数の多い「建築設計資料」を展示し、電子ブックへの簡単なアクセス方法を紹介。簡単にアクセスできるQRコードを印刷した栞も無料配布。
2018年度		
新入生歓迎展示 「川内のむかしむかしII」	2018年3月27日-5月6日／本館エントランス展示コーナー	埋蔵文化財調査室による川内地区の出土品とパネル展示。
新入生向け展示 「工学分館の使い方 (Q & A)」	2018年4月／工学分館エントランスホール	新入生向けに利用案内とよくある質問をQ＆Aの形式で紹介するパネル展示。
新入生歓迎・「赤い鳥」創刊100周年記念展示 「漱石門下・鈴木三重吉と『赤い鳥』」	2018年4月2日-4月15日／本館メインフロア	漱石門下である鈴木三重吉が創刊した「赤い鳥」の創刊100周年を記念した展示。仁平道明名誉教授（文学研究科）の協力を得て、全て当時のオリジナル資料を展示。
2018年度日・EUフレンドシップウィーク展示 「ヨーロッパレード－建築と歴史のカーニバル－」	2018年5月23日-6月28日／本館エントランス展示コーナー	ヨーロッパの代表的な建築様式と各国の建築を、写真パネルでわかりやすく解説。東北大学片平キャンパス地区の都市景観大賞「都市空間部門」特別賞受賞を記念し、旧東北帝国大学附属図書館（現在の史料館）など、本学の洋風建築について紹介。 講演会：2018年6月13日／附属図書館（本館）フレキシブルワークエリア／飛ヶ谷潤一郎 准教授／来場者延べ60名
オープンキャンパス記念展示 「東北大学と旧制二高展」	2018年7月26日-8月9日／本館エントランス展示コーナー	旧制二高の歴史、文化、校風を紹介するパネル展示。史料館と協働開催。

医学教育関連展示「解剖学の今昔」	2018年7月31日-8月1日／医学分館1階特設展示コーナー	オープンキャンパス企画。解剖学に関する展示に加え、「スタンプラリー ～失われたキオクを求めて～」や人体模型の内臓組み立て体験などのイベントも開催。
オープンキャンパス対応展示「高校生の論文発表-世界中で読まれる論文-」	2018年7月31日-8月1日／北青葉山分館エントランスホール	仙台市内の高校をはじめ、日本の高校生の研究成果が論文となって発表・掲載された事例をパネル展示で紹介。
展示「学コレ☆2018 BOOK SELECTION by Library Student Worker」	2018年9月18日-10月19日／工学分館1階ホール	夜間カウンターを担当するアルバイトの学生が選定した本を、選定者自身による手書きPOPとともに展示。
（日本心理学会）ヴント文庫・古典機器展示	2018年9月25日-9月27日／本館多目的室	日本心理学会第82回大会の企画として、文学研究科との協力により、ヴント文庫（附属図書館所蔵）と、文学研究科心理学研究室が保管する古典的な心理学実験機器を展示。
研究不正防止展示	2018年10月1日-10月31日／北青葉山分館1階展示コーナー	「研究不正防止」等に関する全館一斉キャンペーンの一環で、パネルと関係資料の展示。
研究室紹介展示 「石川・大森／菊地研究室」	2018年10月15日-10月28日／工学分館エントランスホール	工学研究科ファインメカニクス専攻／医工学研究科医工学専攻の「石川・大森／菊地研究室」紹介パネル展示。
平成30年度企画展 「西洋古典への扉 －The Door into Old and Rare Books－」	2018年11月1日-11月18日／本館多目的室／525名	15-18世紀の貴重な西洋古典資料を展示。版画の構成やフォントなどの資料を観るに際してのポイントの解説。活版印刷紹介の動画（せんだいメディアテーク提供）を上映。 講演・ワークショップ：2018年11月14日／本館フレキシブルワークエリア／65名／講演「活版印刷の発明者・グーテンベルク」小川知幸氏（東北大学総合学術博物館助教）、ワークショップ「金属活字組版の実際」菊地淳氏（ハリウコミュニケーションズ株式会社）
工学分館40周年記念展示	2018年11月1日-11月30日／工学分館エントランス、1階ホール	工学分館設置40周年を記念した展示。 第1部「工学分館の歴史と科学の40年」： 歴史パネルと、40年間の科学の出来事を振り返りながら関連図書を展示。 第2部「工学分館の思い出・エピソード」： 教員や職員OB等から寄せられた工学分館にまつわる思い出やエピソードをパネルで紹介。 また、本展示に合わせ、ウェブサイト「工学分館40周年記念ページ」も開設した。
学生サークル展示 宇宙建築学サークル「TNL」による建築作品ポスター展示	2018年12月10日-12月27日／工学分館エントランスホール、1階ホール	未来に実現するかもしれない、火星や月などの宇宙空間での暮らしに必要な建物や機能を表現したポスターを展示するとともに、関連図書も展示。

研究不正防止キャンペーン展示2018『好奇心を止めるな！』	2018年12月11日-2019年1月11日／工学分館1階ホール	「研究不正防止」全館一斉キャンペーンの一環で実施した展示。科学者・研究者とは、レポートの書き方とは、研究のルールって何だろう等々、素朴な疑問から具体例まで幅広いテーマの図書を100冊以上展示。
2018年度国連寄託図書館展示「東北大学附属図書館×SDGs」	2019年1月9日-2月8日／本館エントランス展示コーナー	SDGsの各目標の説明パネル、関連する図書の展示、サイネージによる留学生コンシェルジュのコメントの上映。
研究室紹介展示「乾・鈴木研究室」	2019年1月11日-2月15日／工学分館エントランスホール	工学部電気情報物理工学科／情報科学研究科の乾・鈴木研究室（情報伝達学研究室）の研究紹介展示。付箋による質問受付も行った。
展示「学コレ☆Part II BOOK SELECTION by Library Student Worker」	2019年1月22日-3月15日／工学分館1階ホール	夜間カウンターを担当するアルバイトの学生が選定した本を、選定者自身による手書きPOPとともに展示。
修復資料公開展示「漱石文庫を守る－修復とレプリカ展－」 史料館ミニ展示「海を渡った詩人学者たち」川内巡回展示	2019年2月13日-2月20日／本館多目的室／84名	漱石文庫のうち、朝日新聞文化財団及び東日本鉄道文化財団の助成により修復を行った資料の展示。 仙台・東北大学にゆかりのある詩人・英文学研究者を紹介する展示（史料館）。
電子ブック利用促進展示「使ってみよう！電子ブック～『超重量級』編～」	2019年3月20日-5月10日／工学分館1階ホール	ページ数の多いハンドブック等を取り上げ、電子ブックへの簡単なアクセス方法を紹介。重い冊子も展示し「持ち運び不要」「いつでも読める」という電子ブックのメリットを実感してもらう展示とした。
2019年度		
新入生歓迎展示「川内歴史さんぽ」	2019年3月26日-5月6日／本館エントランス展示コーナー	縄文時代から現代までの、川内キャンパスの場所に関連する、埋蔵文化財調査室・史料館・図書館の収蔵資料とパネルの展示。
新入生向け展示「工学分館の使い方 (Q & A)」	2019年4月1日-4月26日／工学分館エントランスホール	新入生向けに利用案内とよくある質問をQ＆Aの形式で紹介するパネル展示。
工学部百周年記念展示「百周年だヨ！全員集合」	2019年5月15日－6月14日／工学分館1階ホール	東北大学工学部が2019年5月に創立百周年を迎えたことを記念して行った展示。書名に100が付く図書、100年前に発行された資料、未来技術を予測した図書を展示した。
2019年度日・EUフレンドシップウィーク展示「書庫のなかのヨーロッパ－人文学者のよこがお－」	2019年5月28日-6月7日／本館多目的室／375名	西洋史・文学・美学・西洋美術史を専攻する大学院生の企画による図書展示。学生との協働により「大類文庫」、「河野文庫」、「児島文庫」に含まれる西洋古典資料の調査。 カフェトーク「暮らしてみたい！ヨーロッパ」：2019年6月5日／本館多目的室前スペース（旧カフェ）／延べ25名
工学分館作成の小冊子と掲載図書の展示「工学部4年生のための論文の探し方」「工学部4年生のための卒論を作成するときに役立つ本」	2019年6月17日-7月14日／工学分館1階ホール	工学分館が学生向けに作成し紙とpdfで無料配布している小冊子の紹介とそこに掲載されている図書の展示。東北大生協の青葉山にある書籍店BOOOKではこれをを基にした専用コーナーが設置され、小冊子の配布と掲載・関連図書の販売を行っている。

オープンキャンパス対応展示「高校生の論文発表-世界中で読まれる論文-」	2019年7月30日-7月31日／北青葉山分館エントランスホール	仙台市内の高校をはじめ、日本の高校生の研究成果が論文となって発表・掲載された事例をパネル展示で紹介。その他、国宝レプリカの展示も実施。
展示「工学分館夏の60冊」	2019年8月20日-9月20日／工学分館1階ホール	図書館員イチオシの一般教養図書約60冊を選定理由と合わせて展示。
展示「学生アルバイトが選びました」	2019年9月24日-10月24日／工学分館1階ホール	夜間カウンターを担当するアルバイトの学生が選定した本を、選定者自身による手書きPOPとともに展示。
（中世文学会・日本語学会） 2019年度秋季大会記念展示	2019年10月25日-10月27日／本館多目的室／322名	中世文学会・日本語学会の全国大会を本学キャンパス内で開催するにあたり、本学が誇る国語・国文学に関する貴重図書を展示。
令和元年度企画展 「進化×深化」	2019年11月1日-11月15日／本館多目的室／380名（講演会含む）	ダーウィンの『種の起源』初版本を展示する他、進化論に連なる人々の著作を紹介。 講演会：2019年11月5日／東北大学附属図書館本館フレキシブルワークエリア／「ダーウィンの『種の起源』」渡辺政隆氏（サイエンスライター、東北大学広報室特任教授）、「植物の結婚－カール・リンネと自然の体系－」小川知幸氏（東北大学総合学術博物館助教）
工学部百周年記念展示 「モニュメントどうでしょう」	2019年12月11日-2020年1月22日／工学分館1階ホール	工学部百周年記念展示第2弾。工学部キャンパス内にあるモニュメントを紹介し関連図書を展示。モニュメント案内のマップも制作し配布。
2019年度国連寄託図書館企画展示	2020年1月8日-3月1日／本館メインフロア展示コーナー	留学生コンシェルジュの選書による図書展示とコンシェルジュからのSDGsに関するメッセージ。
展示「学生アルバイトが選びました」第2弾	2020年3月10日-4月15日／工学分館1階ホール	夜間カウンターを担当するアルバイトの学生が選定した本を、選定者自身による手書きPOPとともに展示。
2020年度		
新入生向け展示 「工学分館の使い方（Q＆A）」	2020年4月6日-5月6日／工学分館	工学分館の使い方についてQ＆A形式で紹介したパネルを館内数ヶ所に展示。またエントランスホールでは工学部キャンパス内に設置されたモニュメントの紹介パネルを展示し、「おさんぽマップ」を配布。
ミニ展示「ノーベル化学賞2020 CRISPR-Cas9」	2020年10月12日-30日／農学分館2階展示コーナー	ノーベル化学賞を記念し、ゲノム編集に関連した図書を展示
貴重書展示 「Il Tempio Vaticano e sua origine -ヴァチカンの大聖堂とその起源-」」	2020年10月19日-10月30日／工学分館1階ホール	工学分館が所蔵する貴重書、カルロ・フォンターナ著 「Il Tempio Vaticano e sua origine -ヴァチカンの大聖堂とその起源-」（1694年初版本）を展示。解説は、本学工学研究科都市・建築学専攻准教授の飛ケ谷潤一郎先生、同総合学術博物館助教の小川知幸先生による。また工学部同窓会「青葉工業会」の協力により仙台高等工業学校（SKK）に関する展示も行った。なお、本展示についてはウェブサイトも立ち上げハイブリッドで行った。

はやぶさ帰還記念展示	2020年12月7日-2021年1月29日／北青葉山分館1階展示コーナー	はやぶさ帰還を記念し、宇宙開発に関する図書展示と東北大学の研究成果に関するパネル展示。
2020年度国連寄託図書館企画展示	2021年2月1日-2021年2月28日／本館メインフロア展示コーナー	留学生コンシェルジュのメンバーが、 SDGsの目標に沿った選書を行い、それぞれの図書を通じて、SDGsの目標を達成し、よりよい世界を実現するための自分の考えを披露。動画も公開。
東日本大震災10年被災地図書館震災アーカイブ企画展 「10万冊が語りかける 東日本大震災－『震災記録を図書館に』キャンペーン－」	2021年2月27日-2月28日／仙台メディアテーク	図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」 に参加する8図書館が収集した蔵書が収まる書棚を撮影した実物大ポスター計61枚を展示。
東日本大震災10年展示	2021年3月11日／北青葉山分館1階展示コーナー	宮城県内の地震に関する図書展示と震災当時の写真展示。
2021年度		
新入生向け展示 「新生活のスタートに役立つ本」 「東日本大震災」	2021年3-4月／工学分館1階ホール	新入生向けのミニ展示。新生活のスタートに役立つ本と東日本大震災関係の工学分館所蔵図書を展示。
令和3年度新入生歓迎展示 「川内歴史さんぽ」	2021年3月30日-5月10日／本館エントランス展示コーナー	縄文時代から現代までの、川内キャンパスの場所に関連する、埋蔵文化財調査室・史料館・図書館の収蔵資料とパネルの展示。
新入生向け展示 「工学分館の使い方（Q＆A）」	2021年4月／工学分館	工学分館の使い方についてQ＆A形式で紹介したパネルを館内数ヶ所に展示。
医学分館ツアー2021 ミニ展示「解剖の資料 いろいろ」	2021年5月17日-5月28日／医学分館1階エントランスホール	改修後リニューアルオープンに合わせた企画。『解体新書』や近代病理学の創始者と言われるヨハン・B・モルガーニの『病気の座と原因』等の貴重書展示のほか、3Dデータベース Visible Body「Human Anatomy Atlas」(人体解剖アトラス)も合わせて紹介。
附属図書館110周年記念展示	2021年6月14日-6月30日／工学分館1階ホール	附属図書館が2021年6月14日で設置から110年目を迎えることを記念した関連展示。工学部の歴史説明パネルや図書も展示。
図書の展示①	2021年7月14日-7月30日／北青葉山分館1階展示コーナー	北青葉山分館職員による蔵書の企画展示 テーマ：先輩がすすめるレポート・論文の書き方本
2021年度日・EUフレンドシップウィーク展示 「東日本大震災へのEUの支援」	2021年7月19日-8月6日／本館エントランス展示コーナー	EUの人道支援、EUとEU加盟国からの東日本大震災への支援、田所諭教授（情報科学研究科）がEUと国際共同研究を行っている災害救助用ロボットを紹介するパネル展示と関連資料の展示。
図書の展示②	2021年8月11日-8月31日／北青葉山分館1階展示コーナー	北青葉山分館職員による蔵書の企画展示 テーマ：科学者たちのよこがお
図書の展示③	2021年9月29日-10月13日／北青葉山分館1階展示コーナー	北青葉山分館職員による蔵書の企画展示 テーマ：雑誌『Newton』特集「科学の名著」とのタイアップ展示

ミニ展示 「そだててあそぼう」	2021年10月5日-22日／農学分館2階展示コーナー	農学分館職員による蔵書の企画展示 シリーズ「そだててあそぼう」の紹介
図書の展示④	2021年10月21日-11月5日／北青葉山分館1階展示コーナー	北青葉山分館職員による蔵書の企画展示 テーマ：地図の本-古地図をめぐる物語-（博物館展示との連動企画）
ミニ展示 「いのししをまなぶ」	2021年11月1日-19日／農学分館2階展示コーナー	農学分館職員による蔵書の企画展示 キャンパスに頻繁に出没するイノシシと野生生物の管理についての展示
図書の展示⑤	2021年11月11日-11月30日／北青葉山分館1階展示コーナー	北青葉山分館職員による蔵書の企画展示 テーマ： SDGs 目標13「気候変動に具体的な対策を」
ミニ展示 「たい肥をつくる」	2021年11月22日-12月3日／農学分館2階展示コーナー	農学分館職員による蔵書の企画展示 落ち葉の季節にちなみ、堆肥づくりに関する資料を紹介
図書の展示⑥	2021年12月2日-12月20日／北青葉山分館1階展示コーナー	北青葉山分館職員による蔵書の企画展示 テーマ： SDGs 目標14「海の豊かさを守ろう」、目標15「陸の豊かさも守ろう」
2021年度国連寄託図書館企画展示 「International Student Concierge×SDGs」	2022年1月17日-2月28日／本館学閲2階バルコニー手前ホール	留学生コンシェルジュのメンバーが、SDG s の17の目標に沿って選んだ図書に日本語または英語の解説を付けて展示。また、17の各目標について、留学生コンシェルジュがパネルを持ち撮影した写真と日英併記のコメントを一つの画像にしたものをパネルで展示。
図書の展示⑦	2022年2月4日-2月10日／北青葉山分館1階展示コーナー	北青葉山分館職員による蔵書の企画展示 テーマ： 雑誌『Newton』特集「科学を仕事にするということ」とのタイアップ展示
2021年度国連寄託図書館企画展示 「International Student Concierge×SDGs」＠農学分館	2022年2月7日-28日／農学分館1階ホールおよび2階展示コーナー	本館での同展示を借受け展示した。加えて、関連する農学分館所蔵図書のミニ展示「Books on the SDGs in the Agricultural Library」を行った。
2021年度国連寄託図書館企画展示 「International Student Concierge×SDGs」＠工学分館	2022年3月2日-3月28日／工学分館1階ホールおよび旧館階段壁面	本館での同展示を借受け展示した。加えて、関連する工学分館所蔵図書の展示を行った。
ミニ展示 「震災から11年」	2022年3月7日-16日／農学分館2階展示コーナー	農学分館職員による蔵書の企画展示 東日本大震災から11年にちなみ、関連図書を紹介
令和3年度企画展 「画像で愉しむ 江戸の食文化」	2021年11月5日-／オンライン （https://www.library.tohoku.ac.jp/collection/exhibit/sp/r3/index.html）	狩野文庫の中から、絵柄のきれいな資料の画像を展示。デジタル化・オンライン公開された資料を知ってもらう。
2022年度		
トップリーダー特別講義関連展示	2022年4月1日-5月6日／工学分館1階ホール	トップリーダー特別講義の講師を6年間勤めた故岡本行夫氏によって寄贈された図書を、工学教育院を介し受け入れるにあたり、この図書およびこれまで同講義の講師陣の著書展示。工学教育院と企画作成および広報で連携した。

星陵地区で利用できるデジタルコンテンツ ポスター展	2022年4月4日-5月31日／医学分館1階広報・展示コーナー	医中誌Web、PubMed、Cochrane、各種診療データベース、Visible Body、電子ブック等の概要をポスター形式にして、初心者向けに解説した展示。
図書の展示①	2022年4月14日-4月28日／北青葉山分館（臨時図書室）	北青葉山分館職員による蔵書の企画展示 テーマ： 研究のススメ
2022年度日・EUフレンドシップウィーク 「映画『メトロポリス』の世界－図書館所蔵の資料から－」	2022年6月8日-6月22日／本館学閲2階バルコニー手前ホール	EUオンライン映画上映イベント「EUシネマデイズ」のアピールを目的とした、所蔵する映画資料の展示。映画「メトロポリス」についてのあらすじと映画監督フリッツ・ラングを紹介するパネル、公開当時の広告や関連情報が掲載されている図書および新聞縮刷版を展示。DVD上映。
図書の展示②	2022年6月15日-6月30日／北青葉山分館（臨時図書室）	北青葉山分館職員による蔵書の企画展示 テーマ：Pythonおすすめ本
ミニ展示 「めくるめくカビの世界」	2022年6月27日-7月15日／農学分館2階展示コーナー	農学分館職員による蔵書の企画展示 梅雨の季節にちなみ、カビに関する図書を紹介
図書の展示③	2022年7月13日-7月29日／北青葉山分館（臨時図書室）	北青葉山分館職員による蔵書の企画展示 テーマ：手段としての英語
ミニ展示 「海のいきもの」	2022年7月25日-8月26日／農学分館2階展示コーナー	農学分館職員による蔵書の企画展示 夏の季節にちなみ、海の生物に関する和洋書を紹介
図書の展示（第１回）	2022年8月8日-9月8日／医学分館1階エントランスホール	医学分館職員による蔵書の企画展示。 テーマ：「ナイチンゲールの生き方に学ぶ」
図書の展示（第２回）	2022年9月9日-10月19日／医学分館1階エントランスホール	医学分館職員による蔵書の企画展示。 テーマ：「睡眠」
図書の展示④	2022年9月9日-9月30日／北青葉山分館（臨時図書室）	北青葉山分館職員による蔵書の企画展示 テーマ：図鑑の世界
令和4年度企画展 「本をめくる、印をめぐる－東北大学の蔵書印から－」	2022年10月3日-10月30日／本館エントランス展示コーナー・オンライン（https://www.library.tohoku.ac.jp/collection/exhibit/sp/r4/index.html）	図書館の蔵書印をめぐりながら、本学ならびに図書館の歴史をたどる。本・分館の資料から集めた蔵書印の印影をパネル展示。オンライン展示も行い、オンラインではゲームとクイズを実施。
ミニ展示 「結局、うなぎは食べていいんですか？」	2022年10月3日-11月4日／農学分館2階展示コーナー	農学分館職員による蔵書の企画展示 土用の丑の日にちなみ、うなぎに関する図書を紹介
（第25回東北大学医学祭） 「図書館バーチャル探検」	2022年10月9日-10月10日／医学分館1階ラウンジ、広報・展示コーナー	医学部の学生有志による医学分館の紹介企画。医学分館は会場提供のほか、蔵書・什器の貸出、動画撮影、職員へのインタビュー対応で協力。
貴重書展示 「Il Tempio Vaticano e sua origine -ヴァチカンの大聖堂とその起源-」	2022年10月11日-10月31日／工学分館1階ホール	2020年度に実施したもののリバイバル展示。

図書の展示⑤	2022年10月13日-10月21日／北青葉山分館（臨時図書室）	北青葉山分館職員による蔵書の企画展示 テーマ：小川正孝-小川正孝記念展示によせて-（博物館展示との連動企画）
図書の展示（第３回）	2022年10月20日-11月24日／医学分館1Fエントランスホール	医学分館職員による蔵書の企画展示。 テーマ：「食べることは生きること」
図書の展示⑥	2022年10月28日-11月11日／北青葉山分館（臨時図書室）	北青葉山分館職員による蔵書の企画展示 テーマ：HAPPY CAREER!（第４回女性薬学研究者育成チームPOLISHセミナーとの連動企画）
ミニ展示 「ボジョレーヌーヴォー解禁」	2022年11月14日-12月9日／農学分館2階展示コーナー	農学分館職員による蔵書の企画展示 ボジョレーヌーヴォー解禁日にちなみ、ワインに関する図書を紹介
企画展　巡回展示 「本をめくる、印をめぐる－東北大学の蔵書印から－」	2022年11月7日-11月18日／医学分館1階広報・展示コーナー	医学部・医学系研究科の年表と共に「星陵地区にまつわる蔵書印」のタイトルで、医学分館の資料から集めた蔵書印の印影をパネル展示。他館の影印も同時展示。
企画展　巡回展示 「本をめくる、印をめぐる－東北大学の蔵書印から－」	2022年11月22日-12月8日／北青葉山分館（臨時図書室）	東北大学の蔵書印の他に、理学・薬学部の蔵書印をパネル展示。
図書の展示（第４回）	2022年11月25日-2023年1月5日／医学分館1階エントランスホール	医学分館職員による蔵書の企画展示。 テーマ：「人を癒し、治す『コミュニケーション』」
企画展　巡回展示 「本をめくる、印をめぐる－東北大学の蔵書印から－」	2022年12月12日-27日／農学分館1階エレベーター前	東北大学の蔵書印の他に、農学分館の蔵書印をパネル展示。
図書の展示⑦	2022年12月15日-2023年1月31日／北青葉山分館（臨時図書室）	北青葉山分館職員による蔵書の企画展示 テーマ：卒論・卒研
令和4年度企画展「本をめくる、印をめぐる～東北大学の蔵書印から～」巡回展	2023年1月5日-1月31日／工学分館	本学図書館や関連機関の蔵書印・受入印、個人の蔵書印・蔵書票をまとめた印影やコラムを館内5ケ所でパネル展示。工学分館の蔵書から収集した印影も追加し、利用者参加型のイベントも実施した。
図書の展示（第５回）	2023年1月6日-1月31日／医学分館1階エントランスホール	医学分館職員による蔵書の企画展示。 テーマ：「英語を使って世界を広げよう」
ミニ展示 「2023年は、うさぎが主役」	2023年1月16日-27日／農学分館2階展示コーナー	農学分館職員による蔵書の企画展示 うさぎ年にちなみ、うさぎに関する図書を紹介
2022年度国連寄託図書館企画展示（SDGｓ展示）	2022年1月25日-2月28日／本館メインフロア・展示コーナー	留学生コンシェルジュのメンバーが推薦するSDGｓ関連の図書、メンバーが各自考える平和についてのメッセージをパネルを展示。様々な文化的背景を持つ留学生コンシェルジュが考える平和を提案することにより、利用者に対して、より広い視野で平和を考える一助となるよう提起。

図書の展示（第６回）	2023年2月1日-2月28日／医学分館1階エントランスホール	医学分館職員による蔵書の企画展示。 テーマ：「人との別れを考える」
ミニ展示 「猫の日」	2023年2月6日-26日／農学分館2階展示コーナー	農学分館職員による蔵書の企画展示 猫の日にちなみ、猫に関する図書を紹介
図書の展示⑧	2023年2月15日-3月24日／北青葉山分館（臨時図書室）	北青葉山分館職員による蔵書の企画展示 テーマ：心と体が整う本
図書の展示（第７回）	2023年3月1日-4月2日／医学分館1階エントランスホール	医学分館職員による蔵書の企画展示。 テーマ：「災害と医療」
ミニ展示 「Wanna read a book?」	2023年3月6日-17日／農学分館2階展示コーナー	農学分館職員による蔵書の企画展示 英語初心者でも挑戦しやすい洋書シリーズ 「Very short introductions」を紹介

16 見学者等（2022年度）

月日	機関・団体名	見学者数
【本館】		
5月18日	筑波大学	教員1名
5月31日	東京大学附属図書館	教員1名
6月10日	京都大学図書館機構	教員1名、職員1名
6月20日	早稲田大学図書館	館長等2名
6月22日	京都工芸繊維大学	学生2名
6月30日	（株）日本設計	10名
7月2日	文部科学省	局長等8名
8月29日	関西大学	職員1名
8月30日	宮城学院女子大学	教員1名、学生6名
9月16日	（本学）経営協議会	経営協議会委員13名ほか
9月30日	支倉サミット	約30名
10月4日	漱石文庫デジタルアーカイブプロジェクト（クラウドファンディング）特別展示	2名
10月10日	漱石文庫デジタルアーカイブプロジェクト（クラウドファンディング）特別展示	1名
10月14日	文部科学省	参事官等6名
10月14日	（本学）経済学部非営利組織論ゼミナール	高校生約30名ほか
10月21日	国立国会図書館	館長等2名
11月12日	読売・報知中学生新聞ワークショップ	中学生記者等約10名
11月19日	大学トップマネジメント研修	各大学の学長等約30名
12月4日	全国高等学校ビブリオバトル宮城県大会	高校生8名
1月20日	防衛大学校総合情報図書館	職員3名
3月20日	国立国際医療研究センター附属NCN図書館	館長1名
3月23日	新入生保護者向け見学会	保護者2名、新入生1名
3月25日	新入生保護者向け見学会	保護者1名、新入生1名
【医学分館】		
8月6日	東北大学懇談会　医学部プログラム（医学部キャンパスツアー）	本学学生の保護者等34名
10月7日	グローバルラーニングセンター「2022 FALL Welcome Week」プログラム内「星陵キャンパスツアー」	本学留学生
3月20日	国立看護大学校図書館	館長1名
【農学分館】		
5月31日	東京大学附属図書館	教員1名
7月1日	東京大学	理事等4名
7月27-28日	オープンキャンパス	高校生302名
10月14日	文部科学省	参事官等6名
10月21日	国立国会図書館	館長等2名
10月28日	復興庁	参与等4名
2月21日	大崎市ナノテラス・農学研究科見学会	21名
3月10日	文部科学省	係長等3名

17 職員研修

17.1 外部機関主催の主な研修への参加

単位：人

名称	主催	2017	2018	2019	2020	2021	2022
大学図書館職員長期研修	筑波大学	1	1	1	×	1	2
大学図書館職員短期研修	国立情報学研究所	2	1	2	×	1	1
図書館等職員著作権実務講習会	文化庁	1	1	1	−	4	−
著作権セミナー	文化庁	−	−	2	−	3	1
大学図書館員のためのIT総合研修	国立情報学研究所	−	1	1	−	1	−
国立情報学研究所実務研修	国立情報学研究所	−	−	−	−	−	−
目録システム書誌作成研修	国立情報学研究所	1	−	−	−	−	−
情報処理技術セミナー（認証編）	国立情報学研究所	−	−	−	−	−	−
情報処理技術セミナー（クラウド編）	国立情報学研究所			−	−	−	−
日本古典籍講習会	国文学研究資料館	1	−	1	×	5	1
漢籍整理長期研修	東京大学東洋文化研究所	1	−	1	×	1	−
漢籍担当職員講習会（中級）	京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究センター	−	1	1	1	−	1
漢籍担当職員講習会（初級）	京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究センター	−	1	−	2	−	1
西洋古典資料保存講習会	一橋大学社会科学古典資料センター	−	−				
西洋社会科学古典資料講習会	一橋大学社会科学古典資料センター	−	−	−			
JMLAコア研修	日本医学図書館協会	1	1	−	×	−	2
JMLA学術集会（文献検索演習 中級）	日本医学図書館協会	1	1	−	×	1	2

※表中の“×”は開催中止、空欄は開催なし

17.2 東北地区を会場とする研修（2022年度）

日時	名称	テーマ	会場／（本学）参加者数
8月31日	東北地区大学図書館協議会 合同研修会	著作権法第31条改正への対応	ウェビナー（Webex）／36名
1月11日	国立大学図書館協会東北地区協会 令和4年度職員研修（国立大学図書館協会地区協会助成事業）	ストレスマネジメント：結果につなげるマインドフルネス～思考と感情の整理術～	ウェビナー（Zoom）／26名

17.3 館内研修（2022年度）

日時	名称	テーマ	会場／参加者数
10月17日	図書館ウェビナー （東北大学附属図書館職員研修）	業務のDX推進プロジェクトと図書館について	ウェビナー（Zoom）／43名
10月19日	2022年度附属図書館初任者研修	東北大学と附属図書館の概要、各課の職務と課題	本館2階大会議室、Google Meet ／19名
11月14日	図書館ウェビナー （東北大学附属図書館職員研修）	大学図書館と公共図書館の違い―本学と杵築市を中心に―	ウェビナー（Zoom）／35名
12月12日	図書館ウェビナー （東北大学附属図書館職員研修）	国宝『 史記 』 の修理	ウェビナー（Zoom）／32名
1月23日	図書館ウェビナー （東北大学附属図書館職員研修）	学生の特技・興味を生かした学生協働：仙台高専広瀬の事例	ウェビナー（Zoom）／49名
1月18日	職員向け資料保存講習会 （第1回／全5回）	貴重資料の活用と課題	オンライン／15名
1月25日	職員向け資料保存講習会 （第2回／全5回）	標準技術① 環境整備と 資料の取り扱い	本館貴重書学習室／15名
2月15日	職員向け資料保存講習会 （第3回／全5回）	標準技術② 状態調査と 資料手当て 修復	本館貴重書学習室／17名
2月24日	職員向け資料保存講習会 （第4回／全5回）	標準技術③ 展示 を行うために	本館貴重書学習室／12名
3月14日	職員向け資料保存講習会 （第5回／全5回）	課題と応用	本館貴重書学習室／12名

18 図書館職員の学外委員等

（2023年3月現在まで）

国立大学図書館協会	氏名	役職・所属等	任期
総務委員会			
委員	加藤 晃一	事務部長	2017.4 ～ 2018.6
委員	三角 太郎	情報サービス課長	2018.4 ～ 2018.6
委員	小陳 左和子	総務課長	2018.6 ～ 2020.3
委員	小陳 左和子	事務部長	2020.4 ～
大学設置基準改正への対応検討小委員会委員	小陳 左和子	総務課長	2018.6 ～ 2019.6
次期ビジョン策定小委員会委員	佐藤 初美	情報管理課長	2019.6 ～ 2020.3
人材委員会			
委員	小陳 左和子	事務部長	2021.6 ～
事務局	細川 聖二	総務課長	2021.6 ～ 2022.3
事務局	藤澤 こず江	総務課情報企画係長	2021.6 ～ 2022.3
事務局	佐藤 初美	総務課長	2022.4 ～
事務局	檜原 啓一	総務課専門員	2022.4 ～
資料委員会			
オープンサイエンス小委員会「現役の理系出身図書館職員による専門サポートグループ」	長谷川 啓史	工学分館管理係	2022.9 ～
システム委員会			
委員	佐藤 初美	総務課長	2022.4 ～
学術情報システム委員会			
委員	佐藤 初美	情報管理課長	2017.4 ～ 2020.3
レポート作成会議	堀野 正太	金属材料研究所図書係長	2017.6 ～ 2018.6
「学術情報システムの今後の方向性に関する研究事業」コアミーティング構成員	堀野 正太	金属材料研究所図書係長	2018.6 ～ 2019.6
図書館環境高度化委員会			
委員	吉植 庄栄	情報サービス課参考調査係長	2016.6 ～ 2018.3
委員	三角 太郎	情報サービス課長	2018.4 ～ 2018.6
委員	加藤 晃一	事務部長	2018.6 ～ 2020.3
委員	永井 伸	工学分館整理・運用係長	2018.6 ～ 2019.3
委員	永井 伸	情報サービス課閲覧係長	2019.4 ～ 2021.6
委員	小陳 左和子	事務部長	2020.4 ～ 2021.6
事務局	三角 太郎	情報サービス課長	2018.6 ～ 2021.3
事務局	對馬 庸二	情報サービス課専門員	2018.6 ～ 2021.6
国立大学図書館協会東北地区協会			
職員の企画・運営による職員のためのワークショップ			
企画・運営スタッフ	西村 美雪	情報サービス課参考調査係	2017年度（第9期）
企画・運営スタッフ	田名部 晃平	工学分館整理・運用係	2018年度（第10期）
企画・運営スタッフ	池 美沙子	金属材料研究所図書係	2018年度（第10期）
企画・運営スタッフ	小飯塚 猛	北青葉山分館管理係	2019年度（第11期）

企画・運営スタッフ	佐々木 亜紀子	農学分館図書係	2019年度（第11期）
企画・運営スタッフ	堀野 陽子	情報サービス課学習支援係長	2020年度（第12期）
企画・運営スタッフ	加藤 舞	工学分館整理・運用係	2020年度（第12期）
企画・運営スタッフ	阿部 立夏子	工学分館整理・運用係	2021年度（第13期）
企画・運営スタッフ	小林 千夏	農学分館図書係	2021年度（第13期）
企画・運営スタッフ	柳原 幸子	医学分館整理係長	2022年度（第14期）
企画・運営スタッフ	福井 ひとみ	金属材料研究所図書係長	2022年度（第14期）

大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議

大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）

運営委員会委員長	細川 聖二	総務課長	2020.4 ～ 2021.3
作業部会委員	藤澤 こず江	情報管理課雑誌情報係長	2017.4 ～ 2017.8
作業部会委員	吉田 芙弓	情報管理課雑誌情報係	2017.9 ～ 2019.3
作業部会委員	菅原 真紀	情報管理課雑誌情報係	2019.4 ～ 2022.6
作業部会委員	藤本 菜穂子	情報管理課雑誌情報係長	2022.7 ～
作業部会協力員	細川 聖二	総務課長	2021.4 ～ 2022.3
事務局員	吉田 芙弓	総務課付	2019.4 ～ 2021.3

オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）

運用作業部会員	小林 真理絵	総務課学術情報基盤係	2018.5 ～ 2019.3
次期 JAIRO Cloud 移行タスクフォース	影山 啓太	総務課学術情報基盤係	2022.6 ～

これからの学術情報システム構築検討委員会

委員	佐藤 初美	情報管理課長	2017.7 ～ 2020.3
委員	三角 太郎	情報サービス課長	2018.4 ～ 2018.9
NACSIS-CAT検討作業部会委員	渡邊 愛子	医学分館整理係長	2017.4 ～ 2019.3
NACSIS-CAT検討作業部会主査	三角 太郎	情報サービス課長	2018.4 ～ 2018.9
NACSIS-CAT検討作業部会主査	佐藤 初美	情報管理課長	2018.10 ～ 2019.3
システムワークフロー検討作業部会委員	佐藤 初美	情報管理課長	2019.4 ～ 2020.3
システムワークフロー検討作業部会委員	佐々木 智穂	情報サービス課専門職員	2022.6 ～

東北地区大学図書館協議会

研修部会委員	上村 法子	工学分館整理・運用係	2017.9 ～ 2021.8
研修部会委員	佐々木 亜紀子	農学分館図書係	2021.9 ～ 2022.6
研修部会委員	佐々木 亜紀子	医学分館整理係	2022.7 ～

宮城県

宮城県図書館協議会委員	佐藤 初美	情報管理課長	2017.4 ～ 2020.3
宮城県図書館協議会委員	村上 康子	情報管理課長	2020.4 ～

国立大学法人 北海道大学

外部評価委員	小陳 左和子	事務部長	2020.9 ～ 2021.3

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館

拠点連携委員会委員	村上 康子	情報サービス課長	2017.4 ～ 2018.3
拠点連携委員会委員	菊地 良直	情報サービス課貴重書係長	2018.5 ～ 2019.3
拠点連携委員会委員	三角 太郎	情報サービス課長	2019.4 ～ 2021.3

拠点連携委員会委員	半澤 智絵	情報サービス課長	2021.4 ～

特定非営利活動法人 医学図書館協会			
機関誌「医学図書館」編集委員	半澤 智絵	医学分館専門員	2017.5 ～ 2018.3
機関誌「医学図書館」編集委員	半澤 智絵	情報サービス課長	2021.4 ～

日本古典籍研究国際コンソーシアム			
運営委員会委員	半澤 智絵	情報サービス課長	2022.9 ～

公益社団法人 日本図書館協会			
図書館運営委員会委員	村上 康子	情報管理課長	2020.4 ～

19 図書館職員業績一覧

19.1 学術論文、図書等（※刊行年月順。共著者に教員等附属図書館職員以外が含まれている場合あり）

【2017年】

1 吉植庄栄. ユネスコ, メディア・情報リテラシーの五法則：その背景とランガナタン『図書館学の五法則』との比較. 現代の図書館. 2017.6, 55(2), p.64-74.

2 村上康子, 吉植庄栄, 西村美雪. 東北大学附属図書館の24か国語ベーシックガイド整備事業. カレントアウェアネス-E. 2017.7, (329), E1934

3 小林真理絵. MULUと古典籍勉強会（特集：自主勉強会～私たちの学び合いの場～）. 大学の図書館. 2017.9, 36(9), p.121-123.

4 農学分館図書係. 図書館紹介：東北大学附属図書館農学分館. 日本農学図書館協議会誌. 2017.9, (187), p.17-20

5 佐々木智穂. 環太平洋研究図書館連合（PRRLA）2017年総会＜報告＞. カレントアウェアネス-E. 2017.12, (338), E1979

6 村上康子. 夏目漱石生誕150周年記念特別展の開催：夏目漱石の魅力を東北の地・仙台で. 東北大学広報誌「まなびの杜」. 2017.12, (2017冬), p.2.

【2018年】

7 石橋典子. 新しいことを吸収する面白さ（読者からの手紙）. 医学図書館. 2018.3, 65(1), p.1.

8 半澤智絵. 小さき生きものたちの国で（Book Reviews）. 医学図書館. 2018.3, 65(1), p.64.

9 吉植庄栄. S.R.ランガナタンのレファレンス・サービス観について：その特質と教育的側面. 教育思想. 2018.3, (45), p.41-66.

10 吉植庄栄. “文献の収集”. 東北大学レポート指南書. 第2版, 仙台, 東北大学学務審議会, 東北大学高度教養教育・学生支援機構 東北大学学務審議会, 2018.3, p.10-13, 東北大学学習・研究倫理教材 Part 2.

11 小林真理絵, 代田有紗, 小飯塚猛, 菅原真紀. 狩野文庫目録増補改訂版作成の試み（2）～和刻本漢籍医学分野図書の版木系統の解明～. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2018.3, (5), p.29-48.

12 吉植庄栄, 佐藤貴啓, 渡辺真由, 上田夏実. 東北大学附属図書館本館の建物について：建築家鬼頭梓の設計思想. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2018.3, (5), p.49-64.

13 Shoei Yoshiue. Transformation of academic libraries through higher education reform in Japan: becoming realized what Dr. S. R. Ranganathan would want to see. The Annual Reports of the Tohoku university Library. 2018.3, (5), p.65-78.

14 西村美雪, 上野美香, 佐々木亜紀子, 吉植庄栄. 留学生コンシェルジュサービス向上への挑戦 ―国内外大学図書館におけるグローバルラーニングサポートの比較を通して―. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2018.3, (5), p.79-88.

15 菊地良直. 図書室に見る東北大学電気通信研究所史：（2）関連記録と記念物. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2018.3, (5), p.89-107.

16 吉植庄栄. S.R. ランガナタンの足跡を辿って：生誕地から終焉の地までの図書館を中心に. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2018.3, (5), p.115-129.

17 佐々木亜紀子, 村上康子, 對馬庸二, 西村美雪, 上野美香, 吉植庄栄. 平成29年度 日・EU フレンドシップウィーク展示「EUと科学技術：未来を創る日欧フレンドシップ」開催報告. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2018.3, (5), p.131-141.

18 菊地良直, 福井ひとみ, 大原理恵. 秋田家史料修復事業報告. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2018.3, (5), p.143-152.

19 佐々木智穂. 環太平洋研究図書館連合（PRRLA：Pacific Rim Research Libraries Alliance） ―2017年総会参加報告―. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2018.3, (5), p.153-158.

20 菊地良直. 当館の貴重図書等及び古典資料の保存施策について. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2018.3, (5), p.159-171.

21 小林真理絵. 図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」. 市民活動のひろば. 2018.4, (159), p.6-8.

22 横山美佳. 東北大学における全学的施設としての青葉山コモンズ新図書館. 東北地区大学図書館協議会誌. 2018.4, (69), p.1-4.

23 小陳左和子, 矢野恵子. ジャーナル購読からオープンアクセス出版への転換に向けて：欧米の大学および大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）における取り組み. 大学図書館研究. 2018.8, 109, p.1-15.

24 三角太郎. 大学図書館における学生の力の活用（特集 協働する図書館）. 現代の図書館. 2018.9, 56(3), p.117-122.

25 小林真理絵. 環太平洋研究図書館連合（PRRLA）2018年総会＜報告＞. カレントアウェアネス-E. 2018.12, (359), E2086

【2019年】

26 佐藤初美. NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（最終まとめ）. カレントアウェアネス-E. 2019.2, (364), E2107

27 小林真理絵, 小飯塚猛, 菅原真紀, 堀川慎吾. 狩野文庫目録増補改訂版作成の試み（3）～和刻本漢籍子部（1）～. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2019.3, (6), p.25-70.

28 渡邊愛子. 市島春城旧蔵『異疾草紙』が東北大学附属図書館医学分館所蔵になるまで. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2019.3, (6), p.71-82.

29 遠藤直子. クレオパトラの表象 ― その死のパブリック・イメージ ―. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2019.3, (6), p.83-90.

30 小林真理絵. 環太平洋研究図書館連合（PRRLA：Pacific Rim Research Libraries Alliance）―2018年総会参加報告―. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2019.3, (6), p.91-98.

31 菊地良直, 大原理恵. 漱石文庫資料修復事業報告. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2019.3, (6), p.99-108.

32 横山美佳, 藤本菜穂子, 永井伸. 工学分館設置40周年記念企画実施報告. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2019.3, (6), p.109-114.

33 佐藤初美. NACSIS-CAT/ILLの再構築について：2020年までの動きとその後の展望. 大学図書館研究. 2019.3, 111, p.1-12.

34 田名部晃平. レジでもない先生でもない頑張らない（特集：これから図書館で働く人たちへ）. 図書館雑誌. 2019.4, 113(4), p.212.

35 小林真理絵. 東北大学附属図書館震災ライブラリー図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」で震災資料を収集・公開：より活用し、日常とつなぐために (特集：専門図書館を利用する：図書館のちから(2)). 労働の科学. 2019.8, 74(8), p.484-487.

36 三角太郎. 大学図書館の学内博物館, 文書館との連携について：東北大学の事例から. 大学図書館研究. 2019.9, 112, p.1-11.

37 大隅典子, 佐藤初美. 東北大学附属図書館のオープンアクセスを巡る状況. 大学マネジメント. 2019.11, 15(8), p.31-37.

38 三角太郎. 環太平洋研究図書館連合（PRRLA）2019年総会＜報告＞. カレントアウェアネス-E. 2019.12, (381), E2204

【2020年】

39 小林真理絵, 小飯塚猛, 菅原真紀. 狩野文庫目録増補改訂版作成の試み（4）～和刻本漢籍子部（2）釋家類～. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2020.3, (7), p.29-49.

40 小林真理絵, 小飯塚猛, 菅原真紀. 狩野文庫目録増補改訂版作成の試み（5）～和刻本漢籍集部・叢書部～. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2020.3, (7), p.51-70.

41 遠藤直子. 東北大学における西洋古代史研究 ― 附属図書館の有用性と研究の現在・過去・未来 ―. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2020.3, (7), p.71-81.

42 小川知幸, 菊地良直. 漱石文庫等洋貴重図書修復事業報告. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2020.3, (7), p.83-94.

43 菅原真紀. 「学術雑誌の動向に関するセミナー2019：学術雑誌は誰のもの？ 研究力強化とオープンアクセスのリテラシー」実施報告. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2020.3, (7), p.95-100.

44 三角太郎, 小川知幸, 武関彩瑛, 瀬戸はるか, 玉田優花子, 冬木里佳, 福田智美. 日・EU フレンドシップウィーク2019 展示「書庫のなかのヨーロッパ：人文学者のよこがお」開催報告 ― 図書館と学生との協働事業として ―. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2020.3, (7), p.101-112.

45 西村美雪. 留学生コンシェルジュによる「グローバルセッション」の歩み ― 東北大学附属図書館の国際交流活動 ―. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2020.3, (7), p.113-126.

46 菊地良直. 太平洋研究図書館連合（PRRLA：Pacific Rim Research Libraries Alliance）― 2019年総会参加報告 ―. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2020.3, (7), p.127-130.

47 渡邊愛子, 岡本宏史. キャリアアップセミナー報告「英語論文執筆セミナー」. 教室員会だより. 2020.5, 26(1), p.8-12.

48 永井伸, 堀野陽子. 新型コロナウイルス流行下における東北大学附属図書館の取り組み (特集 新型コロナウイルス流行下における大学図書館の非来館型サービス). 図書館雑誌. 2020.11, 114(11), p.608-609.

【2021年】

49 小陳左和子. 記録を残す、記憶に遺す (3.11震災文庫を読む(38)). 仙台市政だより. 2021.1, (1791), p.7.

50 三角太郎. 新型コロナウイルス感染症対策と大学図書館サービス. 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要. 2021.3, (7), p.155-161.

51 小畑真理絵, 堀野正太. 欧州のオープンサイエンス・インフラストラクチャーの現状. カレントアウェアネス-E. 2021.3, (409), E2363

52 渡部知美. PubMedが教えてくれない本文言語. 医学図書館. 2021.3, 68(1), p.69-70.

53 真籠元子, 永澤恵美, 影山啓太. 東北大学附属図書館における東日本大震災後の資料収集と活動について（特集 東日本大震災から10年）. 図書館雑誌. 2021.3, 115(3), p.138-140.

54 遠藤直子. 西洋古代史・古典学研究における批判的校訂本シリーズの利用・管理法に関する一考察－The Loeb Classical Library－. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2021.4, (8), p.35-41.

55 三角太郎, 堀野陽子, 菊地良直. 「漱石文庫デジタルアーカイブプロジェクト」クラウドファンディング事業報告. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2021.4, (8), p.43-53.

56 菊地良直. 近現代の大量一枚もの資料の保存手当てについて－漱石文庫を例に－. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2021.4, (8), p.55-66.

57 堀野陽子, 石橋典子, 小畑真理絵, 田名部晃平, 三角太郎. 新型コロナウイルス流行下で実施した図書館利用者講習会と今後の展望について. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2021.4, (8), p.67-72.

58 小陳左和子. 大学図書館が動き続けるために：震災, 台風, 感染症に遭遇した東北大学図書館から. 大学図書館研究. 2021.4, 117, p.1-15.

59 西村美雪, 武田小百合, 小野寺毅. 電子ブックを届けたい！：東北大学附属図書館における利用促進 (広場：電子書籍). 医学図書館. 2021.6, 68(2), p.93-95.

60 堀野陽子. 留学生が語りかけるSDGs：東北大学附属図書館本館:国連寄託図書館としての事例. 専門図書館. 2021.9, (306), p.2-7.

61 半澤智絵（医学図書館編集委員会）. ヤンデル先生インタビュー：SNSをどう使う？. 医学図書館. 2021.10, 68(3), p.161-165.

【2022年】

62 照内弘通. 会員館紹介：東北大学附属図書館医学分館. 医学図書館. 2022.3, 69(1), p.1-2.

63 渡邊愛子. コロナ禍でのリニューアルオープンと半年の利用動向：東北大学附属図書館医学分館. 東北地区大学図書館協議会誌. 2022.5, (73), p.4-7.

64 照内弘通. 東北大学附属図書館所蔵資料の電子化と公開に関する覚書（１）. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2022.6, (9), p.39-46.

65 菊地良直, 大原理恵. 東北大学附属図書館の近年の電子化事業について（経過報告）. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2022.6, (9), p.47-54.

66 石橋典子. 図書館Twitterの運用事例. 医学図書館. 2022.6, 69(2), p.71-72.

67 小陳左和子. 国内4大学とWiley社との電子ジャーナル転換契約の締結. カレントアウェアネス-E. 2022.6, (437), E2505

68 永澤恵美. 東北大学附属図書館におけるSNS活性化プロジェクトと現状. 大学図書館研究. 2022.8, 121, p.1-11.

69 小陳左和子. 東北大学附属図書館における館内会議のオンライン配信. 大学の図書館. 2022.9, 41(9), p.142-143.

70 永井伸. 医学分館で「ブラッシュアップ」&「リフレッシュ」. 教室員会だより. 2022.11, 28(4), p.3.

【2023年】

71 村上康子. 「阿部文庫」受入の経緯と書入れ図書について：東北大学附属図書館の蔵書となるまで. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2023.3, (10), p.33-41.

72 渡邊愛子. 狩野文庫整理の断片：邉見壽『壽家集』「回顧断片」より. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2023.3, (10), p.43-51.

73 阿部立夏子, 落合浩平, 菊地良直, 佐々木亜紀子, 佐々木智穂, 須田洋子, 多田裕子, 對馬庸二, 中島大, 西村美雪, 半澤智絵. 東北大学附属図書館2022 年度企画展「本をめくる, 印をめぐるー東北大学の蔵書印からー」：ハイブリッド展示の試み. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2023.3, (10), p.53-69.

74 菊地良直, 佐々木智穂, 大原理恵. 東北大学附属図書館所蔵漱石文庫資料修復事業報告（補遺）：『太平記鈔 附 音義』について. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2023.3, (10), p.71-76.

75 菊地良直, 佐々木智穂. 当館の貴重図書等及び古典資料の保存施策について(2)：東北大学附属図書館の事例と保存のすすめ. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2023.3, (10), p.77-97.

76 菅原透, 横山美佳, 堀野 正太. コロナ禍における東北大学附属図書館工学分館の什器リニューアル. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2023.3, (10), p.99-102.

77 堀野正太, 阿部立夏子, 松浦茜. チャットツールによるオンラインレファレンス：東北大学附属図書館工学分館での事例. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2023.3, (10), p.103-107.

19.2 講演、研修講師等（※講演等の開催日順）

【2017年】

1 吉植庄栄. S.R.ランガナタンの「一つの世界」観とその探求について. 第50回東北教育哲学教育史学会. 2017-09-02, 東北教育哲学教育史学会, 東北大学文系総合研究棟.

2 吉植庄栄. ランガナタンに学ぶ、チャンスとしての教育改革：探求学習で学校図書館が学校の中心に. 平成29年度宮城県高等学校図書館研究会司書研修会. 2017-09-22, 宮城県高等学校図書館研究会, 仙台市戦災復興記念館 5階会議室.

3 代田有紗. 基本編：図書目録. 平成29年度東北地区大学図書館協議会フレッシュパーソンセミナー. 東北地区大学図書館協議会. 2017-10-13, 東北地区大学図書館協議会, 東北大学附属図書館.

4 加藤晃一. 発展編：迷惑利用者対応. 平成29年度東北地区大学図書館協議会フレッシュパーソンセミナー. 東北地区大学図書館協議会. 2017-10-13, 東北地区大学図書館協議会, 東北大学附属図書館.

5 西村美雪. 発展編：留学生対応. 平成29年度東北地区大学図書館協議会フレッシュパーソンセミナー. 東北地区大学図書館協議会. 2017-10-13, 東北地区大学図書館協議会, 東北大学附属図書館.

6 Shoei Yoshiue. Transformation of academic libraries through higher education reform in Japan: becoming realized what Dr. S. R. Ranganathan would want to see. International Conference on Knowledge Organization, Library and Information Management: Revisiting Ranganathan: SRR@125. 2017-10-24, ISKO, IIT Madras.

7 吉植庄栄. 図書館を使った探求学習：送り出す生徒を、急に巨大になる大学図書館に戸惑わせないように. 平成29年度宮城県古川黎明中学校・高等学校SSH研究開発報告会及びICT利活用(MIYAGI Style)授業公開. 2017-11-10, 宮城県古川黎明中学校・高等学校, 宮城県古川黎明中学校・高等学校.

【2018年】

8 三角太郎. 著作権と図書館サービス. 平成29年度東北地区大学図書館協議会合同研修会. 2018-08-24, 東北地区大学図書館協議会, 山形大学法人本部3階第一会議室.

9 佐藤初美. 貴重資料をモチーフにしたオリジナルグッズの販売：東北大学の場合. 第104回全国図書館大会 大学図書館分科会(第2分科会)「大学サバイバル時代の図書館を考える」. 2018-10-20, 日本図書館協会, 国立オリンピック記念青少年総合センター.

10 西村美雪. 東北大学附属図書館におけるグローバル・ラーニング支援：「留学生コンシェルジュ」との協働を通して. 第104回全国図書館大会 多文化サービス分科会(第13分科会)「広げよう多文化サービス」. 2018-10-20, 日本図書館協会, 国立オリンピック記念青少年総合センター.

11 小林真理絵. JAIRO Cloud 操作説明会. 2018年度機関リポジトリ新任担当者研修 ＆ JAIRO Cloud 操作説明会. 2018-10-26, オープンアクセスリポジトリ推進協会, 国立情報学研究所. ※研修講師

12 小林真理絵. 事例発表：東北大学附属図書館での移行事例 Dspace → JAIRO Cloud. JAIRO Cloud 移行相談会. 2018-10-29, オープンアクセスリポジトリ推進協会, 国立情報学研究所.　※個別相談対応も

13 菊地良直. 事例報告：東北大学における古典資料の保存と課題. 東北地区西洋古典資料保存講習会. 2018-11-16, 東北大学附属図書館, 一橋大学社会科学古典資料センター, 一橋大学附属図書館, 東北大学附属図書館本館2階大会議室.

【2019年】

14 佐藤初美. CAT2020の変更点について. NIIオープンフォーラム2019「CAT2020：目録所在情報システムのこれから」. 2019-05-30, 国立情報学研究所, 学術総合センター.

15 小林真理絵. NIIオープンフォーラム2019「駆け込め! DSpace等からJAIRO Cloud(現WEKO)への移行相談会」. 2019-05-30. 国立情報学研究所. 学術総合センター.　※個別相談対応

16 代田有紗. 基本編：図書目録：目録業務の現在と未来. 2019年東北地区大学図書館協議会フレッシュパーソンセミナー. 東北地区大学図書館協議会. 2019-07-05, 東北地区大学図書館協議会, 東北大学附属図書館.

17 上村法子. 基本編：ILL業務. 2019年東北地区大学図書館協議会フレッシュパーソンセミナー. 東北地区大学図書館協議会. 2019-07-05, 東北地区大学図書館協議会, 東北大学附属図書館.

18 西村美雪. 発展編：図書館と学習支援. 2019年東北地区大学図書館協議会フレッシュパーソンセミナー. 東北地区大学図書館協議会. 2019-07-05, 東北地区大学図書館協議会, 東北大学附属図書館.

19 永澤恵美. 東北大学附属図書館震災ライブラリー／震災記録を図書館に. 第21回図書館総合展フォーラム「災害アーカイブの発展と継承：東日本大震災を例に」. 2019-11-13, 国立情報学研究所, パシフィコ横浜.

20 小陳左和子. そのとき私たちができたこと：東北大学附属図書館が遭遇した東日本大震災. 令和元年度神奈川県学校司書等実務研修冬期全体研究会. 2019-12-05, 神奈川県教育委員会, かながわ県民センター(横浜市).

21 佐藤初美. CAT2020対応について. 鹿児島県大学図書館協議会講演会「【目録情報の新基準「第5版」とコーディングマニュアル】～いよいよ始まるCAT2020と目録の採り方改革～」. 2019-12-05, 鹿児島県大学図書館協議会, 第一工業大学.

【2020年】

22 小陳左和子. 大学図書館は動き続けているか？：COVID-19拡大に直面して. 第9回4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム. 2020-05-09, 国立情報学研究所, オンライン.

23 細川聖二. JUSTICEにおける出版社交渉の実際と今後の展開. 東北大学附属図書館2020年度第1回図書館ウェビナー. 2020-06-12, 東北大学附属図書館, オンライン.

24 西村美雪. 当館におけるグローバル・ラーニング支援. 東北大学附属図書館2020年度第2回図書館ウェビナー. 2020-06-29, 東北大学附属図書館, オンライン.

25 細川聖二. 電子コンテンツ、オープンアクセス、そしてJUSTICE. 令和元年度東北地区大学図書館協議会合同研修会. 2020-09-17, 東北地区大学図書館協議会, オンライン .

26 小飯塚猛, 菅原真紀. 狩野文庫研究会の活動について. 東北大学附属図書館2020年度第3回図書館ウェビナー. 2020-08-04, 東北大学附属図書館, オンライン.

27 小陳左和子. 大学図書館は動き続けているか？：COVID-19拡大に直面してPart2. 私立大学図書館協会東地区部会2020年度管理職研修. 2020-10-16, 私立大学図書館協会東地区部会, オンライン.

28 三角太郎. 授業における著作権. 東北大学附属図書館2020年度第4回図書館ウェビナー. 2020-10-26, 東北大学附属図書館, オンライン.

29 小陳左和子. 大学図書館は動き続けているか？：COVID-19拡大に直面してPart2. 2020年度私立大学図書館協会西地区部会京都地区協議会第2回研究会. 2020-11-06, 私立大学図書館協会西地区部会京都地区協議会, オンライン.

30 武田小百合. 業務のDX推進プロジェクト・チーム活動中間報告. 東北大学附属図書館2020年度第5回図書館ウェビナー. 2020-12-09, 東北大学附属図書館, オンライン.

【2021年】

31 三角太郎. （座談会）. 国立大学図書館協会東北地区協会令和2年度職員研修「図書館の魅力再発見：クラウドファンディングの芽を探せ!!」. 国立大学図書館協会東北地区協会, 2021-01-27, オンライン. ※パネリスト

32 小陳左和子. 大学図書館が動き続けるために：コロナ禍＆地震に直面して. 大阪大学職員研修「コロナ禍を踏まえた大学図書館、研究者とオープンサイエンスの必要性」. 2021-02-15, 大阪大学附属図書館, オンライン.

33 小陳左和子. 東日本大震災における本館の状況. 東北大学附属図書館2020年度第6回図書館ウェビナー. 2021-03-05, 東北大学附属図書館, オンライン.

34 小陳左和子. 図書館が動き続けるために：災害や感染症に遭遇した経験から. 宮城県高等学校図書館研究会職員・司書研修会. 2021-08-04, 宮城県高等学校図書館研究会, 東京エレクトロンホール宮城.

35 小野寺毅. 基本編：図書目録. 2021年東北地区大学図書館協議会フレッシュパーソンセミナー. 東北地区大学図書館協議会. 2021-08-26, 東北地区大学図書館協議会, オンライン.

36 菅原真紀. 基本編：雑誌業務. 2021年東北地区大学図書館協議会フレッシュパーソンセミナー. 東北地区大学図書館協議会. 2021-08-26, 東北地区大学図書館協議会, オンライン.

37 上村法子. 基本編：ILL業務. 2021年東北地区大学図書館協議会フレッシュパーソンセミナー. 東北地区大学図書館協議会. 2021-08-26, 東北地区大学図書館協議会, オンライン.

38 小陳左和子. 大学図書館が動き続けるために. 大学図書館研究会第52回全国大会第6分科会「図書館の危機管理：特にコロナ禍への対応について」. 2021-09-19, 大学図書館研究会, オンライン.

39 永井伸. 東北大学附属図書館のワークスタディ事業について. 2021年度第3回千葉大学アカデミック・リンク-ALPSセミナー「実践事例から学内ワークスタディによる学生支援の可能性を考える」. 2021-09-22, 千葉大学アカデミック・リンク・センター, オンライン.

40 堀野陽子. 学習支援係の業務について：授業運営・留学生支援・オーダーメイド講習会. 東北大学附属図書館2021年度第1回図書館ウェビナー. 2021-10-06, 東北大学附属図書館, オンライン.

41 永井伸. 学内ワークスタディの取り組み. 東北大学附属図書館2021年度第2回図書館ウェビナー. 2021-10-20, 東北大学附属図書館, オンライン.

42 堀野陽子. 情報リテラシー教育支援の現状：東北大学附属図書館の事例. 2021年度大学図書館職員短期研修. 2021-10-26, 東京大学附属図書館、京都大学附属図書館、国立情報学研究所, オンライン.

43 照内弘通, 柳原幸子, 渡邊愛子. 改修後の医学分館紹介. 東北大学附属図書館2021年度第3回図書館ウェビナー. 2021-11-17, 東北大学附属図書館, オンライン.

44 田名部晃平. パネルディスカッション「男女共同参画：男性の立場から」. 第18回東北大学男女共同参画シンポジウム「男女共同参画：男性の立場から」. 2021-12-11, 東北大学男女共同参画委員会, オンライン.　※パネリスト

45 真籠元子. 東北大学附属図書館における所蔵資料の防災について. 第32回保存フォーラム「図書館における資料防災：「その日」に備える」. 2021-12-15-2022-01-14, 国立国会図書館, オンライン.

【2022年】

46 真籠元子. 東北大学附属図書館における所蔵資料の防災について. 東北大学附属図書館2021年度第4回図書館ウェビナー. 2022-03-09, 東北大学附属図書館, オンライン.

47 小陳左和子. 大学図書館の新しいあり方. 第69回国立大学図書館協会総会研究集会. 2022-06-23, 国立大学図書館協会, オンライン.　※全体司会

48 小陳左和子. 電子ジャーナル問題の切り札の一つとしての「転換契約」. 第24回大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議. 2022-06-29, 国公私立大学図書館協力委員会,国立情報学研究所, オンライン.

49 檜原啓一. 図書館界とその周辺：より広い視野で司書の仕事を考える. 別府大学司書講習特別講座. 2022-09-10, 別府大学, オンライン.

50 佐藤初美. 大学図書館の現場における職員養成の現状と課題. 大学図書館研究会第53回全国大会シンポジウム「「司書」養成の現在地」. 2022-09-19, 大学図書館研究会, オンライン.　※パネリスト

51 小陳左和子. （ディスカッションと質疑応答）. 令和4年度国立大学図書館協会シンポジウム「大学図書館はどこへ向かう？：変えるべきこと、継承していくこと」. 2022-09-28, 国立大学図書館協会, 東京大学附属図書館、オンライン.　※パネルディスカッション司会

52 半澤智絵. 東北大学附属図書館における地震対応. 国立大学図書館協会セミナー「災害と図書館」. 2022-10-12, 国立大学図書館協会, オンライン.

53 堀野陽子. 情報リテラシー教育支援の現状：東北大学附属図書館の事例. 2022年度大学図書館職員短期研修. 2022-10-20, 東京大学附属図書館、京都大学附属図書館、国立情報学研究所, オンライン.

54 小陳左和子. 大学図書館の「連携・協力」. 私立大学図書館協会東地区部会初任者研修. 2022-10-28, 私立大学図書館協会東地区部会, オンライン.

55 小陳左和子. COVID-19の影響による国公立大学図書館の運営状況調査. 図書館総合展フォーラム「図書館をめぐるCOVID-19の影響―公共・大学・専門図書館のsaveMLAK COVID-19調査からの報告―」. 2022-11-10, saveMLAK, オンライン.

56 檜原啓一. 大学図書館と公共図書館の違い：本学と杵築市を中心に. 東北大学附属図書館2022年度第2回図書館ウェビナー. 2022-11-14, 東北大学附属図書館, オンライン.

57 小陳左和子. 大学図書館が動き続けるために：災害やパンデミックに遭遇して. 第19回慶應義塾大学メディアセンター研修会「大学と図書館のリスクマネジメント」. 2022-11-18, 慶應義塾大学メディアセンター, オンライン.

58 小陳左和子. （グループでの情報交換・意見交換・課題の共有／全体での意見交換・質疑応答）. 研究データポリシーの先行事例勉強会. 2022-11-28, 国立大学図書館協会資料委員会オープンサイエンス小委員会, オンライン. ※アドバイザー

59 半澤智絵. 緊急事態下における対応：東北大学附属図書館の地震被害経験から. 新潟県高等学校図書館協議会図書館研究大会. 2022-11-29, 新潟県高等学校図書館協議会, 新潟県立生涯学習推進センター.

60 小陳左和子. 国立大学図書館協会地区協会助成事業のこれまで. 国立大学図書館協会地区協会助成事業成果共有会. 2022-12-02, 国立大学図書館協会人材委員会, オンライン.

61 檜原啓一. 東北地区協会「職員の企画・運営による職員のためのワークショップ」報告. 国立大学図書館協会地区協会助成事業成果共有会. 2022-12-02, 国立大学図書館協会人材委員会, オンライン.

62 藤本菜穂子. （転換契約に関する座談会）. 2022年度JUSTICE転換契約に関する勉強会. 2022-12-08, 大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE), オンライン. ※パネリスト

63 菊地良直. 国宝『史記』の修理. 東北大学附属図書館2022年度第3回図書館ウェビナー. 2022-12-12, 東北大学附属図書館, オンライン.

【2023年】

64 中島大. 学生の特技・興味を生かした学生協働：仙台高専広瀬の事例. 東北大学附属図書館2022年度第4回図書館ウェビナー. 2023-01-23, 東北大学附属図書館, オンライン.

65 佐々木智穂. 次期ILLシステムの検討議論について. 令和4年度国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業フォーラム「ILL/DDサービス2.0へ向けて」. 2023-01-27, 国立大学図書館協会近畿地区協会, オンライン. ※パネリスト

66 武田小百合. 吾輩は猫の手を借りました：「漱石文庫」の広報および地元企業との協働による外部資金獲得の試み. 令和4年度国立大学図書館協会東海北陸地区協会助成事業研修会. 2023-02-09, 国立大学図書館協会東海北陸地区協会, オンライン.

67 影山啓太. 一括登録編：メタデータファイルの基本項目説明. 次期JAIRO Cloud（WEKO3）操作説明会. 2023-02-13, オープンアクセスリポジトリ推進協会, オンライン. ※研修講師

68 小陳左和子. 東北大学と東京工業大学の担当者が語るWiley社との転換契約. Wiley転換契約アップデートウェビナー. 2023-02-16, Wiley, オンライン.

69 小陳左和子.電子ジャーナル問題の切り札の一つとしての「転換契約」. UniBio Pressセミナー. 2023-03-17, UniBio, オンライン.

20 情報発信

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
【ウェブサイト】						
お知らせ掲載数	120	115	111	98	119	114
【Twitter】						
附属図書館：@hagi_no_suke						
フォロワー数	6,033	6,036	6,446	7,357	8,005	8,388
ツイート数	168	384	649	729	535	558
医学分館：@Tohokulib_M						
フォロワー数	281	358	434	519	696	755
ツイート数	360	392	254	193	161	177
工学分館：@KobunLib						
フォロワー数				479	768	874
ツイート数				576	921	793
金属材料研究所図書室：@imr_lib						
フォロワー数	–	–	–	–	–	450
ツイート数	–	–	–	58	41	54
Tohoku U. Main Lib（留学生コンシェルジュ）：@TUL_Global						
フォロワー数	–	–	–	–	–	227
ツイート数	174	100	91	61	116	86
【Instagram】						
フォロワー数	–	–	391	787	978	1,192

※“－”は、統計的な算出不可の項目。

※工学分館のTwitterアカウント（@KobunLib）は、2020年9月～。

21 災害等の対応記録

21.1 本館における COVID-19 対応記録

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関する附属図書館本館の1年(2020年3月～2021年3月)の対応記録をまとめた「東北大学附属図書館本館におけるCOVID-19対応記録(https://www.library.tohoku.ac.jp/news/2020/TUL_covid19_2020report.html、2020年3月26日掲載、2021年8月24日最終更新)」に、2021年4月～2023年2月の記録等を追記したものです。

年月日		東北大学 ※〔 〕内は国内の状況	BCP レベル	附属図書館本館
2020 年 1 月			－	入口に消毒用アルコールを設置
3 月	3 日	総長を議長とする「新型コロナウイルス感染症対策本部会議」設置		グループ学習室の利用休止
	30 日	学内構成員に、不要不急の出張・旅行、行事・イベント等の中止・延期を要請		県外利用者の古典資料閲覧休止
	31 日			座席間隔の拡大・椅子の間引き
4 月	1 日			共用PCの利用休止
	5 日	学内1例目の感染者判明		
	6 日	1学期はオンライン授業のみの実施を公表		
	7 日	東北大学の行動指針(BCP)策定 〔7都府県に緊急事態宣言〕	2	開館時間短縮(平日9～17時) 学外者の入館利用休止
	8 日	対策本部で図書館休館が決定	3	
	13 日			臨時休館の開始(4/13～6/21)
	16 日	〔緊急事態宣言 全国へ拡大〕		
	17 日		4	業者等学外者の事務室入室を原則禁止(通用口での物品授受)
	20 日	オンライン授業開始		
	21 日			全学教育科目「大学生のレポート作成入門」オンライン授業配信開始
	22 日			図書館ウェブサイトに解説「自宅で利用できる電子資料」を掲載
5 月	8 日			教員へオーダーメイド講習会の動画配信の実施を周知
	14 日	〔緊急事態宣言 宮城含む39県で解除〕		教員等への玄関受付での予約貸出開始
	20 日		3	学生(自宅等)への郵送貸出を開始
	22 日			雑誌等の複写サービスを開始
	25 日	〔緊急事態宣言 全面解除〕		
6 月	1 日	川内北キャンパスの教室開放	2	ILL(学内外図書館からの文献複写・図書の取寄せ)サービスを再開
	19 日	〔全国で県をまたぐ移動可〕	1	
	22 日			限定開館開始(平日9～17時、館内滞在30分以内、座席使用禁止)
7 月	1 日	実技・実験・実習科目中心に一部の対面授業を実施		
	3 日	「課外活動ガイドライン」策定		
	8 日			「附属図書館サービス再開ロードマップ」の策定
	10 日	学生課外活動の一部再開:ステップ1(屋外施設での個人練習のみ)		
	13 日			サービス拡大(座席50%使用可、学外者は玄関受付での予約貸出可)

	21 日	行動指針(BCP)改訂		
	22 日	〔Go To トラベルキャンペーン開始〕		
8 月	7 日	学生課外活動:ステップ2(屋外:5人程度の練習可、屋内:個人練習)		
	13 日			留学生向け動画公開 “Welcome to New Normal Library” “ How to find books in Tohoku University Library”
9 月	4 日	学生課外活動:ステップ3(屋外・屋外:5人程度の非接触練習可)		
	8 日	行動指針(BCP)改訂		
	17 日			「附属図書館サービス再開ロードマップ」を改訂
	29 日			「Go To 図書館キャンペーン」開始
10 月	1 日	対面授業とオンライン授業の併用開始		開館時間延長(平日9～20時)、座席数拡大、館内展示・小規模イベント再開
11 月	1 日			土日祝日開館再開(13～18時) 留学生コンシェルジュデスク再開
	2 日	学生課外活動:ステップ4(団体練習可)		
	30 日	学生課外活動:対面でのボランティア活動・ミーティング等の制限緩和		
12 月	28 日	〔Go To トラベルキャンペーン一時停止〕		
	29 日	学生課外活動の一時停止		
2021 年 1 月	7 日	〔1都3県に緊急事態宣言〕		
	8 日	行動指針(BCP)改訂	2	
	9 日			土日祝日開館時間延長(13～20時)
	13 日	〔緊急事態宣言 11都府県に拡大〕		
	19 日			大学BCPに対応した図書館本館BCPの策定
2 月	28 日	〔緊急事態宣言 首都圏除く6府県解除〕		
3 月	18 日	〔宮城県・仙台市独自の緊急事態宣言〕		
	21 日	〔1都3県の緊急事態宣言解除〕		
4 月	1 日	行動指針(BCP)改訂	3	
	2 日			ガイダンス&ツアー延期決定
	5 日	〔宮城県にまん延防止等重点措置 ～5/11〕		開館時間短縮(平日9～17時、土日祝休館)
	13 日			本館BCP改訂 館内スペースのイベント利用不可
5 月	6 日			開館時間延長(平日9～20時、土日祝13～20時)
	12 日		2	
	26 日			グループ学習室の利用可能回数を拡大(1日1回のみ1名利用→1回1名3時間利用・1日複数回利用可) 学生閲覧室2Fのキャレルを全席利用可
6 月	10 日	教職員等対象のワクチン接種開始		
	21 日	大学拠点接種(学生・教職員等)開始		
8 月	12 日	〔宮城県・仙台市独自の緊急事態宣言〕		
	20 日	〔宮城県 まん延防止重点措置 ～9/12〕 行動指針(BCP)改訂	3	
	27 日	〔宮城県 緊急事態宣言〕		
9 月	13 日	〔宮城県 緊急事態宣言からまん延防止重点措置に移行。～9/30〕		

	16 日		2	
	21 日			利用者用PC再設置
10 月	1 日	行動指針(BCP)改訂	1	
11 月	1 日			閉館時間を22時に戻す(平日9～22時、土日祝13～22時)
2022 年 1 月	17 日	通知:新型コロナウイルス感染症(オミクロン株)まん延に伴う緊急対応 授業・課外活動を可能な限りオンラインへ		学生閲覧室2Fのキャレルを1席おき利用可
	18 日		2	
2 月	1 日	〔宮城県 緊急特別要請 ～3/21〕		
3 月	22 日	〔宮城県 再拡大防止期間 ～4/10〕		
4 月	10 日	〔宮城県 再拡大防止期間延長 ～5/15〕		
5 月	23 日		1	館内のキャレルは全席利用可
6 月	1 日			学外者の入館利用再開(予約不要・貸出や複写目的で入館可能)
	14 日			館内スペースのイベント利用再開(対話形式以外)
7 月	1 日			開館時間を通常に戻す(平日8～22時、土日祝10～22時)
11 月	28 日			グループ利用再開(フレキシブルエリア2名まで・ボックス席要予約4人まで) グローバル学習室での対話形式イベント可
	30 日	〔宮城県みやぎ医療ひっ迫危機宣言 ～2/14〕		
2023 年 2 月	16 日			グループ利用場所拡大(メインフロアに2名利用席9箇所増)

【関連サイト】

・東北大学新型コロナウイルス BCP 対応ガイド
https://www.bureau.tohoku.ac.jp/covid19BCP/index.html

・附属図書館・図書室の開館(室)状況について(随時情報更新)
https://www.library.tohoku.ac.jp/news/2020/restart.html

【報告記録】

・永井伸, 堀野陽子. 新型コロナウイルス流行下における東北大学附属図書館の取り組み. 図書館雑誌. 2020.11, 114(11), p.608-609. http://hdl.handle.net/10097/00131180

・三角太郎. 新型コロナウイルス感染症対策と大学図書館サービス. 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要. 2021.3, (7), p.155-161. http://hdl.handle.net/10097/00131227

・堀野陽子ほか. 新型コロナウイルス流行下で実施した図書館利用者講習会と今後の展望について. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2021.3, 8. http://hdl.handle.net/10097/00131564

・小陳左和子. 大学図書館が動き続けるために:震災, 台風, 感染症に遭遇した東北大学附属図書館から. 大学図書館研究. 2021.3, 117, p.1-15. https://doi.org/10.20722/jcul.2110

・大隅典子. 新型コロナウイルス感染症と図書館 (特集:新型コロナウイルス前には戻れない？). 艮陵同窓会会誌. 2023.2, (21), p.42-47. http://hdl.handle.net/10097/00136695

・小陳左和子. 大学図書館は動き続けているか？:COVID-19 拡大に直面して. 国立情報学研究所「第 9 回 4 月からの大学等遠隔事業に関する取組状況サイバーシンポジウム」. 2020.5.29(オンライン開催). https://www.nii.ac.jp/event/other/decs/past.html

・小陳左和子. 大学図書館が動き続けるために:コロナ禍＆地震に直面して. 令和 2 年度大阪大学職員研修「コロナ禍を踏まえた大学図書館、研究者とオープンサイエンスの必要性」. 2021.2.15(オンライン開催). https://www.library.osaka-u.ac.jp/pr/kensyu_archive/#R2

(ウェブ情報の参照:2022-12-13)

21.2 2021.2.13 発生の福島県沖地震対応記録

（ウェブ版：https://www.library.tohoku.ac.jp/news/2020/TUL_EQ20210213report.html）

2021 年 03 月 29 日掲載
2022 年 03 月 25 日更新

2021 年 2 月 13 日（土）23 時 08 分頃、福島県沖を震源とする地震（M7.3）が発生し、本学の所在地である仙台市青葉区は震度 5 強を記録しました（最大震度 6 強）。〔参照：日本気象協会 地震情報 https://earthquake.tenki.jp/bousai/earthquake/detail/2021/02/13/2021-02-13-23-08-00.html〕
この地震による附属図書館（本館・各分館）の被害とその対応状況についてご報告いたします。

1. 被害状況

館名	(1)書籍の落下	(2)施設	(3)設備
本館	150,000 冊 （図書 30,000 冊 製本雑誌 80,000 冊 古典資料 40,000 冊）	・天井からの漏水 ・天井・壁の剥離 ・天井梁の亀裂 ・床の亀裂	・空調機の使用停止（配管破損） ・漏水によるネットワーク機器・サーバ類の浸水→交換
医学分館	75,000 冊 （図書 48,000 冊 製本雑誌 27,000 冊）	・外壁の剥離 ・天井・壁の剥離	・防煙垂れ壁の破損 ・空調機グリルの落下
北青葉山分館	6,000 冊	・天井からの漏水	・排気口・エアコンのずれ落ち ・書架のずれ
工学分館	6,500 冊	・柱・壁の亀裂	・機械室設備の破損・漏水 ・天井排風口の落下 ・閲覧机の破損
農学分館	110,000 冊	・天井の一部落下危険性 ・天井・壁の剥離・亀裂	・空調機グリルの落下

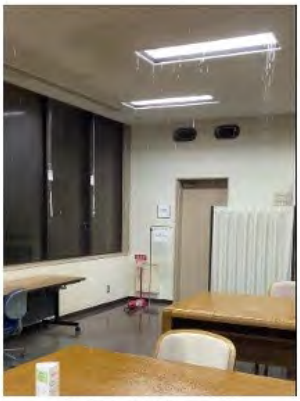
(1)書籍の落下

本館2号館 製本雑誌

本館2号館 古典資料

農学分館 製本雑誌

(2)施設



本館2号館 漏水

医学分館 外壁

北青葉山分館 漏水

(3)設備

工学分館 排風口 落下

農学分館 空調機

本館 事務室

2.対応状況(2021 年 3 月 26 日時点→最終更新:2022 年 3 月 25 日時点)

館名	(1) 発生直後の開館への影響	(2) 当初の制限事項
本館	・2/14(日)-23(火・祝)の土日祝日 臨時休館 ・2/15(月)-19(金)の平日 短縮開館(9-17 時) ・2/12(月)-19(金) 通常時間での開館再開	・空調機の使用不可 ・一部エリアの使用不可
医学分館	・2/15(月) 臨時自習室閉室 ・2/17(水) 臨時窓口設置 ・2/22(月) 資料利用再開(窓口受取のみ) ・5/10(月) リニューアルオープン	・リニューアル開館日程未定
北青葉山分館	・2/15(月)-19(金) 臨時休館 ・2/22(月) 開館再開	・空調機の一部使用不可 ・一部エリアの使用不可
工学分館	・2/15(月) 臨時休館 ・2/16(火) 開館再開	・特になし
農学分館	・2/15(月)-5/7(金) 臨時休館 ・2/16(火) 臨時窓口設置 ・3/1(月) ラーニングコモンズのみ再開 ・5/10(月) 開館再開	・開館再開日程未定

補足:宮城県沖地震(2021年3月20日発生)の被害

※2021年3月20日(土)18時09分頃/M6.9/仙台市青葉区は震度5弱(最大震度5強)

〔参照:日本気象協会 地震情報 https://earthquake.tenki.jp/bousai/earthquake/detail/2021/03/20/2021-03-20-18-09-54.html〕

館名	主な被害
本館	・書籍2,200冊落下 ・エレベータ停止
医学分館	・書籍650冊落下 ・天井ボードからの粉塵落下
北青葉山分館	・書籍3冊落下 ・書架のずれの悪化
工学分館	・書籍数冊落下 ・エレベータ停止
農学分館	・書籍1,800冊落下

【関連サイト等】

・Togetter:東北大学附属図書館2021年2月13日発生地震関連まとめ https://togetter.com/li/1670219

・東北大学 地震緊急ページ https://www.bureau.tohoku.ac.jp/emer/

(ウェブ情報の参照:2022-12-12)

21.3 2022.3.16 発生の福島県沖地震対応記録

（ウェブ版：https://www.library.tohoku.ac.jp/news/2021/TUL_EQ20220316report1.html）

2022 年 03 月 25 日掲載
2023 年 03 月 27 日更新

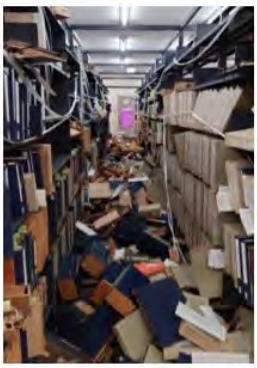
2022 年 3 月 16 日（水）23 時 36 分頃、福島県沖を震源とする地震（M7.4）が発生し、本学の所在地である仙台市青葉区は震度 5 強を記録しました（最大震度 6 強）。〔参照：日本気象協会 地震情報 https://earthquake.tenki.jp/bousai/earthquake/detail/2022/03/16/2022-03-16-23-36-46.html〕
この地震による附属図書館（本館・各分館）の被害とその対応状況についてご報告いたします。

1. 被害状況

館名	(1)書籍の落下	(2)施設	(3)設備
本館	157,000 冊 （図書 22,000 冊 製本雑誌 85,000 冊 古典資料 50,000 冊）	・天井からの漏水 ・屋上冷却塔囲い壁破損 ・壁の亀裂	・空調機の使用停止（配管破損） ・屋上クーリングタワー破損（配管ずれ、配管支え転倒）
医学分館	60,000 冊 （図書 30,000 冊 製本雑誌 30,000 冊）	・天井ボードの一部破損 ・躯体壁・ボードの亀裂 ・外壁タイル破損	・空調機グリルの落下・破損 ・書架一部の側板破損、書架固定壁面破損
北青葉山分館	10,500 冊 （図書 6,000 冊 製本雑誌 4,500 冊）		・3 階特殊資料室の大型地図キャビネット転倒
工学分館	40,000 冊	・壁の一部破損	・機械室設備（パイプ）の破損 ・書架の天つなぎのボルト外れ、側板外れ
農学分館	110,000 冊 （2 階閲覧室の全蔵書）	・3 階ロフトエリア天井落下の危険性 （立入禁止） ・壁の亀裂等損傷多数	・空調機落下 6 台 ・事務室・共用書庫ドア鍵故障 ・窓サッシパーツ外れ ・1 階ラウンジ書架 3 台転倒

(1)書籍の落下

医学分館 製本雑誌


本館2号館 一般古典

農学分館

2)施設

本館 グローバル学習室 天井からの漏水

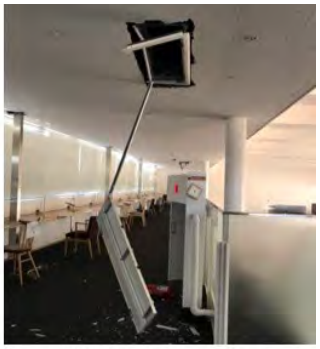
医学分館 天井破損

農学分館 天井破損

(3)設備

本館 機械室 空調機の配管切断
(漏水発生の一因)

北青葉山分館 大型キャビネットの転倒


農学分館 空調機の落下

2.対応状況(2022 年 3 月 24 日時点→最終更新:10 月 11 日時点)

館名	(1) 発生直後の開館への影響	(2) 当初の制限事項
本館	・3/17(木),3/19(土)～21(月・祝)臨時休館 ・3/18(金)短縮開館(9-17 時) ・3/22(火)～通常時間での開館	・1 号館の一部エリア、2 号館全体の使用不可利用不可エリアあり
医学分館	・3/17(木)臨時休館 ・3/18(金)～開館再開(平日 9-17 時、時間外利用休止・土日祝は完全閉館) ・4/4(月)～通常時間での開館	・利用可能エリア限定:1 階カウンター、ラーニングコモンズ、グループ学習室、2 階閲覧室、別棟 1 階電動書架
北青葉山分館 (臨時図書室)	・3/17(木)～18(金)臨時休室 ・3/22(火)～臨時図書室開室再開(平日 9-17 時)	
工学分館	・3/17(木)～3/18(金)午前 臨時休館 ・3/18(金)午後～開館再開(平日 9-17 時) ・4/4(月)～開館時間拡大(平日 9-20 時、時間外利用不可) ・5/12(木)～通常時間での開館	・一部閲覧席等のみ使用可
農学分館	・3/17(月)～4/1(金) 臨時休館(部分開館について調整中) ・4/4(月)～1 階のみ、短縮開館(平日 9-17 時) ・4/20(水)～2 階図書エリア利用再開(雑誌エリア利用不可) ・4/25(月)～開館時間拡大(平日 9-20 時、閉館時特別利用不可) ・6/10(金)～雑誌エリア利用再開	・利用不可エリアあり

	・6/13(月)～通常時間での開館 ・10/11(火)～ 全エリア利用可	

3.これまでの書籍落下防止対策と今回の状況

(1)落下防止バー

・学内の各館において、書架の上部2段の棚に落下防止バー(揺れを感知したら跳ね上がる仕様)を設置している。

・医学分館[写真左]等では、バー設置の棚からの落下は少なく、効果が見られた。

・農学分館[写真右]では、前回の福島県沖地震(2021 年 2 月)の際、書籍が落下した後にバーが跳ね上がり、効果が見られなかった。このため、その後は通常時からバーを上げたまま運用していた。今回の地震では、1 回目の横揺れでは持ちこたえたが、2 回目の強い縦揺れでバーを飛び越えて書籍が落下、またはバーごと棚が落下した。

医学分館 製本雑誌

農学分館 製本雑誌

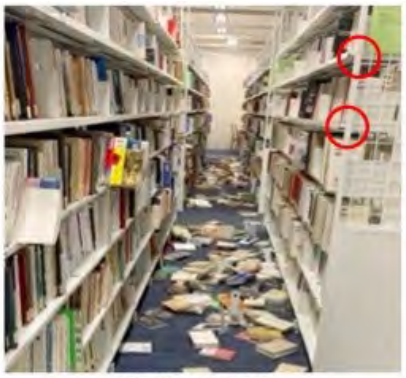
(2) 傾斜スライド棚

・東日本大震災後に入替・新設した書架の一部において、上部 3 段または 2 段に傾斜スライド棚(揺れを感知したら棚がスライドし傾斜する仕様)を導入した。今回の地震では、いずれも揺れを感知し、作動した。

・本館学生閲覧室[写真中]では、最上段の書籍は落下が多かったが、2-3 段目は落下が抑制された。

・本館グローバル学習室[写真右]では、傾斜スライド棚(最上段、2 段目)からの落下が抑制され、通常棚の 3 段目からの落下が多く見られた。

傾斜スライド棚の例



本館 学生閲覧室(2F)

本館 グローバル学習室(2F)

（3-1）棚の傾斜

・東日本大震災後、工学分館の職員（当時）が棚を傾斜させるアタッチメントを独自開発し、既存の全ての棚に設置した。

・また、震災で破損した書架を買い替える際に、メーカー品による傾斜棚を導入した。

・前回の福島県沖地震（2021 年 2 月）では効果があり、最上段の書籍のみが落下するにとどまったが、今回の地震では、アタッチメントが外れるなどの影響により、落下冊数が前回の 6 倍に増加した（前回 6,500 冊→今回 40,000 冊）。

工学分館　元職員の独自開発によるアタッチメント
※写真右は、今回の地震により外れた状態

工学分館　メーカー品

（3-2）棚の傾斜（実験）

・前回の福島県沖地震（2021 年 2 月）後、各館において書架設置業者とともに棚傾斜の実験を行っていた。

・本館［写真左］では、棚ごとに傾斜の角度を変えて試行しており、3 度と 4 度は落下したが、5 度では落下が抑制された。

・医学分館［写真中］では、傾斜棚は落下せず、通常棚は落下が見られた。

・農学分館［写真右］では、傾斜の有無に関わらず全て落下した。

・設置環境や地震の状況によって、効果の有無が分かれる。書架の形状によっては設置が困難な場合がある。書架の背板に書籍がぶつかる、または、反対側の書籍と背がぶつかり合うなど、書籍を傷める懸念がある。

本館 狩野文庫

医学分館

農学分館

（4）落下抑制テープ

・東日本大震災後、館によっては落下抑制テープを貼付している。

・北青葉山分館では、今回も一定の効果が見られた。

・ただし、貼付後 10 年以上経過し、テープが劣化している。

北青葉山分館 製本雑誌

（5）棚はめ込み式保存箱

・前回の福島県沖地震（2021 年 2 月）では漱石文庫でも多数の落下があり、2021 年 11 月に棚はめ込み式の保存箱を導入した（「図書館のみらい基金」を活用）。

・今回の地震では、上部 2 段から保存箱ごと落下した箇所があったが、箱内の書籍の破損は免れた。

前回(2021.2)の地震時　保存箱の設置(2021.11)　今回(2022.3)の地震

（6）滑り止め付きブックエンド

農学分館　滑り止め付き大型ブックエンド

棚に残っているもの、書籍とともに落ちたもの

（7）チェーン、ひも

・日常の使い勝手とのトレードオフとなり、場所が限定される。

・書架の形状によって、限界がある。

工学分館 事務室 職員作業用書架 <チェーン>
※落下しなかったが、利用者エリアには使いづらい

本館2号館 古典書庫 <ひも>
※ひもは一般には有効だが、単柱式書架では限界あり

本館2号館 古典書庫 <ひも>
※落下しなかったが、資料を取り出すのが困難

【本館 2号館】古典書庫 <平ゴム>
※半数ほど落下（写真は落下前の様子）

（8）集密書架

・集密書架自体は、転倒・暴走防止のため、制震・耐震性能を有している。

・通路が空いていない列では、書籍の落下を抑制でき得る。ただし、棚を動かした時点で、内部で傾いていた書籍が落下する場合がある。

・落下書籍の復旧にあたっては、固定書架はどの列も一斉に作業できるが、集密書架はブロックごとに 1 列しか入れないため効率が悪い。

・地震によって電気系統の故障が起きる場合があり、その場合は修理を待たないと復旧作業ができない。

本館2号館

医学分館

（9）低書架への転倒防止パーツ

・壁側の低書架に転倒防止パーツを設置しており、今回の地震では転倒しなかった。

・一方で、パーツ設置ができない通路側の低書架は転倒した。

・配架している資料の重量等の形状が異なるため一概には言えないが、一定の効果があったと思われる。

農学分館　壁側の低書架

通路側の低書架
※地震後、壁側へ移設

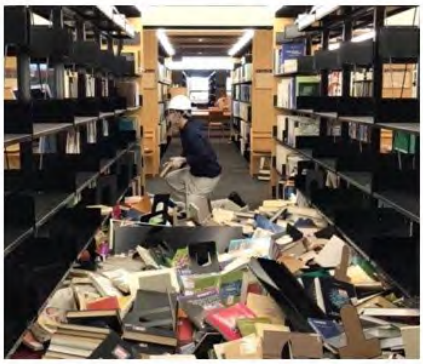
4.学生ボランティアの協力

東北大学課外・ボランティア活動支援センター（https://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page_id=7395）ボランティア支援学生スタッフ SCRUM（https://scrum-tohoku-univ.jimdofree.com/）と、東北大学地域復興プロジェクト"HARU"（https://www.haru-tohoku.org/）から、落下書籍復旧の手伝いのお申し出があり、以下の活動を行ってくださいました。早期復旧に向けて貢献いただいたことに深く感謝申し上げます。

館名	（1）期間・活動日数	（2）人数	（3）総時間数
本館	3/28(月)～4/28(木)のうち 15 日間	17 名	94 時間
農学分館	4/5(火)～4/8(金)の 4 日間	7 名	44 時間

本館2号館

本館2号館



農学分館

なお作業中は、以下の点に留意しました。

必ず図書館職員が一緒に行動する / ボランティア保険に加入してもらう / ヘルメットや軍手等を用意する / 参加人員・時間の把握を正確に行う（余震発生時等のため） / 余震発生の確認のためにラジオを点ける / 定期的に休憩をとる

・2022 年 7 月 21 日（木）、SCRUM と"HARU"へ、附属図書館長から感謝状の贈呈を行いました。
「福島県沖地震の復旧支援に対して学生ボランティア団体に感謝状を贈呈しました」
https://www.library.tohoku.ac.jp/news/2022/20220722.html

・SCRUM が今回の活動報告を公表しました。
「図書館復旧ボランティア活動報告」
https://www.tnc.tohoku.ac.jp/online-opencampus/volunteer_activity/contents-01/

・2022 年 8 月 18 日（木）、SCRUM・"HARU"と図書館関係職員とで、今回の活動に関する振り返り・意見交換を行いました。

5.「図書館のみらい基金」へのご寄附

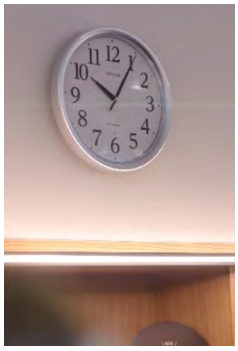
ウェブサイトやSNS等で被害状況をご覧になった皆様から、東北大学特定基金「図書館のみらい基金」へ、お見舞い・励ましのメッセージとともに多数のご寄附を賜りました。誠にありがとうございます。発災後、6月末日までの間に、200名の方々から約170万円のご寄附を頂戴いたしました。このうち一部を最も被害の大きかった農学分館の復旧に活用させていただきました。このほかにも引き続き本館・分館を含めた地震復旧に関わる用途に使わせていただきます。

2022 年度農学分館の復旧への支出状況

品名	数量	金額
壁掛け時計	7 点	25,564 円
書架修繕作業	一式	349,800 円
鉄プレス	1 台	57,200 円
合計		432,564 円

①閲覧フロアの書棚の復旧（ゆがみが生じた棚板・破損した部品の交換）

②落下した図書の修理用プレス機購入（軽微な破損は日常業務の中で修理）



③落下して破損したガラス製の壁掛け時計の代わりに、破損しにくい素材のものを購入

6.助成金による対策

日本図書館協会より「災害等により被災した図書館等への助成（2022年度）」として、30万円の助成をいただき、誠にありがとうございました。助成金により、資料落下防止用のテープやスパイダーゴムの導入、配管断裂により水損した資料の買い替え等を行いました。

落下防止テープ

スパイダーゴム

【関連サイト等】

・Togetter：東北大学附属図書館2022年3月16日発生地震関連まとめ
https://togetter.com/li/1862640
・note：大隅典子（附属図書館長）「またも福島県沖地震」（2022年3月20日掲載）
https://note.com/sendaitribune/n/nfd7728b39de7
・東北大学 地震緊急ページ https://www.bureau.tohoku.ac.jp/emer/
・東北地区大学図書館協議会加盟館の被害・復旧状況（2022年5月12日集約）
https://www.library.tohoku.ac.jp/tohokuchiku/20220316_earthquake_report.pdf
・報道：毎日新聞「相次ぐ地震、本の落下対策は：各地の図書館で試行錯誤」（2022年5月26日兵庫版掲載）
https://mainichi.jp/articles/20220526/ddl/k28/040/198000c
・報道：東北大学新聞「蔵書落下 被害甚大 ～附属図書館 完全復旧見通し立たず～」（2022年5月15日掲載）
https://ton-press.blogspot.com/2022/05/toshokanhigai.html
・報道：河北新報「本の落下 悩む図書館：3月の震度6強地震で多発」（2022年5月3日掲載） ※共同通信社配信記事、ほか多数
・報道：朝日新聞デジタル「本40万冊が落下、悩み続ける図書館」（2022年4月7日夕刊掲載）
https://digital.asahi.com/articles/DA3S15259763.html
・報道：朝日新聞デジタル「本40万冊が落下、地震に頭抱える図書館」（2022年4月2日宮城版掲載）
https://digital.asahi.com/articles/ASQ416SFXQ3TUNHB00W.html
・過去の記録：真籠元子「東北大学附属図書館における所蔵資料の防災について」（国立国会図書館第32回保存フォーラム，2021年12月21日開催）
https://www.ndl.go.jp/jp/event/events/forum32_text3.pdf
・過去の記録：東北大学附属図書館における福島県沖地震対応記録（2021年3月29日掲載）
https://www.library.tohoku.ac.jp/news/2020/TUL_EQ20210213report.html
・過去の記録：小陳左和子「そのとき私たちができたこと：東北大学附属図書館が遭遇した東日本大震災」（「大学図書館研究」94巻，2012年3月31日発行） https://doi.org/10.20722/jcul.79

（ウェブ情報の参照：2022-10-20）

東北大学附属図書館における自己点検・評価の実施に関する内規

令和４年１月１４日　制定

（趣旨）

第１条　この内規は、「東北大学附属図書館規程」第２１条に基づき、東北大学附属図書館（以下「附属図書館」という。）における自己点検・評価の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

（方針）

第２条　附属図書館においては、東北大学の研究教育活動を支える重要な学内組織としての役割を担うため、その活動、組織、運営及び施設・設備の状況について自己点検・評価を実施するとともに必要な改善を行い、もって不断の向上に努めるものとする。

（委員会）

第３条　附属図書館の自己点検・評価に関する事項を審議し実施するため、自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（組織）

第４条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一　附属図書館長

二　附属図書館副館長

三　各附属図書館分館長

四　附属図書館事務部長

五　その他委員会が必要と認める者

２　前項第５号に掲げる委員は附属図書館長が委嘱する。任期は１年とし、再任を妨げない。

（委員長）

第５条　委員会に委員長を置き、委員長は前条第１項第１号に掲げる委員をもって充てる。

２　委員長は、委員会の会務を総理する。

３　委員長に事故あるときは、前条第１項第２号に掲げる委員がその職務を代行する。

（小委員会）

第６条　委員会に、必要に応じて小委員会を置くことができる。

２　小委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

（点検・評価事項）

第７条　委員会は、次の各号に掲げる事項について点検・評価を行う。

一　組織・運営に関すること

二　施設・設備に関すること

三　図書館資料及び学術情報の整備・提供に関すること

四　研究教育活動支援に係る機能に関すること

五　社会貢献に関すること

六　その他委員会が必要と認める事項

（点検・評価の実施時期）

第８条　自己点検・評価は、原則として６年に一度実施する。

（点検・評価の報告及び公表）

第９条　委員会は、自己点検・評価の結果を取りまとめ、附属図書館商議会の了承を得て教育研究評議会に報告するとともに、その内容を学内外へ公表するものとする。

（庶務）

第１０条　委員会の庶務は、附属図書館総務課において処理する。

（雑則）

第１１条　この内規に定めるもののほか、自己点検・評価の実施に関し必要な事項は、委員会が定める。

附　則

この内規は、令和４年１月１４日から施行する。

東北大学附属図書館自己点検・評価小委員会設置要領

令和 4 年 5 月 25 日　制定

1．趣旨

この要領は、「東北大学附属図書館における自己点検・評価の実施に関する内規」（令和 4 年 1 月 14 日制定）第 6 条に基づき、自己点検・評価委員会の下に置く小委員会について必要な事項を定めるものである。

2．所掌

小委員会は以下の業務を所掌する。

①自己点検スケジュールの立案
②評価項目決定
③利用者アンケート項目決定・実施・集計・分析
④自己点検・評価報告書案の作成
⑤自己点検・評価委員会の検討に必要な資料の作成
⑥自己点検・評価報告書の公表に関する実務

3．構成

小委員会は以下の図書館職員により構成する。

①事務部長（主査）
②総務課長
③情報管理課長
④情報サービス課長
⑤総務課専門員
⑥情報管理課専門員
⑦情報サービス課専門員
⑧医学分館専門員
⑨北青葉山分館図書係長
⑩工学分館専門員
⑪農学分館図書係長
⑫金属材料研究所図書係長
⑬小委員会が必要と認める者（若干名）

4．設置期間

自己点検・評価委員会が設置を認めた日から、自己点検・評価報告書の公開に至るまでの期間とする。

5．その他

・小委員会の庶務は総務課において処理する。
・この要項に定めるもののほか、小委員会の業務遂行に必要な事項は、小委員会が定める。

以上

東北大学附属図書館における外部評価の実施に関する内規

令和４年１月１４日　制定

（趣旨）

第１条　この内規は、「東北大学附属図書館規程」第２１条に基づき、東北大学附属図書館（以下「附属図書館」という。）における外部評価の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第２条　外部評価の実施は、附属図書館の活動、組織、運営及び施設・設備の状況について、第三者の立場から客観的な評価及び提言を行い、附属図書館の活動の発展及び充実に資することを目的とする。

（委員会）

第３条　外部評価を実施するため、附属図書館外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（組織）

第４条　委員会は、５名以内の委員をもって組織する。

２　委員は、附属図書館の活動に関し識見を有する学外者のうちから、附属図書館長が委嘱する。

（任期）

第５条　前条に掲げる委員の任期は１年とし、再任を妨げない。

（委員長）

第６条　委員会に委員長を置き、委員長は委員の互選によって定める。

２　委員長は、委員会の会務を総理する。

（委員以外の出席）

第７条　委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聞くことができる。

（評価事項）

第８条　委員会は、次の各号に掲げる事項について評価を行う。

一　組織・運営に関すること

二　施設・設備に関すること

三　図書館資料及び学術情報の整備・提供に関すること

四　研究教育活動支援に係る機能に関すること

五　社会貢献に関すること

六　その他委員会が必要と認める事項

（評価の実施時期）

第９条　評価は、原則として６年に一度実施する。

（評価の実施方法）

第１０条　委員会は、次の各号に掲げる方法により評価を実施する。

一　附属図書館の自己点検・評価結果に基づく評価

二　附属図書館へのヒアリングによる評価

三　実地視察による評価

（評価の報告及び公表）

第１１条　委員長は評価の結果を取りまとめ、附属図書館長へ報告する。附属図書館長はその結果をもとに報告書を作成し、附属図書館商議会の了承を得て教育研究評議会に報告するとともに、その内容を学内外へ公表するものとする。

（庶務）

第１２条　委員会の庶務は、附属図書館総務課において処理する。

（雑則）

第１３条　この内規に定めるもののほか、外部評価の実施に関し必要な事項は、委員会が定める。

附　則

この内規は、令和４年１月１４日から施行する。

附属図書館自己点検・評価委員会　委員

	職	氏　　名	備　　考
1	附属図書館長	大隅 典子	委員長
2	附属図書館副館長	有光 秀行	
3	医学分館長	藤森 研司	
4	北青葉山分館長	土井 隆行	2022年5月～2023年3月
		大野 泰生	2023年4月～
5	工学分館長	金井 浩	2022年5月～2023年3月
		小玉 哲也	2023年4月～
6	農学分館長	大越 和加	2022年5月～2023年3月
		佐藤 幹	2023年4月～
7	附属図書館事務部長	小陳 左和子	2022年5月～2023年3月
		佐藤 初美	2023年4月～

附属図書館自己点検・評価小委員会　委員

	職	氏　　名	備　　考
1	事務部長（主査）	小陳 左和子	2022年5月～2023年3月
		佐藤 初美	2023年4月～
2	総務課長	佐藤 初美	2022年5月～2023年3月
		三角 太郎	2023年4月～
3	情報管理課長	村上 康子	2022年5月～2023年3月
		木下 直	2023年4月～
4	情報サービス課長	半澤 智絵	
5	総務課図書館専門員	檜原 啓一	
6	情報管理課図書館専門員	真籠 元子	2022年5月～2023年3月
		菅原 透	2023年4月～
7	情報サービス課図書館専門員	對馬 庸二	2022年5月～2023年3月
		真籠 元子	2023年4月～
8	医学分館図書館専門員	照内 弘通	
9	北青葉山分館図書係長	代田 有紗	
10	工学分館図書館専門員	横山 美佳	2022年8月～
11	工学分館管理係長	菅原 透	2022年5月～2023年3月
12	農学分館図書係長	勝本 加奈子	
13	金属材料研究所図書係長	福井 ひとみ	
14	総務課情報企画係長	藤澤 こず江	
15	総務課学術情報基盤係長	永澤 恵美	2022年5月～6月
		落合 浩平	2022年7月～
16	情報サービス課閲覧係長	永井 伸	2022年5月～6月
		渡邊 愛子	2022年7月～
17	医学分館運用係長	永井 伸	2022年7月～

※任期の記載がない者の任期は、2022年5月～

自己点検・評価の検討及び活動経過

年月日	会議名等	備考
2022年 5月25日	令和4年度第1回附属図書館運営会議	自己点検・評価の実施及び自己点検・評価委員会の設置を承認
5月25日	第1回自己点検・評価委員会	自己点検・評価小委員会の設置を承認
6月8日	第1回自己点検・評価小委員会	
7月20日	第2回自己点検・評価小委員会	
8月31日	第3回自己点検・評価小委員会	
10月12日	第4回自己点検・評価小委員会	
10月21日～10月25日	第2回自己点検・評価委員会	自己点検・評価のための利用者アンケートの実施を承認
11月1日～11月30日	利用者アンケートの実施	
11月14日	第5回自己点検・評価小委員会	
2023年 2月27日	第6回自己点検・評価小委員会	
5月9日	第7回自己点検・評価小委員会	
5月12日	第8回自己点検・評価小委員会	
6月5日～6月15日	第9回自己点検・評価小委員会	報告書（案）の最終確認
7月10日	第3回自己点検・評価委員会	自己点検・評価報告書の承認

東 北 大 学 附 属 図 書 館
－自己点検・評価報告書－

2023(令和5)年7月　発行

編集・発行　　東北大学附属図書館
〒 980-8576 仙台市青葉区川内27-1
Tel.　022-795-5911
FAX.　022-795-5909